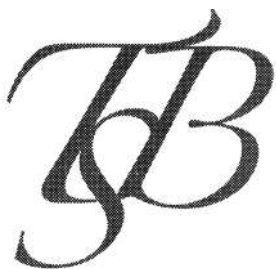


2019年度
授 業 概 要
(シラバス)



東北生活文化大学短期大学部

シラバス項目の内容

項 目	内 容
授業の概要	授業全体の内容を記載しています。
授業の到達目標	カリキュラム全体における当該科目の位置づけと、授業の到達目標、授業のねらいは何で、受講生が何を修得し何ができるようになることを目指しているのかを示しています。 学位授与の方針との関連：次のページを参照ください。
授業計画	到達目標を達成するために、具体的に何を学ぶのか、受講生が事前に内容を把握して授業に臨めるように、毎回の授業内容を記載しています。
自習 事前学修	授業時間外の予習について記載しています。
自習 事後学修	授業時間外の復習について記載しています。
履修上の注意	事前に獲得しておくべき知識・技能、履修したほうがよい関係科目、或いは求められる受講姿勢について記載しています。
成績評価の方法・基準	最終的に成績評価がどのような形で行われるか、加味される要素を具体的に記載しています。 ただし、総授業回数の1／3をこえて欠席した場合はその時点で不合格となりますので、注意してください。
教科書	授業で使用する、受講生が必ず購入しなければならないものを記載しています。
参考書	参考書籍がある場合記載しています。

ナンバリング：各科目の学問上の分類やその科目が位置する学修の段階、順序等をあらわします。



大分類：学科をあらわします。

中分類：科目の区分

小分類：科目群

A・・・食物栄養学専攻

1・・・学科共通教養科目

B・・・子ども生活専攻

2・・・基幹科目

K・・・共通教養

3・・・学科専攻科目

学位授与の方針との関連

食物栄養学専攻

<知識・理解>

1. 基礎的な学習能力・知識と社会人としての豊かな教養を身につけること。
2. 家庭と社会との関りを理解できること。
3. 栄養士に必要な専門知識・技術と、食分野の幅広い知識を身につけること。

<汎用的技能>

4. 栄養士として指導力を発揮できる実践力・コミュニケーション能力を身につけること。

<態度・志向性>

5. 基準や法令を遵守し、安全でおいしい食事を提供するための倫理観・責任感をもつこと。

<総合的な学習経験と創造的思考力>

6. 実習・演習・講義などを通して獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、社会で自立し、主体的に行動できる能力を身につけること。

子ども生活専攻

<知識・理解>

1. 基礎的な学習能力・知識と社会人としての豊かな教養を身につけること。
2. 家庭と社会との関りを理解できること。
3. 保育士と幼稚園教諭に必要な専門知識・技術と保育に関する幅広い知識を身につけること。

<汎用的技能>

4. 保育の現場で自ら課題の解決に取り組むことができる実践力・コミュニケーション能力を身につけること。

<態度・志向性>

5. 保育者として子どもの安全や健全な成長にかかわることへの倫理観・責任感をもつこと。

<総合的な学習経験と創造的思考力>

6. 実習・演習・講義などを通して獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、社会で自立し、主体的に行動できる能力を身につけること。

『実務経験のある教員による授業科目』一覧

〈食物栄養学専攻〉

〈子ども生活専攻〉

科目名	担当者	科目名	担当者
解剖生理学	曾根 正彦	臨床心理学	針生 隆
病理学	曾根 正彦	教育・保育相談	針生 隆
食品衛生学	黒川 優子	子どもの保健	千葉 明子
食品衛生学実験Ⅰ	黒川 優子	子どもの食と栄養Ⅰ	菊地 香保里
食品衛生学実験Ⅱ	黒川 優子	子どもの食と栄養Ⅱ	菊地 香保里
微生物学	黒川 優子	家庭支援論	浅野 咲子
臨床栄養学各論	福岡 敦子	教育・保育課程論	山崎 敦子 他
臨床栄養学実習	益田 裕司	保育の計画と評価	山崎 敦子
栄養指導論Ⅰ	済渡 久美	保育内容総論	山崎 敦子
栄養指導論Ⅱ	済渡 久美	保育内容(人間関係Ⅰ)	山崎 敦子
栄養指導論実習	済渡 久美	保育内容(環境Ⅰ)	山崎 敦子
調理科学論	済渡 久美	保育内容(環境Ⅱ)	山崎 敦子
調理学実習Ⅰ	済渡 久美	保育内容(言葉Ⅱ)	佐藤 深雪 他
調理学実習Ⅱ	済渡 久美	保育内容(表現Ⅰ)	横山 美喜子・ 佐藤 和貴
調理学実習Ⅲ	済渡 久美	保育内容(表現Ⅱ)	横山 美喜子・ 佐藤 和貴
給食管理学	益田 裕司	保育内容の指導法	山崎 敦子
給食管理基礎演習Ⅰ	益田 裕司	保育の実技と演習	山崎 敦子
給食管理基礎演習Ⅱ	益田 裕司	児童文化	横山 美喜子
給食管理実習Ⅰ	益田 裕司	乳児保育Ⅰ	大窪 裕喜恵
給食管理実習Ⅱ	益田 裕司	乳児保育Ⅱ	大窪 裕喜恵
給食管理実習Ⅲ (給食運営に係る校外実習)	益田 裕司	子どもの健康と安全	岩佐 あけみ
栄養士基礎演習	益田 裕司	音楽Ⅰ	佐藤 和貴
食文化論	深澤 律子	音楽Ⅱ	佐藤 和貴
特別演習	曾根 雅彦・益田 裕司・済渡 久美 他	ピアノⅠ	佐藤 和貴
テーブルコーディネートⅠ (テーブルマナーを含む)	小林 知恵子	ピアノⅡ	佐藤 和貴
テーブルコーディネートⅡ	小林 知恵子	ピアノⅢ	佐藤 和貴
フードエンタテインメント演習	堀江 志帆 他	ピアノⅣ	佐藤 和貴
		造形Ⅰ	横山 美喜子
		造形Ⅱ	横山 美喜子
		保育実習指導Ⅰ	山崎 敦子 他
		保育実習指導Ⅱ	山崎 敦子 他
		教育実習指導	山崎 敦子 他
		保育・教職実践演習(幼稚園)	山崎 敦子 他

目 次

生活文化学科共通教養科目

ナンバリング	科 目 名	開講期	対象専攻・年	担当者	頁
K-1-a-01-1	生物と生命倫理	前期	食専・子専1	堀江 佐知子	1
K-1-a-02-1	地球環境学	後期	食専・子専2	池田 展敏	2
K-1-b-01-1	消費生活と経済	後期	食専・子専2	舩谷 謙二	3
K-1-b-02-1	社会学	前期	食専・子専1	伊藤 常久	4
B-1-b-03-1	日本国憲法	後期	子専1	横田 尚昌	5
K-1-b-03-1	日本国憲法	前期	食専2	横田 尚昌	6
K-1-c-01-1	文化史	後期	食専・子専2	針生 隆	7
K-1-c-02-1	心理学	前期	食専・子専1	植松 公威	8
K-1-c-03-1	健康管理学	前期	食専・子専2	土屋 葉子	9
K-1-c-04-1	健康スポーツⅠ	前期	食専・子専1	土屋 葉子	10
K-1-c-05-1	健康スポーツⅡ	後期	食専1	土屋 葉子	11
	健康スポーツⅡ	後期	子専1	土屋 葉子	12
K-1-d-01-1	日本語基礎	後期	食専1	佐藤 深雪	13
	日本語基礎	前期	子専1	佐藤 深雪	
K-1-d-02-1	国語表現法	後期	子専1	佐藤 深雪	14
A-1-d-03-1	英語Ⅰ	前期	食専1	佐藤 恵	15
B-1-d-03-1	英語Ⅰ	前期	子専1	佐藤 恵	16
A-1-d-04-1	英語Ⅱ	後期	食専1	佐藤 恵	17
B-1-d-04-1	英語Ⅱ	後期	子専1	佐藤 恵	18
A-1-d-05-1	情報処理Ⅰ	前期	食専1	松尾 広	19
B-1-d-05-1	情報処理Ⅰ	前期	子専1	松尾 広	20
A-1-d-06-1	情報処理Ⅱ	後期	食専1	松尾 広	21
B-1-d-06-1	情報処理Ⅱ	後期	子専1	松尾 広	22
A-1-e-01-1	スタディスキルズ	前期	食専1	食物栄養学専攻教員全員	23
B-1-e-01-1	スタディスキルズ	前期	子専1	子ども生活専攻教員全員	24
A-1-e-02-3	キャリアアップセミナー	後期	食専1	食物栄養学専攻教員全員	25
B-1-e-02-3	キャリアアップセミナー	後期	子専1	子ども生活専攻教員全員	26
A-1-e-03-3	キャリアサポートセミナーⅠ	通年	食専1のみ	佐藤 淳一 他 教職員	27 28
A-1-e-04-3	キャリアサポートセミナーⅡ	前期	食専2のみ	佐藤 淳一 他 教職員	29

生活文化学科基幹科目

ナンバリング	科 目 名	開講期	対象専攻・年	担当者	頁
K-2-a-01-1	生活文化概論	前期	食・子1	伊藤 常久	30
K-2-a-02-1	生活文化各論	後期	食・子1	生活文化学科教員全員	31

食物栄養学専攻専攻科目

ナンバリング	科 目 名	開講期	担当者	頁
A-3-a-01-2-2	健康づくりとレクリエーション		開講せず	—
A-3-a-02-1-1	有機化学	前期	菅野 修一	32
A-3-a-03-1-2	統計学	前期	池田 展敏	33
A-3-a-04-1-1	数学基礎演習	前期	池田 展敏	34
A-3-a-05-2-2	栄養情報処理演習Ⅰ	前期	池田 展敏	35
A-3-a-06-2-2	栄養情報処理演習Ⅱ	後期	池田 展敏	36
A-3-a-07-2-2	学校・地域の安全安心(防災及び救急処置を含む)	後期	伊藤 常久	37
A-4-b-01-2-2	社会福祉論	後期	伊藤 常久	38
A-4-b-02-2-2	公衆衛生学	前期	伊藤 常久	39

ナンバリング	科 目 名	開講期	対象専攻・年	担当者	頁
A-4-b-03-2-1	健康管理概論	後期	伊藤 常久		40
A-4-c-01-2-1	解剖生理学	後期	曾根 正彦		41
A-4-c-02-2-2	運動生理学	後期	土井 豊		42
A-4-c-03-2-1	生化学	後期	鈴木 裕行		43
A-4-c-04-2-2	病理学	前期	曾根 正彦		44
A-4-d-01-2-1	食品学	前期	永沼 孝子		45
A-4-d-02-2-2	食品機能学	後期	永沼 孝子		46
A-4-d-03-2-1	食品学実験Ⅰ	前期	永沼 孝子		47
A-4-d-04-2-1	食品学実験Ⅱ	後期	永沼 孝子		48
A-4-d-05-2-2	食品衛生学	前期	黒川 優子		49
A-4-d-06-2-2	食品衛生学実験Ⅰ	前期	黒川 優子		50
A-4-d-07-2-2	食品衛生学実験Ⅱ	後期	黒川 優子		51
A-4-d-08-2-1	微生物学	前期	黒川 優子		52
A-4-e-01-2-1	栄養学Ⅰ	前期	永沼 孝子		53
A-4-e-02-2-1	栄養学Ⅱ	後期	永沼 孝子		54
A-4-e-03-2-2	栄養学実験	後期	永沼 孝子		55
A-4-e-04-2-1	ライフステージ栄養学	後期	永沼 孝子		56
A-4-e-05-2-1	ライフステージ栄養学実習Ⅰ	後期	川俣 幸一		57
A-4-e-06-2-2	ライフステージ栄養学実習Ⅱ	前期	川俣 幸一		58
A-4-e-07-2-2	臨床栄養学概論	前期	菅原 詩緒理		59
A-4-e-08-2-2	臨床栄養学各論	後期	福岡 敦子		60
A-4-e-09-2-2	臨床栄養学実習	後期	益田 裕司		61
A-4-f-01-2-1	栄養指導論Ⅰ	後期	済渡 久美		62
A-4-f-02-2-2	栄養指導論Ⅱ	前期	済渡 久美		63
A-4-f-03-2-2	栄養指導論実習	前期	済渡 久美		64
A-4-f-04-2-2	公衆栄養学	後期	栗山 孝雄		65
A-4-g-01-2-1	調理科学論	前期	済渡 久美		66
A-4-g-02-2-1	調理学実習Ⅰ	前期	済渡 久美		67
A-4-g-03-2-1	調理学実習Ⅱ	後期	済渡 久美		68
A-4-g-04-2-2	調理学実習Ⅲ	後期	済渡 久美		69
A-4-g-05-2-1	給食管理学	前期	益田 裕司		70
A-4-g-06-2-1	給食管理基礎演習Ⅰ	後期	益田 裕司		71
A-4-g-07-2-2	給食管理基礎演習Ⅱ	前期	益田 裕司		72
A-4-g-08-2-1	給食管理実習Ⅰ	前期	益田 裕司		73
A-4-g-09-2-2	給食管理実習Ⅱ	前期	益田 裕司		74
A-4-g-10-2-2	給食管理実習Ⅲ(給食運営に係る校外実習)	前期	益田 裕司		75
A-4-g-11-2-1	栄養士基礎演習	後期	益田 裕司		76
A-5-a-01-2-2	食文化論	後期	深澤 律子		77
A-5-a-02-3-1	食生活支援論Ⅰ	前期	松尾 広・池田 展敏・伊藤 常久		78
A-5-a-03-3-1	食生活支援論Ⅱ	後期	池田 展敏・松尾 広・伊藤 常久		79
A-5-a-04-3-2	特別演習	前期	永沼 孝子・曾根 雅彦・鈴木 裕行・伊藤 常久・黒川 優子・益田 裕司・済渡 久美		80
A-5-a-05-2-1	テーブルコーディネートⅠ (テーブルマナーを含む)	前期	小林 知恵子		81
A-5-a-06-2-1	テーブルコーディネートⅡ	後期	小林 知恵子		82
A-5-a-07-2-2	フードマネジメント	前期	堀田 宗徳		83
A-5-a-08-3-2	フードエンタテインメント演習	後期	池田 展敏・堀江 志穂		84
A-5-a-09-2-2	コンピュータサイエンス概論	後期	池田 展敏		85

子ども生活専攻専攻科目

ナンバリング	科 目 名	開講期	担当者	頁
B-3-a-01-2-1	保育原理	前期	三浦 主博	86
B-3-a-02-2-1	教育原理	前期	盛下 真優子	87
B-3-a-03-2-1	子ども家庭福祉論	前期	三浦 主博	88
B-3-a-04-2-1	社会福祉論	前期	大瀬戸 美紀	89
B-3-a-05-2-2	地域福祉論	後期	大瀬戸 美紀	90
B-3-a-06-2-2	相談援助	前期	大瀬戸 美紀	91
B-3-a-07-2-1	社会的養護Ⅰ	後期	大瀬戸 美紀	92
B-3-a-08-2-2	保育者論	後期	三浦 主博	93
B-3-a-09-2-2	教育・保育制度論	後期	盛下 真優子	94
B-3-b-01-2-1	発達心理学	後期	三浦 主博	95
B-3-b-02-2-2	発達心理学Ⅱ	前期	三浦 主博	96
B-3-b-03-2-2	教育心理学	後期	植松 公威	97
B-3-b-04-2-2	臨床心理学	前期	針生 隆	98
B-3-b-05-2-2	教育・保育相談	前期	針生 隆	99
B-3-b-06-2-1	子どもの保健	前期	千葉 明子	100
B-3-b-07-2-2	子どもの食と栄養Ⅰ	前期	菊地 香保里	101
B-3-b-08-2-2	子どもの食と栄養Ⅱ	後期	菊地 香保里	102
B-3-b-11-2-2	家庭支援論	後期	浅野 咲子	103
B-3-c-01-2-2	教育・保育課程論	前期	盛下 真優子・山崎 敦子	104
B-3-c-02-2-1	保育の計画と評価	後期	山崎 敦子	105
B-3-c-03-2-1	保育内容総論	前期	山崎 敦子	106
B-3-c-04-2-1	保育内容(健康Ⅰ)	前期	土屋 葉子	107
B-3-c-05-2-2	保育内容(健康Ⅱ)	後期	土屋 葉子	108
B-3-c-06-2-1	保育内容(人間関係Ⅰ)	前期	山崎 敦子	109
B-3-c-07-2-2	保育内容(人間関係Ⅱ)	後期	大瀬戸 美紀	110
B-3-c-08-2-1	保育内容(環境Ⅰ)	後期	山崎 敦子	111
B-3-c-09-2-2	保育内容(環境Ⅱ)	前期	山崎 敦子	112
B-3-c-10-2-1	保育内容(言葉Ⅰ)	後期	三浦 主博	113
B-3-c-11-2-2	保育内容(言葉Ⅱ)	前期	三浦 主博・佐藤 深雪	114
B-3-c-12-2-1	保育内容(表現Ⅰ)	後期	横山 美喜子・佐藤 和貴	115
B-3-c-13-2-2	保育内容(表現Ⅱ)	後期	横山 美喜子・佐藤 和貴	116
B-3-c-14-2-1	教育・保育方法論	前期	盛下 真優子・松尾 広	117
B-3-c-15-2-2	保育内容の指導法	前期	山崎 敦子	118
B-3-c-16-2-2	保育の実技と演習	前期	山崎 敦子	119
B-3-c-17-2-1	児童文化Ⅰ	後期	黒澤 宜子	120
B-3-d-02-2-2	児童文化	前期	横山 美喜子	121
B-3-c-19-2-1	乳児保育Ⅰ	前期	大窪 裕喜恵	122
B-3-c-20-2-1	乳児保育Ⅱ	後期	大窪 裕喜恵	123
B-3-c-21-2-1	子どもの健康と安全	後期	岩佐 あけみ	124
B-3-c-20-2-2	障害児保育Ⅰ	前期	三浦 主博	125
B-3-c-21-2-2	障害児保育Ⅱ	後期	大瀬戸 美紀	126
B-3-c-22-2-2	社会的養護内容	前期	大瀬戸 美紀	127
B-3-c-23-2-2	保育相談支援	後期	大瀬戸 美紀	128
B-3-c-26-2-1	音楽Ⅰ	前期	佐藤 和貴	129
B-3-c-27-2-1	音楽Ⅱ	後期	佐藤 和貴	130
B-3-c-28-2-1	ピアノⅠ	前期	佐藤 和貴・阿部玲子・渡邊 恵	131

ナンバリング	科 目 名	開講期	対象専攻・年	担当者	頁
B-3-c-29-2-1	ピアノⅡ	後期	佐藤 和貴・阿部玲子・渡邊 恵		132
B-3-d-19-2-2	ピアノⅢ	前期	佐藤 和貴・阿部玲子・渡邊 恵		133
B-3-d-20-2-2	ピアノⅣ	後期	佐藤 和貴・阿部玲子・渡邊 恵		134
B-3-c-32-2-1	造形Ⅰ	前期	横山 美喜子		135
B-3-c-33-2-1	造形Ⅱ	後期	横山 美喜子		136
B-3-c-34-2-1	体育Ⅰ	後期	土屋 葉子		137
B-3-d-11-2-2	体育Ⅱ	前期	土屋 葉子		138
B-3-d-01-2-1	保育実習指導Ⅰ	通年	三浦 主博・子ども生活専攻教員		139 140
B-3-e-02-2-2	保育実習指導Ⅱ	通年	三浦 主博・子ども生活専攻教員		141
B-3-e-01-2-1	教育実習(事前)指導(1年次)	通年	三浦 主博・子ども生活専攻教員		142
B-3-e-03-2-2	教育実習(事前事後)指導(2年次)	通年	三浦 主博・子ども生活専攻教員		143
B-3-e-04-3-2	保育・教職実践演習(幼稚園)	後期	山崎 敦子・三浦主博		144

生活文化学科共通教養科目

生活文化学科共通教養科目

授業科目名		生物と生命倫理				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)				
担当者	堀江 佐知子		必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	食専・子専1年				
授業の概要														
本講義は、生命の誕生から生物の一種として、ヒトの普遍性や特殊性を学び、我々ヒトの生物学的特徴の理解を通じて、「生命」や「環境」などを総合的に考えられるようになることを目標とし講義を行う。														
生き物の不思議さは、長い進化の歴史を経て生まれたものであり、脈々と生命が受け継がれてきた結果である。本講義では、地球上で生命が受け継がれてきた道筋を知る講義であり、細胞内の分子のようなマイクロレベルから生物圏の現象のようなマクロレベルまで、さまざまな生命現象を学んでいく講義である。														
授業の到達目標									学位授与の方針との関連					
									1	2	3	4	5	6
生物学を学習する上で基礎的な知識・学習能力を身につける。									○					
学習した情報を整理・要約することができる技術を身につける。											○			
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）								
1. 講義内容および進め方や評価方法の説明						生物に関する話題を新聞や書籍等から見つけておくこと。								
2. 原始地球の誕生						地球の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。								
3. 地球と生命の誕生と進化						生命の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。								
4. 魚の進化						魚の進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。								
5. 植物の進化						植物の進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。								
6. 哺乳類の進化						哺乳類の進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。								
7. 鳥の進化						鳥の進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。								
8. 昆虫の進化						昆虫の進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。								
9. 人類の進化						人類の進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。								
10. ヒトの設計図，遺伝子						遺伝子について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。								
11. 心臓・血管						心臓や血管について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。								
12. 骨と筋肉						骨や筋肉について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。								
13. 免疫						免疫について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。								
14. 脳と心						脳について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。								
15. 講義のまとめ						講義内容をまとめる。								
16. 試験						試験対策を行う。								
履修上の注意														
特に教科書等は使わず、プリント等で進める。予習復習を行い、理解に努めること。														
成績評価方法・基準														
課題、レポート及び学期末の試験（50%）、受講態度（50%：講義への参加状況及び小テストの結果等で総合的に判断する）により評価する。課題について、講義中にフィードバックを行う。														
教科書 授業前にプリントを配布する。														
参考書 なし														
備考														
質問等については、講義の終了時に受付ける。														

授業科目名		地球環境学				単位（授業時間＋自習時間）				2 (30+60)			
担当者	池田 展敏		必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	食専・子専 2 年			
授業の概要													
私たち人間を含む生物が生存できる環境は、どのように作られ、どのように守られているのか、地球の誕生から現在の環境問題までを自然科学的な立場から考察する。特に、一部の生物にとって有利な環境（酸素の増大やオゾン層の形成など）が生物自身によって生み出されたことを強調する。一方で、生物の一種である人は、地球環境を急速に破壊しうる能力を持っていること、それゆえ人には地球環境を維持する責務があることを説明する。													
授業の目標(到達目標)								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
「地球の誕生」や「生物の誕生」の謎について理解する。								○					
重力、電磁場、電磁波、放射線、元素、エネルギーなどと、地球の関係を理解する。								○					
生物が地球環境に与える影響を理解する。								○	○				
環境問題を取り上げ、説明することができる。								○	○				
授業計画の内容						事前・事後学修の内容							
1. ガイダンス：地球環境学で何を学ぶのか。						配布プリントの復習							
2. 太陽系形成の謎：太陽系の始まり。重力、摩擦力、多体問題						配布プリントの復習							
3. 太陽系形成の謎：惑星の形成の謎						配布プリントの復習、感想メモの提出							
4. 太陽系と地球：生物が生存できる範囲。他の惑星との比較						配布プリントの復習、感想メモの提出							
5. 地球の持つ環境維持システム(1)：地球の内部と大陸移動						配布プリントの復習							
6. 地球の持つ環境維持システム(2)：太陽と磁気圏、電磁波、放射線						配布プリントの復習							
7. 地球の持つ環境維持システム(3)：オーロラの不思議、大気と海流						配布プリントの復習、感想メモの提出							
8. 地球の持つ環境維持システム(4)：エネルギー収支、地球の自転とコリオリ力、いろいろな気候と動物たち						配布プリントの復習、感想メモの提出							
9. 生物と地球環境の相互作用(1)：生物とは何か。生物最初の 30 億年						配布プリントの復習、感想メモの提出							
10. 生物と地球環境の相互作用(2)：多細胞生物の誕生・進化と環境						配布プリントの復習							
11. 生物と地球環境の相互作用(3)：生物の大絶滅に見る地球環境の変動と生物進化						配布プリントの復習、感想メモの提出							
12. 地球環境問題(1)：地球温暖化の現状と取り組み						配布プリントの復習							
13. 地球環境問題(2)：再生エネルギー、持続可能性社会						配布プリントの復習、感想メモの提出							
14. 地球環境問題(3)：生物多様性の危機と環境への影響、さまざまな環境汚染						配布プリントの復習、感想メモの提出							
15. 小テスト。環境汚染の続き。テラフォーミングの試みなど						全ての配布資料を復習し小テストに備える。							
履修上の注意													
教科書はないが、資料と自分自身のメモが教科書となる。資料の整理と、授業中の書き込みを怠らないこと。													
成績評価方法・基準													
提出物（30%）、小テスト(70%)。提出物は添削して返却する。小テストは終了後に解説する。													
教科書 パワーポイント等の資料を配布する。													
参考書 適時指示する。													
備 考													
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付けます。													

授業科目名		消費生活と経済			単位（総授業時間＋自習時間）			2（30＋60）					
担当者	舩谷 謙二		必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	食専・子専 2			
授業の概要													
われわれが享受している豊かな消費生活は「大量生産・大量販売・大量消費システム」による高度経済成長から、今日の「経済活動のグローバル化」に至る経済成長によってもたらされた。しかし、その過程では消費生活を脅かす欠陥商品・不当表示・契約トラブルなど多様な問題もあった。 この授業では、われわれの消費生活を背後で支える経済のメカニズムや、その発展の歩みを概観するとともにさまざまな「消費者問題」の発生と対処について教授する。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
(1) 経済活動の基礎的メカニズムが理解できる。								○	○				
(2) 消費生活が経済社会の発展と共に変容してきたことが理解できる。								○	○				
(3) 消費者問題の内容と対処法が理解できる。								○	○				
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. オリエンテーション：授業の進め方、授業概要の確認など						シラバスを精読して授業に臨む。							
2. 経済発展と消費生活の変容（1970年代まで）						レポートを作成して次回提出する。							
3. 経済発展と消費生活の変容（1980年代から）						授業でのキーワードを辞書で調べる。							
4. 消費生活のメカニズム：需要と供給の世界（最適消費の理論）						授業でのキーワードを辞書で調べる。							
5. 消費生活のメカニズム：需要と供給の世界（雇用と物価）						レポートを作成して次回提出する。							
6. 理念としての消費者と現実の消費者（消費者主権）						授業でのキーワードを辞書で調べる。							
7. 消費者問題の概要（1）消費者保護基本法の基本視角						授業でのキーワードを辞書で調べる。							
8. 消費者問題の概要（2）PL法から消費者基本法へ						レポートを作成して次回提出する。							
9. クレジット社会の消費者問題						授業でのキーワードを辞書で調べる。							
10. 情報化社会の諸費者問題						授業でのキーワードを辞書で調べる。							
11. 高齢社会の消費者問題						レポートを作成して次回提出する。							
12. 企業・消費者・行政						授業でのキーワードを辞書で調べる。							
13. 消費者保護から自立支援へ						授業でのキーワードを辞書で調べる。							
14. 消費者政策と消費者教育						レポートを作成して次回提出する。							
15. 補足と授業のまとめ						授業でのキーワードを辞書で調べる。							
履修上の注意													
・テレビや新聞で日々の経済の動きや消費者問題の動向について継続的にチェックしておくこと。													
※ 初回授業には必ず出席すること。													
成績評価方法・基準													
授業内で提出するミニットペーパー（75％）・5回の課題レポート（25％）で評価する。なお、レポートについては授業中に、ミニットペーパーについては次回授業でフィードバックする。													
教科書 プリントを配布する。													
参考書 授業中に適宜指示する。													
備 考													
都合により、授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業終了時に受付ける。													

授業科目名		社会学				単位（総授業時間＋自習時間）				2（30＋60）			
担当者	伊藤 常久		必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	食専・子専１年			
授業の概要													
この講義では、最初に社会学の歴史やその成り立ちについて概説する。また、日常において当然の如く受け止めている社会事象や現実を社会学はどのように考えるのか、あるいは現代社会とはそもそも何であるのか等について、日常での具体例やこれまでの体験を踏まえながら、社会学固有の概念と理論について解説する。特に私たちが認識している価値や実際の行動が関係性（人とのつながり）によりどのような形となって変化しうるのかについても考えていく。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
社会学の成り立ちと歴史について理解する。								○	○				
社会学の概念や理論に関する知識を身につける。								○	○				
社会の現状や課題について、社会学の視点から考える力を身につける。								○	○				
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
１．ガイダンス：授業の説明、アンケート、社会とは						配布プリントの復習							
２．社会学とは、社会科学との関わり						用語の事前確認・配布プリントの復習							
３．社会の概念について						用語の事前確認・配布プリントの復習							
４．社会学の歴史（近代社会学、E.デュルケームの社会学）						用語の事前確認・配布プリントの復習							
５．社会学の歴史（M.ウェーバーの社会学、現代の社会学）						用語の事前確認・配布プリントの復習							
６．社会のきまりごと、規範とは						用語の事前確認・配布プリントの復習							
７．社会化とは						用語の事前確認・配布プリントの復習							
８．個人と他者、集団						用語の事前確認・配布プリントの復習							
９．家族・ライフコースと社会						用語の事前確認・配布プリントの復習							
10. 学校と社会						用語の事前確認・配布プリントの復習							
11. 医療・健康と社会						用語の事前確認・配布プリントの復習							
12. ジェンダーとセクシャリティ						用語の事前確認・配布プリントの復習							
13. 地域と社会						用語の事前確認・配布プリントの復習							
14. メディアとコミュニケーション						用語の事前確認・配布プリントの復習							
15. まとめ、授業評価アンケート						配布プリントの復習と講義内容の振り返り							
16. 試験						筆記試験に向けた復習							
履修上の注意													
・遅刻・欠席はしないこと。なお、遅刻３回で欠席１回とする。													
・講義の妨げ、あるいは講義と関係のない行為が見られた場合、受講態度は基本的に評価外とする。													
成績評価方法・基準													
・期末試験（70%）、受講態度（30%）。													
・試験については問題と解答例をまとめたレジュメを掲示することでフィードバックとする。													
教科書 資料（プリント等）を準備するので事前に配布する。													
参考書〔社会学（New Liberal Arts Selection）〕〔長谷川公一、他〕〔有斐閣〕〔3,780 円〕													
備 考													
・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。													
・質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。													

授業科目名		日本国憲法			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)		
担当者	横田 尚昌	必・選	必	形態	講義	学期	後期	対象	子専1年		
授業の概要											
憲法は、国家の根本的な組織と作用のあり方を定めた法であり、国民ではなく、国家権力を拘束するルールである。それは、他の一切の国内法に優位する最高の効力を有する法であり、日本国憲法とは我が国における統治の基本ルールを定めたものである。この講義では、その日本国憲法が規定している統治機構の個々の機関の権限や運営方法について説明したうえで、この憲法に規定されている国民の権利について判例の事案と裁判所の判断をみながら解説していきたい。											
授業の到達目標							学位授与の方針との関連				
							1	2	3	4	5
日本国憲法の基礎的な知識を修得し、その全体像を説明することができる。							○				
憲法上の権利の各分野において、いかなる問題があるかを知り、それに対する判決や学説の考え方が理解できる。							○				
憲法に関する報道に接したとき、その問題のかなめとなる憲法上の論点が発見されるのを理解できる。							○				
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）						
1. 概説（立憲主義、実質的意味の憲法、形式的意味の憲法、近代的意味の憲法、憲法の法源および権力分立について解説する。）					近代立憲主義の基本原則が日本国憲法のなかにどのように生きているのかを確認する。						
2. 天皇制と平和主義（国民主権、象徴天皇制、皇室典範、国事行為、公的行為、平和的生存権および戦争放棄について解説する。）					日本国憲法における天皇制の内容と平和主義の意義について確認する（歴史的観点からの天皇の権限、国際的観点からの平和的生存権、戦争放棄などについて把握しておく。）						
3. 選挙制度（多数代表制、少数代表制、比例代表制、並立制、政党国家および党籍変更議員の失職制度について解説する。）					選挙制度や政党制度は、国民・市民と国の政治をつなぐ重要な制度であるが、それには様々な種類があることを認識しておく。そして、現行の選挙制度の問題点や政党の在り方について把握しておく。						
4. 国会（国会中心立法の原則、国会単独立法の原則、立法過程、会期不継続の原則、二院制およびねじれ国会について解説する。）					国家とは、「国権の最高機関」とであると同時に「唯一の立法機関」でもあることについて認識するとともに、その憲法上の地位・組織および権限ならびに議員の地位や立法過程について把握する。						
5. 内閣（議院内閣制、均衡本質説、責任本質説、国民内閣制、内閣総理大臣および衆議院の解散について解説する。）					政府の形態のいくつかの種類があること、日本国憲法は議院内閣制を採用していることを認識し、内閣の組織・権能、内閣総理大臣の地位などについて把握しておく。						
6. 裁判所（警察予備隊違憲訴訟、司法権、法律上の争訟、最高裁判所、下級裁判所および裁判員裁判について解説する。）					裁判所の組織と権限、裁判員制度などを把握し、人権保障のあり方と密接に関わっている違憲審査制の理論と実際について理解する。						
7. 地方自治（地方自治の本旨、地方分権、制度的保障論、地方公共団体、道州制、上乗せ条例および住民投票条例について解説する。）					地方自治の本旨の意味をしっかりと理解する。地方自治体の組織と権限、国と自治体の関係、法律と条例の関係などについて把握する。						
8. 人権とは（1789年人権宣言、ワイマール憲法、第三世代の人権、人権の享有主体、法人の人権、外国人の人権および未成年者の人権について解説する。）					そもそも「人権」とはいかなる概念なのかについて確認したうえで、日本国憲法における人権保障のありようを理解する。						
9. 人権の適用範囲（私人間効力、社会的権力、特別的法律関係、公務員の政治的活動および人権の分類について解説する。）					憲法で保障されている人権は、どのような場合にどのような制限を受けるのか、またその根拠は何かを把握する。						
10. 幸福追求権と法の下での平等（幸福追求権、人格的利益説、一般的自由説、プライバシーの権利、自己決定権および合理的差別の概念について解説する。）					幸福追求権と平等権にかかわる裁判事例の概要を把握することを通じて、その保障の実態について把握する。						
11. 内心の自由（思想・良心の自由、信教の自由、政教分離原則、目的効果基準、学問の自由および大学の自治について解説する。）					思想・良心の自由、信教の自由、学問の自由などの精神的自由権の内容について把握する。						
12. 表現の自由（集会の自由、結社の自由、表現の自由、知る権利、検閲の禁止および名誉毀損〔きそん〕について解説する。）					表現の自由、集会・結社の自由などの精神的自由権の内容について把握する。						
13. 経済的自由権（職業選択の自由、許可制、適正配置規制、規制目的二分論、財産権の保障および国家からの正当な補償の在り方について解説する。）					職業選択の自由と財産権の保障のありようをみることを通じて日本国憲法の下での経済的自由権の保障とその制約について把握する。						
14. 生存権（生存権、プログラム規定説、併給禁止規定、堀本訴訟、教育権の所在、旭川学力テスト事件および環境権について解説する。）					福祉国家理念を採用する日本国憲法の下で、社会権（生存権および教育権）がいかに保障されているのか、またその限界について把握する。						
15. 参政権、国務請求権（選挙権、被選挙権、在宅投票制度、議員定数不均衡、事情判決の法理および国務請求権について解説する。）					参政権とは何か、国務請求権とは何か（選挙権・被選挙権、請願権、裁判を受ける権利の内容）について把握する。						
履修上の注意											
5回を超えて欠席（6回以上欠席）した場合は、理由のいかんを問わず単位修得ができないので注意すること。											
成績評価方法・基準											
平常点40％（平常点は、授業時間中にふさわしくない態度をとっていないか、また、必ず予告して行う小テストの結果等で総合的に判断する。）、レポート60％（レポートのテーマと提出方法は学期の終わり頃の授業中に指示する。）。なお、小テストについては随時、レポートについては最終回の授業においてフィードバックをする。											
教科書 特になし（毎回の授業前にプリントを配布し、それに沿って講義する。）											
参考書 授業中に指示する。											
備考											
オフィスアワーは、非常勤講師室において毎週金曜日の14:00過ぎから4校時開始時刻前までの間とする。											

授業科目名		日本国憲法			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)		
担当者	横田 尚昌	必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	食専2年		
授業の概要											
憲法は、国家の根本的な組織と作用のあり方を定めた法であり、国民ではなく、国家権力を拘束するルールである。それは、他の一切の国内法に優位する最高の効力を有する法であり、日本国憲法とは我が国における統治の基本ルールを定めたものである。この講義では、その日本国憲法が規定している統治機構の個々の機関の権限や運営方法について説明したうえで、この憲法に規定されている国民の権利について判例の事実と裁判所の判断をみながら解説していきたい。											
授業の到達目標							学位授与の方針との関連				
							1	2	3	4	5
日本国憲法の基礎的な知識を修得し、その全体像を説明することができる。							○				
憲法上の権利の各分野において、いかなる問題があるかを知り、それに対する判決や学説の考え方が理解できる。							○				
憲法に関する報道に接したとき、その問題のかなめとなる憲法上の論点が解説されるのを理解できる。							○				
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）						
1. 概説（立憲主義、実質的意味の憲法、形式的意味の憲法、近代的意味の憲法、憲法の法源および権力分立について解説する。）					近代立憲主義の基本原理が日本国憲法のなかにどのように生きているのかを確認する。						
2. 天皇制と平和主義（国民主権、象徴天皇制、皇室典範、国事行為、公的行為、平和的生存権および戦争放棄について解説する。）					日本国憲法における天皇制の内容と平和主義の意義について確認する（歴史的観点からの天皇の権限、国際的観点からの平和的生存権、戦争放棄などについて把握しておく。）						
3. 選挙制度（多数代表制、少数代表制、比例代表制、並立制、政党国家および党籍変更議員の失職制度について解説する。）					選挙制度や政党制度は、国民・市民と国の政治をつなぐ重要な制度であるが、それには様々な種類があることを認識しておく。そして、現行の選挙制度の問題点や政党の在り方について把握しておく。						
4. 国会（国会中心立法の原則、国会単独立法の原則、立法過程、会期不継続の原則、二院制およびねじれ国会について解説する。）					国家とは、「国権の最高機関」であると同時に「唯一の立法機関」でもあることについて認識するとともに、その憲法上の地位・組織および権限ならびに議員の地位や立法過程について把握する。						
5. 内閣（議院内閣制、均衡本質説、責任本質説、国民内閣制、内閣総理大臣および衆議院の解散について解説する。）					政府の形態のいくつかの類型があること、日本国憲法は議院内閣制を採用していることを認識し、内閣の組織・権能、内閣総理大臣の地位などについて把握しておく。						
6. 裁判所（警察予備隊違憲訴訟、司法権、法律上の争訟、最高裁判所、下級裁判所および裁判員裁判について解説する。）					裁判所の組織と権限、裁判員制度などを把握し、人権保障のあり方と密接に関わっている違憲審査制の理論と実際について理解する。						
7. 地方自治（地方自治の本旨、地方分権、制度的保障論、地方公共団体、道州制、上乗せ条例および住民投票条例について解説する。）					地方自治の本旨の意味をしっかりと理解する。地方自治体の組織と権限、国と自治体の関係、法律と条例の関係などについて把握する。						
8. 人権とは（1789 年人権宣言、ワイマール憲法、第三世代の人権、人権の享有主体、法人の人権、外国人の人権および未成年者の人権について解説する。）					そもそも「人権」とはいかなる概念なのかについて確認したうえで、日本国憲法における人権保障のありようを理解する。						
9. 人権の適用範囲（私人間効力、社会的権力、特別の法律関係、公務員の政治的活動および人権の分類について解説する。）					憲法で保障されている人権は、どのような場合にどのような制限を受けるのか、またその根拠は何かを把握する						
10. 幸福追求権と法の下での平等（幸福追求権、人格的利益説、一般的自由説、プライバシーの権利、自己決定権および合理的区別の概念について解説する。）					幸福追求権と平等権にかかわる裁判事例の概要を把握することを通じて、その保障の実態について把握する。						
11. 内心の自由（思想・良心の自由、信教の自由、政教分離原則、目的効果基準、学問の自由および大学の自治について解説する。）					思想・良心の自由、信教の自由、学問の自由などの精神的自由権の内容について把握する						
12. 表現の自由（集会の自由、結社の自由、表現の自由、知る権利、検閲の禁止および名誉毀損（きそん）について解説する。）					表現の自由、集会・結社の自由などの精神的自由権の内容について把握する。						
13. 経済的自由権（職業選択の自由、許可制、適正配置規制、規制目的二分論、財産権の保障および国家からの正当な補償の在り方について解説する。）					職業選択の自由と財産権の保障のありようをみることを通して日本国憲法の下での経済的自由権の保障とその制約について把握する。						
14. 生存権（生存権、プログラム規定説、供給禁止規定、堀木訴訟、教育権の所在、旭川学力テスト事件および環境権について解説する。）					福祉国家理念を採用する日本国憲法の下で、社会権（生存権および教育権）がいかにように保障されているのか、またその限界について把握する。						
15. 参政権、国務請求権（選挙権、被選挙権、在宅投票制度、議員定数不均衡、事情判決の法理および国務請求権について解説する。）					参政権とは何か、国務請求権とは何か（選挙権・被選挙権、請願権、裁判を受ける権利の内容）について把握する。						
履修上の注意											
5回を超えて欠席（6回以上欠席）した場合は、理由のいかんを問わず単位修得ができないので注意すること。											
成績評価方法・基準											
平常点40％（平常点は、授業時間中にふさわしくない態度をとっていないか、また、必ず予告して行う小テストの結果等で総合的に判断する。）、レポート60％（レポートのテーマと提出方法は学期の終わり頃の授業中に指示する。）。なお、小テストについては随時、レポートについては最終回の授業においてフィードバックをする。											
教科書 特になし（毎回の授業前にプリントを配布し、それに沿って講義する。）											
参考書 授業中に指示する。											
備考											
オフィスアワーは、非常勤講師室において毎週金曜日の 14:00 過ぎから 4 校時開始時刻前までの間とする。											

授業科目名		文化史			単位 (総授業時間＋自習時間)				2 (30+60)			
担当者	針生 隆	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	食専・子専2年			
授業の概要												
総じては、日本の文化を通史的に概観する。時代時代での為政者・権力者が意図的に生み出した「文化」と庶民生活から生み出された「民俗文化」、すなわち日本の伝統行事などを例にあげ、「フォクサイコロジー」の視点から考察、紹介したい。さらに文化史におけるあまり取り上げられない「被差別者」「障がい者」の位置、実態にも展開したい。 また、近現代では、戦争による文化遺産の損壊、広島、長崎にも言及したい。校外学習として、「博物館」研修を企画し、地域の文化史にも目を向けさせたい。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
日本文化の変遷の理解							○					
文化史における被差別者の理解								○				
博物館研修									○			
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)							
1.ガイダンス					「日本の世界文化遺産」の検索(事後)							
2.「文化史」概説(PP)					文化遺産の地図上の確認(事前)							
3.「日本史の流れ」Ⅰ(DVD)					歴史上の人物のチェック (事後)							
4. 同上Ⅱ					同上							
5.「ハンセン病」(DVD)					「ハンセン病」の検索(事後)							
6.「アイヌ民族」「部落問題」(PP)					「被差別者」の検索							
7.ゲストスピーカーの講義					講義のミニレポート提出(事後)							
8.「東京国立博物館」の紹介(DVD)					「国宝」のチェック(事前)							
9.日本の年中行事(PP)					「年中行事」の地域差の検索							
10.「広島・長崎の歴史」(PP)(DVD)					「原水爆」の検索(事前)							
11.「民俗学」の紹介(PP)					「柳田国男」の検索							
12. 博物館研修					レポート提出の準備							
13. 博物館研修					同上							
14. 日本伝統工芸展研修					レポート提出の準備							
15.まとめとレポート提出					提出物のチェック(事前)							
履修上の注意												
高校の教科書「日本史」を準備しておくこと。												
成績評価方法・基準												
期末レポート(博物館・工芸展)60% ミニレポート(添削し返却)20% 受講態度 20%												
教科書 授業で適時、プリント配布												
参考書 授業で紹介												
備考 DVDはビデオ PPはスライド												
質問などはオフィスアワーで受け付け (曜日時間は掲示で確認)												

授業科目名		心理学				単位（総授業時間＋自習時間）			2（30＋60）					
担当者	植松 公威		必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	食専・子専1年				
授業概要														
心理学では経験的事実の観察や実験によって仮説の検証を行い、心のメカニズムを明らかにしようとしている。講義の前半では心理学が目指している目標や研究の特色、とりわけ条件操作的な仮説検証プロセスの意義について、実際の研究事例を紹介しながら解説する。後半では現代の心理学の背景として、行動主義心理学や社会的学習理論、精神分析学などを取り上げ、それぞれの理論を説明する。また、記憶の実験を実際に体験することを通して記憶のメカニズムについて考える。														
授業の到達目標						学位授与の方針との関連								
						1	2	3	4	5	6	7	8	9
1 条件操作的な実験による仮説検証がこころの理解にとって不可欠であることを説明できるようになる。						○								
2 行動主義心理学，社会的学習理論，精神分析学の各理論の人物名とキーワードを理解する。						○								
3 記憶のメカニズムについて感覚的記憶，短期記憶，長期記憶の関係を理解し，説明できるようになる。						○								
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）								
1．ガイダンス（教授内容と教育目標）						あらかじめシラバスを熟読すること。								
2．条件操作的な実験の重要性について－「利口な馬ハンス」の話など－						資料を熟読し，要点をまとめること。								
3．心理学の目標と研究のプロセス						資料やノートを復習し，要点をまとめること。								
4．説得における「一面（片面）提示」と「二面（両面）提示」の効果－						実験の結果を理解し，考察ついてまとめること。								
5．認知的不協和理論について						実験の結果を理解し，考察ついてまとめること。								
6．現代の心理学の背景① 行動主義心理学（ワトソンの理論）						資料とノートを復習し，要点をまとめること。								
7．現代の心理学の背景② 行動主義心理学（スキナーの理論）						資料とノートを復習し，要点をまとめること。								
8．現代の心理学の背景③ 社会的学習理論（バンデュラの理論）						資料とノートを復習し，要点をまとめること。								
9．現代の心理学の背景④ 精神分析学（フロイトの理論）						資料とノートを復習し，要点をまとめること。								
10. 精神分析学における自我防衛のメカニズム						資料を熟読し，専門用語を理解すること。								
11. 自我防衛のメカニズムに関する練習問題と解説						資料を熟読し，練習問題に取り組むこと。								
12. まとめの小テスト						あらかじめ復習してテストに臨むこと。								
13. 記憶の実験－系列位置曲線と系列位置効果－						実験結果の考察を考え，レポートすること。								
14. 記憶のしくみ－感覚的記憶・短期記憶・長期記憶－						ノートを見直し，専門用語を理解すること。								
15. エビングハウスの忘却曲線について						資料とノートを見直し，感想をまとまること。								
16. 試験						試験対策の学習をすること。								
履修上の注意														
毎回，ミニットペーパーに感想やわかったこと，わからなかったことなどを書いて提出すること。														
成績評価方法・基準														
レポート課題 20%，試験 80%。														
レポートは必ず提出すること。未提出の場合は評価の対象としない。														
各回の授業でのミニットペーパーについては，次回の授業内でフィードバックを行う予定である。														
授業内で行う小テストについてもフィードバックを行う。														
教科書 授業の中で資料（プリント）を配布する。														
参考書 授業の中で適宜，紹介する。														
備考														
質問等については，ミニットペーパーを通して次の授業の中で取り上げ，説明します。また，授業終了時あるいはオフィスアワーを利用して，質疑応答をすることも可能です。														

授業科目名		健康管理学			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30＋60)			
担当者	土屋 葉子	必・選	選択	形態	講義	学期	前期	対象	食専・子専2年			
授業の概要												
「健康」。それを守ることは人間にとって非常に重要な課題である。世界でも有数の長寿国となったこの日本で、心身ともに健康な状態で生活していくために、本講義では、まず自身の健康に興味を持ち、将来にわたって健康でより良い生活を送ることができる能力や知識を身につけ、実践できる力を養っていく。さらに、現代社会で問題とされる様々な健康についての課題を共に考え、今後の自身及び周囲の健康保持に役立てることができるよう考えていく。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
自身の健康について興味を持つことができる。							○	○				
健康を守る事のできる知識、能力を身につける。							○	○	○ 子			○ 子
将来にわたって、健康でより良い生活を送ることができる実践力を身につける。							○	○				○ 子
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）							
1.健康の概念					本講義の学習内容について確認する。							
2.青年期の発育と発達①身体的特性					次時学習についての関連情報を図書館等で収集する（毎時）。							
3.青年期の発育と発達②呼吸・循環機能の発達					学習内容を確認し、予習・復習を行う。							
4.性の科学 ○性とは					学習内容を確認し、予習・復習を行う。							
5. ○男性・女性の生理①女性のライフサイクル					学習内容を確認し、予習・復習を行う。							
6. ○男性・女性の生理①男性のライフサイクル					学習内容を確認し、予習・復習を行う。							
7. ○結婚・妊娠					学習内容を確認し、予習・復習を行う。							
8. ○妊娠・出産					学習内容を確認し、予習・復習を行う。							
9. ○性行為感染症					学習内容を確認し、予習・復習を行う。							
10. ○性行為感染症（AIDS について）					学習内容を確認し、予習・復習を行う。							
11. ○避妊					学習内容を確認し、予習・復習を行う。							
12.更年期障害 について					学習内容を確認し、予習・復習を行う。							
13.健康管理○ライフステージ別の健康管理（前思春期・思春期）					学習内容を確認し、予習・復習を行う。							
14.健康管理○ライフステージ別の健康管理（成熟期・更年期）					学習内容を確認し、予習・復習を行う。							
15.健康管理○ライフステージ別の健康管理（老年期）・まとめ					学習内容を確認し、予習・復習を行う。							
16.試験					試験対策を行う。							
履修上の注意												
初回ガイダンスで説明する履修上の注意を遵守すること。												
成績評価方法・基準												
授業への参加状況（70%）、及び試験（30%）により総合的に評価する。												
提出課題等については、返却し、解説を行う。												
教科書 授業中にプリントを配布する。												
参考書 その都度、指示する。												
備 考												
質問等については、授業終了時または、オフィスアワーで受け付ける。												
都合により、授業計画の順番等を変更することがある。												

授業科目名	健康スポーツ I				単位（総授業時間＋自習時間）				1(30＋15)					
担当者	土屋 葉子		必・選	必	形態	演習	学期	前期	対象	食専・子専1年				
授業の概要														
生涯スポーツという事が近年盛んに謳われており、また、体力の低下が叫ばれている現代、最終学府としての体育の授業は、卒業後の健康を考える上で大変重要な役割を担っていると考え。本講義ではスポーツ・各種運動を通じ、運動を日常のものにするべく基礎技術の実習を行うとともに、運動の必要性、健康のあり方を見直し、将来に向けての身体作りの一歩とする。また、自然の中での運動の楽しさ、魅力についても体感し、今後に役立てていけるように考えていく。														
授業の到達目標									学位授与の方針との関連					
									1	2	3	4	5	6
運動の楽しさを体感し、日常生活に取り入れることができる。									○			○		○
自身の体力を維持できる知識、能力を身に付ける。									○				○ 子	○
自然と親しみ、その中で運動を楽しむことができる。									○			○	○ 子	○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）								
1.ガイダンス						毎日少しでも歩くことを心がける（毎時）。								
2.新体力テスト						新体力テストの内容を理解する。								
3.新体力テスト（シャトルラン）						新体力テストの内容を理解する。								
4.台原森林公園						体力作り、維持に努める。								
5.球技（バレーボール・バスケットボール他）						体育祭に向けてクラスで準備をする。								
6.球技（バレーボール・バスケットボール他）						体育祭に向けてクラスで準備をする。								
7.大縄跳び（8の字跳び・全員跳び）						体力作り、維持に努める。								
8.インディアカ①基礎練習 2人組						インディアカのルールについて調べる。								
9.インディアカ②基礎練習 グループ分け						体力作り、維持に努める。								
10.インディアカ③基礎練習 サーブ練習						体力作り、維持に努める。								
11.インディアカ④ゲーム 総当たり 1回目						体力作り、維持に努める。								
12.インディアカ⑤ゲーム 総当たり 2回目						体力作り、維持に努める。								
13.インディアカ⑥ゲーム 総当たり 3回目						体力作り、維持に努める。								
14.台原森林公園						体力作り、維持に努める。								
15.新体力テスト（シャトルラン）						自らの体力・健康を振り返り、後期までの課題を持つ。								
履修上の注意														
毎回、授業開始後に 10 分間走を行うので、遅刻は授業最初に行う準備体操前までとする。また遅刻は 2 回で 1 回の欠席とみなす。														
初回のガイダンスで説明する履修上の注意を遵守すること。														
成績評価方法・基準														
受講態度・平常点（90%）、レポート（10%）により総合的に評価する。														
提出課題等については、返却し、解説を行う。														
教科書 授業中にプリントを配布する。														
参考書 その都度、指示する。														
備 考 毎回 10 分間走を行う。														
都合により、授業計画の順番等を変更することがある。														
質問等については、授業終了時または、オフィスアワーで受け付ける。														

授業科目名	健康スポーツⅡ				単位（総授業時間＋自習時間）				1(30＋15)				
担当者	土屋 葉子		必・選	必	形態	演習	学期	後期	対象	食専1年			
授業の概要													
本講義では、健康スポーツⅠの演習をふまえ、さらに自身の健康に興味を持ち、将来役立てる事の出来る運動の技術の習得を目指すとともに、運動の楽しさを体感し、日常生活で実践できる具体的な方法を学習する。また、四季を感じながら、自然の中での運動の楽しさ、魅力についても体感し、今後に役立てていけるように考えていき、生涯、自身の体力を維持できる知識、能力を身に付け、実践することができるよう具体的に考えていく。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
自身の体力を維持できる実践力を身につける。								○			○		○
自然と親しみ、その中での運動を日常のものにすることができる。								○					○
運動の楽しさを体感し、日常生活で実践することができる。								○			○		○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1.ガイダンス・新体力テスト（シャトルラン）						毎日少しでも歩くことを心がける（毎時）。							
2.大縄跳び（8の字・全員跳び）						体力作り、維持に努める。							
3.ドッジボール						体力作り、維持に努める。							
4.ソフトボール①基礎練習キャッチボール(1)						ソフトボールのルールについて調べる。							
5.ソフトボール②基礎練習キャッチボール(2)						体力作り、維持に努める。							
6.ソフトボール③打撃練習(1)						体力作り、維持に努める。							
7.ソフトボール④打撃練習(2)						体力作り、維持に努める。							
8.ソフトボール⑤打撃練習(3)						体力作り、維持に努める。							
9.ソフトボール⑥ゲーム						体力作り、維持に努める。							
10.二人三脚（クラス全員）						体力作り、維持に努める。							
11.ダブルダッチ①基本の跳び方						ダブルダッチの理解に努める。							
12.ダブルダッチ②応用編						体力作り、維持に努める。							
13.ミニ運動会						体力作り、維持に努める。							
14.台原森林公園						体力作り、維持に努める。							
15.新体力テスト（シャトルラン）						体力・健康について振り返り、今後の健康維持への目標を持つ。							
履修上の注意													
毎回、授業開始後に10分間走を行うので、遅刻は授業最初に行う準備体操前までとする。また遅刻は2回で1回の欠席とみなす。													
成績評価方法・基準													
受講態度・平常点（90%）、レポート（10%）により総合的に評価する。													
提出課題等については、返却し、解説を行う。													
教科書 授業中にプリントを配布する。													
参考書 その都度、指示する。													
備考 毎回10分間走を行う。													
都合により、授業計画の順番等を変更することがある。													
質問等については、授業終了時または、オフィスアワーで受け付ける。													

授業科目名		健康スポーツⅡ				単位（総授業時間＋自習時間）				1(30＋15)			
担当者	土屋 葉子		必・選	必	形態	演習	学期	後期	対象	子専1年			
授業の概要													
本講義では、健康スポーツⅠの演習をふまえ、さらに自身の健康に興味を持ち、将来役立てる事の出来る運動の技術の習得を目指すとともに、運動の楽しさを体感し、日常生活で実践できる具体的な方法を学習する。また、四季を感じながら、自然の中での運動の楽しさ、魅力についても体感し、今後に役立てていけるように考えていき、生涯自身の体力を維持できる知識、能力を身に付け、実践することができるように具体的に考えていく。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
自身の体力を維持できる実践力を身につける。								○			○		○
自然と親しみ、その中での運動を日常のものにすることができる。								○				○	○
運動の楽しさを体感し、日常生活で実践することができる。								○			○	○	○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1.ガイダンス・新体力テスト（シャトルラン）						毎日少しでも歩くことを心がける（毎時）。							
2.身体運動（ダンス・アンパンマン体操）						体力作り、維持に努める。							
3.身体運動（ダンス・アンパンマン体操）						体力作り、維持に努める。							
4.身体運動（ダンス・アンパンマン体操）						体力作り、維持に努める。							
5.大縄跳び（8の字・全員跳び）						体力作り、維持に努める。							
6.ソフトボール①基礎練習キャッチボール(1)						ソフトボールのルールについて調べる。							
7.ソフトボール②基礎練習キャッチボール(2)						体力作り、維持に努める。							
8.ソフトボール③打撃練習(1)						体力作り、維持に努める。							
9.ソフトボール④打撃練習(2)						体力作り、維持に努める。							
10.ソフトボール⑤打撃練習(3)						体力作り、維持に努める。							
11.ソフトボール⑥ゲーム						体力作り、維持に努める。							
12.二人三脚（クラス全員）						体力作り、維持に努める。							
13.ダブルダッチ						ダブルダッチの理解に努める。							
14.台原森林公園						体力作り、維持に努める。							
15.新体力テスト（シャトルラン）						体力・健康について振り返り、今後の健康維持への目標を持つ。							
履修上の注意													
毎回、授業開始後に10分間走を行うので、遅刻は授業最初に行う準備体操前までとする。また遅刻は2回で1回の欠席とみなす。													
成績評価方法・基準													
受講態度・平常点（90%）、レポート（10%）により総合的に評価する。													
提出課題等については、返却し、解説を行う。													
教科書 授業中にプリントを配布する。													
参考書 その都度、指示する。													
備 考													
毎回10分間走を行う。													
都合により、授業計画の順番等を変更することがある。													
質問等については、授業終了時または、オフィスアワーで受け付ける。													

授業科目名		日本語基礎				単位（総授業時間＋自習時間）		2(30+60)					
担当者	佐藤 深雪		必・選	選	形態	講義	学期・対象	食専1（後期）・子専1(前期)					
授業の概要													
本講は、「日本語とはどういう言語か」その特徴を理解し、社会人として要求される日本語運用能力を身に付けることを目的とする。次の4段階で講義を行う。1.「言葉」の意義と機能について、これまでの言語生活を振り返り考察する。2.日本語の特徴について、資料を基に様々な言語活動を通して理解する。3.論理的な文章表現の基礎を身に付ける。4.応用として、「言葉」について自分なりの考えを持ち、レポートを作成する。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
日本語の特徴について基礎的な知識を得る。								○			○		
学生あるいは社会人として要求される日本語運用能力を習得する。								○			○		
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1.オリエンテーション：授業の概要と目的，課題の説明 「言葉」の意義と機能① 言葉とは何か						宿題 01 「言葉」について，思い浮かぶことを書き出す。							
2.「言葉」の意義と機能② ことばの働きについて						宿題 02 配布プリントを読み，概要をつかむ。							
3.日本語の特徴について① 日本語の魅力						宿題 03 「日本語の魅力」について作文する。							
4.日本語の特徴について② 漢語・和語・外来語 他						宿題 04 「日本語の魅力」について作文する。							
5.日本語の特徴について③ 多義語 他						宿題 05 「日本語の魅力」について作文する。							
6.日本語の特徴について④ まとめ						宿題 06 宿題 03～05 を基にエッセイを書く。							
7.論理的に表現する① 目的意識・相手意識						宿題 07 これまでの文章表現について振り返る。							
8.論理的に表現する② 論点						宿題 08 学習内容を確認し実践に生かす。							
9.論理的に表現する③ 関係性						宿題 09 学習内容を確認し実践に生かす。							
10.理的に表現する④ 論拠						宿題 10 学習内容を確認し実践に生かす。							
11.理的に表現する⑤ 要約						宿題 11 学習内容を確認し実践に生かす。							
12.題文例の批正と文章トレーニング						宿題 12 学習内容を確認し実践に生かす。							
13.「言葉の研究」レポート① 構成・取材						宿題 13 研究レポートの取材をする。							
14.「言葉の研究」レポート② 記述						宿題 14 研究レポートを書く。							
15.「言葉の研究」レポート③ まとめ						宿題 15 レポートを読み合い感想を発表する。							
履修上の注意													
①後期に開講される「国語表現法」を続けて履修することが望ましい。													
②授業の中で 300～400 字程度の作文を課す。													
成績評価方法・基準													
授業への取り組みの状況（20%），研究レポート（40%），及び提出課題（40%）により総合的に評価する。提出課題等については授業の中で，適宜フィードバックする。													
教科書 講義前に資料を配付します。													
参考書 [日本語 新版（上・下）] [金田一春彦] [岩波新書] [各 880 円]													
備考													
質問等については，授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。													

授業科目名		国語表現法			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)				
担当者	佐藤深雪		必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	子専1年			
授業の概要													
本講では、事実関係や自分の考えを、簡潔・明瞭な文章で表現し、読み手の理解と共感を得るための技能を身に付けることを目指す。実社会で必要とされる記録・報告・紹介などの実用的な文章を書く活動を通して、目的に合った文章表現の基礎を習得させる。グループ討議やスピーチプレゼンテーションについて等の会話表現も適宜行い、コミュニケーション能力の向上を目指す。文字・標記・文法など、授業の導入で基礎的な知識を問う演習問題を短時間で実施する。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
学生あるいは社会人として要求される会話表現の基礎を習得する。								○			○		
学生あるいは社会人として要求される実用的な文章表現の基礎を理解する。								○			○		
実社会で活用できるコミュニケーション能力を総合的に身に付ける。											○		○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. オリエンテーション　よい文章とは						宿題 01　自己紹介文を書く。							
2. 報告文を書く①　文の基本形を理解する						宿題 02　学習内容を確認し実践に生かす。							
3. 報告文を書く②　事実を正確に記述する						宿題 03　学習内容を確認し実践に生かす。							
4. 報告文を書く③　事実と意見を区別する						宿題 04　学習内容を確認し実践に生かす。							
5. 報告文を書く④　簡潔かつ明瞭に書く						宿題 05　学習内容を確認し実践に生かす。							
6. 報告文を書く⑤　推敲する						宿題 06　学習内容を確認し実践に生かす。							
7. 説明文を書く①　構成・トピックセンテンス						宿題 07　学習内容を確認し実践に生かす。							
8. 説明文を書く②　要約・引用						宿題 08　学習内容を確認し実践に生かす。							
9. 説明文を書く③　事例・情報収集						宿題 09　学習内容を確認し実践に生かす。							
10. 説明文を書く④　事例・情報収集						宿題 10　学習内容を確認し実践に生かす。							
11. 説明文を書く⑤　推敲する						宿題 11　学習内容を確認し実践に生かす。							
12. 自己PR・エントリーシートを書く①						宿題 12　学習内容を確認し実践に生かす。							
13. 自己PR・エントリーシートを書く②						宿題 13　学習内容を確認し実践に生かす。							
14. 実用的な文章を書く（送り状・日誌・連絡帳　他）						宿題 14　学習内容を確認し実践に生かす。							
15. まとめと振り返り						宿題 15　学習内容を確認し実践に生かす。							
履修上の注意													
①　前期に開講される「日本語基礎」の内容をふまえて授業を行うため、当該の講義を受講することが望ましい。													
②　課題の進捗状況に応じて、授業内容が変更になる場合がある。													
③　自己紹介，スピーチ，電話応対など，適宜，会話表現も扱う。													
④　授業中に完成しなかった課題や類題は，宿題とする。													
成績評価方法・基準													
提出課題（60％）授業への取組状況（40％）により総合的に評価する。課題と宿題については未提出のものがある場合評価の対象としないことがある。提出課題等については授業の中で，適宜フィードバックする。													
教科書　資料を配付する。													
参考書　講義中に適宜紹介する。													
備　考													
質問等については，授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。													

授業科目名	英語 I				単位（総授業時間＋自習時間）				1(30+15)				
担当者	佐藤 恵		必・選	必	形態	演習	学期	前期	対象	食専 1 年			
授業の概要													
英国の伝統と文化を扱ったテキストを用い、その歴史的・文化的背景を解説しながら、英語でコミュニケーションを行うための基礎的な英語の技能と語彙を身につけさせる。各テーマをテキストに沿って進め、基本的な文法事項をおさえながら解説し、読解・作文・ディクテーションの演習を行う。簡易な英文であれば理解することができ、身近な話題であれば自分の意見を表現できるように、英語力の向上を図りながら、異文化への理解を深めさせる。英語 I では英国料理と飲み物を中心に取り上げる。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
英語でのコミュニケーションを行うための基礎的な技能と語彙を身につける。								○		○			
身近な話題であれば簡易な英文を読み書きし、聞き取ることができる。								○	○				
食分野に関する英語表現を身につける。								○		○			
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. ガイダンス						前期の学習内容について確認する。							
2. 英国の 4 つの国について						英国の 4 つの国について理解し、覚える。							
2. The worst food in the world? ①高脂肪・高カロリー						料理の特徴について読み、ノートをまとめる。							
3. 〃 ②加工食品と伝統料理						加工食品と伝統料理について読み、ノートをまとめる。							
4. 〃 ③食の改善と多様化						英国の食文化の変化について読み、ノートをまとめる。							
5. 〃 ④Exercises						課題を解き、間違えた問題についてよく復習する。							
6. “Time, please!” ①パブ文化						パブ文化について読み、ノートをまとめる。							
7. 〃 ②看板						看板の歴史と特徴について読み、ノートをまとめる。							
8. 〃 ③ビールとパブ飯						パブの飲食物について読み、ノートをまとめる。							
9. 〃 ④Exercises						課題を解き、間違えた問題についてよく復習する。							
10. Tea—the national drink ①茶文化圏と珈琲文化圏						茶と珈琲の文化圏について読み、ノートをまとめる。							
11. 〃 ②お茶の歴史						お茶の歴史について読み、ノートをまとめる。							
12. 〃 ③アフタヌーンティー						アフタヌーンティーについて読み、ノートをまとめる。							
13. 〃 ④Exercises						課題を解き、間違えた問題についてよく復習する。							
15. まとめ						ノートや小テストを見て前期の学習内容を振り返る。							
16. 期末試験						総復習して臨む。							
履修上の注意													
テキストとともに必ず辞書（スマホ携帯は不可）を持参して授業に臨むこと。													
成績評価方法・基準													
平常点 40%（授業への参加状況および毎時の小テストの結果等で総合的に判断する。） 学期末試験 60% 毎時の小テストおよび試験は授業時間等で解答・解説し、フィードバックする。													
教科書 [A Background of British Culture] [石黒昭博 他著] [英宝社] [1,400 円]													
参考書 なし													
備 考													
質問等については授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。													

授業科目名		英語 I			単位（総授業時間＋自習時間）				1(30+15)				
担当者	佐藤 恵		必・選	必	形態	演習	学期	前期	対象	子専 1 年			
授業の概要													
保育の英語を扱ったテキストを用い、園生活の様々な場面が出てくるストーリーを追いながら、保育現場で必要とされる英語表現を取り上げる。保育園の通常の日や季節ごとに異なる行事について解説し、視聴覚教材を活用しながら理解を深めさせる。本文読解、短文表現の作文、リスニング問題等を通じて、英語での園行事の説明の仕方や園児・保護者への対応力を養うと同時に、日常生活で役立つ基礎的な英語力の向上を図る。英語 I では 1 章～8 章を取り上げる。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
英語でのコミュニケーションを行うための基礎的な技能と語彙を身につける。								○		○			
身近な話題であれば簡易な英文を読み書きし、聞き取って話すことができる。								○	○				
保育分野に関する英語表現を身につける。								○		○			
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. ガイダンス						前期の学習内容について確認する。							
2. 挨拶と自己紹介						英語で自己紹介するのに必要な表現を覚える。							
3. アルファベット						各アルファベットで始まる単語を確認し、表作成する。							
4. 入学前英語課題復習						入学前課題の e-learning を復習する。							
5. 新学期・園の人々・園舎						テキスト 1 章を読んで解き、ノートをまとめる。							
6. 登園・家族						テキスト 2 章を読んで解き、ノートをまとめる。							
7. 室内あそび・欠席の連絡						テキスト 3 章を読んで解き、ノートをまとめる。							
8. 外あそび・遊具						テキスト 4 章を読んで解き、ノートをまとめる。							
9. 伝承童謡						英語圏の伝承童謡について学び、感想等をまとめる。							
10. 園庭・けんか						テキスト 5 章を読んで解き、ノートをまとめる。							
11. 文法①（動詞）						動詞の用法について復習する。							
12. 昼食・献立表						テキスト 6 章を読んで解き、ノートをまとめる。							
13. 着替え・おはなし						テキスト 7 章を読んで解き、ノートをまとめる。							
14. トイレ・お昼寝						テキスト 8 章を読んで解き、ノートをまとめる。							
15. まとめ						ノートや小テストを見て、前期の学習内容を振り返る。							
16. 期末試験						総復習して試験に臨む。							
履修上の注意													
テキストとともに必ず辞書（スマホ携帯は不可）を持参して授業に臨むこと。													
成績評価方法・基準													
平常点 40%（授業への参加状況および毎時の小テストの結果等で総合的に判断する。） 学期末試験 60% 毎時の小テストおよび試験は授業時間等で解答・解説し、フィードバックする。													
教科書〔新・保育の英語〕〔森田和子〕〔三修社〕〔1,900 円〕													
参考書 なし													
備 考													
質問等については授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。													

授業科目名		英語Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）				1(30+15)				
担当者	佐藤 恵		必・選	選	形態	演習	学期	後期	対象	食専1年			
授業の概要													
英国の伝統と文化を扱ったテキストを用い、その歴史的・文化的背景を解説しながら、英語でコミュニケーションを行うための基礎的な英語の技能と語彙を身につけさせる。各テーマをテキストに沿って進め、基本的な文法事項をおさえながら解説し、読解・作文・ディクテーションの演習を行う。簡易な英文であれば理解することができ、身近な話題であれば自分の意見を表現できるように、英語力の向上を図りながら、異文化への理解を深めさせる。英語Ⅱでは英国の住文化と食文化を中心に取り上げる。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
英語でのコミュニケーションを行うための基礎的な技能と語彙を身につける。								○		○			
身近な話題であれば簡易な英文を読み書きし、聞き取ることができる。								○	○				
食分野に関する英語表現を身につける。								○		○			
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. ガイダンス						前期の学習内容について確認する。							
2. 英国の歴史について						英国の歴史について理解し、覚える。							
2. Stately Homes ①建築様式の変遷						建築様式について読み、ノートをまとめる。							
3. 〃 ②大邸宅と召使						大邸宅と召使について読み、ノートをまとめる。							
4. 〃 ③歴史的建造物の活用と保存						建造物の活用と保存について読み、ノートをまとめる。							
5. 〃 ④Exercises						課題を解き、間違えた問題についてよく復習する。							
6. Bath, Britain's only hot spring ①ローマン・バス						ローマン・バスについて読み、ノートをまとめる。							
7. 〃 ②バース市街						バース市街について読み、ノートをまとめる。							
8. 〃 ③バース特産菓子						バース特産菓子について読み、ノートをまとめる。							
9. 〃 ④Exercises						課題を解き、間違えた問題についてよく復習する。							
10. British Xmas ①クリスマス・ホリデー						クリスマス休暇について読み、ノートをまとめる。							
11. 〃 ②クリスマス装飾と過ごし方						装飾と過ごし方について読み、ノートをまとめる。							
12. 〃 ③クリスマスのごちそう						クリスマス料理について読み、ノートをまとめる。							
13. 〃 ④Exercises						課題を解き、間違えた問題についてよく復習する。							
15. まとめ						ノートや小テストを見て前期の学習内容を振り返る。							
16. 期末試験						総復習して臨む。							
履修上の注意													
テキストとともに必ず辞書（スマホ携帯は不可）を持参して授業に臨むこと。													
成績評価方法・基準													
平常点 40%（授業への参加状況および毎時の小テストの結果等で総合的に判断する。） 学期末試験 60% 毎時の小テストおよび試験は授業時間等で解答・解説し、フィードバックする。													
教科書 [A Background of British Culture] [石黒昭博 他著] [英宝社] [1,400 円]													
参考書 なし													
備 考													
質問等については授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。													

授業科目名		英語Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）				1(30+15)				
担当者	佐藤 恵		必・選	必	形態	演習	学期	後期	対象	子専1年			
授業の概要													
保育の英語を扱ったテキストを用い、園生活の様々な場面が出てくるストーリーを追いながら、保育現場で必要とされる英語表現を取り上げる。保育園の通常の日や季節ごとに異なる行事について解説し、視聴覚教材を活用しながら理解を深めさせる。本文読解、短文表現の作文、リスニング問題等を通じて、英語での園行事の説明の仕方や園児・保護者への対応力を養うと同時に、日常生活で役立つ基礎的な英語力の向上を図る。 英語Ⅱでは9章～17章を取り上げる。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
英語でのコミュニケーションを行うための基礎的な技能と語彙を身につける。								○		○			
身近な話題であれば簡易な英文を読み書きし、聞き取って話すことができる。								○	○				
保育分野に関する英語表現を身につける。								○		○			
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. ガイダンス						後期の学習内容について確認する。							
2. 病気・身体の名称						テキスト9章を読んで解き、ノートをまとめる							
3. 感情・緊急連絡						テキスト10章を読んで解き、ノートをまとめる							
4. 文法②（文の種類）						文の種類について復習する。							
5. 行事の案内状・電話連絡						テキスト11章を読んで解き、ノートをまとめる。							
6. 園行事① 遠足・運動会						遠足や運動会に関する英語表現を学び、復習する。							
7. 運動・動作						テキスト12章を読んで解き、ノートをまとめる。							
8. 散歩(1)・地図						テキスト13章を読んで解き、ノートをまとめる。							
9. 散歩(2)・交通						テキスト14章を読んで解き、ノートをまとめる							
10. お絵かき・お手紙						テキスト15章を読んで解き、ノートをまとめる。							
11. 文法③（前置詞）						前置詞の用法について復習する。							
12. 園行事③ クリスマス						クリスマス行事に関する英語表現を学び、復習する。							
13. 雪の日・工作						テキスト16章を読んで解き、ノートをまとめる。							
14. 降園・お知らせ						テキスト17章を読んで解き、ノートをまとめる。							
15. まとめ						ノートや小テストを見て、前期の学習内容を振り返る。							
16. 期末試験						総復習して試験に臨む。							
履修上の注意													
テキストとともに必ず辞書（スマホ携帯は不可）を持参して授業に臨むこと。													
成績評価方法・基準													
平常点 40%（授業への参加状況および毎時の小テストの結果等で総合的に判断する。） 学期末試験 60% 毎時の小テストおよび試験は授業時間等で解答・解説し、フィードバックする。													
教科書〔新・保育の英語〕〔森田和子〕〔三修社〕〔1,900 円〕													
参考書 なし													
備 考													
質問等については授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。													

授業科目名	情報処理 I				単位（総授業時間＋自習時間）				1(30+15)				
担当者	松尾 広		必・選	選	形態	演習	学期	前期	対象	食専 1 年			
授業の概要													
Word、Excel、PowerPoint の操作を中心として、データの集計・加工、グラフ作成、画像の操作とレイアウト、インターネットでの情報収集を行い、それらを組み合わせてレポートなどの体裁の整った文書の作成、栄養指導の媒体作成やプレゼンテーションができるように、基本的な利用法を中心に解説する。ビジネス文書やプレゼンテーションの体裁を整えるのに必要な操作方法が身につくように、例題と練習問題で反復して練習を行う。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
一般的なビジネス文書の作成ができるようになる。								○					
データの集計・加工とグラフ作成ができるようになる。								○					
プレゼンテーションのためのシンプルなスライドを作成できるようになる。								○					
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. ガイダンス						前期の学習内容を確認する。							
2. Word による文書作成（インデント・タブ・行ぞろえ）						社内文書・社外文書の様式を理解する。							
3. Word による文書作成（練習問題）						操作の流れを確認し、反復する。							
4. Word による文書作成（表）						表の操作について理解する。							
5. Word による文書作成（表、練習問題）						操作の流れを確認し、反復する。							
6. Word による文書作成（図）						図の挿入、編集方法について理解する。							
7. Word による文書作成（図、練習問題）						操作の流れを確認し、反復する。							
8. Excel による表計算（計算式・関数）						計算式の表現方法を理解する。							
9. Excel による表計算（計算式・関数）						操作の流れを確認し、反復する。							
10. Excel による表計算（関数、練習問題）						関数の利用方法を理解する。							
11. Excel による表計算（グラフ）						グラフの特徴と作図方法を理解する。							
12. Excel による表計算（グラフ、練習問題）						操作の流れを確認し、反復する。							
13. PowerPoint によるプレゼンテーション作成（基本操作）						操作の流れを確認し、反復する。							
14. PowerPoint によるプレゼンテーション作成（レイアウト）						操作の流れを確認し、反復する。							
15. 演習内容のまとめ、まとめの課題（Word、Excel）						前期の学習内容を振り返る。							
履修上の注意													
つまずいたところがあったら、見直して、くりかえしてみること。													
成績評価方法・基準													
受講態度・毎回の授業で提出するファイル 40%、まとめの課題 60% 提出されたファイルは授業中にフィードバックします。													
教科書〔実践ドリルで学ぶ Office 活用術〕〔noa 出版〕〔1,300 円〕													
参考書 特になし													
備 考													
質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。													

授業科目名		情報処理 I			単位（総授業時間＋自習時間）				1(30+15)				
担当者	松尾 広		必・選	選	形態	演習	学期	前期	対象	子専 1 年			
授業の概要													
Word、Excel、PowerPoint の操作を中心として、データの集計・加工、グラフ作成、画像の操作とレイアウト、インターネットでの情報収集を行い、それらを組み合わせてレポートなどの体裁の整った文書の作成、視聴覚教材の作成やプレゼンテーションができるよう、基本的な利用法を中心に解説する。ビジネス文書やプレゼンテーションの体裁を整えるのに必要な操作方法が身につくように、例題と練習問題で反復して練習を行う。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
一般的なビジネス文書の作成ができるようになる。								○					
データの集計・加工とグラフ作成ができるようになる。								○					
プレゼンテーションのためのシンプルなスライドを作成できるようになる。								○					
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. ガイダンス						前期の学習内容を確認する。							
2. Word による文書作成（インデント・タブ・行ぞろえ）						社内文書・社外文書の様式を理解する。							
3. Word による文書作成（練習問題）						操作の流れを確認し、反復する。							
4. Word による文書作成（表）						表の操作について理解する。							
5. Word による文書作成（表、練習問題）						操作の流れを確認し、反復する。							
6. Word による文書作成（図）						図の挿入、編集方法について理解する。							
7. Word による文書作成（図、練習問題）						操作の流れを確認し、反復する。							
8. Excel による表計算（計算式・関数）						計算式の表現方法を理解する。							
9. Excel による表計算（計算式・関数）						操作の流れを確認し、反復する。							
10. Excel による表計算（関数、練習問題）						関数の利用方法を理解する。							
11. Excel による表計算（グラフ）						グラフの特徴と作図方法を理解する。							
12. Excel による表計算（グラフ、練習問題）						操作の流れを確認し、反復する。							
13. PowerPoint によるプレゼンテーション作成（基本操作）						操作の流れを確認し、反復する。							
14. PowerPoint によるプレゼンテーション作成（レイアウト）						操作の流れを確認し、反復する。							
15. 演習内容のまとめ、まとめの課題（Word、Excel）						前期の学習内容を振り返る。							
履修上の注意													
つまづいたところがあったら、見直して、くりかえしてみること。													
成績評価方法・基準													
受講態度・毎回の授業で提出するファイル 40%、まとめの課題 60% 提出されたファイルは授業中にフィードバックします。													
教科書〔実践ドリルで学ぶ Office 活用術〕〔noa 出版〕〔1,300 円〕													
参考書 特になし													
備 考													
質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。													

授業科目名		情報処理Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）				1(30+15)				
担当者	松尾 広		必・選	選	形態	演習	学期	後期	対象	食専 1 年			
授業の概要													
情報処理Ⅰに引き続き、Word、Excel、PowerPoint の操作と応用について解説する。アプリケーション間の連携、特に Word と Excel の連携について、いくつかのコピーアンドペーストの方法の違いと特徴を示し、文書作成時に適切な方法を選択できるように練習を行う。さらに Excel をデータベースとして利用する方法、Word と連携する差し込み印刷の練習を行う。また、PowerPoint では視覚的効果を利用法と説得型プレゼンテーションのためのストーリー構成法について解説する。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
Word、Excel、PowerPoint などを適切に組み合わせて体裁が整った文書・プレゼンテーションを作成できる。								○					
プレゼンテーションのストーリーを組み立てられるようになる。								○					
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. ガイダンス						後期の学習内容について確認する。							
2. Excel による表計算（データベース）						データベースの構成方法を理解する。							
3. Excel による表計算（データベース練習問題）						操作の流れを確認し、反復する。							
4. Excel による表計算（ピボットテーブル）						ピボットテーブルの操作を理解する。							
5. Excel による表計算（ピボットテーブル練習問題）						操作の流れを確認し、反復する。							
6. Word と Excel の連携（コピーアンドペーストの応用）						操作の流れを確認し、反復する。							
7. Word と Excel の連携（差し込み印刷）						差し込み印刷の仕組みを理解する。							
8. Word による文書作成（応用）						ヘッダー・フッターの利用方法を理解する。							
9. PowerPoint によるプレゼンテーション作成（応用）						操作の流れを確認し、反復する。							
10. PowerPoint によるプレゼンテーション作成（練習問題 1）						操作の流れを確認し、反復する。							
11. PowerPoint によるプレゼンテーション作成（練習問題 2）						操作の流れを確認し、反復する。							
12. 説得型プレゼンテーションの構成法						ストーリーの構成法を理解する。							
13. まとめの課題（PowerPoint）						後期の学習内容を振り返る。							
14. まとめの課題（Word）						後期の学習内容を振り返る。							
15. まとめの課題（Excel）						後期の学習内容を振り返る。							
履修上の注意													
つまづいたところがあったら、見直して、くりかえしてみること。													
成績評価方法・基準													
受講態度・毎回の授業で提出するファイル 40%、まとめの課題 60% 提出されたファイルは授業中にフィードバックします。													
教科書（情報処理Ⅰの教科書と同じ）													
参考書 なし													
備考													
質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。													

授業科目名		情報処理Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）				1(30+15)				
担当者	松尾 広		必・選	選	形態	演習	学期	後期	対象	子専1年			
授業の概要													
情報処理Ⅰに引き続き、Word、Excel、PowerPoint の操作と応用について解説する。アプリケーション間の連携、特に Word と Excel の連携について、いくつかのコピーアンドペーストの方法の違いと特徴を示し、文書作成時に適切な方法を選択できるように練習を行う。さらに Excel をデータベースとして利用する方法、Word と連携する差し込み印刷の練習を行う。また、PowerPoint では視覚的効果を利用法と説得型プレゼンテーションのためのストーリー構成法について解説する。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
Word、Excel、PowerPoint などを適切に組み合わせて体裁が整った文書・プレゼンテーションを作成できる。								○					
プレゼンテーションのストーリーを組み立てられるようになる。								○					
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. ガイダンス						後期の学習内容について確認する。							
2. Excel による表計算（データベース）						データベースの構成方法を理解する。							
3. Excel による表計算（データベース練習問題）						操作の流れを確認し、反復する。							
4. Excel による表計算（ピボットテーブル）						ピボットテーブルの操作を理解する。							
5. Excel による表計算（ピボットテーブル練習問題）						操作の流れを確認し、反復する。							
6. Word と Excel の連携（コピーアンドペーストの応用）						操作の流れを確認し、反復する。							
7. Word と Excel の連携（差し込み印刷）						差し込み印刷の仕組みを理解する。							
8. Word による文書作成（応用）						ヘッダー・フッターの利用方法を理解する。							
9. PowerPoint によるプレゼンテーション作成（応用）						操作の流れを確認し、反復する。							
10. PowerPoint によるプレゼンテーション作成（練習問題 1）						操作の流れを確認し、反復する。							
11. PowerPoint によるプレゼンテーション作成（練習問題 2）						操作の流れを確認し、反復する。							
12. 説得型プレゼンテーションの構成法						ストーリーの構成法を理解する。							
13. まとめの課題（PowerPoint）						後期の学習内容を振り返る。							
14. まとめの課題（Word）						後期の学習内容を振り返る。							
15. まとめの課題（Excel）						後期の学習内容を振り返る。							
履修上の注意													
つまづいたところがあったら、見直して、くりかえしてみること。													
成績評価方法・基準													
受講態度・毎回の授業で提出するファイル 40%、まとめの課題 60% 提出されたファイルは授業中にフィードバックします。													
教科書（情報処理Ⅰの教科書と同じ）													
参考書 なし													
備考													
質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。													

授業科目名		スタディスキルズ			単位（授業時間＋自習時間）				1(30+15)			
担当者	食物栄養学専攻教員	必・選	必	形態	演習	学期	前期	対象	食専 1 年			
授業の概要												
高校生活から短大生活へのスムーズな移行を促す「初年次教育」が主な内容である。例えば、「学内生活に関する事項（学内ルールや目標設定）」「本学の歴史」「施設活用」「ノートのとり方やレポートの出し方など学習方法」について授業を行う。また、入学前課題の事後指導を通じて、各科目を受講する上で必要な基礎学力向上を目指すほか、実習に対する態度やお礼状の書き方など、専門科目を学ぶ上での常識も学んでいく。また、短大の学修と将来を関係づけ、学習意欲の向上を目指す。												
授業の目標(到達目標)							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
本学の歴史を理解する。							○					
学内における生活上の常識や学内施設使用の仕方を理解する。							○					○
常識的な主要 5 科目の基礎学力を身につける。							○					
一般的な学習方法（ノート等）や学科・専攻の学習目的を理解する。							○			○		○
授業計画の内容					事前・事後学修の内容							
1. ガイダンスおよび短大生活におけるマナー（1 年担任、土屋・池田）					配布プリントの復習							
2. 学習目標の設定（学習ポートフォリオの記入）（池田、1 年生担任）					配布プリントの復習、学修ポートフォリオの記入の完了							
3. 短大における学修について（学長による講話）					配布プリントの復習							
4. 学習方法に関するアドバイス（基本的な学習方法と態度、ノート、レポート 等）（松尾、他）					配布プリントの復習							
5. e-learning（国語）の復習（伊藤、他）					配布プリントの復習、e-learning の予習・復習							
6. e-learning（国語）に関連した漢字等の学習（池田、他）					配布プリントの復習、e-learning の予習・復習							
7. e-learning（数学）の復習（池田、他）※「7, 8, 9」は並行して行う。					配布プリントの復習、宿題の提出							
8. 図書館の利用の仕方（特に検索の方法について）（図書館司書、1 年生担任、他）※「7, 8, 9」は並行して行う。					図書館の利用方法を確認し、積極的に活用する。							
9. 本学の歴史を知る（資料室・顕彰館等の見学）（松尾、黒川、伊藤、佐藤、永沼、済渡、益田）※「7, 8, 9」は並行して行う。					学園の歴史について感想等の記入を行う。							
10. 学習方法に関するアドバイス（講義・演習・実習の特性、スケジュール管理等）（池田、他）					配布プリントの復習							
11. e-learning（英語）の復習（佐藤、他）					配布プリントの復習、宿題の提出							
12. 入学前課題の総復習（松尾、他）					配布プリントの復習、e-learning の復習							
13. 専門科目を学ぶ上での最低限の目標など（永沼、黒川、他）					配布プリントの復習							
14. お礼状・手紙・服装・みだしなみに関する説明（益田、他）					配布プリントの復習							
15. 短大生活と就職活動、時事問題、各種アンケート（1 年生担任、他）					配布プリントの復習							
履修上の注意：												
配られた資料はファイルに閉じて整理すること。入学前 e-learning を使用することがあるのでログイン方法等は忘れないこと。提出物は期限通り提出すること。												
成績評価方法・基準：提出物の提出状況とその内容（100%）。提出物は後日添削して返却する。												
教科書 毎回資料を配布する。												
参考書 e-learning の教材												
備考：												
質問等については、授業終了時あるいは担当者のオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付けます。												

授業科目名		スタディスキルズ			単位（総授業時間＋自習時間）				1（30+15）			
担当者	子ども生活専攻教員	必・選	必	形態	演習	学期	前期	対象	子専1年			
授業の概要												
大学における初年次教育（導入教育・リメディアル教育等）を行う授業であり、本学（三島学園・東北生活文化大学）の歴史や施設の利用法を知った上で、マナーなどの生活面も含めた短大生としての学習方法（ノートの取り方、レポートの作成、資料の収集方法など）について学ぶ。また、入学前課題の事後指導を通じて、各科目を受講する上で必要な基礎学力の向上と共に、短大における学習がどのように将来（2年次の実習や就職後の仕事）と結びつくのか、話し合いや発表等を通して考える。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
各科目の理解に不可欠な基礎学力を身に付ける。							○			○		○
学内施設利用の仕方を理解する。							○					
学科・専攻の学習目的や学習方法を理解する。							○					
学内における生活上の基本的マナーを身に付け、将来につなげる。							○	○		○		○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）							
1. ガイダンス [1年担任・土屋・池田 他]					前期の学習内容について確認する。							
2. 学修ポートフォリオの記入 [1年担任・池田 他]					ポートフォリオに記入し、学習の計画を立てる。							
3. 短大における学習について（学長講話）[山田学長]					講話の内容をまとめて感想等を記入する。							
4. 学習方法に関するアドバイス （授業形態の特性、学外実習とその準備について）[松尾 他]					大学における学習方法について確認する。							
5. 入学前課題（国語：前半）の復習① [山崎・佐藤深 他]					自分で解けなかった問題の復習を行う。							
6. 入学前課題（国語：後半）の復習② [横山・盛下 他]					自分で解けなかった問題の復習を行う。							
7. 図書館の利用の仕方（検索の方法等）[図書館司書・佐藤和 他]					図書館の利用方法を確認し、積極的に活用する。							
8. 本学の歴史を知る（資料室・顕彰館の見学）[山崎・大瀬戸 他]					学園の歴史についての感想等を記入する。							
9. 入学前課題（数学）の復習 [池田・三浦 他]					自分で解けなかった問題の復習を行う。							
10. 一般教養①（文章表現）[針生・土屋 他]					自分で解けなかった問題の復習を行う。							
11. 一般教養②（漢 字）[盛下・山崎 他]					自分で解けなかった問題の復習を行う。							
12. 一般教養③（地 理）[大瀬戸・佐藤和 他]					自分で解けなかった問題の復習を行う。							
13. 一般教養④（ことわざ）[横山・佐藤深 他]					自分で解けなかった問題の復習を行う。							
14. 短大生活と就職活動 [就職支援センター・針生 他]					授業内容を基に、就職活動への見通しを立てる。							
15. まとめと後期への課題 [1年担任 他]					前期の学修を振り返り、夏休みの課題に取り組む。							
履修上の注意												
配布資料はファイルに閉じて整理する。												
入学前課題を使用することがあるので、指示に従い準備する。提出物は期限通り提出する。												
成績評価方法・基準												
受講態度・授業への参加状況（50％）提出物の提出状況・内容（50％）												
提出課題等については、添削後、授業中にフィードバックする。												
教科書 事前に必要なプリントを配布する。												
参考書 授業内で指示する。												
備 考												
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。												

授業科目名		キャリアアップセミナー			単位（授業時間＋自習時間）				1(30+15)		
担当者	食物栄養学専攻教員	必・選	必	形態	演習	学期	後期	対象	食専1年		
授業の概要											
社会人基礎力の基本となる「一歩踏み出す（行動する）力」「チームワーク」「考える力」を身につけるための手法について学ぶ授業を行う。考える力の手段としては「コンセプトマップ」「ピラミッドストラクチャ」「クリティカルシンキング」を、チームワークや行動する力としては「ブレインストーミング」「プレゼンの準備と練習」「電話対応演習（ロールプレイ）」などの演習を行う。就職活動で必要となる自己分析や履歴書の作成なども行う。											
授業の目標(到達目標)							学位授与の方針との関連				
							1	2	3	4	5
コミュニケーション能力を身につけること。							○				○
チームで問題解決をするための能力を修得する							○				○
社会常識としての言葉づかい、マナーを身につける。							○				○
就職活動をスムーズにスタートできるため準備を完了すること。							○				○
授業計画の内容					事前・事後学修の内容						
1. ガイダンス（社会人基礎力とは何か）と学習ポートフォリオ記入（池田、1年生担任）					配布プリントの復習、学修ポートフォリオの記入の完了						
2. コンセプトマップとは何か。（池田）					コンセプトマップの完成と復習						
3. コンセプトマップの活用法（池田）					コンセプトマップの完成と復習						
4. 説明と質問の発想方法 5W1Hの活用法とピラミッドストラクチャ、クリティカルシンキング（池田）					ピラミッドストラクチャの完成と復習						
5. ブレインストーミング① 「ブレインストーミングとは何か」「テーマ設定」（松尾、池田）					配布プリントの復習						
6. ブレインストーミング② 「ブレインストーミングとKJ法の実践」（松尾、池田、黒川、伊藤、佐藤、永沼、益田、済渡）					配布プリントの復習、発表用紙の作成						
7. ブレインストーミング③ 発表準備（同上）					配布プリントの復習、発表準備						
8. プレゼンテーション演習① 前半グループの発表（同上）					プレゼンテーションの感想の提出						
9. プレゼンテーション演習② 後半グループの発表（同上）					プレゼンテーションの感想の提出						
10. 履歴書、添え状、封筒の常識（池田、黒川、佐藤）※12と並行					履歴書雛型、添え状、封筒の提出						
11. エントリーシートを書くための自己PR作成（池田、黒川、佐藤）※13と並行					自己PRの構想用紙の提出						
12. 言葉の使い方と電話対応の基本（松尾、伊藤、永沼、益田、済渡）					配布プリントの復習、感想提出						
13. 電話対応の練習（実践的な例）（松尾、伊藤、永沼、益田、済渡）					配布プリントの復習、感想提出						
14. キャリアデザインとビジネスマナー（外部講師による）					配布プリントの復習、感想提出						
15. 就職活動に関するアドバイスと授業のまとめ（池田、1年生担任）					配布プリントの復習						
履修上の注意：											
配られた資料はファイルに閉じて整理すること。提出物は期限通り提出すること。											
成績評価方法・基準：											
提出物の提出状況とその内容（80％）。小テスト（20％）提出物は後日添削して返却する。											
教科書 毎回資料を配布する。											
参考書 ビジネスマナー教本（配布予定）											
備考：											
質問等については、授業終了時あるいは担当者のオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付けます。											

授業科目名	キャリアアップセミナー				単位（総授業時間＋自習時間）				1（30+15）			
担当者	子ども生活専攻教員	必・選	必	形態	演習	学期	後期	対象	子専1年			
授業の概要												
前期開講のスタディスキルズ（初年次教育）の授業を引き継ぎ、短大での学生生活、2年次に予定されている保育実習（保育所・施設）及び教育実習（幼稚園）、就職後の仕事に必要なスキル（基本的なマナー、文章作成、一般教養など）について、保育・教育実習指導の授業と連動しながら学習する。また、就職活動の方法や必要な知識等についても学び、卒業後の社会生活におけるキャリアについて話し合いや発表等を通して考え、具体的なイメージをもてるようにしていく。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
学生・社会人としてのマナーや一般教養を学ぶ。							○	○		○		○
2年次の実習や就職後に必要となる知識や技能について学ぶ。							○			○		○
就職活動について知識を獲得し、卒業後のキャリア形成について考える。							○	○		○		○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）						
1. オリエンテーション [1年担任 他]						後期の学習内容について確認する。						
2. 挨拶と言葉遣い [土屋・佐藤深・三浦 他]						学習内容を確認し、日々実践できるようにする。						
3. 服装と礼儀作法 [土屋・大瀬戸・佐藤和 他]						学習内容を確認し、日々実践できるようにする。						
4. 食事のマナー [土屋・山崎・盛下 他]						学習内容を確認し、日々実践できるようにする。						
5. 掃除の仕方 [土屋・横山・針生 他]						学習内容を確認し、日々実践できるようにする。						
6. キャリア教育①（保育者セミナー） [就職支援センター 他]						学習内容を確認し、今後の就職活動に活かす。						
7. 手紙の書き方 [1年担任 他]						学習内容を確認し、日々実践できるようにする。						
8. キャリア教育②（ファッション講座） [就職支援センター 他]						学習内容を確認し、今後の就職活動に活かす。						
9. 履歴書・実習生調書の書き方①（説明） [針生・土屋・盛下]						学習内容を確認し、2年次の実習や就職活動に活かすことが出来るようにする。						
10. 履歴書・実習生調書の書き方②（記入） [針生・土屋・盛下]												
11. キャリア教育③（就職情報等の活用） [就職支援センター 他]						学習内容を確認し、今後の就職活動に活かす。						
12. 面接・自己PRの仕方①（説明と原稿作成） [土屋・佐藤和 他]						作成した原稿を基に、自己PRの練習を行う。						
13. 面接・自己PRの仕方②（実際の練習） [全教員]						面接練習を振り返り、自分の課題を明確にする。						
14. キャリア教育④（公務員試験等） [針生・就職支援センター 他]						学習内容を確認し、今後の就職活動に活かす。						
15. キャリア教育⑤（2年就職内定者報告会） [2年担任]						学習内容を確認し、今後の就職活動に活かす。						
履修上の注意												
配布資料はファイルに閉じて整理する。入学前課題を使用することがあるので、指示に従い準備する。 提出物は期限通り提出する。												
成績評価方法・基準												
受講態度・授業への参加状況（50％）提出物の提出状況・内容（50％） 提出課題等については、添削後、授業中にフィードバックする。												
教科書 事前に必要なプリントを配布する。												
参考書 授業内で指示する。												
備考												
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。												

授業科目名		キャリアサポートセミナーⅠ			単位（総授業時間＋自習時間）				1(30+15)					
担当者	佐藤淳一ほか教職員		必・選	選	形態	演習	学期	通年	対象	食専1年				
授業の概要														
A I や情報ネットワークの急速な発展等により、産業構造及び雇用環境が大きく変化していることと、これからの時代に求められているのは文理融合型人材であることを教える。その上で、就職活動に必要な自己分析・仕事研究・企業分析・SPI・小論文・エントリーシート・面接等と、卒業後、社会人として必要な自ら主体的に考え行動する力・情報スキル・ビジネスマナー・プレゼンテーション・時事問題等の基礎知識及びスキルの修得を目指していく。														
授業の到達目標								学位授与の方針との関連						
								1	2	3	4	5	6	
① 広い視野で進路を考え、選択・決定する習慣を身に付ける														○
② 就職試験に合格する知識とスキルを身に付ける								○						
③ 社会人の基礎知識を身に付ける								○						
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）								
1.就活準備・スタートアップセミナー（授業がイテンス・就活の進め方）						授業の目的と就活の進め方を理解すること								
2.「これからの生き方・働き方を考える」セミナー						変化の時代のライフプランの参考にすること								
3.雇用環境セミナー（これからの時代に求められる人材像）						自身の価値を高める様学修する意識を持つこと								
4.職業理解セミナー（将来を見据えた職業選択のあり方）						将来を見据えたキャリアプランを考える意識を持つこと								
5.SPI 基礎セミナー（SPI 試験に必要な計算の基礎知識）						基礎計算の知識を繰返し復習すること								
6.第1回 SPI 模擬試験						SPI 言語・非言語の問題形式を知ること								
7.インターシップセミナー（映像で理解するインターシップ）						インターシップ＝採用選考の現状を理解すること								
8.自己分析&仕事研究セミナー（性格検査を活用した自己理解と仕事理解）						自己分析と仕事分析の手法の理解と復習								
9.情報スキルセミナー①（Google のビックデータ活用戦略）						あらゆる仕事にビックデータの活用は不可欠である。将来社会で活用できるようビックデータの基礎知識と、そこに潜む危険性を理解すること								
10.情報スキルセミナー②（身近な情報セキュリティ対策）														
11.情報スキルセミナー③（スマホアプリ／スマホゲーム業界の裏側）														
12.SPI 対策基礎編①（割合・損益計算）注1						配布するテキストを繰返し復習し、SPI 非言語問題を短時間で正解に導く実力を身に付けること								
13.SPI 対策基礎編②（速さ・組合せ・確率）注1														
14.SPI 対策応用編①（推論・グラフの領域）注1														
15.SPI 対策応用編②（数表・比率）注1														
履修上の注意														
継続して復習を行い、十分に内容を理解し実践できるようにすること また、夏期及び春期休暇期間中に実施する SPI 夏期集中セミナー・就活直前セミナー、東京就活バスツアー等の課外のイベントにも積極的に参加し、実力向上を図ること														
成績評価方法・基準														
授業態度（60%）、課題提出（30%） SPI 及び ES フィードバックの理解度（10%）														
教科書 授業の際に資料を配布する														
参考書 ① [10 年後、君に仕事はあるのか] [藤原和博] [ダイヤモンド社] [1,512 円] ② [会社四季報業界地図 2019 年版] [東洋経済新報社] [1,296 円] ※平成 30 年 9 月上旬発売														
備考														
注1：第1回 SPI 模試の結果次第で授業内容変更の可能性有														

授業科目名	キャリアサポートセミナーⅠ				単位（総授業時間＋自習時間）				1(30+15)			
担当者	佐藤淳一ほか教職員		必・選	選	形態	演習	学期	通年	対象	食専1年		
授業の概要												
AⅠや情報ネットワークの急速な発展等により、産業構造及び雇用環境が大きく変化していることと、これからの時代に求められているのは文理融合型人材であることを教える。その上で、就職活動に必要な自己分析・仕事研究・企業分析・SPI・小論文・エントリーシート・面接等と、卒業後、社会人として必要な自ら主体的に考え行動する力・情報スキル・ビジネスマナー・プレゼンテーション・時事問題等の基礎知識及びスキルの修得を目指していく。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
④ 広い視野で進路を考え、選択・決定する習慣を身に付ける												○
⑤ 就職試験に合格する知識とスキルを身に付ける							○					
⑥ 社会人の基礎知識を身に付ける							○					
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）						
16.第2回 SPI 模擬試験						理解出来てない分野を確認し復習すること						
17.ビジネスマナーセミナー（社会人マナーを楽しく体験しながら学ぶ）						普段から学んだ内容を実践し身に付けること						
18.プレゼンテーションセミナー（プレゼンテーションの基礎知識）						普段から学んだ内容を実践し身に付けること						
19.SPI 模試振り返り（頻出問題の確認）注2						頻出問題を確実に正解出来るようにすること						
20.就活中間レビュー（自己分析の振り返りと自己PRの作成）						十分に自己理解出来るようになること						
21.小論文対策セミナー①（時事問題と小論文）						時事問題に対する自分自身の意見を持つ様心掛けることと、小論文の文章構成を理解すること						
22.小論文対策セミナー②（時事問題と小論文）												
23.E S 対策セミナー①（企業分析から始める ES の書き方）						企業の求める人材像と自分の強みをマッチングさせ ES を完成出来るよう復習すること						
24.E S 対策セミナー②（企業分析から始める ES の書き方）												
25.面接対策セミナー①（面接の全体像と集団面接ワーク）						ロールプレイを通じ、面接の実践力を見に付けること						
26.面接対策セミナー②（個人面接ワークと全体振り返り）												
27.ワークルールセミナー（求人票の見方と労働法の基礎知識）						働く者の権利と義務を理解すること						
28.人事採用担当者セミナー（採用担当者が見るポイント）						人事担当者が学生を見るポイントを理解すること						
29.振り返りセミナー（就活の流れの再確認）						就活全体の流れをよく確認すること						
30.内定者報告会（内定に至るプロセスの理解）						内定者の生の声を聞き、就活の参考にすること						
履修上の注意												
継続して復習を行い、十分に内容を理解し実践できるようにすること												
また、夏期及び春期休暇期間中に実施する SPI 夏期集中セミナー・就活直前セミナー、東京就活バスツアー等の課外のイベントにも積極的に参加し、実力向上を図ること												
成績評価方法・基準												
授業態度（60%）、課題提出（30%）												
SPI 及び ES フィードバックの理解度（10%）												
教科書 授業の際に資料を配布する												
参考書 ① [10年後、君に仕事はあるのか] [藤原和博] [ダイヤモンド社] [1,512円]												
② [会社四季報業界地図 2019年版] [東洋経済新報社] [1,296円] ※平成30年9月上旬発売												
備考												
注2：第2回 SPI 模試の結果次第で授業内容変更の可能性有												

授業科目名	キャリアサポートセミナーⅡ				単位（総授業時間＋自習時間）				1(30+15)			
担当者	佐藤淳一ほか教職員		必・選	選	形態	演習	学期	前期	対象	食専2年		
授業の概要												
4月時点の就職環境及び企業の採用活動と他校の学生の就職活動の動向を説明し理解させていく。その上で、面接や筆記試験の頻出問題である時事問題に絡めた小論文対策セミナーとES復習セミナーの実施のほか、学内に求人先企業をお呼びして学内説明会並びに一次選考会の実施など学生の時間と手間を省いた実践的な内容で就職活動をサポートして行く。また、一人ひとりの学生の価値観を尊重した個別指導等実際の就職活動で結果が得られるよう丁寧な指導を行っていく。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
① 現在の就職環境を正しく理解すること							○					
② ESや小論文試験に対応する文章力を身に付けること									○			
③ 直接企業の話を聴き、企業を見る目を養うこと											○	○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）						
1. どれかの就職活動（今年度の就活動向）						現在の就職環境を理解すること						
2. 小論文対策セミナー①（時事問題と小論文）						時事問題に対する自分自身の意見を持つ様心掛						
3. 小論文対策セミナー②（時事問題と小論文）						けることと、小論文の文章構成を理解すること						
4. ES復習セミナー①（企業分析と自己分析の振り返り）						企業の求める人材像と自分の強みをマッ						
5. ES復習セミナー②（企業の求める人材像と自分の強みのマッチング）						チングさせ ES を完成出来るよう復習すること						
6. 学内単独企業説明会（企業名後日発表）						直接企業の人事担当者から、会社の業						
7. 〃 ①						績・将来性・仕事の内容・教育制度・キ						
8. 〃 ②						ャリアプラン・給与・福利厚生制度・選						
9. 〃 ③						考方法等の話を聴き、企業を見る目を養						
10. 〃 ④						うこと						
11. 〃 ⑤												
12. 〃 ⑥												
13. 〃 ⑦												
14. 〃 ⑧												
15. 〃 ⑨												
履修上の注意												
授業で学んだことを実際の就職活動で実践し、その結果をPDCAサイクルで検証して実力向上を図ること。												
成績評価方法・基準												
授業態度（60%）、課題提出（30%）、小論文フィードバックフィードバック（10%）												
教科書 授業の際に資料を配布する												
参考書 なし												
備考												
特になし												

生活文化学科基幹科目

生活文化学科基幹科目

授業科目名		生活文化概論				単位（総授業時間＋自習時間）				2（30＋60）		
担当者	伊藤 常久	必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	食専・子専1年			
授業の概要												
衣食住を中心とした生活と文化との関わりとその全体像である生活文化への理解を深める試みとして、生活主体とそれを取り巻く生活事象について説明しながら、地域性や時代背景による生活文化の多様性—思想や思考、技術等について紹介する。私たちににとって「生活文化とは何か」について、主体的に考えて想像できるよう解説する。この講義は「概論」であり、のちの「生活文化各論」にて生活文化をより深く理解するための枠組みとしての概説を行う。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
生活文化の概念や考え方について理解する。							○	○				
生活文化の諸相を把握する知識を身につける。							○	○				
生活文化の向上のために自分たちが果たすべき役割について理解する。							○	○				
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）						
1. ガイダンス：授業の説明、アンケート						配布プリントの復習						
2. 生活文化とは						用語の事前確認・配布資料の復習						
3. 生活文化の関連領域（家政学や生活学との関わり）						用語の事前確認・配布資料の復習						
4. 生活と文化（福祉、健康、安全、幸福など）						用語の事前確認・配布資料の復習						
5. 生活史（江戸時代の生活、生活と職業）						用語の事前確認・配布資料の復習						
6. 生活史（明治、大正時代の生活）						用語の事前確認・配布資料の復習						
7. 生活史（昭和から現在までの生活）						用語の事前確認・配布資料の復習						
8. 生活文化とジェンダー、家族、小テスト						用語の事前確認・小テストに向けた復習						
9. 生活文化と保育、子育て						用語の事前確認・配布資料の復習						
10. 生活文化と食、栄養						用語の事前確認・配布資料の復習						
11. 生活文化と衣、ファッション						用語の事前確認・配布資料の復習						
12. 生活文化と住環境						用語の事前確認・配布資料の復習						
13. 生活文化と芸術						用語の事前確認・配布資料の復習						
14. 生活文化と情報						用語の事前確認・配布資料の復習						
15. まとめ、授業評価アンケート						配布資料の復習・講義内容の振り返り						
16. 試験						筆記試験に向けた復習						
履修上の注意												
・遅刻・欠席はしないこと。なお、遅刻3回で欠席1回とする。												
・講義の妨げ、あるいは講義と関係のない行為が見られた場合、受講態度は基本的に評価外とする。												
成績評価方法・基準												
・期末試験（70%）、受講態度（30%）。												
・試験については解答例をまとめたレジュメを配布することでフィードバックとする。												
教科書 資料を準備するので事前に配布する。												
参考書〔生活文化論〕〔佐々木啓、他編著〕〔朝倉書店〕〔3,024 円〕												
備 考												
・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。												
・質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。												

授業科目名		生活文化各論				単位（授業時間＋自習時間）				2(30+60)			
担当者	短大教員		必・選	必	形態	講義	学期	後期	対象	食専・子専１年			
授業の概要													
生活文化学科では、食や保育の分野は人々の生活文化の重要な要素であり、その理解のためには生活文化を広く理解することが必要であると考えている。前期の生活文化概論では、歴史的な経過に伴い、生活・文化が、伝統的な家政学からさまざまな分野に発展し広がっている様子が解説された。本講義では、短期大学に所属する教員の専門分野や教育分野という視点から、多岐にわたる生活文化を考察する。テーマごとに、生活文化と自分との関わりについて自ら考え、作文を提出する。													
授業の目標(到達目標)								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
生活文化を広い視点からとらえるための知識を身につける。								○	○				
多様な生活文化の知識を自分たちの生活に関係づけて考えることができるようになる。								○	○				
生活文化の向上のために、将来果たすべき役割について、自ら考えることができるようになる。								○	○				
授業計画の内容						事前・事後学修の内容							
１．ガイダンス（松尾）授業の位置づけ、授業の進め方、テーマ案内など）情報社会におけるセキュリティについて（松尾）						配布プリントの復習							
２．生活・文化史（針生）						配布プリントの復習、作文の提出							
３．生と性（土屋）						配布プリントの復習、作文の提出							
４．栄養補給ルートと QOL の関係（済渡・益田）						配布プリントの復習、作文の提出							
５．生活文化と社会福祉（大瀬戸）						配布プリントの復習、作文の提出							
６．海と生活文化（黒川）						配布プリントの復習、作文の提出							
７．絵本と生活文化（三浦）						配布プリントの復習、作文の提出							
８．食べ物の情報と本当の食の安全（永沼）						配布プリントの復習、作文の提出							
９．子どもと遊び（山崎）						配布プリントの復習、作文の提出							
10．研究倫理と生活文化（池田）						配布プリントを復習し倫理に気をつける。作文提出							
11．人間形成と生活文化（盛下）						配布プリントの復習、作文の提出							
12．音楽と生活文化（佐藤和）						配布プリントの復習、作文の提出							
13．英国の生活文化と伝承童謡（佐藤恵）						配布プリントの復習、作文の提出							
14．生活の中の美術（横山）						配布プリントの復習、作文の提出							
15．振り返り・・・自分と生活文化（まとめの作文）（池田）						過去の配布プリントをファイルに整理する。							
履修上の注意：													
原則、生活文化概論を履修しておくこと。配布資料が毎回あるので、ファイルに綴じて整理し、毎回持ってくる。講義の順番は変更されることがある。													
成績評価方法・基準													
各回の作文内容（94％）とファイル提出（６％）。作文は添削して返却する。													
教科書 毎回資料を配布する。													
参考書 なし													
備考：													
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付けます。													

食物栄養学専攻専攻科目

食物栄養学専攻専攻科目

授業科目名		有機化学			単位（総授業時間＋自習時間）				2（30＋60）		
担当者	菅野 修一	必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	食専1年		
授業の概要											
身の回りのあらゆる場面に存在する有機化合物を分子レベルで理解するため、物質の分子構造、およびそれを組み立てている結合の仕組みを知ること重点を置く。ここでは有機化学の基本概念を述べ、それらの分子の反応性を化学結合、とりわけ共有結合の電子の配置から説明し、それをもとに官能基の性質について講義する。一方、講義の適切な個所では、化学の基本となる量子論の考え方にも触れ、有機化学の奥深さも伝える。											
授業の到達目標							学位授与の方針との関連				
							1	2	3	4	5
有機化合物を分子式として理解出来るようになる。							○		○		○
食品を有機化合物として理解出来るようになる。							○		○		○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）					
1. 栄養学における有機化学の重要性の認識について						教科書指定ページの熟読。					
2. 元素の周期表、元素記号、必須元素、同族元素						課題を指定。					
3. アルカリ金属、アルカリ土類金属、ハロゲン元素、希ガス						教科書指定ページの熟読。					
4. 分子模型を用いての立体化学、炭素の結合手						課題を指定。					
5. 原子番号と電子の配列、イオン結合の復習						講義ノートの総まとめ（1回目）。					
6. 原子の構造、同位体、放射性同位元素の生化学における利用						課題を指定。					
7. 分子式、組成式、次式、有機化合物の異性体						教科書指定ページの熟読。					
8. 中間試験、分子量、式量、構造式、炭素の正四面体構造						課題を指定。					
9. 炭素の二重結合、三重結合、分かち書きの分子式						教科書指定ページの熟読。					
10. 飽和炭化水素、アルカンの構造、アルカンの性質						講義ノートの総まとめ（2回目）。					
11. 不飽和炭化水素、共有結合（電子対結合）、電子体						教科書指定ページの熟読。					
12. 非共有電子体、配位結合、金属結合、不対電子						課題を指定。					
13. メタン分子、軌道電子昇位、混成軌道、σ結合、π結合						教科書指定ページの熟読。					
14. 直鎖の飽和炭化水素とその命名法、数詞、アルキル基						課題を指定。					
15. 分岐炭化水素とその命名法、慣用名						講義ノートの総まとめ（3回目）。					
履修上の注意											
教科書の指定ページの熟読し、予習・復習をしっかりと行うこと。											
成績評価方法・基準											
毎回行う小テスト 30％・課題レポート 30％、試験 40％を総合的に評価する。小テストは毎回添削。											
教科書 [有機化学基礎の基礎] [立屋敷哲] [丸善株式会社] [2,700 円]											
参考書 必要に応じてプリントを配布する。											
備 考											
質問はオフィスアワーはもちろん、授業終了後に申し出てもらうことで時間を調整し常時受けつける。											

授業科目名		統計学			単位（授業時間＋自習時間）				2 (30+60)			
担当者	池田 展敏	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	食専2年			
授業の概要												
前半では、集団の性質を大局的にとらえるための記述統計（度数分布、代表値、散布度、特に標準偏差、相関係数など）の初歩的事項について解説し、簡単な例で計算練習する。中盤では、統計学の応用のために不可欠な確率と確率分布（正規分布、t分布、カイ二乗分布など）について説明する。後半では、推定や検定など推測統計の考え方ついて説明する。実際の統計処理にはコンピュータが欠かせないので、エクセル等を用いた実習も行う。知識を憶えるだけでなく自らの頭で考える努力を重視する。												
授業の目標(到達目標)							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
平均、標準偏差、相関係数などの意味と定義を理解し、その計算ができるようになる。							○					
パソコンで統計データを整理できるようになる。							○		○			
就職試験に出題されるような、簡単な確率や数え上げの問題が解けるようになること。							○					
統計学で使われる確率分布の種類について理解し、区間推定に応用できる。							○					
統計的検定の考え方を理解できる。							○		○			
授業計画の内容					事前・事後学修の内容							
1. 序章：ガイダンス、統計学のイメージと概要（記述と推測）					教科書のガイダンスの章を読むこと							
2. 1章：資料の整理（データと度数分布）					教科書該当ページを読む。配布プリントの復習。							
3. 1章：資料の整理（ヒストグラム、データの代表値）					教科書該当ページを読む。配布プリントの復習。							
4. 1章：資料の整理（散布度、偏差、分散）					教科書該当ページを読む。計算例の確認。							
5. 1章：資料の整理（標準偏差、データの標準化）					教科書該当ページを読む。計算例の確認。							
6. 1章：資料の整理（散布図、共分散、相関係数）					教科書該当ページを読む。散布図、計算例の確認。							
7. 2章：確率（統計的確率と数学的確率、コイン投げの例）					教科書該当ページを読む。							
8. 2章：確率（順列や組み合わせなどの場合の数と確率）					教科書該当ページを読む。計算例の確認。							
9. 2章：確率（確率変数、確率分布）					該当ページを読む。1・2章提出課題に取り組む。							
10. エクセル演習：身体データとコイン投げデータの解析					1章の全体復習。エクセル課題を仕上げ印刷する。							
11. 2章：確率（確率変数の平均値の定義、確率分布の例）					教科書該当ページを読む。ノートの復習							
12. 2章：確率（分布表の使い方、%点）					教科書該当ページを読む。確率分布表の使い方確認。							
13. 3章：なぜ正規分布が必要か。					教科書該当ページを読む。ノートの復習。							
14. 4章：区間推定に関する演習					教科書該当ページを読む。プリントの復習。							
15. 5章：検定に関する演習					教科書該当ページを読む。2~5章の課題の提出。							
16. 試験					提出課題を復習して臨むこと。							
履修上の注意												
電卓が必要な時があるので持参すること。												
成績評価方法・基準												
期末テスト（50%）。問題レポート（35%）。エクセル演習レポート（15%）												
レポートは後日添削して返却する。試験は試験後に解答例を配布する。												
教科書〔中学数学でわかる統計授業〕〔涌井良幸・他〕〔日本実業出版〕〔1,800円〕												
参考書 なし												
備 考												
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付けます。												

授業科目名		数学基礎演習			単位（授業時間＋自習時間）				1(30+15)			
担当者	池田 展敏	必・選	必	形態	演習	学期	前期	対象	食専 1 年			
授業の概要												
本演習では、算数の概念や中学数学などの非常に基本的な考え方に立ち返りながら、日常生活や、栄養・調理、統計学に役に立つ計算能力が身につくよう演習を行う。具体的には次のような項目について演習を行い、それぞれ小テストで確認する。「数量感覚」「式と計算」「いろいろな単位」「方程式」「濃度」「場合の数・順列・組み合わせ」「図形」「グラフの意味と描画」「比例と一次関数」「数列」「指数関数」。これらを個別の問題としてだけでなく、共通する考え方に重点をおき授業を行う。												
授業の目標(到達目標)							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
基本的な計算能力（図形も含む）を身につける。							○		○			
比例の考え方を理解し、栄養価計算などに応用できる。							○		○			
日常生活や理科実験に数学を応用できる。							○		○			
授業計画の内容					事前・事後学修の内容							
1. ガイダンスと栄養価計算の基本例題					配布プリントの復習。							
2. 式と計算（四則演算と計算規則、式の展開など）					配布プリントの復習。							
3. 数量感覚（数直線とたし算・かけ算）の演習					それまでの配布プリントを復習し小テストに備える							
4. 分数と割合の計算					小テストの復習。配布プリントの復習。							
5. 基本的な単位					配布プリントの復習。							
6. 濃度、速度、エネルギーなど、いろいろな単位					それまでの配布プリントを復習し小テストに備える							
7. 化学等への応用(密度)					配布プリントの復習。							
8. 化学等への応用(モル濃度)					それまでの配布プリントを復習し小テストに備える							
9. 一次方程式、連立一次方程式					配布プリントの復習。							
10. 比例とグラフ					配布プリントの復習。							
11. 数列					それまでの配布プリントを復習し小テストに備える							
12. 数列とグラフ（2次関数、指数関数などのいろいろな関数）					配布プリントの復習。							
13. 2次関数とグラフ図形（直角三角形と合同）					配布プリントの復習。							
14. 順列と組み合わせいろいろな場合の数					それまでの配布プリントを復習し小テストに備える							
15. 総合問題					配布プリントの復習。							
履修上の注意												
問題プリントが多数あるので、ファイルに綴じて整理し、毎回持ってくる。電卓を使う時があるので用意しておくこと。												
成績評価方法・基準												
ノート提出・提出物の提出状況（45%）、小テスト（55%）。 小テストはすべて後日添削して返却する。												
教科書 パワーポイントの資料を配布する。演習問題を配布する。												
参考書 なし												
備 考												
小テストの日程は授業進度に合わせる。その都度アナウンスします。提出課題の一部として入学前 e-learning を活用する予定。質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付けます。												

授業科目名	栄養情報処理演習Ⅰ				単位（授業時間＋自習時間）				1(30+15)				
担当者	池田 展敏		必・選	選	形態	演習	学期	前期	対象	食専２年			
授業の概要													
本演習では、食の分野で業務上必要となる各種文書（食品表示、チケット、商品シール、メニュー表、レシピ表など）の作成・印刷を行う。この際、「画像の活用」に注目して授業を行う。次に、食生活に関する調査を題材にして、アンケート用紙の作成と集計作業の演習を行う。この際、エクセルの各種関数を活用し、度数の集計などの単純集計から、散布図やクロス表集計を使った解析まで、データ処理の演習を行っていく。最後に、栄養価計算へのエクセルの活用例を示す。													
授業の目標(到達目標)								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
「word」の表の挿入を活用し、画像やレシピ表のレイアウトができる。								○		○			○
専用ソフトを使い、チケットやシールなどの印刷ができるようになる。								○		○			○
アンケート調査の一連の流れ（調査計画、用紙作成、結果集計、表・グラフの活用、統計処理）を理解する。								○		○			○
授業計画の内容						事前・事後学修の内容							
１．授業の内容、進め方、画像情報入力の確認						配布プリントの復習。							
２．表と画像を活用したレシピ表の作成						配布プリントの復習。							
３．別メニューを同一レイアウトで作成						配布プリントの復習。レシピ表の提出							
４．シール・チケット作成ソフトの使い方と注意点						配布プリントの復習。							
５．シールの作成と印刷						配布プリントの復習。シールの印刷と提出							
６．チケットの作成と印刷						配布プリントの復習。チケットの印刷と提出							
７．食品表示とメニュー表作成および注意点・印刷						配布プリントの復習。印刷							
８．統計調査の目的、方法。アンケート用紙の作成						配布プリントの復習。アンケート用紙案の提出							
９．アンケート結果の集計						配布プリントの復習。							
10．アンケート結果の集計の続き						配布プリントの復習。集計を終わらせる。							
11．統計調査のデータ解析（度数分布）						配布プリントの復習。課題を終わらせる。							
12．統計調査のデータ解析（散布図）						配布プリントの復習。課題を終わらせる。							
13．統計調査のデータ解析（クロス表集計）						配布プリントの復習。課題を終わらせる。							
14．統計調査のデータ解析（検定）						配布プリントの復習。調査のレポート作成。							
15．エクセルによる簡易的な栄養価計算						配布プリントの復習。							
履修上の注意													
配布資料が毎回あるので、ファイルに綴じて整理し、毎回持ってくる。授業で終わらない課題は、各自で時間外に行うこと。													
成績評価方法・基準													
提出物（100%）。印刷された提出物は後日添削して返却する。また、返却時に講評を行う。													
教科書 パワーポイントの資料を配布する。													
参考書 なし													
備考：													
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付けます。													

授業科目名	栄養情報処理演習Ⅱ					単位（授業時間＋自習時間）			1(30+15)				
担当者	池田 展敏		必・選	選	形態	演習	学期	後期	対象	食専2年			
授業の概要													
前期の栄養情報処理演習Ⅰにひきつづき、PCを使った演習を行っていく。エクセルの演習では、ドロップダウンや vlookup 関数の活用例（メニューのレパートリー忘備録、年齢・性別・活動レベルに合わせた摂取基準表示）について演習を行う。次に、エクセル栄養君の使い方について学習・演習し、栄養価成績表の見方について学習する。最後に、ウェブページの基本（HTML 言語）について学び、給食便りを模したウェブページの作成を行う。業務上役に立つであろう「差し込み印刷」の演習も行う。													
授業の目標(到達目標)								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
ドロップダウンや vlookup 関数の意味を理解し、エクセルで活用できる。								○		○			○
エクセルを活用し、栄養価計算の情報処理ができるようになる。								○		○			○
ウェブページの基本を理解し、食のコンテンツが作れる。								○		○			○
授業計画の内容							事前・事後学修の内容						
1. 栄養情報処理演習Ⅰの総括と次の課題							配布プリントの復習。						
2. エクセル（ドロップダウン）の演習							配布プリントの復習。						
3. エクセル（vlookup）の演習							配布プリントの復習。演習課題の提出						
4. レーダーチャートの基本							配布プリントの復習。演習課題の提出						
5. エクセル栄養君の使い方の学習							配布プリントの復習。						
6. エクセル栄養君（メニューの入力と成績表の見方）							配布プリントの復習。チケットの印刷と提出						
7. エクセル栄養君（一日分のメニュー入力）							配布プリントの復習。						
8. エクセル栄養君（対象者による成績表の結果の違い）							配布プリントの復習。栄養価成績表の解釈と印刷						
9. ウェブページの基本							配布プリントの復習。						
10. ウェブページ（リンクや写真活用）							配布プリントの復習。						
11. ウェブページ（表の活用）							配布プリントの復習。						
12. ウェブページの仕上げに向けた作業							配布プリントの復習。給食便りの内容を考えておく。						
13. 給食便りとしてのコンテンツを考える							配布プリントの復習。ウェブページを仕上げ提出						
14. 提出物の総チェック							配布プリントの復習。						
15. 差し込み印刷の応用							配布プリントの復習。						
履修上の注意：													
原則、栄養情報処理演習Ⅰを履修しておくこと。配布資料が毎回あるので、ファイルに綴じて整理し、毎回持ってくること。													
成績評価方法・基準													
提出物（100%）。印刷物は確認し、返却時に講評を行う。													
教科書 パワーポイントの資料を配布する。													
参考書 〔情報社会のデジタルメディアとリテラシ〕〔小島正美編著〕〔ムイスリ出版〕〔1,800 円〕													
備考：													
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付けます。													

授業科目名		学校・地域の安全安心（防災及び救急処置を含む）			単位（総授業時間＋自習時間）			2（30＋60）				
担当者	伊藤 常久	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	食専2年			
授業の概要												
子どもの命と安全に関わる課題とその対策には、幼稚園や保育所、学校における専門職（養護教諭や保育士、保健体育科教員）のみならず、地域全体で取り組む必要があるものが少なくない。この授業では、配慮すべき健康問題や安全上の課題等について取り上げ、学校や地域における保健・安全の意義について説明する。また、自然災害に対する防災・減災にも触れながら、学校生活や地域生活において子どもの安全・安心を守るための考え方と取り組みについて論述する。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
学校や地域における保健と安全に関する活動を理解する。							○			○		○
生命と健康、安全・安心を守るための基本的な考え方について理解する。							○			○		○
生活における安全・安心を高めるための力を身につける。							○			○		○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）							
1. ガイダンス					配布プリントの復習とミニットペーパーの提出							
2. 学校・地域とは、安全安心の意義					配布プリントの復習とミニットペーパーの提出							
3. 学校や地域等での事故や災害に関する法・制度					配布プリントの復習とミニットペーパーの提出							
4. 学校や地域における事故と現状					配布プリントの復習とミニットペーパーの提出							
5. 安全教育と事故予防					配布プリントの復習とミニットペーパーの提出							
6. 救護方法：救急処置の理論と実践（止血法、搬送法）					技術習得に向けた復習							
7. 救護方法：心肺蘇生法の理論と実践					技術習得に向けた復習							
8. 学校や地域における災害と現状					配布プリントの復習とミニットペーパーの提出							
9. 阪神淡路大震災・東日本大震災・近年の自然災害と教訓					配布プリントの復習とミニットペーパーの提出							
10. 災害時の人の心理・行動					配布プリントの復習とミニットペーパーの提出							
11. 災害情報システム					配布プリントの復習とミニットペーパーの提出							
12. 防災教育					配布プリントの復習とミニットペーパーの提出							
13. 防災対策：自助の意義、耐震化・安否確認・食料等の備蓄					配布プリントの復習とミニットペーパーの提出							
14. 防災対策：共助の意義、学校と地域の避難所					配布プリントの復習とミニットペーパーの提出							
15. まとめ、授業評価アンケート					配布プリントの復習と講義内容の振り返り							
16. 試験					筆記試験に向けた復習							
履修上の注意												
・遅刻・欠席はしないこと。												
・学習の内容はマスメディアを通じて報道されることも多いので、普段から関心を持つこと。												
成績評価方法・基準												
・期末試験（70%）、受講態度（30%）。												
・各回の授業でのミニットペーパーについては、次回の授業内でフィードバックを行う。												
・試験については問題と解答例をまとめたレジュメを掲示することでフィードバックとする。												
教科書 資料（プリント等）を準備するので事前に配布する。												
参考書 [子どもの命は守られたのか] [数見隆生編著] [かもがわ出版] [1,836 円]												
備 考												
・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。												
・質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。												

授業科目名	社会福祉論				単位（総授業時間＋自習時間）				2（30＋60）		
担当者	伊藤 常久	必・選	栄（必）	形態	講義	学期	後期	対象	食専 2 年		
授業の概要											
国民が健康で自立した安心できる生活を送ることができるよう支援することは、社会福祉の目的の一つである。講義では、日本や諸外国における社会福祉の歴史と発展について取り上げながら、社会福祉の理念や考え方について紹介する。また、少子高齢化社会を生きる社会人として、我が国の高齢者や児童、障害者等に対する社会福祉の仕組み（法・制度）と現状と合わせ、現在生じているさまざまな課題等について、私たちの生活と関連付けて解説する。											
授業の到達目標							学位授与の方針との関連				
							1	2	3	4	5
社会福祉の理念や概念について理解する。								○	○		
社会福祉に関連する法・制度を理解する。								○	○		
社会福祉の現状や課題について考える力を身につける。								○	○		
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）						
1. ガイダンス：授業の説明、アンケート、社会福祉とは					配布プリントの復習とミニットペーパーの提出						
2. 日本における社会福祉の歴史と発展					配布プリントの復習とミニットペーパーの提出						
3. 諸外国における社会福祉の歴史					配布プリントの復習とミニットペーパーの提出						
4. 諸外国における社会福祉の現状とその制度（VTR）					VTR の内容をまとめ、感想と共に次回提出						
5. 社会福祉のニーズとは					配布プリントの復習とミニットペーパーの提出						
6. 社会福祉に携わる専門職					配布プリントの復習とミニットペーパーの提出						
7. ボランティア					配布プリントの復習とミニットペーパーの提出						
8. 社会福祉援助技術					配布プリントの復習とミニットペーパーの提出						
9. 障害者福祉①概念とその歴史					配布プリントの復習とミニットペーパーの提出						
10. 障害者福祉②身体障害者補助犬法					配布プリントの復習とミニットペーパーの提出						
11. 高齢者福祉					配布プリントの復習とミニットペーパーの提出						
12. 児童福祉					配布プリントの復習とミニットペーパーの提出						
13. 子どもの権利条約					配布プリントの復習とミニットペーパーの提出						
14. 貧困問題と社会福祉					配布プリントの復習とミニットペーパーの提出						
15. これからの社会福祉、まとめ、授業評価アンケート					配布プリントの復習と講義内容の振り返り						
16. 試験					筆記試験に向けた復習						
履修上の注意											
・遅刻・欠席はしないこと。なお、遅刻 3 回で欠席 1 回とする。											
・講義の妨げ、あるいは講義と関係のない行為が見られた場合、受講態度は基本的に評価外とする。											
成績評価方法・基準											
・期末試験（70％）、受講態度（30％）。											
・各回の授業でのミニットペーパーについては、次回の授業内でフィードバックを行う。											
・試験については問題と解答例をまとめたレジュメを掲示することでフィードバックとする。											
教科書 資料（プリント等）を準備するので事前に配布する。											
参考書〔新版 社会福祉概論〕〔金子光一編著〕〔建帛社〕〔2,484 円〕											
備考											
・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。											
・質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。											

授業科目名		公衆衛生学			単位（総授業時間＋自習時間）				2（30＋60）		
担当者	伊藤 常久	必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	食専 2 年		
授業の概要											
生活における健康をどのように捉え、どう考えるのか、健康の保持・増進や疾病予防の活動とその仕組みはどうなっているのかを科学的な角度から紹介する。公衆衛生学では、主に公衆衛生の概念や歴史といった概要の他、疾病と予防対策、保健衛生統計等の意義と役割、及び社会と健康について概説する。また、医学や疫学をはじめとする諸科学と公衆衛生との関係、そして各ライフステージにおける公衆衛生活動とその現状についても合わせて説明する。											
授業の到達目標							学位授与の方針との関連				
							1	2	3	4	5
公衆衛生の概念や歴史について理解する。								○	○		
ライフステージ・分野毎の公衆衛生活動を理解する。								○	○		
公衆衛生の状況や課題を把握する力を身につける。								○	○		
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）						
1. ガイダンス、公衆衛生概要：健康の概念					配布プリントの復習とミニットペーパーの提出						
2. 公衆衛生概要：公衆衛生の概念と歴史					配布プリントの復習とミニットペーパーの提出						
3. 主要疾患の疫学と予防対策：生活習慣病の概念					配布プリントの復習とミニットペーパーの提出						
4. 主要疾患の疫学と予防対策：主要部位のがん、その他					配布プリントの復習とミニットペーパーの提出						
5. 公衆衛生に関する統計資料：保健統計					配布プリントの復習とミニットペーパーの提出						
6. 公衆衛生に関する統計資料：人口動態統計、その他					配布プリントの復習とミニットペーパーの提出						
7. 健康・疾病の測定と評価：疫学の概念					配布プリントの復習とミニットペーパーの提出						
8. 健康・疾病の測定と評価：疫学の応用					配布プリントの復習とミニットペーパーの提出						
9. 環境と健康：生態系と人間生活					配布プリントの復習とミニットペーパーの提出						
10. 環境と健康：環境汚染と健康					配布プリントの復習とミニットペーパーの提出						
11. 国民健康づくり対策					配布プリントの復習とミニットペーパーの提出						
12. 学校保健					配布プリントの復習とミニットペーパーの提出						
13. 母子保健					配布プリントの復習とミニットペーパーの提出						
14. 産業保健					配布プリントの復習とミニットペーパーの提出						
15. 高齢者保健、まとめ、授業評価アンケート					配布プリントの復習と講義内容の振り返り						
16. 試験					筆記試験に向けた復習						
履修上の注意											
・遅刻・欠席はしないこと。なお、遅刻 3 回で欠席 1 回とする。											
・講義の妨げ、あるいは講義と関係のない行為が見られた場合、受講態度は基本的に評価外とする。											
成績評価方法・基準											
・期末試験（70％）、受講態度（30％）。											
・各回の授業でのミニットペーパーについては、次回の授業内でフィードバックを行う。											
・試験については問題と解答例をまとめたレジュメを掲示することでフィードバックとする。											
教科書〔衛生・公衆衛生学〕〔山本玲子編著〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔3,024 円〕											
参考書 資料（プリント等）を準備するので事前に配布する。											
備 考											
・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。											
・質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。											

授業科目名		健康管理概論			単位（総授業時間＋自習時間）				2（30＋60）		
担当者	伊藤 常久	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	食専 1 年		
授業の概要											
日本は世界でも有数の長寿国となっているが、これまでに我が国の疾病構造は感染症から生活習慣病、そして老人性の退行疾患と大きく変化・推移してきた。この講義では、単に長寿ではなく、元気に長生きするためにはどのような健康管理が必要であるのか、現在と将来の健康維持に向けた健康管理のあり方とその重要性について解説する。特に健康づくりの柱とされている運動・栄養・休養を中心に心身の健康保持・増進に加え、社会的な健康も合わせて取り上げて説明する。											
授業の到達目標								学位授与の方針との関連			
								1	2	3	4
健康管理の目的や概念について理解する。								○		○	
健康の保持・増進のための方法について理解する。								○		○	
健康状態を把握する力を身につける。								○		○	
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）						
1. ガイダンス、					配布プリントの復習及び次回の内容を予め確認する						
2. 健康とは（定義・歴史）					配布プリントの復習及び次回の内容を予め確認する						
3. 日本の人口構造と平均寿命の変遷					配布プリントの復習及び次回の内容を予め確認する						
4. 高齢化と少子化社会と健康					配布プリントの復習及び次回の内容を予め確認する						
5. 現代の健康状態と疾病					配布プリントの復習及び次回の内容を予め確認する						
6. ライフスタイル、生活習慣の現状と課題					配布プリントの復習及び次回の内容を予め確認する						
7. メタボリックシンドロームと予防					配布プリントの復習及び次回の内容を予め確認する						
8. 健康を支えるからだの仕組み、小テスト（前半分）					配布プリントの復習及び次回の内容を予め確認する						
9. 体脂肪、BMI、基礎代謝と健康					小テスト結果の確認及び次回の内容を予め確認する						
10. 栄養と健康					配布プリントの復習及び次回の内容を予め確認する						
11. 運動・体力と健康					配布プリントの復習及び次回の内容を予め確認する						
12. ストレス・休養と健康					配布プリントの復習及び次回の内容を予め確認する						
13. 加齢・老化と健康					配布プリントの復習及び次回の内容を予め確認する						
14. 社会関係資本と健康					配布プリントの復習及び次回の内容を予め確認する						
15. まとめ、授業評価アンケート					配布プリントの復習と講義内容の振り返り						
16. 試験					筆記試験に向けた復習						
履修上の注意											
・遅刻・欠席はしないこと。なお、遅刻 3 回で欠席 1 回とする。											
・講義の妨げ、あるいは講義と関係のない行為が見られた場合、受講態度は基本的に評価外とする。											
成績評価方法・基準											
・期末試験（70%）、受講態度（30%）。											
・各回の授業でのミニットペーパーについては、次回の授業内でフィードバックを行う。											
・試験については問題と解答例をまとめたレジュメを掲示することでフィードバックとする。											
教科書 資料（プリント等）を準備するので事前に配布する。											
参考書〔衛生・公衆衛生学〕〔山本玲子編著〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔3,024 円〕											
備 考											
・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。											
・質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。											

授業科目名		解剖生理学			単位（総授業時間＋自習時間）				2（30＋60）		
担当者	曾根 正彦	必・選	必	形態	講義	学期	後期	対象	食専1年		
授業の概要											
栄養にかかわる職業に就くためには、正常なからだの「しくみ」について学び理解しておく必要がある。からだの「しくみ」を構造面からアプローチする学問が解剖学であり、機能面からアプローチする学問が生理学である。からだの構造と機能は密接に関わっているため、本授業では主に解剖学と生理学とを関連づけながら、内科医として臨床に30年以上携わってきた担当者が実体験をもとに講義を行う。 また共同学習では、授業で得た知識をグループごとに学習し、その成果の発表を学期中に2回行う。											
授業の到達目標							学位授与の方針との関連				
							1	2	3	4	5
・解剖生理学の基本的知識を学び身につける。									○		
・人体の「しくみ」を構造面と機能面から体系的に理解できるようになる。									○		
・講義で得た知識を社会で活用する能力を身につける。									○		○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）						
1. オリエンテーション、人体構造、共同学習グループ分け					第1章をよく読み、不明点は質問						
2. 運動器、共同学習テーマ選択（第1回）					第3章をよく読み、不明点は質問。						
3. 呼吸器、共同学習					第4章をよく読み、不明点は質問。						
4. 循環器、共同学習					第5章をよく読み、不明点は質問。						
5. 消化器総論・消化管、共同学習					第6章をよく読み、不明点は質問。						
6. 消化器と栄養（肝臓と門脈）、共同学習					第6章をよく読み、不明点は質問。						
7. 腎・泌尿器、共同学習					第7章をよく読み、不明点は質問。						
8. 共同学習 1回目のプレゼンテーション					発表準備と発表後の評価。						
9. 神経系、共同学習テーマ選択（第2回）					第8章をよく読み、不明点は質問。						
10. 感覚器、共同学習					第9章をよく読み、不明点は質問。						
11. 内分泌、共同学習					第10章をよく読み、不明点は質問。						
12. 血液など、共同学習					第11章をよく読み、不明点は質問。						
13. 生殖器、共同学習					第12章をよく読み、不明点は質問。						
14. 細胞の構造と機能、共同学習					第2章をよく読み、不明点は質問。						
15. 共同学習 2回目のプレゼンテーション					発表準備と発表後の評価。						
16. 筆記試験											
履修上の注意											
解剖生理学の学習には生物学の知識が必要なので、事前に生物学を復習しておくことが望ましい。授業は教科書に沿って進める。また共同学習はテーマ内容を各自よく学習すること。											
成績評価方法・基準											
期末試験（60％程度）、共同学習発表（30％程度）とミニットペーパー提出等の受講状況（10％程度）で評価する。レポート・試験等についてフィードバックを行う。											
教科書〔解剖生理学〕〔林 洋 監修〕〔じほう〕〔2,160 円〕											
参考書 「無し」											
備 考											
都合により、授業計画の順番等が変更されることがある。 質問等は授業終了時あるいはオフィスアワーで受け付ける。											

授業科目名	運動生理学				単位（総授業時間＋自習時間）				2（30＋60）				
担当者	土井 豊		必・選	栄（必）	形態	講義	学期	後期	対象	食専2年			
授業の概要													
本授業では、運動に伴う生理的な諸現象について学習すると共に、現代人の多くが罹患する可能性がある各種生活習慣病の予防及び要介護予防等に必要な運動処方を作成するための基礎的知識について教授する。そして、対象者（運動実施者）の身体的特性等に応じた適切な運動処方を作成できるまでの能力を身につけさせる。またその成果として、受講者個々人も、自身に合った運動やスポーツを積極的・継続的に実践していく人材に成長していけるよう教育する。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
「運動生理学」についての基礎的知識を身につける。										○			
運動と健康・体力との関連性に関する認識を深める。										○			
科学的・合理的な運動処方を作成できる能力を身につける。											○		
今後の健康・体力の維持増進への意欲と実践力を身につける。													○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. 「運動生理学」概説（ガイダンス）						今後の「自身の抱負」をまとめ次回提出。							
2. 「健康・体力づくりと運動との関係性」について						教科書にて復習、及び次回の予習。							
3. 「運動と呼吸器系の生理学」について						同上（復習及び次回の予習）							
4. 「運動と循環器系の生理学」について						「血液循環系」について次回提出。							
5. 「有酸素運動と無酸素運動」について						教科書にて復習、及び次回の予習。							
6. 「運動と筋肉の生理学」について						同上							
7. 「運動とエネルギー代謝」について						同上							
8. 「季節と運動（暑さ寒さと運動）」について						同上							
9. 「健康・体力づくりとトレーニングの実際」について						同上							
10. 「運動処方の理論と実際」（1）：運動処方の手順について						同上							
11. 「運動処方の理論と実際」（2）：運動処方の実際について						同上							
12. 「転ばぬ先の杖（骨）づくり」について						同上							
13. 「健康的痩身方法に関する理論と実際」について						「誤った減量法」について次回提出。							
14. 総復習及びまとめ						総復習をし、次回の試験に備える。							
15. 期末試験						受験後の自己採点による反省・評価。							
16. 試験問題の解説及び総括						本授業に関する自己評価及び授業評価。							
履修上の注意													
・ 正当な理由無き「欠席」は厳禁とする。													
・ また、遅刻3回で欠席1回と見なすので注意すること。													
成績評価方法・基準													
授業参加状況と受講態度、ならびに随時課すレポート及び期末試験の成績を総合的に評価する。その内訳は平常点（授業参加状況と受講態度及びミニットペーパーの内容等）50%、レポート＋期末試験50%とする。なお、毎回のミニットペーパー及びレポートと期末試験については、添削かつ評価・採点後に返却することを常とする。													
教科書：「健康のためのスポーツ生理学」〔池川繁樹編著〕〔光生館〕〔1,800円（税別）〕													
参考書：適宜紹介する。													
備 考													
・ 質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー時（曜日日時は掲示で確認）に受付けます。													

授業科目名		生化学			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)		
担当者	鈴木裕行	必・選	必	形態	講義	学期	後期	対象	食専1年		
授業の概要											
化学とは生命現象をタンパク質・脂質・核酸などといった生体物質の性質・機能の観点から解析する学問で、栄養学を学ぶ上での基礎として人体の仕組みについて構造や機能を生化学的に理解することは必須である。この授業ではタンパク質・糖質・脂質の構造・化学的性質および生体での代謝をそれぞれの栄養素の代謝の関連をふまえて解説する。遺伝情報を担う情報高分子の構造と機能、体内の調節機能と恒常性の維持についても述べる。											
授業の到達目標							学位授与の方針との関連				
							1	2	3	4	5
生体を構成する各成分の種類と構造および化学的性質が説明できる									○		○
生体を構成する各成分の代謝および機能が説明できる									○		○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）						
1. 生化学とは、細胞の構造、生体構成成分					教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。…㊶						
2. アミノ酸とは、アミノ酸の種類											
3. アミノ酸の性質、タンパク質とは											
4. 糖質とは、糖質の分類、単糖・オリゴ糖の種類と性質											
5. 多糖類の種類と性質、脂質とは、脂質の分類											
6. 脂肪酸の特徴と種類、複合脂質・誘導脂質の種類と性質											
7. 酵素とは、酵素の分類と性質					㊶に加え、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する。						
8. [中間試験]、糖質の代謝：解糖系					㊶に加え、試験でできなかったところをよく復習する						
9. 試験の解説、クエン酸回路											
10. 電子伝達系とエネルギー					教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。…㊶						
11. トリアシルグリセロールの代謝、脂肪酸のβ-酸化、リン脂質・コレステロールの代謝											
12. 体内でのアミノ酸の利用、尿素回路											
13. 核酸の種類・構造と機能											
14. タンパク質の生合成					㊶に加え、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する						
15. [期末試験]、個体の調節機能					㊶に加え、試験でできなかったところをよく復習する						
16. 試験の解説、個体の恒常性											
履修上の注意											
内容の理解できないところがあれば放置せず、質問したり自分で調べたりして、疑問点の解消に努めること。試験実施後のフィードバックとして次の時間に答案を返却して解説を行う。											
成績評価方法・基準											
中間試験・・・45%、期末試験・・・45%、平常点（受講態度・提出物）・・・10%											
教科書 〔わかりやすい生化学〕〔林 寛 他〕〔三共出版〕〔2,400 円＋税〕											
参考書 無し											
備 考											
オフィスアワーは掲示・配布資料参照。											

授業科目名		病理学				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)		
担当者	曾根 正彦	必・選	栄（必）	形態	講義	学期	前期	対象	食専2年			
授業の概要												
病理学は医学全般を理解するために基本となる学問である。栄養系の現場では疾病の全体像を把握する事が必要である。授業では病理学の総論として病因、循環障害、代謝異常、感染症、細胞の異常、免疫・アレルギー、炎症、腫瘍、先天異常、老化について、内科医として臨床に30年以上携わってきた担当者が講義を行う。また、ヒトの病気の成り立ちに興味を持ち、疾病を体系立てて理解できるように授業を進める。授業と並行して、講義内容に関連した共同学習を行い、学習成果を発表する。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
・病理学の基本的知識を学び身につける。									○			
・ヒトの病気の成り立ちを体系的に理解できるようになる。									○			
・講義で得た知識を社会で活用する能力を身につける。									○			○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）							
1. 病気と病理学（内因、外因） 共同学習グループ分け					病理の定義、診断・治療との関連を理解							
2. 循環器系の働き、共同学習テーマ選択					第4章Aをよく読み、不明点は質問							
3. 循環障害と主な疾患、共同学習					第4章BCをよく読み、不明点は質問							
4. 代謝異常（糖尿病）、共同学習					第5章A～Cをよく読み、不明点は質問							
5. 代謝異常（脂質・核酸・蛋白など）、共同学習					第5章D～Hをよく読み、不明点は質問							
6. 感染症の正体・原因、防御能など、共同学習					第7章をよく読み、不明点は質問							
7. 共同学習 1回目のプレゼンテーション					発表準備と発表後の評価							
8. 細胞の異常（構造と傷害、新陳代謝など）、共同学習					第2章をよく読み、不明点は質問							
9. 免疫（免疫の正体、免疫機構）、共同学習					第8章Aをよく読み、不明点は質問							
10. アレルギー、自己免疫疾患など、共同学習					第8章B～Fをよく読み、不明点は質問							
11. 炎症（炎症の正体、原因、基本病変）、共同学習					第9章ABをよく読み、不明点は質問							
12. 炎症（分類、全身反応）など、共同学習					第9章CDをよく読み、不明点は質問							
13. 腫瘍（癌の正体、分類、特性、診断）、共同学習					第10章A～Dをよく読み不明点は質問							
14. 共同学習 2回目のプレゼンテーション					発表準備と発表後の評価							
15. 腫瘍（治療など）、先天異常、老化など					第10章Eと第3章・第6章をよく読む							
16. 筆記試験					講義の復習および誤答箇所の事後学修							
履修上の注意												
以前に学習した生物学、解剖生理学に関連する分野を復習しておくことが望ましい。 授業は教科書に沿って講義を進める。また共同学習はテーマ内容をよく学習すること。												
成績評価方法・基準												
期末試験（70％程度）、共同学習発表（20％程度）とミニットペーパー提出等の受講状況（10％程度）で評価する。試験・レポート等についてはフィードバックを行う。												
教科書 〔なるほどなっとく！病理学〕〔小林正伸 著〕〔南山堂〕〔2,200 円〕												
参考書 「無し」												
備 考												
都合により、授業計画の順番等が変更されることがある。 質問等は授業終了時あるいはオフィスアワーで受け付ける												

授業科目名		食品学			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)			
担当者	永沼 孝子	必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	食専1年			
授業の概要												
栄養士としての実践に役立つ基礎を習得させることを目的として、本授業では、私たちの体を構成している様々な「食べ物」に含まれる栄養素の種類と組成について説明する。また食品を構成する各成分の化学的特性と相互作用、食品における役割についても解説する。併せて、それらの特性が食品の調理や保存、加工などにどのように関係するのかも解説し、食品学の分野が栄養学・調理学の分野とも関わっていることを理解できるように指導する。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
・食品を構成する栄養素の化学的性質を理解する。									○			
・食品成分の栄養特性と物理特性について基礎的な知識を習得する。									○			
・おいしく栄養バランスのとれた食事内容を科学的に組み立てる力を身につける。									○		○	○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）							
1. 食品の定義および分類、食品の成分と機能、食品と環境					事前に教科書の第1章を読む。事後に教科書と資料を基にしてノートを整理する。							
2. 水分（1）水の構造と性質					教科書のほか、高校の教科書で原子・分子・物質の結合について復習しておく。							
3. 水分（2）水が食品中で果たす役割					教科書を読む。事後にノートを整理。							
4. 炭水化物（1）糖の種類と構造					事前に教科書を読む。事後にノート整理。							
5. 炭水化物（2）糖の性質、糖の反応性と炭水化物としての糖					事前に教科書を読む。事後にノート整理。教科書章末の練習問題を解く。							
6. 脂質（1）脂肪酸の構造と性質					事前に教科書を読む。事後にノート整理。							
7. 脂質（2）油脂の酸化、脂質の栄養、小テスト					事前に教科書を読む。事後にノート整理。							
8. タンパク質（1）タンパク質の構造と構成アミノ酸					事前に教科書を読む。事後にノート整理。小テストの解答確認と、誤った箇所の復習							
9. タンパク質（2）タンパク質の性質と栄養価					事前に教科書を読む。事後にノート整理。教科書の練習問題を解く。							
10. 脂溶性ビタミン					事前に教科書を読む。事後にノート整理。							
11. 水溶性ビタミン					事前に教科書を読む。事後にノート整理。教科書章末の練習問題を解く。							
12. ミネラル					事前に教科書を読む。事後にノート整理。教科書の練習問題を解く。							
13. 食品の呈味成分、色素、香気成分					事前に教科書を読む。事後にノート整理。							
14. 食品の機能性成分、食品の物性とおいしさ					事前に教科書を読む。事後にノート整理。							
15. 1～14回のまとめ					教科書と資料を熟読して疑問点を明らかにし、解決しておく。							
16. 試験					解答の正誤の確認。誤った箇所の復習。							
履修上の注意												
正当な理由のない遅刻、欠席は厳禁。講義に集中し、内容をしっかり記録する。講義には積極的に参加し、予習で生じた疑問点について解決できるように努める。												
成績評価方法・基準												
平常点（授業態度、小テスト）の成績20%、学期末の試験80%の割合で評価する。小テストについては採点の後、授業中に解説する。												
教科書 〔新 食品・栄養科学シリーズ 食品学総論（第3版）〕〔化学同人〕〔2,600円+税〕												
参考書 特になし												
備考												
都合により授業計画の順番を変更することがある。質問については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。												

授業科目名	食品機能学				単位（授業時間＋自習時間）				2 (30+60)		
担当者	永沼 孝子	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	食専2年		
授業の概要											
食品には、一次機能（栄養機能）、二次機能（感覚応答機能・嗜好性成分）の他に三次機能（生体調節機能）をも併せ持つものがある。三次機能を持つ食品成分は機能性成分と呼ばれ、非栄養素とされるものも多い。本授業では、各種食品が持つ三次機能について、その成分・構造・体内での吸収や動きについて解説する。また、現代の生活習慣に深く関わる成分について、その活性の発現機構についても解説する。併せて、食品機能に関する表示制度についても言及する。											
授業の目標(到達目標)							学位授与の方針との関連				
							1	2	3	4	5
・食品に含まれる種々の成分と生体内での生理機能を理解する。									○		
・食品の機能性成分が生体の働き（消化器系や免疫系など）におよぼす機能を理解する。									○		
・食品の機能性成分を上手に利用して健康増進に寄与できる力を身につける。											○
授業計画の内容					事前・事後学修の内容						
1. 食品の機能とは何か。（概要説明）					配布された資料の復習とまとめ						
2. 現代における食生活と疾病					配布された資料の復習と独自の調査						
3. 食品機能の表示制度					配布された資料のまとめ、課題整理						
4. 系統別生理機能-1 消化器系に機能する成分					配布された資料の復習とまとめ						
5. 系統別生理機能-2 循環器系に機能する成分					配布された資料の復習とまとめ						
6. 系統別生理機能-3 内分泌系・神経系に機能する成分					配布された資料の復習とまとめ						
7. 系統別生理機能-4 (1) 免疫系の生理機能					配布された資料の復習とまとめ						
8. 系統別生理機能-4 (2) 免疫系に機能する食品成分					配布された資料の復習とまとめ						
9. 系統別生理機能-5 がん抑制に機能する成分					配布された資料のまとめ、課題整理						
10. 生体抗酸化物質と食品機能性成分					配布された資料のまとめ、課題整理						
11. おもな食品の機能性-1 （農産食品）					配布された資料の復習とまとめ						
12. おもな食品の機能性-1 （果実類）					配布された資料の復習とまとめ						
13. 機能性食品の開発の現状（ディスカッション）					独自調査による予習						
14. 課題：機能性成分を含む食品を利用した機能的な食事例 1					これまでの知識をまとめて献立作成						
15. 課題：機能性成分を含む食品を利用した機能的な食事例 2					14.で作成した献立の発表						
履修上の注意											
正当な理由のない遅刻、欠席は厳禁。講義に集中し、内容をしっかり記録する。講義には積極的に参加し、予習で生じた疑問点について解決できるように努める。随時課題を出題するので、よく調べてレポートを作成し、締め切りに遅延のないように提出すること。											
成績評価方法・基準											
平常点（授業態度、小テスト）の成績 40%, 課題の提出 20%, 課題の発表内容 40%の割合で評価する。課題についてはその都度評価し、授業中に解説する。											
教科書：授業の開始時に独自作成の資料を配布する。											
参考書：なし											
備 考											
都合により授業計画の順番を変更することがある。質問については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。											

授業科目名		食品学実験 I			単位（総授業時間＋自習時間）				1（45＋30）		
担当者	永沼 孝子	必・選	必	形態	実験	学期	前期	対象	食専1年		
授業の概要											
私たちの体は私たちが食べたものから成り立っている。その観点から、様々な食品に含まれる栄養成分の構成を知ることは非常に需要である。本授業では、食品に含まれる栄養素、特に三大栄養素である糖質、脂質、たんぱく質について「定性実験」を行い、その特性を解説する。また、これらを通して化学実験全般における基本手技、器具の扱い方、測定機器の使用手法、データのまとめ方、レポートの書き方を指導し、今後の実験に関する学習の基礎構築を目指す。											
授業の到達目標							学位授与の方針との関連				
							1	2	3	4	5
・化学実験の基礎的理論と基礎技術を習得する。									○		○
・実験を通して食物の構造や化学的特性について理解する。									○		○
・「食品」を分子レベルで把握する思考力、食品および食生活に関して科学的視点から思考する力を身につける。									○	○	○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）						
1. 実験の基礎 I（実験の心得、安全対策、実験ノートのとり方）					授業後に実験書を読み返し。実験に臨む準備を整える。						
2. 実験の基礎 I（数値の取り扱い、濃度計算法、実験器具の扱い方）					事前に実験書を読む。事後に復習。						
3. ジャガイモからデンプンの分離					事前に実験書を読む。事後にノート整理。						
4. デンプン粒の顕微鏡観察、ヨウ素反応					事前に実験書を読む。事後にノート整理・結果のまとめ・レポート作成。						
5. 糖の定性反応（呈色反応、還元反応）					事前に実験書を読む。事後にノート整理・結果のまとめ・レポート作成。						
6. タンパク質の定性反応 I（ビウレット反応、ニンヒドリン反応、硫化鉛反応）					事前に実験書を読む。事後にノート整理						
7. タンパク質の定性反応 II（薄層クロマトグラフィーによるアミノ酸の同定）					事前に実験書を読む。事後にノート整理・結果のまとめ・レポート作成。						
8. 脂質の定性反応（エステル、不飽和脂肪酸の定性、油脂の鮮度判定）					事前に実験書を読む。事後にノート整理・結果のまとめ・レポート作成。						
9. 油脂の物理的変化（乳化反応、相転移）					事前に実験書を読む。事後にノート整理・結果のまとめ・レポート作成。						
10. 食品の色に関する実験 I（酵素的褐変、アントシアンの色の変化）					事前に実験書を読む。事後にノート整理						
11. 食品の色に関する実験 II（非酵素的褐変）					事前に実験書を読む。事後にノート整理・結果のまとめ・レポート作成。						
12. 容量分析 I 中和滴定（1）中和滴定の原理解説、ビュレットの使い方実習					事前に実験書を読む。事後にノート整理						
13. 容量分析 II 中和滴定（2）食酢中の酢酸の定量（実験講義、標準溶液の作製と評定）					事前に実験書を読む。事後にノート整理						
14. 容量分析 III 中和滴定（3）食酢中の酢酸の定量（試料の測定、計算）					事前に実験書を読む。事後にノート整理・結果のまとめ・レポート作成						
15. これまでの実験のまとめと濃度計算の演習					実験の総括と演習問題の復習						
履修上の注意											
正当な理由のない遅刻・欠席は厳禁。白衣を着用し、器具、試薬の取り扱いには細心の注意を払う。実験室に不要なものは持ち込まない。実験では危険を伴うことがあるので、事故のないように事前にテキストを読んで予習しておく。遅刻は3回で欠席1回とする。											
成績評価方法・基準											
平常点（授業への参加状況、実験に対する態度・積極性）40%、レポート・ノートの内容の成績を合わせて60%の割合で評価する。レポートは必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象外とする。レポートは提出の度に採点し、後日返却して授業内で解説を加える。											
教科書											
〔食品学総論実験・実験で学ぶ食品学〕〔江角彰彦著〕〔同文書院〕〔2,400円＋税〕＋授業内容に即した独自作成テキスト（冊子体）											
参考書 必要に応じて資料を配布する。（実験時配布）											
備考											
都合により授業計画の順番を変更することがある。 質問については、実験中随時、またはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。											

授業科目名		食品学実験Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）				1（45＋30）		
担当者	永沼 孝子	必・選	栄（必）	形態	実験	学期	後期	対象	食専1年		
授業の概要											
食品学実験Ⅰで習得した化学実験における基本的手技を応用に用いる。本授業では、日本食品成分表に記載されている食品中の栄養素の数値がどのようにして算出されるのかを知る目的で、水分、脂質、たんぱく質、灰分、リンの各成分を食品から抽出して、定量分析を行う。これらを通じて、食品成分表の数値の意味、食品試料の扱い方、化学実験における実験の原理を理解させるとともに実験器具の扱い方、測定機器の使用方法、データのまとめ方、レポートの書き方を指導する。											
授業の到達目標							学位授与の方針との関連				
							1	2	3	4	5
・食品に含まれる成分や栄養素の定量分析実験を通じて、分析化学、特に「定量分析」の基礎理論と基本操作を理解する。									○		○
・食品の構造や性質について科学的視点から考察する力を身につける。									○		○
・食品成分表に記載されている数値がどのようにして求められているのか、実際に実験を行って原理と分析方法を理解する。									○	○	○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）						
1. 食品中の一般栄養成分分析の説明、濃度計算小テスト					授業後に実験書を読み返す。計算問題の復習。						
2. 食品中の水分の定量（常圧乾熱法）					事前に実験書を読む。事後に結果のまとめ・ノート整理・レポート作成。						
3. 食品中の脂質の定量Ⅰ（ソクスレー法による脂質の抽出）					事前に実験書を読む。事後にノート整理。						
4. 食品中の脂質の定量Ⅱ（ソクスレー法による脂質の抽出および乾燥、重量測定）					事前に実験書を読む。事後に結果のまとめ・ノート整理・レポート作成。						
5. 食品中のタンパク質の定量（ケルダール法）Ⅰ タンパク質の酸分解					事前に実験書を読む。事後にノート整理・実験装置の確認。						
6. 食品中のタンパク質の定量Ⅱ（ケルダール法による水蒸気蒸留のトレーニング）					事前に実験書を読む。事後にノート整理・実験装置の確認。						
7. 食品中のタンパク質の定量Ⅲ（ケルダール法による水蒸気蒸留と中和滴定-1）					事前に実験書を読む。事後にノート整理・実験装置の確認。						
8. 食品中のタンパク質の定量Ⅳ（ケルダール法による水蒸気蒸留と中和滴定-2,まとめ）					事前に実験書を読む。事後にノート整理・結果のまとめ・レポート作成。						
9. 食品中の灰分の定量（直接灰化法）					事前に実験書を読む。事後にノート整理・結果のまとめ・レポート作成。						
10. 食品中のミネラルの定量Ⅰ 灰化試料中のリンの定量（分光光度計の説明,標準溶液の調製）					事前に実験書を読む。事後にノート整理						
11. 食品中のミネラルの定量Ⅱ 灰化試料中のリンの定量（検量線の作製）					事前に実験書を読む。事後にノート整理・結果のまとめ・レポート作成。						
12. 食品による味覚の変化					事前に実験書を読む。事後にノート整理・結果のまとめ・レポート作成。						
13. 緑茶中のタンニンの定量Ⅰ（標準溶液の調製と検量線の作製）					事前に実験書を読む。事後にノート整理						
14. 緑茶中のタンニンの定量Ⅱ（緑茶中のタンニン量の測定と算出）					事前に実験書を読む。事後にノート整理・結果のまとめ・レポート作成						
15. これまでの実験のまとめと濃度計算演習					実験の総括と演習問題の復習						
履修上の注意											
正当な理由のない遅刻・欠席は厳禁。白衣を着用し、器具、試薬の取り扱いには細心の注意を払う。実験室に不要なものは持ち込まない。実験では危険を伴うことがあるので、事故のない様に事前にテキストを読んで予習しておく。遅刻は3回で欠席1回とする。											
成績評価方法・基準											
平常点（授業への参加状況、実験に対する態度・積極性）40%、レポート・ノートの内容の成績を合わせて60%の割合で評価する。レポートは必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象外とする。レポートは提出の度に採点し、後日返却して授業内で解説を加える。											
教科書											
〔食品学総論実験・実験で学ぶ食品学〕〔江角彰彦著〕〔同文書院〕〔2,400 円＋税〕＋授業内容に即した独自作成テキスト（冊子体）（食品学実験Ⅰに同じ）											
参考書 必要に応じて資料を配布する。（実験時配布）											
備考											
都合により授業計画の順番を変更することがある。 質問については、実験中随時またはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。											

授業科目名		食品衛生学			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)			
担当者	黒川 優子	必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	食専2年			
授業の概要												
近年、食品の安全性について多くの問題が社会的に注目されており、消費者の関心も高まっている。ここでは食品の腐敗や食中毒、寄生虫とその疾患、食品添加物、さらに身の回りに存在する各種合成化学物質や重金属などによる食品や水の汚染が健康にどのような影響を及ぼすかについて学び、食品の安全性確保に関する法律と安全性確保のための具体的な方法を解説する。また、飲料水や食品に含まれる農薬などの合成化学物質の分析方法、天然および養殖魚介類における寄生虫の検査方法等、これまでの実務経験を反映させた講義を行う。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
食品の安全性を脅かすものについて学ぶ。									○	○	○	
食品の安全性確保に関する基礎知識を身につける。									○	○	○	
食品衛生に関する分野で興味を持った内容について調べ、レポートを提出する。									○	○	○	
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）							
1. 食品衛生とは、食品衛生と法規					教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。							
2. 食品と微生物					関連内容について情報を収集し、自分の意見をまとめる。授業内容の復習。							
3. 食品の変質とその防止					教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。							
4. 食中毒の定義と概念、食中毒の発生状況					関連内容について情報を収集し、自分の意見をまとめる。授業内容の復習。							
5. 細菌性食中毒① 感染侵入型食中毒・感染毒素型食中毒					教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。							
6. 細菌性食中毒② 毒素型食中毒細菌					教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。							
7. ウイルス性食中毒、マイコトキシン中毒					関連内容について情報を収集し、自分の意見をまとめる。授業内容の復習。							
8. 自然毒による食中毒－動物性自然毒・植物性自然毒					教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。							
9. 寄生虫とその疾患① 野菜・飲料水・魚介類からの感染					教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。							
10. 寄生虫とその疾患② 食肉類等からの感染					教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。							
11. 有害金属・動物用医薬品・飼料添加物による食品汚染					教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。							
12. 農薬・その他の有害物質による食品汚染					教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。							
13. 食品添加物の概念、安全性評価					教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。							
14. おもな食品添加物の種類と特徴					関連内容について情報を収集し、自分の意見をまとめる。授業内容の復習。							
15. 食品の器具・容器包装、食品衛生対策					関連内容について情報を収集し、自分の意見をまとめる。授業内容の復習。							
16. 試験					授業内容を総復習して試験に臨むこと。							
履修上の注意												
他の食品に関する学科目と関連性が高いので、履修済みの科目をよく理解して講義に臨むこと。また、身近な食品に関する事項が多いので、日頃から食品に対して関心・興味を持つことが講義内容の理解につながる。												
成績評価方法・基準												
授業への取り組み（30%）、調査とレポートへの取り組み（30%）、試験（40%）												
教科書 ・[エキスパート食品衛生学]〔白石淳編〕〔化学同人〕〔2,700円〕 ・必要に応じて資料を配布する。												
参考書 授業時間内に適宜、参考書を紹介する。												
備 考												
・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。 ・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。												

授業科目名		食品衛生学実験Ⅰ			単位（総授業時間＋自習時間）				1(45+45)			
担当者	黒川 優子	必・選	必	形態	実験	学期	前期	対象	食専2年			
授業の概要												
地球上のあらゆる生物は水なしに生きることはいかなる場合でもできない。私たち人間も飲料水はもとより、調理や加工に水は欠かせない。我が国及び世界の国々においてかけがえのない水資源の現状がどのようなかをまず理解した上で、各家庭の水道水が、飲み水として適正かどうかについて、いくつかの水質項目を測定し、その安全性を確認する。また、空気中の細菌をはじめ、身の回りに多くの微生物が生息することを培地で培養して計数するとともに、細菌を染色し、顕微鏡観察する。さらに、細菌の培養法や成長曲線、簡易な細菌の鑑別法を学び、食中毒の原因となる細菌の検査法について基礎的な知識と技術を身につける。また、飲料水の水質調査、微生物の検査方法等、これまでの実務経験を反映させた講義を行う。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
食品に関する化学的および生物学的分析法の基礎的な技術を習得する。									○	○		○
食品の安全性確保の重要性を理解する。									○	○		○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）							
1. 諸注意・概要説明・レポートの書き方・水道水サンプルの採取における注意事項・世界の水事情について					事後：授業内容の復習。							
2. 水道水の水質試験①：味・臭気・硬度・鉄					事前：実験書の該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。							
3. 水道水の水質試験②：硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素・塩素イオン					事前：実験書の該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。							
4. 水道水の水質試験③：有機物（過マンガン酸カリウム消費量）・pH					事前：実験書の該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。							
5. 水道水の水質試験④：残留塩素・一般細菌数					事前：実験書の該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。							
6. 水道水の水質試験⑤：レポート提出後の結果検討会 滅菌法・消毒法					事前：実験書の該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。							
7. 手洗いの科学的検証：正しい手洗い法の理解					事前：実験書の該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。							
8. 家庭用調理器具・食器の洗浄度検査：デンプン・タンパク質・油脂					事前：実験書の該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。							
9. 培地調製①					事前：実験書の該当ページを読む。 事後：ノートを整理し、内容を復習する。							
10. 環境微生物の観察①：細菌採取、培地調製②					事前：実験書の該当ページを読む。 事後：ノートを整理し、内容を復習する。							
11. 環境微生物の観察②：細菌の培地接種、培養法					事前：実験書の該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。							
12. 環境微生物の観察③：コロニーの肉眼的形状観察					事前：実験書の該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。							
13. 環境微生物の観察④：細菌の染色法					事前：実験書の該当ページを読む。 事後：ノートを整理し、内容を復習する。							
14. 環境微生物の観察⑤：細菌の顕微鏡観察					事前：実験書の該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。							
15. まとめ					実験の総括。							
履修上の注意												
白衣を着用する。実験機材の取り扱いには十分注意を払う。実験後には手洗いを充分行う。実験結果、注意事項および実験中に気が付いたこと等を詳細に記録する。												
成績評価方法・基準												
・実験への取り組み（60%）、レポート（40%） ・提出されたレポートは、後日添削して返却する。												
教科書 〔食品衛生学実験〕〔杉山 章・岸本 満・和泉秀彦編〕〔みらい〕〔2,500 円〕												
参考書 なし												
備 考												
・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。 ・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。												

授業科目名		食品衛生学実験Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）				1(45+45)			
担当者	黒川 優子		必・選	必	形態	実験	学期	後期	対象	食専2年		
授業の概要												
食品衛生学実験Ⅰで学んだことを踏まえ、食中毒や食品事故の要因となり、食品衛生管理上で重要である食品添加物、油脂性食品の変質判定、食品の鮮度判定、アレルゲンの検査・検出、家庭用調理器具・食器の洗剤の残留性、熱および消毒薬による殺菌効果、食品素材の抗菌性などについて学び、その検査法に関する基礎的な知識と技術を身につけるとともに、栄養士として必要な食品の衛生・安全、品質管理に対する見識を深め、食品の危害要因に対して、科学的かつ客観的な知識を得る。また、熱、消毒薬、食品成分が細菌の増殖におよぼす影響、食器・実験器具類の洗浄方法と洗浄剤の残留性の関係等、これまでの実務経験を反映させた講義を行う。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
食品に関する化学的および生物学的分析法の基礎的な技術を習得する。									○	○		○
食品の安全性確保の重要性を理解する。									○	○		○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）						
1. 概要説明・諸注意						事後：授業内容の復習。						
2. 試薬調製						事前：実験書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。						
3. 食品添加物試験①：発色剤（亜硝酸塩）						事前：実験書の該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。						
4. 油脂性食品の変質判定試験①：過酸化価（POV） 油脂性食品の変質判定試験②：酸価（AV）						事前：実験書の該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。						
5. 食品の鮮度測定試験①：魚介類の鮮度測定（K 値）						事前：実験書の該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。						
6. 食品添加物試験②：酸化防止剤						事前：実験書の該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。						
7. アレルギー様食中毒：ヒスタミン試験						事前：実験書の該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。						
8. 食品の鮮度測定試験②：野菜類の鮮度測定、臭気テスト						事前：実験書の該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。						
9. 熱による殺菌効果						事前：実験書の該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。						
10. 消毒薬による殺菌効果						事前：実験書の該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。						
11. 洗浄剤の残留試験						事前：実験書の該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。						
12. 施設見学						学んだことをまとめてレポートを作成する。						
13. 食品素材の抗菌試験						事前：実験書の該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。						
14. 五味識別テスト：甘味・塩味・酸味・苦味・旨味 加工食品の殺菌						事前：実験書の該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。						
15. まとめ						実験の総括。						
履修上の注意												
白衣を着用する。実験機材の取り扱いには十分注意を払う。実験後には手洗いを充分行う。実験結果、注意事項および実験中に気が付いたこと等を詳細に記録する。												
成績評価方法・基準												
・実験への取り組み（60%）、レポート（40%） ・提出されたレポートは、後日添削して返却する。												
教科書 〔食品衛生学実験〕〔杉山 章・岸本 満・和泉秀彦編〕〔みらい〕〔2,500 円〕												
参考書 なし												
備 考												
・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。 ・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。												

授業科目名		微生物学			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)			
担当者	黒川 優子	必・選	栄（必）	形態	講義	学期	前期	対象	食専1年			
授業の概要												
私たちの身の回りには病原性の細菌やウイルスが存在し、日常の生活に有害な作用を示すが、その一方で、味噌、納豆、酒類など私たちの日常生活に役立つ微生物も少なくない。人間と微生物の関わりを理解するために、微生物の種類と特徴、微生物による疾患、微生物を用いた食品などについて学ぶ。さらに、病原性微生物の場合、感染および発症機構や免疫機構等についても理解を深める。また、環境中の微生物の単離方法、合成化学物質の微生物分解等、これまでの実務経験を反映させた講義を行う。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
それぞれの微生物の特徴を習得する。									○		○	○
微生物と人間との関わり方を理解する。									○		○	○
微生物に関する分野で興味を持った内容について調べ、レポートを提出する。									○		○	○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）						
1．微生物学の歴史① 人間と微生物の関わり						教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。						
2．微生物学の歴史② 感染症と治療						教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。						
3．微生物学の基礎① 微生物の種類と性質						関連内容について情報を収集し、自分の意見をまとめる。授業内容の復習。						
4．微生物学の基礎② 原虫・寄生虫・真菌						教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。						
5．微生物学の基礎③ 細菌の大きさと性質・染色法						教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。						
6．微生物学の基礎④ 細菌の形・構造						教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。						
7．微生物学の基礎⑤ ウイルス・微生物の生理と代謝						教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。						
8．食品微生物学① 微生物と食品						関連内容について情報を収集し、自分の意見をまとめる。授業内容の復習。						
9．食品微生物学② 食品の腐敗・変敗と食品の保存						教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。						
10．食品微生物学③ 微生物を利用した食品						関連内容について情報を収集し、自分の意見をまとめる。授業内容の復習。						
11．病原性微生物学① 細菌・真菌・ウイルス・原虫						教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。						
12．病原性微生物学② 新興感染症・再興感染症・抗生物質						教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。						
13．滅菌・消毒						教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。						
14．免疫学 免疫機構・免疫の種類・ワクチン・アレルギー						教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。						
15．微生物を利用したバイオテクノロジー						教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。						
16．試験						授業内容を総復習して試験に臨むこと。						
履修上の注意												
微生物の理解には生物学の知識が必要となるので、高等学校での生物科目を復習して授業に臨むこと。												
成績評価方法・基準												
授業への取り組み（30%）、調査とレポートへの取り組み（30%）、試験（40%）												
教科書 ・[エキスパート微生物学]〔小林秀光編〕〔化学同人〕〔2,500 円〕 ・必要に応じて資料を配布する。												
参考書 授業時間内に適宜、参考書を紹介する。												
備 考												
・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。 ・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。												

授業科目名		栄養学Ⅰ			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)			
担当者	永沼 孝子	必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	食専１年			
授業の概要												
栄養学は、栄養士として社会で役立つために最も基本となる分野である。それを踏まえ、栄養学Ⅰではヒトにとっての栄養の意義、各栄養素の構造や性質について講義する。また、ヒトが環境に適応するために備わっている生体調節の仕組みや、消化器系の構造と基本的な機能が栄養素どう関わるかについて解説する。その基本知識に基づいて、三大栄養素（糖質、たんぱく質、脂質）の消化・吸収・代謝のしくみとそれらの生体内での機能について詳しく解説する。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
・ヒトが生きる上での栄養の意義について学ぶ。									○			○
・食品を構成する栄養素の性質と、生体内での働きについて理解する。									○			○
・健康の維持・増進や疾病の予防・治療における栄養素の役割を理解する。									○			○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）							
１．栄養の概念（栄養とは何か。栄養の意義と目的、食品の栄養機能）					事前に教科書の第１章を読む。事後に教科書を見直してノートを整理する。							
２．健康と栄養（食物の役割、病気の予防・治療と栄養）					事前に教科書を読む。事後にノート整理。							
３．摂食行動（食欲の調節、食事のタイミング）					事前に教科書を読む。事後にノート整理。							
４．消化器の構造と機能					事前に教科書を読む。事後にノート整理。							
５．消化・吸収の機構（唾液腺、胃腺、膵臓、胆のう、小腸、膜消化、能動輸送、受動輸送） 小テスト					事前に教科書を読む。事後にノート整理。教科書章末の練習問題を解く。							
６．糖質の栄養Ⅰ（糖質の消化・吸収機構、血糖値の調節）					事前に教科書を読む。事後にノート整理。小テストの解答確認と、誤った箇所の復習。							
７．糖質の栄養Ⅱ（糖の代謝と肝臓・筋肉・脂肪組織の役割）					事前に教科書を読む。事後にノート整理。							
８．糖質の栄養Ⅲ（糖質の代謝経路、内呼吸の役割）、小テスト					事前に教科書を読む。事後にノート整理。教科書章末の練習問題を解く。							
９．脂質の栄養Ⅰ（脂質の種類と構造、消化と吸収）					事前に教科書を読む。事後にノート整理。小テストの解答確認と、誤った箇所の復習。							
10. 脂質の栄養Ⅱ（脂肪酸・コレステロールの代謝、脂質の体内移動）					事前に教科書を読む。事後にノート整理。							
11. 脂質の栄養Ⅲ（脂質の代謝）、小テスト					事前に教科書を読む。事後にノート整理。教科書章末の練習問題を解く。							
12. たんぱく質の栄養Ⅰ（たんぱく質の構造、消化・吸収）					事前に教科書を読む。事後にノート整理。小テストの解答確認と、誤った箇所の復習。							
13. たんぱく質の栄養Ⅱ（アミノ酸の体内利用、体たんぱく質の代謝）					事前に教科書を読む。事後にノート整理。							
14. たんぱく質の栄養Ⅲ（たんぱく質の栄養評価、他の栄養素との関係）、小テスト					事前に教科書を読む。事後にノート整理。教科書の練習問題を解く。							
15. 1～14回のまとめ					小テストの解答確認と、誤った箇所の復習。教科書と資料を熟読して疑問点を明らかにし、解決しておく。							
16. 試験					解答の正誤の確認。誤った箇所の復習。							
履修上の注意												
正当な理由のない遅刻、欠席は厳禁。講義に集中し、内容をしっかり記録する。講義には積極的に参加し、予習で生じた疑問点について解決できるように努める。												
成績評価方法・基準												
平常点（授業態度、小テスト、レポート）の成績 20％、学期末の試験 80％の割合で評価する。小テストについては採点の後、授業中に解説する。												
教科書 〔栄養科学イラストレイテッド基礎栄養学第３版〕〔田地 陽一 編〕〔羊土社〕〔2,800 円＋税〕												
参考書 特になし												
備 考												
都合により授業計画の順番を変更することがある。質問については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。												

授業科目名		栄養学Ⅱ				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)			
担当者	永沼 孝子		必・選	栄（必）	形態	講義	学期	後期	対象	食専1年			
授業の概要													
栄養学Ⅰに続いての講義となる。Ⅰで学んだ三大栄養素の消化吸収・代謝に加え、ビタミン、ミネラルなどの性質と、吸収機構・生理機能について講義する。また、生体における水分の役割、エネルギー代謝、遺伝と栄養、食事摂取基準の意味についても解説し、生体が入り入れた栄養素、非栄養成分が果たす役割とそれらの相互作用について理解させる。最終的には栄養学Ⅰで学んだことと併せて生体と栄養の関係を知り、栄養士として社会に貢献するための基礎力を培う。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
・各栄養素および非栄養素の性質と生体内での働きについて理解する。										○			○
・健康の維持・増進や疾病の予防・治療における栄養素の役割を理解する										○			○
・エネルギー代謝と栄養の関係を理解する。										○			
・生体を形づくる源となる遺伝子からたんぱく質への流れを理解する。										○			
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. 三大栄養素についての小テスト						前期で学んだ内容をよく復習しておく。							
2. ビタミンの栄養Ⅰ 脂溶性ビタミンの構造と栄養機能						事前に教科書を読む。事後にノート整理。							
3. ビタミンの栄養Ⅱ 水溶性ビタミン（ビタミンB群）の構造と栄養機能						事前に教科書を読む。事後にノート整理。							
4. ビタミンの栄養Ⅲ 水溶性ビタミン（パントテン酸、葉酸、ビオチン、VC）の構造と栄養機能						事前に教科書を読む。事後にノート整理。教科書章末の練習問題を解く。							
5. ミネラルの栄養Ⅰ 多量ミネラルの栄養機能						事前に教科書を読む。事後にノート整理。							
6. ミネラルの栄養Ⅱ 微量ミネラルの栄養機能						事前に教科書を読む。事後にノート整理。教科書章末の練習問題を解く。							
7. 水の栄養的意義Ⅰ 体内の水分の出納・脱水						事前に教科書を読む。事後にノート整理。							
8. 水の栄養的意義Ⅱ 浮腫、電解質の役割、小テスト						事前に教科書を読む。事後にノート整理。教科書章末の練習問題を解く。小テストの解答を確認し、誤った箇所を復習する。							
9. エネルギー代謝Ⅰ エネルギー代謝の定義、食物エネルギー						事前に教科書を読む。事後にノート整理。							
10. エネルギー代謝Ⅱ エネルギー消費量、エネルギー消費量の測定法						事前に教科書を読む。事後にノート整理。							
11. 遺伝と栄養Ⅰ 遺伝子と遺伝の仕組み、発現						事前に資料を読む。事後にノート整理。							
12. 遺伝と栄養Ⅱ（遺伝子と疾病：糖尿病、高血圧）						事前に資料を読む。事後にノート整理。							
13. 遺伝と栄養Ⅲ（遺伝子と疾病：肥満、生活習慣病）						事前に資料を読む。事後にノート整理。							
14. 非栄養素の生理機能（食物繊維、難消化性オリゴ糖、アルコール）、小テスト						事前に資料を読む。事後にノート整理。小テストの解答を確認し、誤った箇所を復習する。							
15. 1～14回のまとめ						教科書と資料を熟読して疑問点を明らかにし、解決しておく。							
16. 試験						解答の正誤の確認。誤った箇所の復習。							
履修上の注意													
正当な理由のない遅刻、欠席は厳禁。講義に集中し、内容をしっかり記録する。講義には積極的に参加し、予習で生じた疑問点について解決できるように努める。													
成績評価方法・基準													
平常点（授業態度、小テスト、レポート）の成績 20%、学期末の試験 80%の割合で評価する。小テストについては採点の後、授業中に解説する。													
教科書 〔栄養科学イラストレイテッド 基礎栄養学第3版〕〔田地 陽一 編〕〔羊土社〕〔2,800円＋税〕													
参考書 特になし													
備考													
都合により授業計画の順番を変更することがある。質問については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。													

授業科目名		栄養学実験			単位（総授業時間＋自習時間）				1（45＋30）		
担当者	永沼 孝子	必・選	栄（必）	形態	実験	学期	後期	対象	食物2年		
授業の概要											
栄養学の分野においては、食物と生体の相互関係を理解することが重要である。栄養学実験では、ヒトにおける生体成分の役割について解説し、測定法について実験する。また消化酵素の働き、栄養状態がヒトの健康に与える影響について理解を深めることを目的として、生体試料の扱い方、栄養素の消化実験、代謝実験、ビタミンの定量等の実験を行い、生体試料の扱い方について理論と実際を理解させる。また、レポートの課題を通してデータのまとめ方、および報告書の書き方について指導する。											
授業の到達目標							学位授与の方針との関連				
							1	2	3	4	5
・生体試料の扱い方と生体成分の定量分析の基礎理論と基本操作を理解し、食品の構造や性質について科学的視点から考察する力を身につける。									○		○
・食品成分表に記載されている数値がどのようにして求められているか、実際に実験を行って原理と分析方法を理解する。									○		○
・実験結果のまとめおよび報告書作成を通して文章力を身につける。									○		○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）						
1. 栄養学実験と生体試料の取り扱い方の解説					授業後に実験書を読み返し。実験に臨む準備を整える。						
2. ヒト血中成分の定量（血中たんぱく質の定量-I）検量線の作製					事前に実験書を読む。事後にノート整理。						
3. ヒト血中成分の定量（血中たんぱく質の定量-II）血中総たんぱく質およびアルブミンの定量					事前に実験書を読む。事後にノート整理・結果のまとめ・レポート作成。						
4. ヒト血中成分の定量（血中脂質の定量-I）血漿中トリアシルグリセリドの定量					事前に実験書を読む。事後にノート整理。						
5. ヒト血中成分の定量（血漿中の脂質の定量-II）血漿中総コレステロールの定量					事前に実験書を読む。事後にノート整理・結果のまとめ・レポート作成。						
6. 酵素消化実験（アミラーゼの活性測定 I）糖標準溶液の調製と検量線の作製					事前に実験書を読む。事後にノート整理						
7. 酵素消化実験（アミラーゼの活性測定 II）唾液中のアミラーゼの消化反応と産生糖の定量					事前に実験書を読む。事後にノート整理						
8. 酵素消化実験（アミラーゼの活性測定 III）食品中アミラーゼの消化反応と産生糖の定量					事前に実験書を読む。事後にノート整理・結果のまとめ・レポート作成						
9. 酵素消化実験（たんぱく質分解酵素の活性観察 I）ペプシンによるカゼイン消化力の肉眼的観察					事前に実験書を読む。事後にノート整理・						
10. 酵素消化実験（たんぱく質分解酵素の活性観察 II）食品中に含まれるタンパク質消化力の肉眼的観察					事前に実験書を読む。事後にノート整理・結果のまとめ・レポート作成						
11. 尿中の一般成分の検出、クレアチニンの定量					事前に実験書を読む。事後にノート整理・結果のまとめ・レポート作成。						
12. 施設見学（宮城県公衆衛生協会）					事前に見学の目的を確認。事後にレポート。						
13. 食品中のビタミンCの測定 I 検量線の作成					事前に実験書を読む。事後にノート整理						
14. 食品中のビタミンCの測定 II レモン汁、大根中のビタミンCの定量					事前に実験書を読む。事後にノート整理・結果のまとめ・レポート作成						
15. 栄養学実験のまとめと濃度計算問題小テスト					実験の総括とテスト問題の復習						
履修上の注意 正当な理由のない遅刻・欠席は厳禁。白衣を着用し、器具、試薬の取り扱いには細心の注意を払う。実験室に不要なものは持ち込まない。実験では危険な薬品等も扱うので、事故のないように事前にテキストを読んで予習しておく。遅刻は3回で欠席1回とする。											
成績評価方法・基準											
平常点（授業への参加状況、実験に対する態度・積極性）40%、レポート・ノートの内容・小テストの成績を合わせて60%の割合で評価する。レポートは必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象外とする。レポートは提出の度に採点し、後日返却して授業内で解説を加える。											
教科書											
授業内容に即した独自作成テキスト（冊子体）使用。初回の授業開始時に配布。											
参考書											
必要に応じて資料を配布する（実験時配布）											
備考 校外実習などの都合により、授業計画の順番を変更することがある。質問については、実験中随時、またはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。											

授業科目名		ライフステージ栄養学			単位（総授業時間＋自習時間）				2（30＋60）				
担当者	永沼 孝子		必・選	必	形態	講義	学期	後期	対象	食専1年			
授業の概要													
ヒトが生きる上で、一生における各段階（学童期、青年期、成人期などに）に適したライフスタイルがあるのと同様に、栄養面においても配慮が必要である。本授業では、各ライフステージにおける身体的・精神的特徴や、それに応じた栄養ケアについて詳しく解説する。また、運動時、ストレス時などの特殊環境下における生理的特徴とその変化に適した栄養的配慮と食生活の在り方を概説する。講義で得た知識をもとに、栄養士として広い方面の現場に適応して貢献できる力を身につけることを目指す。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
・各ライフステージにおける身体的・精神的特徴を理解する。										○	○		○
・各ライフステージにおける栄養状態と問題点を把握する。										○			○
・運動時、ストレス時などの特殊環境下における生理的特徴とその変化に適した食生活の在り方を把握する。										○	○		○
・それぞれのステージに適した栄養摂取法と維持管理の基礎を理解する。										○			○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. ライフステージとは何か。栄養マネジメントの概要						事前に教科書を読む。事後にノート整理。							
2. 日本人の食事摂取基準（策定の基礎理論、活用の基礎理論）						事前に教科書を読む。事後にノート整理。							
3. 妊娠期の栄養（生理的特徴、栄養アセスメント、病態疾患、栄養ケア）						事前に教科書を読む。事後にノート整理。 教科書章末の練習問題を解く。							
4. 新生児・授乳期の栄養（生理的特徴、栄養アセスメント、病態・疾患）						事前に教科書を読む。事後にノート整理。							
5. 授乳期・離乳期の栄養（生理的特徴、栄養ケア）						事前に教科書を読む。事後にノート整理。							
6. 授乳期・離乳期の栄養（離乳期の栄養、離乳支援）						事前に教科書を読む。事後にノート整理。 教科書章末の練習問題を解く。							
7. 幼児期の栄養（生理的特徴、栄養アセスメント、病態・疾患、栄養ケア）						事前に教科書を読む。事後にノート整理。							
8. 学童期の栄養（生理的特徴、栄養アセスメント、病態・疾患、栄養ケア）						事前に教科書を読む。事後にノート整理。							
9. 思春期の栄養（生理的特徴、栄養アセスメント、病態・疾患、栄養ケア）						事前に教科書を読む。事後にノート整理。 教科書章末の練習問題を解く。							
10. 成人期の栄養（生理的特徴、栄養アセスメント、病態・疾患、栄養ケア）						事前に教科書を読む。事後にノート整理。 教科書章末の練習問題を解く。							
11. 更年期の栄養（生理的特徴、栄養アセスメント、病態・疾患、栄養ケア）						事前に資料を読む。事後にノート整理。							
12. 高齢期の栄養（生理的特徴、栄養アセスメント、病態・疾患、栄養ケア）						事前に資料を読む。事後にノート整理。 教科書章末の練習問題を解く。							
13. 運動と栄養（生理的特徴、栄養アセスメント、栄養ケア）						事前に資料を読む。事後にノート整理。							
14. ストレス、特殊環境と栄養						事前に資料を読む。事後にノート整理。							
15. 1～14回のまとめ						教科書と資料を熟読して疑問点を明らかにし、解決しておく。							
16. 試験						解答の正誤の確認。誤った箇所の復習。							
履修上の注意													
正当な理由のない遅刻、欠席は厳禁。講義に集中し、内容をしっかり記録する。講義には積極的に参加し、予習で生じた疑問点について解決できるように努める。なお、2回目以降、毎回授業の最初に前回の授業内容についての小テストを行う。													
成績評価方法・基準													
平常点（授業態度、小テスト、レポート）の成績 20%，学期末の試験 80%の割合で評価する。小テストについては授業中に解説する。													
教科書 〔栄養科学イラストレイテッド 応用栄養学〕〔栢下淳・上西一弘編〕〔羊土社〕〔2,800円＋税〕													
参考書 特になし													
備考													
都合により授業計画の順番を変更することがある。質問については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。													

授業科目名		ライフステージ栄養学実習 I			単位（総授業時間＋自習時間）				1(45+30)		
担当者	川俣 幸一	必・選	栄（必）	形態	実習	学期	後期	対象	食専 1 年		
授業の概要											
各自の身体状況、食物摂取状況の調査などを通じて、自分の食生活状況をアセスメントする。自分自身に適した推定エネルギー必要量の算出や食事摂取基準の設定を行い、それらの結果を基に栄養診断を行う。最終的に栄養ケアプランやモニタリングシートを作成する。更には食品構成から献立作成までの実践的な栄養管理能力の取得を目指す。本実習での対象は自分自身（18-29 歳女性 or 男性）であるが、基本を学びそれ以外の世代においても対応できるようになることを目標とする。											
授業の到達目標							学位授与の方針との関連				
							1	2	3	4	5
自分の食生活の現状についてアセスメントを行う能力を身につける								○		○	
自分の身体に合う食事についての栄養管理法を総合的に理解できるようになる。									○		
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）						
1. ガイダンス／スクリーニング					事前学習は配布プリントのスクリーニング回の予習。事後学習としてレポート作成。ルーブリックを配布します。						
2. 身体活動量の計算					事前学習は配布プリントの身体活動量回の予習。事後学習としてレポート作成。						
3. 体格測定					事前学習は教科書の体格測定回の予習。事後学習としてレポート作成。						
4. 食事調査（練習）					事前学習は教科書の食事調査回の予習。事後学習としてレポート作成。						
5. 栄養価計算（練習）					事前学習はこれまでの栄養価計算法の復習。事後学習としてレポート作成。						
6. 食事調査（3 日間の食事記録法）					事前学習として 3 日間の食事記録法の課題レポートが出ます。事後学習として食事記録を完成させてください。						
7. 栄養価計算（3 日間の食事記録法）					事前学習として 3 日間の食事記録法の課題レポートが出ます。事後学習として栄養価計算を完成させてください。						
8. アセスメントシートの作成					事前学習は配布プリントを参照。事後学習としてレポート作成。						
9. 栄養ケア計画の作成①（問題点の抽出）					事前学習は配布プリントを参照。事後学習としてレポート作成。						
10. 栄養ケア計画の作成②（栄養診断、栄養目標量の設定）					事前学習は配布プリントの食事摂取基準回の予習。事後学習としてレポート作成。						
11. 栄養ケア計画の作成③（食品構成）					事前学習は配布プリントの食品構成回の予習。事後学習としてレポート作成。						
12. 栄養ケア計画の作成④（献立作成）					事前学習は配布プリントの献立作成回の予習。事後学習としてレポート作成。						
13. モニタリング①（チェックシートの作成）					事前学習は配布プリントを参照。事後学習としてレポート作成。						
14. モニタリング②（再計画について）					事前学習は配布プリントを参照。事後学習としてレポート作成。						
15. 評価（構造評価・経過評価・総合評価）／まとめ					事前学習は配布プリントを参照。事後学習としてレポート作成。						
履修上の注意											
ライフステージ栄養学・栄養指導論等の科目と内容的に重なる部分が多いので、それぞれの科目での学習内容と対比して理解を深めること。											
成績評価方法・基準											
課題レポート・受講態度（ルーブリックで評価）・・・100% 提出されたレポート等は確認し、後日フィードバックする。											
教科書 なし（適宜プリントを配布します）											
参考書〔新ビジュアル食品成分表〕〔大修館書店〕〔1,080 円〕											
備 考											
質問については、授業時間内またはオフィスアワーにて対応する											

授業科目名	ライフステージ栄養学実習Ⅱ				単位（総授業時間＋自習時間）				1(45+30)		
担当者	川俣 幸一		必・選	栄（必）	形態	実習	学期	前期	対象	食専2年	
授業の概要											
これまで学んだ各ライフステージの生理現象や生活をふまえ、より良く生きるための栄養とそれに適した献立について、実際に献立調理、観察、試食を行う。本実習での対象期は、新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期、妊娠期、成人期、老年期とする。またライフステージ栄養学実習Ⅰで学んだ栄養管理の方法を踏まえて、各ライフステージに適した献立作成などを考えさせながら、栄養補給計画の前提となる世代別の栄養問題を理解する。											
授業の到達目標							学位授与の方針との関連				
							1	2	3	4	5
各ライフステージに適している献立がどのように作成されているかを理解できるようになる。								○		○	
各ライフステージに適した栄養管理の考え方と方法を総合的に理解できるようになる。										○	
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）						
1. 新生児期・乳児期栄養①（乳汁栄養）					事前学習は参考書の新生児期・乳児期の予習。事後学習としてレポート作成。ルーブリックを配布する。						
2. 新生児期・乳児期栄養②（離乳食前期～中期）					事前学習は参考書の新生児期・乳児期の予習。事後学習としてレポート作成。						
3. 新生児期・乳児期栄養③（離乳食後期～完了期）					事前学習は参考書の新生児期・乳児期の予習。事後学習としてレポート作成。						
4. 幼児期栄養①（アレルギー：除去食・代替食）					事前学習は参考書の幼児期の予習。事後学習としてレポート作成。						
5. 幼児期栄養②（アレルギー：対応食材）					事前学習は参考書の幼児期の予習。事後学習としてレポート作成。						
6. 幼児期栄養③（アレルギー：発展調理法）					事前学習は参考書の幼児期の予習。事後学習としてレポート作成。						
7. 学童期栄養①（食育：地域食材）					事前学習は参考書の学童期の予習。事後学習としてレポート作成。						
8. 学童期栄養②（行事食：麺食）					事前学習は参考書の学童期の予習。事後学習としてレポート作成。						
9. 学童期栄養③（お弁当）					事前学習は参考書の学童期の予習。事後学習としてレポート作成。						
10. 思春期栄養①（運動部の食事）					事前学習は参考書の思春期の予習。事後学習としてレポート作成。						
11. 思春期栄養②（貧血と高鉄分食）					事前学習は参考書の思春期の予習。事後学習としてレポート作成。						
12. 妊娠期栄養①（つわりを考えた食事）					事前学習は参考書の妊娠期の予習。事後学習としてレポート作成。						
13. 妊娠期栄養②（付加量を考えた食事）					事前学習は参考書の妊娠期の予習。事後学習としてレポート作成。						
14. 成人期栄養（更年期と高カルシウム食）					事前学習は参考書の成人期の予習。事後学習としてレポート作成。						
15. 老年期栄養（低栄養予防の食事）					事前学習は参考書の老年期の予習。事後学習としてレポート作成。						
履修上の注意											
身だしなみが整わない学生は実習に参加させず欠席とします（例：爪を短く切る、ピアス・指輪を外す、髪を帽子内に入れるなど）。教員の指示に従わない学生も同様です（調理実習時の危険防止のため）。											
成績評価方法・基準											
課題レポート・受講態度（ルーブリックで評価）・・・100% 提出されたレポート等は確認し、後日フィードバックする。											
教科書 なし（プリントを配布する）											
参考書 ライフステージ栄養学で使用する教科書を参考にしてください											
備 考											
質問については、授業時間内またはオフィスアワーにて対応する											

授業科目名		臨床栄養学概論			単位（総授業時間＋自習時間）				2（30＋60）				
担当者	菅原 詩緒理		必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	食専2年			
授業の概要													
臨床栄養学は、人体の構造と機能および疾病の成り立ちを理解し、栄養学の知識を基に、疾病に対して栄養学的にどのように対応するのかを学ぶ学問である。そのため、臨床栄養学概論では、様々な病態を理解し、傷病者や要介護者に対する栄養管理についての基礎的な事柄を理解する。また臨床現場におけるチーム医療は、各専門職がどのように連携しており、そこにおいて管理栄養士が果たす役割について知り、その知識をもとに実践内容を解説する。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
疾患における基本的な病態・病状が理解できる。										○			
疾患における基本的な栄養療法を理解できる。										○			
栄養管理方法や他職種の連携について習得する。										○			○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. ガイダンス シラバスの内容説明、当該科目の説明						当該科目で学習する内容に関して教科書等を参考にまとめて提出。							
2. 栄養管理（栄養スクリーニング・アセスメント）						教科書を読み、栄養管理について内容をまとめて提出。							
3. 消化器疾患（潰瘍・胃がん・炎症性腸疾患）						教科書を読み、講義の内容（病態とその栄養管理）をまとめて提出。							
4. 代謝系疾患 1（肥満・るいそう・メタボリックシンドローム）						同上							
5. 代謝系疾患 2（糖尿病）						同上							
6. 代謝系疾患 3（糖尿病食品交換表）						同上							
7. 代謝系疾患 4（脂質異常症）						同上							
8. 代謝系疾患 5（痛風・高尿酸血症）						同上							
9. 呼吸器系疾患（慢性閉塞性肺疾患）						同上							
10. 循環器系疾患（高血圧症）						同上							
11. 腎疾患（慢性腎臓病・糖尿病性腎症）						同上							
12. 血液疾患（貧血）						同上							
13. 術前・術後の管理						同上							
14. 摂食・嚥下障害						同上							
15. 他職種との関わり、まとめ						同上							
16. 試験													
履修上の注意													
自習し受講すること。													
成績評価方法・基準													
受講態度 20%、期末試験 80%													
提出されたレポートは、後日返却する。													
教科書〔臨床栄養学〕〔東山幸恵 編〕〔化学同人〕〔3,456 円〕													
〔糖尿病食品交換表〕〔日本糖尿病学会〕〔900 円〕													
参考書 なし													
備 考													
都合により、授業内計画の順番等を変更することがある。質問等は、授業終了時に受付ける。													

授業科目名		臨床栄養学各論			単位（総授業時間＋自習時間）				2（30+60）				
担当者	福岡 敦子		必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	食専2年			
授業概要													
管理栄養士としての実践的経験を活かし、基礎的な知識を習得させ、患者への適切な栄養療法を選択できることを指導する。そのためには、患者の疾患状態や栄養状況、薬剤の服用状況を客観的に判断できるようにならなければならない。従って、臨床栄養学の意義と目的や傷病の権利など臨床栄養管理が重要になった社会的背景から進み、実際に病院栄養士として行った栄養アセスメント、栄養ケアプランの作成、実施、評価に関する臨床栄養管理を基に指導を行う。次に栄養補給法から学んでいき、薬剤との関係や疾病に対する栄養療法の指導について指導を行う。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
1. 傷病者への適切な栄養管理を実施するための疾病の基本的な知識を習得する										○			
2. 栄養アセスメント、栄養ケアプランの作成、実施、評価に関する臨床栄養管理の考え方を習得する											○		
3. 栄養管理の考え方を理解し、習得する												○	○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. 臨床栄養とは～臨床栄養学の意義と目的を学ぶ						管理栄養士の具体的な役割について							
2. 医療における臨床栄養、制度の基本～臨床栄養管理						教科書を読んでくこと							
3. 栄養評価～栄養管理の目的						教科書を読んでくこと							
4. 栄養アセスメント～医療現場で発生する栄養状態						医療現場における管理栄養士について現時点の考えをまとめレポートにする							
5. 栄養補給法について：①経口栄養法						教科書での範囲を予習・復習をする							
6. 栄養補給法について：②経腸栄養法						教科書での範囲を予習・復習をする							
7. 栄養補給法について：③静脈栄養法						教科書での範囲を予習・復習をする							
8. 食物と薬剤の相互関係						教科書での範囲を予習・復習をする							
9. 食事療法を必要とする疾患について：①糖尿病						教科書での範囲を予習・復習をする							
10. 食事療法を必要とする疾患について：②脂質異常症						教科書での範囲を予習・復習をする							
11. 食事療法を必要とする疾患について：③高尿酸血症						教科書での範囲を予習・復習をする							
12. 食事療法を必要とする疾患について：④肥満・るいそう						教科書での範囲を予習・復習をする							
13. 食事療法を必要とする疾患について：⑤口内炎・胃・食道逆流症						教科書での範囲を予習・復習をする							
14. 食事療法を必要とする疾患について：⑥十二指腸潰瘍						教科書での範囲を予習・復習をする							
15. 食事療法を必要とする疾患について：⑦下痢、便秘						教科書での範囲を予習・復習をする							
履修上の注意													
健康的な生活を行なうための衛生、疾病などの情報に関心を持ち、調理をする習慣を身に着ける。													
成績評価方法・基準													
単元ごとに小テストを行う（90%）、受講態度（積極的な態度、目的意識、遅刻）（10%）、小テストは、教科書および授業で行ったことの基本的な内容から出題。テスト終了後テストの解説を行なう。													
教科書 [臨床栄養学][佐藤和人][医歯薬出版] [3,996 円]													
参考書[糖尿病食事療法のための食品交換表][日本糖尿病協会][文光堂][972 円]													
備 考													
質問等については、オフィスアワー以外でも受け付けます													

授業科目名	臨床栄養学実習				単位（総授業時間＋自習時間）				1（45+30）				
担当者	益田 裕司		必・選	栄（必）	形態	実習	学期	後期	対象	食専2年			
授業の概要													
一般食からの献立展開および病態別治療食献立の作成と調理実習をグループ単位で行う。													
臨床栄養学概論で学んだ疾病に関して、治療食に必要な栄養基準を満たした献立を作成すると同時に適切な調理法で治療食を提供できる技術を身につける。授業では各治療食について朝食、昼食、夕食の献立の作成を実施し、連続した集団給食における治療食の作成を視野に入れて解説を行う。急性期、慢性期に則した治療食の捉え方と病院における実践的な治療食の作成を教員の実務経験を基に授業を行う。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
疾患とそれに則した治療食の目的が理解できるようになる。											○	○	
治療食の栄養基準に合った適切な献立作成ができるようになる。											○	○	
治療食として適切な調理方法を理解し、実施できるようになる。											○	○	○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. 病院での栄養士の仕事 治療食の特色について						シラバスの内容を理解し今後の実習に備える。							
2. 一般治療食 常食・全粥食 献立作成						常食の献立作成。							
3. 一般治療食 常食・全粥食献立提出・実習ミーティング 糖尿病食について						常食献立提出。糖尿病食献立作成。							
4. 糖尿病食献立提出 一般治療食 常食・全粥食 実習						糖尿病食献立提出。							
5. 脂質異常症食について 糖尿病食実習ミーティング						脂質異常症献立作成。							
6. 脂質異常症食献立提出 糖尿病食 実習						脂質異常症献立提出。							
7. 高血圧症・心臓病食について 脂質異常症食実習ミーティング						高血圧症・心臓病献立作成。							
8. 高血圧症・心臓病食献立提出 脂質異常症食 実習						高血圧症・心臓病食献立提出。							
9. 腎臓病について 高血圧症・心臓病食実習ミーティング						腎臓病食献立作成。							
10. 腎臓病食献立提出 高血圧症・心臓病食 実習						腎臓病食献立提出。							
11. 胃・十二指腸潰瘍食について 腎臓病食実習ミーティング						胃・十二指腸潰瘍食献立作成。							
12. 胃・十二指腸潰瘍食献立提出 腎臓病食 実習						胃・十二指腸潰瘍食献立提出。							
13. 摂食・嚥下障害食について 胃・十二指腸潰瘍食実習ミーティング						摂食・嚥下障害食献立作成。							
14. 摂食・嚥下障害食提出・ミーティング 胃・十二指腸潰瘍食 実習						摂食・嚥下障害食献立提出。							
15. 摂食・嚥下障害食 実習						実習のまとめ							
履修上の注意													
毎回継続したテーマがあるため欠席のないようにすること。グループ作業となるため各班作業に支障がないよう献立は期日内に仕上がること。													
成績評価方法・基準													
平常点 50%（平常点は、授業への参加状況および実習での積極性を総合的に判断する。）レポート 50%（必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としないことがある。提出したレポートは評価して返却する。）遅刻 3 回で欠席 1 回とする。													
教科書													
〔実践 臨床栄養学実習〕〔第一出版〕〔長浜幸子〕〔2,400+税〕													
参考書													
〔食品交換表 第7版〕〔文光堂〕〔900+税〕													
備考													
質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。													

授業科目名		栄養指導論Ⅰ				単位（総授業時間＋自習時間）				2（30＋60）				
担当者	済渡 久美		必・選	必	形態	講義	学期	後期	対象	食専1年				
授業の概要														
栄養士とは「栄養の指導を業とするものをいう」（栄養士法第1条）と定義されている。栄養指導とは、個人、集団を対象に、健康の保持・増進を目的とし、望ましい食習慣や生活習慣の形成を援助することを基本とする栄養教育活動である。本授業は栄養の指導の土台となる必要な基本的知識として栄養指導の定義と意義、歴史、栄養指導関係法規、栄養指導に必要な基本的事項として種々の基準および指針、食生活・栄養に関する諸調査等について解説する。さらにアクティブラーニングを取り入れ栄養士としての食育の実務を理解させる。教員の管理栄養士としての実務経験を活かし展開する。														
授業の到達目標								学位授与の方針との関連						
								1	2	3	4	5	6	
栄養指導の必要性を認識する									○	○				
栄養指導を実施するために必要な基本的知識を身につける									○	○				
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）								
1. 栄養指導の定義と意義						栄養指導の定義等についての復習プリント記入								
2. 栄養指導の沿革① 鎌倉期～昭和期						栄養指導の沿革についての復習プリント記入								
3. 栄養指導の沿革② 平成期						栄養指導の沿革についての復習プリント記入								
4. 栄養指導と関係法規① 栄養士法 健康増進法						栄養指導の沿革についての復習プリント記入								
5. 栄養指導と関係法規② 学校給食法 食育基本法						栄養指導の沿革についての復習プリント記入								
6. 食育プログラム ① 料理選択型食教育						食育プログラムについての復習プリント記入								
7. 食育プログラム ② 3・1・2弁当箱法						食育プログラムについての復習プリント記入								
8. 栄養指導と関係法規③ 母子保健法 労働安全衛生法 地域保健法 医療法 介護保険法 高齢者医療確保法						栄養指導関係法規についての復習プリント記入								
9. 栄養指導と関係法規④ 食品衛生法 JAS 法 食品表示法						栄養指導関係法規についての復習プリント記入								
10. 栄養指導に必要な基本的事項① 食事摂取基準						食事摂取基準についての復習プリント記入								
11. 栄養指導に必要な基本的事項② 食生活指針・食事バランスガイド・諸外国の栄養課題とフードガイド						食生活指針・食事バランスガイド等についての復習プリント記入								
12. 栄養指導に必要な基本的事項③ 食糧需給表						食糧需給表についての復習プリント記入								
13. 栄養指導に必要な基本的事項④ 国民健康・栄養調査						国民健康・栄養調査についての復習プリント記入								
14. 栄養指導に必要な基本的事項⑤ 乳幼児栄養調査						乳幼児栄養調査についての復習プリント記入								
15. 栄養指導と運動指導・休養指導						運動・休養指導についての復習プリント記入								
16. 試験						まとめをする								
履修上の注意														
教科書を熟読し授業にのぞみ、毎回配布する復習プリントを記入してまとめをしっかりとすること														
成績評価方法・基準														
平常点 40%（平常点は、予習・復習プリントの記入状況および小テストの結果等で総合的に判断する）、試験 60%。復習シートは後日添削して返却する。小テスト及び試験については問題と解答例をまとめたレジュメを配布することでフィードバックとする														
教科書 [N ブックス 栄養指導論] [相川りゑ子] [健帛社] [2,376 円]														
参考書 なし														
備考														
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。														

授業科目名		栄養指導論Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）				2（30＋60）				
担当者	済渡 久美		必・選	栄（必）	形態	講義	学期	前期	対象	食専2年			
授業の概要													
栄養指導とは、健常者・半健常者・傷病者を問わず、個人、集団（家庭、学校、職場など）の人々を対象に、健康の保持・増進を目的とし、望ましい食習慣や生活習慣の形成を援助することを基本とする栄養教育活動である。本授業では栄養指導を実施するために必要なマネジメントサイクルの流れ及び栄養指導の方法について解説する。さらに各ライフステージ及びライフスタイルの栄養課題の特徴と栄養指導の要点について、理解しやすいように管理栄養士実務経験時の事例を交えて解説する。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
栄養指導の方法を身につける									○	○			
各ライフステージの栄養課題の特徴が理解できる									○	○			
スポーツ栄養、労働栄養の課題の特徴が理解できる									○	○			
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. 栄養指導マネジメントサイクルの概要						マネジメントについての復習プリント記入							
2. 栄養指導の対象者アセスメント：対象者の特性把握の方法・課題抽出						アセスメントについての復習プリント記入							
3. 栄養指導の計画と方法①：行動科学理論・行動変容技法						栄養指導計画についての復習プリント記入							
4. 栄養指導の計画と方法②：学習形態・教材・媒体・評価方法						栄養指導方法についての復習プリント記入							
5. 集団指導の特徴：一斉学習・グループ学習						集団指導についての復習プリント記入							
6. 個別指導の特徴：カウンセリング・コーチング						個別指導についての復習プリント記入							
7. 妊娠期・授乳期の栄養指導						妊娠・授乳期指導についての復習プリント記入							
8. 乳幼児期の栄養指導						乳幼児期指導についての復習プリント記入							
9. 学童期の栄養指導						学童期指導についての復習プリント記入							
10. 思春期の栄養指導						思春期指導についての復習プリント記入							
11. 成人期の栄養指導①生活習慣病予防						成人期指導についての復習プリント記入							
12. 成人期の栄養指導②事業所給食における栄養指導						成人期指導についての復習プリント記入							
13. 成人期の栄養指導③特定保健指導						成人期指導についての復習プリント記入							
14. 高齢期の栄養指導・高齢者施設における栄養指導：栄養ケア・マネジメント						高齢期指導についての復習プリント記入							
15. スポーツ栄養指導						スポーツ栄養指導についてのプリント記入							
16. 試験						まとめ							
成績評価方法・基準													
平常点 40%（平常点は、予習・復習プリントの記入状況および小テストの結果等で総合的に判断する）、試験 60%。復習シートは後日添削して返却する。小テスト及び試験については問題と解答例をまとめたレジュメを配布することでフィードバックとする													
教科書 [N ブックス 栄養指導論] [相川りゑ子] [健帛社] [2,376 円]													
参考書 なし													
備 考													
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受付けます。													

授業科目名		栄養指導論実習			単位（総授業時間＋自習時間）				1（45＋15）			
担当者	済渡 久美	必・選	栄（必）	形態	講義	学期	前期	対象	食栄 1 年			
授業の概要												
本授業は栄養指導論で学習した知識・理解をもとに、集団栄養指導、個別栄養指導の実践的な学習を行う。集団指導では、設定したライフステージについて必要なアセスメントを行い、栄養指導案を立案し、それに基づいて媒体を作成しプレゼンテーション、評価を行う。個別指導では特定健診結果の症例について階層化を行い、栄養指導案を作成し特定保健指導の模擬指導、評価を行う。効果的に実習に理解して取り組めるように、管理栄養士実務経験時の事例を紹介する。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
実践を通して栄養指導の基本的な技術を身につける								○		○		○
各ライフステージの栄養指導の特徴が理解できる								○		○		○
特定保健指導の内容が理解できる								○		○		○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）							
1. 栄養指導の方法導入① アイスブレイク・コンセンサス法					評価シート次回提出							
2. 栄養指導の方法導入② 自己開示（2分間スピーチ）					評価シート次回提出							
3. 集団栄養指導①： ライフステージの決定・情報収集					アセスメントシートを完成させる							
4. 集団栄養指導②： 指導計画立案					栄養指導案を完成させる							
5. 集団栄養指導③： 媒体作り					媒体作りを行う							
6. 集団栄養指導④： 媒体作り					媒体を完成させる							
7. 集団栄養指導⑤： 発表と評価					評価票を記入する							
8. 集団栄養指導⑥： 発表と評価					評価票を記入する							
9. 集団栄養指導⑦： 発表と評価					評価票を完成させる							
10. 個人栄養指導①： 特定保健指導 階層化					階層化シートを完成させる							
11. 個人栄養指導②： 特定保健指導 エネルギー調整の理解					エネルギー調整シートを完成させる							
12. 個人栄養指導③： 特定保健指導 指導計画立案					栄養指導案を作成する							
13. 個人栄養指導④： 特定保健指導 指導計画立案					栄養指導案を完成させる							
14. 個人栄養指導⑤： 特定保健指導 模擬面接と評価					評価票を記入する							
15. 個人栄養指導⑥： 特定保健指導 模擬面接と評価					評価票を完成させる							
履修上の注意												
毎回の実習にあたって必要な情報の入手をすること。また、集団指導の発表については練習、個人指導については資料の準備に努めること。毎回の実習内容について復習に努め、各回において、認識した不足している知識を各自で学ぶこと												
成績評価方法・基準												
平常点 40%（平常点は、書類作成の進行状況総合的に判断する）、 レポート 30% 発表 30%。 各シートは後日添削して返却する。												
教科書 授業前に配布するプリント												
参考書 なし												
備 考												
栄養指導の現実の場（給食管理校外実習等）を想定し、能動的に取り組むこと。質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受付けます。												

授業科目名		公衆栄養学			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)			
担当者	栗山 孝雄	必・選	必	形態	講義	学期	後期	対象	食専 2 年			
授業の概要												
公衆栄養学は、日常の生活圏である地域や市町村、都道府県、国などの住民レベル、学校や職域などの様々な集団に所属する人々を対象に、健康面や栄養面の現状を把握し、問題点の改善、健康の維持・増進、疾病の予防をはかることを目的とする。その際、食生活や栄養面の観点から検討を行う。本講義では、以上の内容に関する事項として、地域住民や各種集団の健康・栄養に関する現状や問題点、関係する政策、公衆栄養活動の流れ等について解説する。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
日本の食生活や食環境の変化を理解する。									○		○	○
公衆栄養活動の企画から評価までの流れを理解する。									○		○	○
公衆栄養活動を展開するために必要な知識や考え方を身につける。									○		○	○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）							
1. 公衆栄養の概念					公衆衛生学を復習の上、受講する。							
2. 公衆栄養活動					過去と現在の活動を理解する。							
3. 日本の食事・食生活の変化					日本人の健康状態も交えて学習する。							
4. 日本の食環境の変化					日本の経済状態等も交えて学習する。							
5. 日本の栄養政策					栄養行政について理解を深める。							
6. 日本の栄養士・管理栄養士養成制度と栄養士法					栄養士法の内容を確認の上、受講する。							
7. 国民健康・栄養調査					調査の実施全般について確認する。							
8. 中間試験、公衆栄養マネジメント・アセスメント					PDCA サイクルの流れを確認する。							
9. 公衆栄養活動における調査方法					調査方法の利点、欠点を理解する。							
10. 公衆栄養活動における目標設定					目標設定、優先順位の決定を確認する。							
11. 公衆栄養活動の評価					評価の具体例を交え、理解を深める。							
12. 都道府県・市町村の健康増進計画					健康日本 21 を復習の上、受講する。							
13. 栄養疫学の指標					疫学を復習の上、受講する。							
14. 世界の健康・栄養問題の現状					主に開発途上国の問題について予習する。							
15. 健康・食生活の危機管理と食支援					震災発生時の食支援を理解する。							
16. 期末試験					学習した内容全体を復習する。							
履修上の注意												
・遅刻は、始業時から 15 分以内とする。それを越えた場合は原則「欠席」とする。ただし、通学時の事故等、やむを得ない理由の場合は考慮するので、必ず教員に申告すること。												
・本講義と関連する内容の公衆衛生学などの科目を復習しておくこと。												
成績評価方法・基準												
・中間試験（35％）、期末試験（35％）、提出物（20％）、受講態度（10％）で評価を行う。												
※受講態度については、①遅刻が多い、②提出課題の提出期限を守らない、③授業中の私語や授業と関係ない行為を行うなど、授業態度に問題のある者は、状況に応じて減点する。												
・提出物、試験については、適宜フィードバックを行う。												
教科書〔ウエルネス公衆栄養学〕〔前大道教子ほか〕〔医歯薬出版〕〔2,800 円〕												
参考書 なし。授業内で適宜紹介する。												
備 考												
質問等については、授業終了時またはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受付ける。												

授業科目名		調理科学論				単位（総授業時間＋自習時間）				2（30＋60）			
担当者	済渡 久美		必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	食専1年			
授業の概要													
調理とは、「食品」を、衛生的に安全で栄養特性が生かされた「食事」として提供するための操作である。栄養士の給食管理業務の一つである調理指導を円滑に行うためには調理過程を科学的に理解することが必要となる。本授業では教員の管理栄養士としての実務経験を活かし、食事設計と様式、おいしさの評価について概説し食事に仕上げるために必要な調理操作の方法、調理器具・機器の原理および選択と使用方法を解説する。各食材・素材特徴的な成分について調理条件による変化を科学的にとらえ、適切な調理条件を解説する。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
食事様式を理解し食事設計の方法を身につける									○	○		○	
調理に適した調理器具・機器の選択と使用方法を身につける									○	○		○	
食品や素材の特性に適した調理操作の方法が理解できる									○	○		○	
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. 食事設計と食事様式① 食事設計						食事設計についての復習プリント記入							
2. 食事設計と食事様式② 食事様式						食事様式についての復習プリント記入							
3. 調理と嗜好性						嗜好性についての復習プリント記入							
4. エネルギー源および調理器具						調理器具についての復習プリント記入							
5. 調理操作① 調理操作の目的・調味操作						調理操作についての復習プリント記入							
6. 調理操作③ 加熱操作						加熱操作についての復習プリント記入							
7. 調理操作② 非加熱操作						非加熱操作についての復習プリント記入							
8. 植物性食品の調理性① 米・小麦粉						米・小麦粉についての復習プリント記入							
9. 植物性食品の調理性② いも類・豆類・野菜類						いも・豆・野菜類についての復習プリント記入							
10. 植物性食品の調理性③ 果物・種実類・きのこ類・海藻類・山菜類						果物・種実類等についての復習プリント記入							
11. 動物性食品の調理性① 食肉類・魚介類						食肉・魚介類についての復習プリント記入							
12. 動物性食品の調理性② 鶏卵						鶏卵についての復習プリント記入							
13. 動物性食品の調理性③ 牛乳・乳製品・その他						牛乳・乳製品についての復習プリント記入							
14. 成分抽出素材の調理性 ① デンプン・ゲル化材料						ゲル化材料等についての復習プリント記入							
15. 成分抽出素材の調理性 ② 油脂類・新食品素材						油脂類等についての復習プリント記入							
16. 試験													
成績評価方法・基準													
平常点 40%（平常点は、予習・復習プリントの記入状況および小テストの結果等で総合的に判断する）、試験 60%。復習シートは後日添削して返却する。小テスト及び試験については問題と解答例をまとめたレジュメを配布することでフィードバックとする													
教科書 〔調理学〕〔木戸詔子・池田ひろ〕〔化学同人〕〔2,700 円〕													
参考書 なし													
備 考													
本授業で学んだ理論を調理学実習で確認するよう努めること。質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。													

授業科目名		調理学実習 I				単位（総授業時間＋自習時間）				1（45＋15）			
担当者	済渡 久美		必・選	必	形態	実習	学期	前期	対象	食専1年			
授業の概要													
調理とは「食材」を「料理」に調え理める操作である。適温適時に衛生的に安全でおいしい食事提供ができるように、教員の管理栄養士としての実務経験を活かし、栄養士業務の一つである給食管理の要素を取り入れ、調理技術の向上を目的として行う。 本授業はまず、調理操作の基本的事項として計量方法、食品概量の把握、食材の切り方の種類と実技を行う。次に日本料理・西洋料理・中国料理それぞれの調理操作の基本を組み込んだ献立をサイクルで展開して実習する。さらに、実施献立について、調理科学、栄養価、食文化の視点から考察をする。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
日本料理・西洋料理・中国料理の基本的な調理技術を身につける										○	○	○	○
日本料理・西洋料理・中国料理の基本的な食事様式、食卓設定ができる										○	○	○	○
実習献立の栄養価計算ができる										○		○	○
授業計画の内容								自習（事前・事後学修の内容）					
1. ガイダンス：実習の基本事項								実習の基本事項を確認する					
2. 調理操作の基礎① 計量・食品の概量の把握								食品概量把握レポート記入					
3. 調理操作の基礎② 乾物類・塩蔵品の戻し方と量（重量・容量）変化の把握								食品の戻し重量変化レポート記入					
4. 調理操作の基礎③ 切り方の種類とその実際								切菜結果レポート記入					
5. 日本①：三色丼・すまし汁								日本料理①レポート記入					
6. 西洋①：スパゲッティミートソース・コンソメスープ								西洋料理①レポート記入					
7. 中国①：ごはん・麻婆豆腐・涼拌三絲・榨菜湯								中国料理①レポート記入					
8. 日本②：ごはん・さばのみそ煮・けんちん汁・ほうれんそうのピーナツ和え								日本料理②レポート記入					
9. 西洋②：マカロニグラタン・にんじんサラダ・グレープゼリー								西洋料理②レポート記入					
10. 中国②：ごはん・酢豚・粟米湯・杏仁豆腐								中国料理②レポート記入					
11. 日本③：ごはん・鰯の南蛮漬・卵の花炒り・みそ汁								日本料理③レポート記入					
12. 西洋③：ごはん・ハンバーグステーキ・ポテトサラダ・コーンスープ								西洋料理③レポート記入					
13. 中国③：ごはん・餃子・棒棒鶏・冬瓜湯								中国料理③レポート記入					
14. 日本④：うな玉ちらし・冷やしじゅんさい汁・彩り野菜のキャベツ巻								日本料理④レポート記入					
15. 日本・西洋・中国料理の基本のまとめ								まとめ					
成績評価方法・基準													
平常点 50％（授業の取り組み状況および小テスト・実技試験の結果等で総合的に判断する）、レポート 50％。レポートは後日添削して返却する。													
教科書 配布プリント													
参考書 [新ビジュアル食品成分表] [大修館書店] [1,080 円]													
備 考													
実施予定献立に係る食材および調理方法について、調理科学論で使用する教科書の該当する箇所を熟読すること。実習終了時に次の献立と調理のポイント事項は指示する。調理実習では実習としての基本的事項（服装、頭髮、爪、手洗い、等衛生面）をしっかりと認識して取り組むこと。質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受付けます。													

授業科目名		調理学実習Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）				1（45＋15）				
担当者	済渡 久美		必・選	栄（必）	形態	実習	学期	後期	対象	食専1年			
授業の概要													
調理とは「食材」を「料理」に調え理める操作である。適温適時に衛生的に安全でおいしい食事提供ができるように、教員の管理栄養士としての実務経験を活かし栄養士業務の一つである給食管理の要素を取り入れ、調理技術の向上を目的として行う。本授業は調理学実習Ⅰの基礎的調理知識をもとに、日本料理、西洋料理、中国料理などについて、やや複雑で丁寧な応用調理法を献立に組み込み季節や行事に応じた調理を実習する。さらに、実施献立について、調理科学、栄養価、食文化の視点から考察をする。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
日本料理・西洋料理・中国料理の応用的な調理技術を身につける										○	○	○	○
日本料理・西洋料理・中国料理の食文化（食事作法）を身につける										○	○	○	○
実習献立の栄養価計算ができる										○		○	
授業計画の内容								自習（事前・事後学修の内容）					
1. ガイダンス：調理操作の確認・切り方の実際								切菜結果レポート記入					
2. 日本①：吹き寄せごはん・さんまのつみれ汁・菜果なます								日本料理①レポート記入					
3. 西洋①：ごはん・ポテトコロッケ・コンソメスープ パンプキンムース								西洋料理①レポート記入					
4. 中国①：粽子・芙蓉蟹・麻辣黄爪								中国料理①レポート記入					
5. 日本②：はらこ飯・おくずかけ・笹かまおろし（宮城郷土料理）								日本料理②レポート記入					
6. 西洋②：白身魚の包み焼き・ミモザサラダ・ミネストローネ								西洋料理②レポート記入					
7. 中国②：饅頭・涼拌茄子・魚羹								中国料理②レポート記入					
8. 日本③：ごはん・煮魚・茶碗蒸し・白和え								日本料理③レポート記入					
9. 西洋③：ピザパイ・ロールキャベツ・カスタードプリン								西洋料理③レポート記入					
10. 中国③：炒米粉・焼売・三絲湯・杏仁豆腐								中国料理③レポート記入					
11. 西洋④：クリスマス料理：ローストチキン・コンソメ・キャベツのかに包み巻・ウーファルシー・クルベットカクテル・ツリーサラダ・ノエルケーキ								西洋料理④レポート記入					
12. 日本④：正月料理：祝い寿司・えびしんじょの吸い物・末広焼・きんかんの洋酒煮・伊達巻・5色なます・煮しめ								日本料理④レポート記入					
13. 中国④：什景炒麺・炸春捲・辣白菜								中国料理④レポート記入					
14. 西洋⑤：バターライス・ビーフストロガノフ・シュークリーム								西洋料理⑤レポート記入					
15. 日本・西洋・中国料理の応用のまとめ								まとめ					
成績評価方法・基準													
平常点 50%（授業の取り組み状況および小テスト・実技試験の結果等で総合的に判断する）、レポート 50%。レポートは後日添削して返却する。													
教科書 配布プリント													
参考書 〔新ビジュアル食品成分表〕〔大修館書店〕〔1,080 円〕													
備 考													
実施予定献立に関係する食材および調理方法について、調理科学論で使用する教科書の該当する箇所を熟読すること。実習終了時に次の献立と調理のポイント事項は指示する。調理実習では実習としての基本的事項（服装、頭髪、爪、手洗い、等衛生面）をしっかりと認識して取り組むこと。質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。													

授業科目名		調理学実習Ⅲ				単位（総授業時間＋自習時間）				1（45＋15）			
担当者	済渡 久美		必・選	栄（必）	形態	実習	学期	後期	対象	食専1年			
授業の概要													
調理とは「食材」を「料理」に調え理める操作である。適温適時に衛生的に安全でおいしい食事提供ができるように、栄養士業務の一つである給食管理の要素を取り入れ、調理技術の向上を目的として行う。本授業は調理学実習Ⅰ・Ⅱで習得した和・洋・中の調理技術・食事提供に必要な食品衛生の知識、コミュニケーション力を基礎力として、世界の料理、郷土料理、災害時食等に分野を発展させ調理を通して食文化の視野を深める実習を行う。さらに、各回ごとに、実施献立の対象地域および国の食文化について考察をする。教員の管理栄養士としての実務経験を活かし授業を展開する。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
実習した地方の食文化と郷土料理の特徴が理解できる										○	○	○	○
実習した国の食文化と料理の特徴が理解できる										○	○	○	○
災害時の食事を考えることができる										○	○	○	○
実習献立の栄養価計算が正確にできる										○		○	
授業計画の内容								自習（事前・事後学修の内容）					
1. ガイダンス：世界の料理、郷土料理、災害時食について								切菜結果レポート記入					
2. 世界の料理①イギリス：フィッシュ＆チップス・スコーン・ビーフシチュー								世界の料理①レポート記入					
3. 災害時食								災害時食レポート記入					
4. 世界の料理②タイ・インドネシア：ナシゴレン・トムヤムクン・ゴイクオン								世界の料理②レポート記入					
5. 郷土料理①秋田：きりたんぼ鍋・とんぶりと長芋の浸し・なんばこ								郷土料理①レポート記入					
6. 郷土料理②愛知県：天むす・味噌カツ・煮味噌								郷土料理②レポート記入					
7. 世界の料理③南フランス：ラタトゥイユ・ビシソワーズ・ ほうれんそうとベーコンのキッシュロレーヌ								世界の料理③レポート記入					
8. 世界の料理④韓国：ビビンバ・チヂミ・韓国スープ								世界の料理④レポート記入					
9. 郷土料理③北海道：いかめし・三平汁・いもだんご								郷土料理③レポート記入					
10. 郷土料理④沖縄：沖縄そば・ゴーヤチャンプルー・紅芋タルト								郷土料理④レポート記入					
11. 世界の料理⑤スペイン：パエリア・トルティージャ・ガスパチョ								世界の料理⑤レポート記入					
12. 世界の料理⑥インド：ナン・チキンカレー・ラッシー								世界の料理⑥レポート記入					
13. 世界の料理⑦ドイツ：ジャーマンポテト・ザワークラウト・ブロッコリーのスープ・黄桃のクーヘン								世界の料理⑦レポート記入					
14. 郷土料理⑤新潟：しょうゆおこわ・のっぺい汁・笹団子								郷土料理⑤レポート記入					
15. 世界の料理、郷土料理、災害時食のまとめ								まとめ					
成績評価方法・基準													
平常点 50％（授業の取り組み状況および小テスト・実技試験の結果等で総合的に判断する）、レポート 50％。レポートは後日添削して返却する。													
教科書 配布プリント													
参考書 〔新ビジュアル食品成分表〕〔大修館書店〕〔1,080 円〕													
備考													
実施予定献立の当該地方および国の食文化について調べて調理学実習に取り組み、レポートにまとめること。実習終了時に次の献立と調理のポイント事項は指示する。調理実習では実習としての基本的事項（服装、頭髮、爪、手洗い、等衛生面）をしっかりと認識して取り組むこと。質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。													

授業科目名		給食管理学			単位（総授業時間＋自習時間）				2（30+60）				
担当者	益田 裕司		必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	食専1年			
授業の概要													
給食の目標を達成するために、給食管理に必要な事柄を食事摂取基準、給与栄養目標量の算出、献立作成に必要な食品構成、食事計画および、安全衛生管理について順序だてて解説する。また、特定給食施設においての大量調理を想定した集団給食の献立作成、作業工程、作業の標準化について教員の現場経験を取り入れた視点から解説を行う。更に代表的な特定給食施設である事業所、病院、福祉施設、学校、保育所などの給食施設の特徴や栄養士の果たす役割について概説する。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
給食の計画を立てるために必要な基礎知識を身につける。										○			
食事摂取基準を用いた給与栄養目標量の算出ができるようになる。										○			
給食計画に基づいた安全かつ衛生的な献立を作成できるようになる。										○	○	○	○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. ガイダンス 給食管理の概念						シラバスの内容を理解し今後の授業に備える。							
2. 安全衛生管理 食中毒の予防						衛生管理についてテキストを復習する。							
3. 献立作成基礎知識（廃棄率など）						計算方法を復習し理解を高める。							
4. 給食の計画 食事摂取基準						食事摂取基準と特徴を理解する。							
5. 栄養・食事管理の計画① 給与栄養目標量・食事計画						給与栄養目標量を算出できるようにする。							
6. 栄養・食事管理の計画② 食品構成 献立作成の基礎知識						食品構成と献立作成の関連性を理解する。							
7. 施設・設備管理（施設・設備と機器、食環境）						施設環境についてテキストを参照する。							
8. 作業管理（大量調理における調理の工夫・作業工程・作業の標準化）						大量調理の特徴を理解する。							
9. 危機管理・ヒヤリハット						危機管理の重要性を理解する。							
10. 特定給食施設の種類と特徴および栄養士の役割						特定給食施設の特徴を理解する。							
11. 保育所・学校・事業所給食						施設での役割についてテキストを復習する。							
12. 高齢者福祉施設給食						施設での役割についてテキストを復習する。							
13. 病院給食						施設での役割についてテキストを復習する。							
14. 災害時の備蓄について						給食施設の非常時対応を理解する。							
15. まとめ 給食における評価と改善						これまでの講義を振り返りまとめる。							
16. 試験						これまでの講義を振り返り理解する。							
履修上の注意													
栄養士として給食管理業務は基本かつ重要な役割であるため、各自、目的意識をもって受講すること。遅刻3回で欠席1回とする。													
成績評価方法・基準													
試験 50% 平常点 30%（平常点は、授業への参加状況および受講態度（積極性）で総合的に判断する。） 提出物 20%（必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としないことがある。提出したレポートは評価して返却する。）													
教科書 〔給食の運営 給食計画・実務論 第5版〕〔富岡和夫〕〔医歯薬出版〕〔2,800+税〕 〔五訂「大量調理施設衛生管理のポイント」〕〔中央法規〕〔2,400+税〕													
参考書 〔給食運営・経営管理実習のてびき第5版〕〔西川貴子〕〔医歯薬出版〕〔2,100+税〕													
備 考 質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。													

授業科目名	給食管理基礎演習 I				単位（総授業時間＋自習時間）				1（30+15）				
担当者	益田 裕司		必・選	栄（必）	形態	演習	学期	後期	対象	食専 1 年			
授業の概要													
2 年次の校外実習に向けた心構えや実務について概説する。また 2 年生による校外実習報告会に参加する。更に本授業では保育園・給食センター・病院などの給食施設を赴き、施設見学を通して該当する給食施設の特性を直接学びとる。給食展示会の見学では、給食施設で実際に使用されている加工食品の利用法について、栄養まつりの見学では、栄養士として地域社会への貢献やその活動状況等を知ることができる。これらの見学を通して、栄養士の多様性を学び、実際に施設で働く栄養士の給食管理業務について理解を深められるよう教員の現場経験を取り入れた視点で講義を行う。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
各施設で活躍する栄養士の責任と役割を理解することができる。										○	○	○	
安全で衛生的な食事の提供に必要な環境を理解できるようになる。										○	○	○	
地域社会との連携の重要性が理解できるようになる。											○		○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. ガイダンス 施設見学の意義・目的						シラバスの内容を理解し今後の授業に備える。							
2. 校外実習先の説明・希望調査・実習内容や流れについて						実習先で学べる内容を理解しておく。							
3. 挨拶の練習 身だしなみチェック 報告書・お礼状について						実習に必要な身だしなみやマナー、ルールを理解する。							
4. 各施設への見学事前準備（施設の特徴や学習に必要な着眼点など）						施設の特徴を理解し、目的をもって見学する。							
5. 保育園見学						見学後レポートを提出する。							
6. セントラルキッチン見学						見学後レポートを提出する。							
7. 病院見学						見学後レポートを提出する。							
8. 給食展示会見学						見学後レポートを提出する。							
9. 栄養まつり見学（日本栄養士会主催）						見学後レポートを提出する。							
10. 施設見学後指導 校外実習に向けた対策と準備						見学時に配布された資料等を復習する。							
11. 給食施設献立の要点確認						献立作成に必要な情報を確認する。							
12. 給食施設献立の作成（基礎）						栄養基準に沿った献立の作成。							
13. 給食施設献立の展開方法（応用）						連続した献立の作成練習。							
14. 校外実習報告会①（2 年生前半グループ）への参加						校外実習に向け自分の課題を検討する。							
15. 校外実習報告会②（2 年生後半グループ）への参加						校外実習に向け自分の課題を検討する。							
履修上の注意													
本科目への取り組み状況（提出物・遅刻・欠席・受講態度（積極性）など）によっては 2 年次の校外実習が出来ないことがある。また、各施設においては、心構え、身だしなみに十分注意すること。遅刻 3 回で欠席 1 回とする。また見学では、遅刻は認められず欠席扱いとなる場合もあるため十分に注意すること。													
成績評価方法・基準													
平常点 50%（平常点は、授業への参加状況および受講態度（積極性）で総合的に判断する。）レポート 50%（必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としないことがある。提出したレポートは評価して返却する。）													
教科書													
〔管理栄養士・栄養士になるための国語表現〕〔萌文書林〕〔1,800+税〕													
参考書													
〔給食の運営 給食計画・実務論 第 5 版〕〔富岡和夫〕〔医歯薬出版〕〔2,800+税〕													
備考													
見学等の時期に関しては施設や行事の都合上、変動があります。 質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。													

授業科目名	給食管理基礎演習Ⅱ				単位（総授業時間＋自習時間）				1（30+15）				
担当者	益田 裕司		必・選	栄（必）	形態	演習	学期	前期	対象	食専2年			
授業の概要													
「栄養士」資格取得のために必須な給食管理校外実習について、実習前の心構えや、給食の目的、実習先の業務内容について教員の現場経験を基に解説し、それぞれが自分の学習テーマをもって実習に臨めるようにする。実習期間中に作成する実習ノート（日誌）への記述法、要点のまとめかた等について学習する。更に、年度末に報告会を行い、各自実習で得た成果や反省点、今後の課題を整理して発表する。実習先それぞれの報告内容を共有し、自分の実習先だけでなく幅広い給食管理業務を理解できるようにする。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
実習で何を学びとるか心構えや目的を明確化できるようになる。										○	○		
自分の学習テーマ（自主研究）を考える力を身につける。										○	○	○	
実習先で体験できる栄養業務からその要点を学びとる。										○	○	○	○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. ガイダンス 給食管理校外実習の意義・目的の明確化						シラバスの内容を理解し今後の授業に備える。							
2. 実習の心構えについての確認 身だしなみチェック						心構えの確認、実習前の整理。							
3. 実習先の情報収集および確認 校外実習オリエンテーションについて						実習先の情報から学ぶべきテーマを検討する。							
4. 実習内容について 実習計画立案（小学校）						実習で学ぶべき内容の整理。							
5. 実習日誌等記録の書き方について ①様式の説明・注意点						記録方法の演習実施。							
6. 実習日誌等記録の書き方について ②報告書の目的とポイント						要点のまとめ方を理解する。							
7. 実習日誌等記録の書き方について ③表現法・言葉使い						記録する際に使用する表現を理解する。							
8. 施設職員との接し方・コミュニケーションのとり方について						実習先の職員や給食対象者への接し方を理解する。							
9. 実習前課題についての準備と対策						施設ごと課題への取り組みについて。							
10. 自主研究のテーマについて						自ら関心がもてる研究テーマを検討する。							
11. 実習内容について 実習計画案作成（自衛隊駐屯地・保育所）						実習で学ぶべき内容の整理。							
12. 実習内容について 実習計画案作成（高齢者施設・その他）						実習で学ぶべき内容の整理。							
13. 校外実習終了後のまとめ、反省点について						校外実習ノートに記録を残す。							
14. 校外実習報告会①（前半グループ）						校外実習で得た成果と課題を報告する。							
15. 校外実習報告会②（後半グループ）						校外実習で得た成果と課題を報告する。							
履修上の注意													
本科目への取り組み状況（遅刻、欠席、受講態度（積極性）、提出物）によっては校外実習に参加できないこともあるので注意すること。遅刻3回で欠席1回とする。													
成績評価方法・基準													
平常点 50%（平常点は、授業への参加状況および受講態度（積極性）で総合的に判断する。）レポート 50%（必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としないことがある。提出したレポートは評価して返却する。）													
教科書													
〔管理栄養士・栄養士になるための国語表現〕〔萌文書林〕〔1,800+税〕													
参考書													
〔臨地・校外実習書〕〔建帛社〕〔2,000+税〕													
備考													
校外実習報告会については、実習期間の都合上、後期に実施することがある。 質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。													

授業科目名		給食管理実習 I			単位（総授業時間＋自習時間）				1（45+15）				
担当者	益田 裕司		必・選	必	形態	実習	学期	前期	対象	食専 1 年			
授業の概要													
栄養士には給食を運営する技術が必要である。「調理科学論」「調理実習」で学んだ知識や教員が集団給食施設で得た経験と技術をもとに給食管理実務を学習する。対象者に必要な食事摂取基準に基づいた栄養量および嗜好に合った献立の作成、調理者の技術や厨房施設を考慮した調理法の選択、大量調理施設衛生管理マニュアルに則した衛生的かつ安全な食事の提供、適時適温サービスの手法、発注作業、給食関連書類の作成など給食管理業務について習得できるようにする。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
給食の計画を立てるために必要な基礎知識と実務を身につける。										○			
計画に基づいた集団給食の調理提供が行なえるようになる。										○	○	○	
大量調理施設衛生管理マニュアルに則した安全かつ衛生的な給食管理ができるようになる。										○	○	○	
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. ガイダンス 給食管理実習の概論						シラバスの内容を理解し今後の実習に備える。							
2. HACCP 大量調理衛生管理マニュアル						大量調理施設衛生管理マニュアルの内容を覚える。							
3. 大量調理器具機材の使い方と特徴について						器具機材の名称を復習して覚える。							
4. 既定献立による大量調理の実施①（前半グループ）						大量調理の調理法と献立を復習する。							
5. 既定献立による大量調理の実施②（後半グループ）						大量調理の調理法と献立を復習する。							
6. 給与栄養目標量 献立組み合わせ検討						栄養計算、献立の作成、作業計画立案。							
7. 試作① 予定献立提示						試作調理の計画立案。							
8. 試作② 予定献立提示 発注書作成						試作後の献立見直しと発注書の作成。							
9. アンケート作成 検食簿						実施献立の作成と喫食評価の準備。							
10. 予定献立による調理実習①（4グループに分かれ、調理、配膳、作業計画等）						調理前：調理計画・検収。調理後：実施後のまとめ。							
11. 予定献立による調理実習②（4グループに分かれ、調理、配膳、作業計画等）						調理前：調理計画・検収。調理後：実施後のまとめ。							
12. 予定献立による調理実習③（4グループに分かれ、調理、配膳、作業計画等）						調理前：調理計画・検収。調理後：実施後のまとめ。							
13. 予定献立による調理実習④（4グループに分かれ、調理、配膳、作業計画等）						調理前：調理計画・検収。調理後：実施後のまとめ。							
14. アンケート結果集計・報告の準備 調理室清掃						集計作業、反省報告、レポートのまとめ。							
15. 実習後の報告と反省・まとめ						次年度に向けた実習の振り返り。							
履修上の注意													
実習はグループ間での作業となるため学生間の連携を重視すること。遅刻 3 回で欠席 1 回とする。													
成績評価方法・基準													
平常点 50%（平常点は、授業への参加状況および実習での積極性を総合的に判断する。）レポート 50%（必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としないことがある。提出したレポートは評価して返却する。）													
教科書													
〔給食運営・経営管理実習のてびき第 5 版〕〔西川貴子〕〔医歯薬出版〕〔2,100+税〕 〔栄養・食事管理のための改定施設別給食献立集〕〔鈴木久乃〕〔建帛社〕〔2,500+税〕													
参考書													
〔新ビジュアル食品成分表〕〔大修館書店〕〔1,000+税〕													
備 考													
質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。													

授業科目名		給食管理実習Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）				1（45+15）				
担当者	益田 裕司		必・選	栄（必）	形態	実習	学期	前期	対象	食専2年			
授業の概要													
給食管理の実務について更に理解を深め給食の対象者に合わせた献立作成と作業計画（衛生管理を含む）を立てられるよう教員が持つ実務経験を基に実習を通して説明を行う。1 年次の「給食管理実習Ⅰ」で学習した内容について、復習を行いながら主体的に実習する。対象者に適した栄養量や献立、価格であることはもちろん、喫食者の楽しみになるような給食の提供をできるようにする。また、実習後には改善策を検討し、より実践的な技術を習得できるようにする。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
給食の対象者に合わせた献立作成と作業計画が立てられるようになる。										○			
定められた調理時間内に計画通りの給食調理ができるようになる。										○	○	○	
大量調理施設衛生管理マニュアルに則した安全かつ衛生的な給食管理を自ら指示し実践できるようにする。										○	○	○	
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. ガイダンス 班編成 献立計画						シラバスの内容を理解し今後の実習に備える。							
2. 献立作成・検討 調理室清掃						食材、器具類の殺菌食毒法を確認する。							
3. 大量調理機器を使った調理法の確認（前半グループ） 試作計画、食材購入計画						大量調理の応用法を習得する。実施献立の検討。							
4. 大量調理機器を使った調理法の確認（後半グループ） 試作計画、食材購入計画						大量調理の応用法を習得する。実施献立の検討。							
5. 試作 献立再検討						試作後の献立見直し。							
6. 対象者に向けた栄養媒体作り 書籍の利用 アンケート作成 発注書作成						献立説明、アンケート内容の検討。							
7. 実習準備 作業工程表作成 衛生関連の書類確認						作業工程、衛生管理の点検。							
8. 調理実習①（6グループに分かれ、調理、配膳、献立説明、作業計画等を行う）						調理前：調理計画・検収。調理後：実施後のまとめ。							
9. 調理実習②（6グループに分かれ、調理、配膳、献立説明、作業計画等を行う）						調理前：調理計画・検収。調理後：実施後のまとめ。							
10. 調理実習③（6グループに分かれ、調理、配膳、献立説明、作業計画等を行う）						調理前：調理計画・検収。調理後：実施後のまとめ。							
11. 調理実習④（6グループに分かれ、調理、配膳、献立説明、作業計画等を行う）						調理前：調理計画・検収。調理後：実施後のまとめ。							
12. 調理実習⑤（6グループに分かれ、調理、配膳、献立説明、作業計画等を行う）						調理前：調理計画・検収。調理後：実施後のまとめ。							
13. 調理実習⑥（6グループに分かれ、調理、配膳、献立説明、作業計画等を行う）						調理前：調理計画・検収。調理後：実施後のまとめ。							
14. アンケート結果集計・報告の準備 調理室清掃						集計作業、反省報告、レポートのまとめ。							
15. 実習後の報告と反省・まとめ						実習の成果と課題を情報共有する。							
履修上の注意													
応用力が必要となるため、担当作業だけでなく給食調理作業全体を注視すること。遅刻3回で欠席1回とする。													
成績評価方法・基準													
平常点 50％（平常点は、授業への参加状況および実習での積極性を総合的に判断する。）レポート 50％（必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としないことがある。提出したレポートは評価して返却する。）													
教科書													
〔給食運営・経営管理実習のてびき第5版〕〔西川貴子〕〔医歯薬出版〕〔2,100+税〕													
〔栄養・食事管理のための改定施設別給食献立集〕〔鈴木久乃〕〔建帛社〕〔2,500+税〕													
参考書													
〔新ビジュアル食品成分表〕〔大修館書店〕〔1,000+税〕													
備考													
質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。													

授業科目名	給食管理実習Ⅲ（給食運営に係る校外実習）				単位（総授業時間＋自習時間）				1（45+15）			
担当者	益田 裕司		必・選	栄（必）	形態	実習	学期	前期	対象	食専2年		
授業の概要												
給食管理についてこれまで学んできたことの総まとめとして、一週間、給食管理校外実習として特定給食施設において施設の管理栄養士を中心に給食管理業務の指導を受ける。実習施設は原則として保育所、小中学校、自衛隊、病院、福祉施設のいずれかとなる。一週間の校外実習を通して、給食業務を行うために必要な技術を習得し、食事の計画や調理など、社会に通用する栄養士として具備すべき知識及び技能を習得する。実習後は教員が給食施設で得た実務経験を基に事後指導を行う。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
実習の目的を明確にし、実習先で栄養士に必要な視点を身につける。									○	○		
自ら学習テーマ（自主研究）整理し報告できるようになる。									○	○	○	○
社会人、栄養士として通用するコミュニケーション能力を身につける。										○	○	
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）							
1. 給食業務に必要な給食費、献立作成、材料発注、検収業務、食数管理、調理作業、配膳など基本的業務に加え、実習施設ごとの対象者に対する栄養食事管理についても学ぶ。					施設ごとの給食の目的を理解し、対象者に則した食事の要点を把握しておく。							
2. 実習前に施設を事前訪問し、実習計画や施設の概要を知る。					実習施設の特徴を理解した上で訪問する。							
3. 実習期間中に必要な課題や自主研究に取り組む。					今までの学習成果を生かし課題に着手する。							
4. 実習期間中は毎日校外実習ノートに記録を残す。					実習先で受けた指導内容を理解し、実習ノートにその記録を残す。							
5. 実習終了後は、反省点等の振り返りを事後指導として行う。					学内で事後指導を受け、実習での学びをまとめ、成果と反省、課題を見出す。							
履修上の注意												
校外実習期間中、遅刻や欠席により定められた時間数で実習ができない場合、評価の対象からはずれる場合もある。実習に支障がないよう体調管理にも十分注意すること。												
成績評価方法・基準												
実習前の評価（50％）積極性、準備や課題への取り組み状況（計画性）。実習中の評価（30％）勤務状況（遅刻・欠席）、実習態度（積極性）、課題達成度。実習後の評価（20％）実習後の報告、事後指導、校外実習ノートの評価。												
教科書												
〔管理栄養士・栄養士になるための国語表現〕〔田上貞一郎〕〔萌文書林〕〔1,800+税〕												
参考書												
〔大量調理施設衛生管理のポイント〕〔中央法規〕〔2,400+税〕												
備 考												
校外実習については、実習先との都合上、夏季休暇中や後期に実施することがあります。 質問等については、オフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。												

授業科目名		栄養士基礎演習			単位（総授業時間＋自習時間）				1（30+15）				
担当者	益田 裕司		必・選	栄（必）	形態	演習	学期	後期	対象	食専 1 年			
授業の概要													
2 年次の校外実習の準備として、給食施設の特徴や献立作成、衛生管理などの基本的内容、及び社会の一員として学習するために必要なマナーや心構えについて教員の現場経験を取り入れた視点から解説する。また、校外実習をより効果的に行なえるよう、実際の給食施設で勤務実績のある管理栄養士より施設ごとの栄養給食管理業務の講話をいただき、栄養士に求められる知識と技能、コミュニケーション能力について理解する。更に校外実習対策として事前課題に必要な知識について演習を通して学習する。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
社会で活躍する栄養士の責任と役割を理解することができる。										○	○	○	
施設ごとに求められる栄養士の技能を理解することができる。										○	○	○	
多職種と連携およびコミュニケーションの重要性を知る。											○		○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. ガイダンス 栄養士の職場環境について						シラバスの内容を理解し今後の授業に備える。							
2. 保育所・学校・事業所・病院・老人介護施設給食について						栄養士の活躍の場を理解する。							
3. 聴講でのマナー、服装等の注意点、レポートの書き方について						聴講に必要な身だしなみやマナー、ルールを理解する。							
4. 栄養士の職務内容と実習①保育所（講演）						聴講後レポートを提出する。							
5. 栄養士の職務内容と実習②学校（講演）						聴講後レポートを提出する。							
6. 栄養士の職務内容と実習③事業所（講演）						聴講後レポートを提出する。							
7. 栄養士の職務内容と実習④病院（講演）						聴講後レポートを提出する。							
8. 栄養士の職務内容と実習⑤老人介護施設（講演）						聴講後レポートを提出する。							
9. 円滑な業務を行うための職場の仕組み①保育所・学校・事業所						聴講時に配布された資料を復習する。							
10. 円滑な業務を行うための職場の仕組み②病院・老人介護施設						聴講時に配布された資料を復習する。							
11. 対象者との接し方、コミュニケーションについて						多職種との連携の重要性を理解する。							
12. 校外実習に向けたトレーニング①（対象者の把握）						給食の対象者との特性を理解する。							
13. 校外実習に向けたトレーニング②（栄養業務の演習）						演習内容を復習し理解する。							
14. 校外実習に向けたトレーニング③（安全・衛生・危機管理の実務について）						実務と連携できるよう復習する。							
15. まとめ 栄養士に求められるスキルについて						校外実習に向け自分の課題を検討する。							
履修上の注意													
各職場で栄養業務を行うために必要な知識となります。各自、目的意識を明確にもつこと。また、聴講においては身だしなみにも注意すること。遅刻 3 回で欠席 1 回とする。また聴講授業では、遅刻は認められず欠席扱いとなる場合もあるため十分に注意すること。													
成績評価方法・基準													
平常点 50%（平常点は、授業への参加状況および受講態度（積極性）で総合的に判断する。）レポート 50%（必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としないことがある。提出したレポートは評価して返却する。）													
教科書													
〔給食の運営 給食計画・実務論 第 5 版〕〔富岡和夫〕〔医歯薬出版〕〔2,800+税〕													
参考書													
〔各施設における講演時の配布資料〕													
備 考													
各講演の時期に関しては講師の都合により変動します。 質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。													

授業科目名		食文化論				単位（総授業時間＋自習時間）				2（30+60）			
担当者	深澤 律子		必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	食専 2 年			
授業の概要													
2013 年 12 月、ユネスコ無形文化遺産に「和食；日本人の伝統的な食文化―正月を例として―」が登録された。提案書では、和食文化の実践者はすべての日本人であるとされ、栄養士として、日本の食文化を学び、実践する意義は大きい。日本人は古代よりその土地の気候風土に合った農耕や狩りや漁をして、安全で美味しい食物を摂取するための努力を重ねてきた。歴史の中で外国から来た食材や料理を取り入れ、米と大豆、魚や野菜を中心に発酵食が発達した。食文化の変遷をたどり、現在の日本人の食生活と健康について科学的な根拠をもとに考察する。給食の現場で献立を作成した経験を活かしてこの講義を進めていく。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
① 食べ物と人との関わりを歴史的変遷、食の嗜好性、食文化の観点から説明できる。								○		○			
② 現在の食生活と健康の問題点を提起し、解決方法を見出し栄養士としての役割を認識できる。								○		○			
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. ガイドンス、「和食」日本人の伝統的な食文化、DVD 視聴						「 てんぞきょうぐん 典座教訓」「精進料理」「和食」に関することを調べてレポートにまとめ提出。							
2.和食文化の特徴、世界の食物史と日本の食文化						世界の食文化と日本の食文化についてまとめ提出。							
3.世界の食文化の形成、粉食文化と粒食文化						P22～29 を読み、感想を書き提出。							
4.日本の食文化形成と展開 米（稲作の伝播と調理）						P32～39 を読み、感想を書き提出。							
5.異文化接触と受容（古代～近世、南蛮文化、欧米文化）						P42～49 を読み、感想を書き提出。							
6.主食の文化（木の実と芋類）（米）（大麦・小麦・雑穀）						興味のある食品について調べて提出。							
7.副食の文化（魚介類）（豆類、大豆）（肉、乳、卵）						興味のある食品について調べて提出。							
8.副食の文化（野菜、果物、きのこ、海藻）						興味のある食品について調べて提出。							
9.調味料（塩と砂糖）発酵調味料（酒と酢）（みそと醤油）、						興味のある食品について調べて提出。							
10.油脂、だし、香辛料						興味のある食品について調べて提出。							
11.菓子（和菓子、洋菓子）、茶、酒						興味のある食品について調べて提出。							
12.日本料理の形成と発展（本膳料理、懐石料理、会席料理）						P92～99 を読み、感想を書き提出。							
13.食物に関わる年中行事						年中行事と行事食をまとめて提出。							
14.行事食と郷土食						地場産品と地元の郷土料理を調べて提出。							
15.儀礼と食べ物、食事の作法（箸の作法）						箸の作法を調べてまとめ提出							
16.筆記試験													
履修上の注意													
・配布資料やレポートをファイルに保管する。重要な語句にアンダーラインを引く。													
成績評価方法・基準													
筆記試験 50%、毎時間のレポート提出 40%、受講態度 10%（感想・レポート内容・熱心さ等） 提出されたレポートは、後日添削して返却し、講義時にフィードバックを行う。													
教科書〔日本の食文化「和食」の継承と食育 新版〕〔江原絢子・石川尚子編著〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔2500 円〕													
参考書〔日本のしきたりがまるごとわかる本〕〔沢井竜太〕〔普遊舎〕〔680 円〕													
備 考													
・講義の際に授業内容のプリントを配布し、参考文献、資料を提示します。 ・都合により、授業計画の順番等を変更することがあります。 ・ルーブリックを授業中に配布するので、学修目標として参照してください。 ・質問等については授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受付けます。													

授業科目名		食生活支援論Ⅰ				単位（総授業時間＋自習時間）				1（30＋15）			
担当者	松尾広・池田展敏・伊藤常久				必・選	選	形態	演習	学期	前期	対象	食専 1 年	
授業の概要													
私たちが健康で豊かな生活を送るためには、日本をはじめとした食に関する現状を理解すると共にそれぞれの食生活を振り返りながら正しい食生活の基本を理解し、実践することが必要である。この授業では、食に関する歴史や文化を紹介しながら、食・栄養についての科学的な知識や経済・流通等、食に関するさまざまな事柄について説明を行う。加えて、今後の食生活の方向性について考え、助言できるよう食生活アドバイザー資格（3 級）取得を目標とした対策・アドバイスをを行う。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
健康で豊かな食生活とその意義について理解する。								○		○			
資格取得に向けた食生活の基本的な知識を身につける。								○		○			
持続可能な食生活を考え、実践するための力を身につける。								○		○			
授業計画の内容							自習（事前・事後学修の内容）						
1. ガイダンス、食生活の意義・機能・五大栄養素（伊藤）							テキスト及び配布プリントの復習						
2. 栄養と健康：生鮮食品と加工食品（池田）							用語の事前確認・テキスト及び配布プリントの復習						
3. 栄養と健康：生活習慣病の概念と予防（伊藤）							用語の事前確認・テキスト及び配布プリントの復習						
4. 栄養と健康：成長期の課題・ダイエット・欠食（伊藤）							用語の事前確認・テキスト及び配布プリントの復習						
5. 食の安全：食中毒（伊藤）							用語の事前確認・テキスト及び配布プリントの復習						
6. 食の安全：法律・環境（伊藤）							用語の事前確認・テキスト及び配布プリントの復習						
7. 食文化と食習慣：日本と世界（池田）							用語の事前確認・テキスト及び配布プリントの復習						
8. 食文化と食習慣：地域の食事・行事食（池田）							用語の事前確認・テキスト及び配布プリントの復習						
9. 食文化と食習慣：旬の食材・食の諺・食のマナー（池田）							用語の事前確認・テキスト及び配布プリントの復習						
10. 食の流通（松尾）							用語の事前確認・テキスト及び配布プリントの復習						
11. 食品の表示・マーク（松尾）							用語の事前確認・テキスト及び配布プリントの復習						
12. 食と社会生活（松尾）							用語の事前確認・テキスト及び配布プリントの復習						
13. 模擬試験の解答及び解説（松尾）							プリントの復習と講義内容の振り返り						
14. 試験、授業評価アンケート（伊藤）							筆記試験に向けた復習						
履修上の注意													
・遅刻・欠席はしないこと。													
・食生活アドバイザー試験の日程に合わせて、講義日程（時間割）を調整する。													
成績評価方法・基準													
・期末試験（70%）、受講態度（30%）。													
・試験については解答例をまとめたレジュメを配布することでフィードバックとする。													
教科書 〔改訂版食生活アドバイザー3 級公式テキスト〕〔FLA ネットワーク協会編〕〔日本能率協会マネジメントセンター〕〔1,944 円〕													
参考書 なし。													
備 考													
・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。													
・質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。													

授業科目名		食生活支援論Ⅱ				単位（総授業時間＋自習時間）				1（30＋15）				
担当者	池田展敏・松尾 広・伊藤常久				必・選	選	形態	演習	学期	後期	対象	食専 1 年		
授業の概要														
私たちが健康で豊かな生活を送るためには、日本をはじめとした食に関する現状を理解すると共にそれぞれの食生活を振り返りながら正しい食生活の基本を理解し、実践することが必要である。この授業では、食に関する歴史や文化を紹介しながら、食・栄養についての科学的な知識や経済・流通等、食に関するさまざまな事柄について説明を行う。また、食生活アドバイザー資格（2 級）取得を目標として、3 級相当の知識も一部確認しながら受験対策・アドバイスをを行う。														
授業の到達目標									学位授与の方針との関連					
									1	2	3	4	5	6
健康で豊かな食生活とその意義について理解する。									○		○			
資格取得に向けた食生活の基本的な知識を身につける。									○		○			
持続可能な食生活を考え、実践するための力を身につける。									○		○			
授業計画の内容							自習（事前・事後学修の内容）							
1．ガイダンス、食生活の意義・機能・五大栄養素（伊藤）							テキスト及び配布プリントの復習							
2．栄養と健康：生鮮食品と加工食品（池田）							用語の事前確認・テキスト及び配布プリントの復習							
3．栄養と健康：生活習慣病の概念と予防（伊藤）							用語の事前確認・テキスト及び配布プリントの復習							
4．栄養と健康：成長期の課題・ダイエット・欠食（伊藤）							用語の事前確認・テキスト及び配布プリントの復習							
5．食の安全：食中毒（伊藤）							用語の事前確認・テキスト及び配布プリントの復習							
6．食の安全：法律・環境（伊藤）							用語の事前確認・テキスト及び配布プリントの復習							
7．食文化と食習慣：日本と世界（池田）							用語の事前確認・テキスト及び配布プリントの復習							
8．食文化と食習慣：地域の食事・行事食（池田）							用語の事前確認・テキスト及び配布プリントの復習							
9．食文化と食習慣：旬の食材・食の諺・食のマナー（池田）							用語の事前確認・テキスト及び配布プリントの復習							
10. 食の流通（松尾）							用語の事前確認・テキスト及び配布プリントの復習							
11. 食品の表示・マーク（松尾）							用語の事前確認・テキスト及び配布プリントの復習							
12. 食と社会生活（松尾）							用語の事前確認・テキスト及び配布プリントの復習							
13. 模擬試験の解答及び解説（松尾）							プリントの復習と講義内容の振り返り							
14. 試験、授業評価アンケート（伊藤）							筆記試験に向けた復習							
履修上の注意														
・遅刻・欠席はしないこと。														
・食生活アドバイザー試験の日程に合わせて、講義日程（時間割）を調整する。														
成績評価方法・基準														
・期末試験（70%）、受講態度（30%）。														
・試験については解答例をまとめたレジュメを配布することでフィードバックとする。														
教科書 〔改訂版食生活アドバイザー2 級公式テキスト〕〔FLA ネットワーク協会編〕〔日本能率協会マネジメントセンター〕〔2,160 円〕														
参考書 なし。														
備 考														
・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。														
・質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。														

授業科目名		特別演習				単位（授業時間＋自習時間）				2(60+30)	
担当者	永沼孝子、曾根雅彦、鈴木裕行、伊藤常久、黒川優子、益田裕司、済渡久美	必・選	選	形態	演習	学期	前期集中	対象	食専2年		
授業の概要：											
本演習では、栄養士実力認定試験の試験範囲について総合的に復習を行い、栄養士の資質向上を目指し授業を行う。栄養士に必要な知識は「授業計画」にあるように大変多岐にわたるが、その内容を集中的に復習することで、ばらばらになっている知識を再統合する。また、栄養士実力認定試験や管理栄養士国家試験の過去問題を解くことにより、知識が不足している個所を再確認させるとともに、卒業までおよび卒業後の復習につなげる。											
授業の目標(到達目標)							学位授与の方針との関連				
							1	2	3	4	5
栄養士実力認定試験のメリット、試験範囲、出題形式が理解できる。							○		○		
栄養士に必要な知識を、総合的に身につける。							○		○		
選択式の問題を解くための読解力と思考力を身につける。							○		○		
授業計画の内容					事前・事後学修の内容						
1. ガイダンス、模擬テストⅠ					模擬試験の自己採点、誤った問題についての再学習。						
2.3. 食品学総論（永沼）授業の復習と練習問題解説					配布資料と練習問題の復習。教科書の再読。						
4.5.6. 生化学（鈴木）重要ポイントおよび演習問題の解説					配布資料の復習と練習問題の解答確認。						
7.8. 公衆衛生学（伊藤）授業の復習と練習問題解説					配布資料と練習問題の復習。教科書の再読。						
9.10.11. 食品学各論（永沼）重要ポイントの解説と問題演習					配布資料と練習問題の復習。教科書の再読。						
12.13. 食品衛生学（黒川）演習問題の解説					配布資料の復習。						
14.15.16. 栄養学総論（永沼） 要点の復習と練習問題解説					配布資料と練習問題の復習。教科書の再読。						
17.18. 栄養学各論（永沼） 要点の復習と練習問題解説					配布資料と練習問題の復習。教科書の再読。						
19.20. 臨床栄養学概論（益田）問題の傾向と対策					配布資料と練習問題の復習。教科書の再読。						
21.22.23. 調理学（済渡）要点の復習と演習問題の解説					配布資料・教科書、練習問題の復習。						
24.25.26. 解剖生理学（曾根）重要ポイントの解説					配布資料の復習。						
27.28.29. 給食管理論（益田）問題の傾向と対策					配布資料と練習問題の復習。教科書の再読。						
30. 模擬試験（永沼）					模擬試験の自己採点、誤った問題についての再学習。						
履修上の注意											
毎回配布資料があるので、ファイルに綴じて整理すること。授業で終わらない課題は、各自で時間外に行うこと。											
成績評価方法・基準											
授業に臨む態度・積極性 30%、提出物 10%、模擬試験の成績 60%。試験答案などの提出物は後日添削して返却するか、解答などを配布する。また必要に応じ返却時に解説を行う。											
教科書											
授業毎に資料を配布する。また、各科目の授業で使用した教科書を持参すること。											
参考書											
なし											
備 考											
質問等については、授業終了時あるいは担当教員オフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付けます。集中講義の日程などの連絡に注意すること。授業の順番には変更がある。											

授業科目名	テーブルコーディネートⅠ（テーブルマナーを含む）				単位（総授業時間＋自習時間）				1(30+15)			
担当者	小林 知恵子	必・選	選	形態	演習	学期	前期	対象	食専1年			
授業の概要												
基本理論、アイテム・セッティング・カラー・テーブルマナーの基礎知識に加え、和・洋・中、各国の食文化に対応した正しいアイテム選び、食卓の表現方法が習得出来るよう指導。食空間コーディネーター・卓育インストラクターとし、作り手、企業、各種協会、子育て支援に関わる担当講師が、時代に即したより深い知識を積極的に授業に展開。社会で自信を持って主体的に行動出来る、教養を身に付けた人材を育成する。また、授業は食空間コーディネーター3級試験にも対応しており、過去任意で外部受験した生徒の合格率は現在 100%である。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
食空間演出の必要性と効果を理解する事が出来る様になる									○	○		
テーブルウェアの基礎知識を習得し和・洋・中の基本的テーブルセッティングが出来る様になる									○	○		
旬な知識・マナーを習得し、社会人となる上での自信を持つ事が出来る。							○	○	○	○		○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）							
1.導入：講義の目的と授業展開。フードコーディネーターとは？					テキストをよく読んでおく							
2.食空間のあり方～テーブルコーディネートの基礎倫理～					テキストをよく読んでおく							
3.テーブルウェアの知識 ①リネンについて					テキストをよく読んでおく							
4.テーブルウェアの知識 ②陶磁器の基礎知識					テキストをよく読んでおく							
5.テーブルウェアの知識 ③洋陶磁器について					テキストをよく読んでおく							
6.テーブルウェアの知識 ④ガラス、カトラリーについて					テキストをよく読んでおく							
7.食空間におけるカラーコーディネート					テキストをよく読んでおく							
8.テーブルウェアの知識 ⑤センターピース、フィギュアについて					テキストをよく読んでおく							
8.食空間構成①洋食の基本セッティング（実習）					実習後、生活の中で再現し知識を定着させる事							
9.テーブルウェアの知識 ⑥和陶磁器について					テキストをよく読んでおく							
10. テーブルウェアの知識 ⑦漆器・箸について					テキストをよく読んでおく							
11. 食空間構成②和食の基本セッティング（実習）					実習後、生活の中で再現し知識を定着させる事							
12. 食空間構成③中国料理の基本セッティング（実習）					実習後、生活の中で再現し知識を定着させる事							
13. プランニングシートの作成について					テキストをよく読んでおく							
14. プランニングシートの作成（テーマ自由）					自由テーマのプランを練っておく							
15. プレゼンテーション					自由テーマのプランニングシート提出							
16. 試験					テキスト、配布資料をよく学習しておく							
履修上の注意												
グループ作品の製作実習の際、積極的に参加すること。												
成績評価方法・基準												
学期末の試験（50%）、提出課題（20%）、受講態度（30%）												
提出されたプランニングシートは、後日添削して返却。												
教科書〔フードコーディネーター 教本3級〕〔柴田書店〕〔3,240 円〕												
参考書〔食空間コーディネーターテキスト3級〕〔NPO 法人食空間コーディネート協会〕〔2,571 円〕												
備 考												
質問等については、授業終了時に受け付けます。												

授業科目名		テーブルコーディネートⅡ			単位（総授業時間＋自習時間）				1(45+15)		
担当者	小林 知恵子	必・選	選	形態	実習	学期	後期	対象	食専1年		
授業の概要											
各国のテーブルマナー、サービスマナー、プロトコルの基礎知識、フードサービスにおける空間デザインについて講義。											
校外学習ではプロの作品、担当講師の仕事を垣間見、実社会で要求される到達目標を認識。実習では、テーマを各自プランニングし、プレゼンテーションを重ねる事で、相互理解を深めながら、社会で自立し、主体的に行動できる能力を養う。コンテスト全国大会常連の講師が、テーマごとに生徒の作品を基に、時代に即した表現方法・芸術的創造性を披露。実習が実社会に繋がる様指導。											
授業の到達目標							学位授与の方針との関連				
							1	2	3	4	5
テーブルマナー、サービスマナー、プロトコルの基礎知識を習得。									○		
料理の特性、季節や祭事に合わせたコーディネートが出来るようになる。									○	○	
プランニング・プレゼンテーションで相互理解を深めると共に、実践力を身に付ける。										○	
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）						
1. テーブルマナーとサービスマナー（西洋料理）					テキストをよく読んでおく						
2. テーブルマナーとサービスマナー（日本料理）					テキストをよく読んでおく						
3. テーブルマナーとサービスマナー（中国料理）					テキストをよく読んでおく						
4. テーブル展見学（校外学習）					感想レポートをまとめ次回提出						
5. プロトコル（国際儀礼）の基礎知識					テキストをよく読んでおく。ハロウィン・ランニングシートの提出						
6. 食空間演出：ハロウィン（実習）					端午の節句・ランニングシートの提出						
7. 食空間演出：端午の節句（実習）					母の日・ランニングシートの提出						
8. 食空間演出：母の日（実習）					七五三・ランニングシートの提出						
9. 食空間演出：七五三（実習）					クリスマス・ランニングシートの提出						
10. 食空間演出：クリスマス（実習）					お正月・ランニングシートの提出						
11. 食空間演出：お正月（実習）					バレンタイン・ランニングシートの提出						
12. 食空間演出：バレンタイン（実習）					上巳の節句・ランニングシートの提出						
13. 食空間演出：上巳の節句（実習）					ウエディング・ランニングシートの提出						
14. 食空間演出：ウエディング（実習）					テキストをよく読んでおく						
15. フードサービスにおける空間デザイン					テキストをよく読んでおく						
16. 試験					テキスト、配布資料をよく学習しておく						
履修上の注意											
行事の慣習の知識を深め、実習の際には創意工夫をもって、積極的に参加すること。											
成績評価方法・基準											
学年末の試験（40%）、提出課題（30%）、受講態度（30%）											
提出されたプランニングシートは、次回授業内でフィードバックし、後日添削して返却。											
教科書〔フードコーディネーター 教本3級〕〔柴田書店〕〔3,240 円〕											
参考書〔食空間コーディネーターテキスト3級〕〔NPO 法人食空間コーディネート協会〕〔2,571 円〕											
備 考											
質問等については、授業終了時に受け付けます。											

授業科目名		フードマネジメント			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)		
担当者	堀田 宗徳	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	食専2年		
授業の概要											
我々の食生活の中で、食の外部化が進展し、外食・中食が欠かせないもので身近なものとなっており、外食産業の市場規模も 25 兆円を超え、中食を含めると 30 兆円を超える大きなマーケットを形成している。しかし、外食・中食の実態を知ることや体系的に学ぶことはほとんど無い状況にある。そこで、この講義では、外食・中食のマネジメントを習得するため外食・中食の定義、業種・業態論、産業構造、食材調達とメニュー戦略、出店政策など外食・中食の基本理論を具体的事例を織り交ぜながら体系的に講義を行う。											
授業の到達目標							学位授与の方針との関連				
							1	2	3	4	5
Ⅰ. 食全体の仕組み（フードシステム）を理解できるようにする。									○		○
Ⅱ. 外食・中食（なかしょく）の基本理論を習得する。									○		○
Ⅲ. 外食・中食をマネジメントできる能力を習得する。									○		○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）						
1.ガイダンス：これから行う講義の目的・内容、進め方、参考文献等について説明											
2.フードシステムの考え方と外食・中食のポジショニング					事前学修：食の流れについて考えてくる。 事後学修：授業の最後に話すキーワードについて自分なりの考え方をまとめる。						
3. 外食・中食の定義、飲食店の機能と業種業態論					事前学修：外食の定義を考えてくること。 事後学修：授業の最後のキーワードについて考えをまとめる。						
4. 外食産業の産業構造、市場規模、大手外食企業の売上高占有率					事前学修：大手外食企業とはどのようなものなのか考えてくる。 事後学修：授業の最後のキーワードについて考えをまとめる。						
5. 外食産業の出店政策 1：事業展開の仕組み					事前学修：出店とはどういうことか考えてくる。 事後学修：授業の最後のキーワードについて考えをまとめる。						
6. 外食産業の出店政策 2：既存店の現状と最近の出店政策					事前学修：既存店とは何か考えてくる。 事後学修：授業の最後のキーワードについて考えをまとめる。						
7. 外食産業の競争構造：売上高ランキング					事前学修：外食企業の売上高 1 位はどこか調べる。 事後学修：授業の最後のキーワードについて考えをまとめる。						
8. 外食産業の食材調達：食材調達の原則、国産・輸入割合等					事前学修：外食企業の食材仕入で大切だと思うことを調べる。 事後学修：授業の最後のキーワードについて考えをまとめる。						
9. 外食産業のメニュープランニングとメニュー戦略					事前学修：売筋メニューは 1 日何品売れているか考えてくる。 事後学修：授業の最後のキーワードについて考えをまとめる。						
10. 外食産業の経営指標：貸借対照表と損益計算書、中間テスト実施					事前学修：第 9 回までの中間テストに備えること。						
11. 中食産業の構造と経営戦略					事前学修：中食とは何か調べること。 事後学修：授業の最後のキーワードについて考えをまとめる。						
12. 外食・中食産業史：外食・中食企業の発展過程					事前学修：外食はいつ頃からあったのか調べること。 事後学修：授業の最後のキーワードについて考えをまとめる。						
13. 消費者の外食・中食行動					事前学修：消費者が外食や中食をする時、何を重視するのか考えてくる。 事後学修：授業の最後のキーワードについて考えをまとめる。						
14. 食の安全・安心と企業のコンプライアンス、将来の外食・中食の姿					事前学修：コンプライアンスについて調べてくる。 事後学修：授業の最後のキーワードについて考えをまとめる。						
15.まとめ					試験の準備						
16.期末試験					試験の準備						
履修上の注意											
他の学生に迷惑をかけないよう私語は厳禁、携帯電話をマナーモードにすること。											
成績評価方法・基準											
期末試験（50％）、中間テスト（30％）、受講態度（コメントや質問が出席カード裏面に記されているか等）（20％）											
中間テストに関しては終了時に模範解答を配布する。											
教科書 毎回、授業前にプリント資料を配付											
参考書〔新版フードコーディネーター教本〕〔日本フードコーディネーター協会〕〔柴田書店〕〔3,240 円〕											
備考											
オフィスアワーは授業終了後教室											

授業科目名		フードエンタテインメント演習			単位（授業時間＋自習時間）				1(30+15)		
担当者	池田展敏、堀江志穂	必・選	選	形態	演習	学期	後期	対象	食専2年		
授業の概要											
あらゆる食の分野を複合的にコーディネートするのがフードコーディネータの仕事です。この授業の前半では、フラワーアレンジメントの演習とホテルレストランにおける研修によって食空間の演出技法や考え方、ホスピタリティを学びます(堀江講師や担当講師の実務経験を反映した内容)。また、食品工場等の見学を通じ、「生産」「製造」「衛生管理」「流通」「販売」「地域貢献」など、多様な食の世界を理解することで、フードコーディネータとしての資質向上を目指す授業を行います。											
授業の目標(到達目標)						学位授与の方針との関連					
						1	2	3	4	5	6
フラワーアレンジメントの基礎事項を修得し作品を作ることができる。								○			
食空間に大切な要素を理解し、テーブルマナーを身につける。								○			
商品開発や食品工場管理の概要について理解する。								○			
以上のことがらを文章や口頭で説明できる。											○
授業計画の内容					事前・事後学修の内容						
1. ガイダンス：授業の進め方、フードコーディネーターとは（池田）					配布プリントの復習。						
2. テーブルフラワーアレンジメント①：基本のオールラウンド（堀江）					作品の写真撮影と、まとめプリント作成						
3. テーブルフラワーアレンジメント②：和食用アレンジメント（堀江）					作品の写真撮影と、まとめプリント作成						
4. テーブルフラワーアレンジメント③：ハロウィンのアレンジメント（堀江）					作品の写真撮影と、まとめプリント作成						
5. テーブルフラワーアレンジメント④：クリスマスアレンジメント（堀江）					作品の写真撮影と、まとめプリント作成						
6. 産学連携講座①：シティーホテルの構成（会場見学）と厨房見学（以下、池田）					配布プリント、講義メモを復習						
7. 産学連携講座②：ホテルのレストランにおける各演出					配布プリント、講義メモを復習						
8. 産学連携講座③：テーブルマナー講座					配布プリント、講義メモを復習しレポート提出						
9. ブライダル会場の見学①：パーティー会場の見学と接客について					配布プリント、講義メモを復習						
10. ブライダル会場の見学①：結婚式場における食事提供の考え方					配布プリント、講義メモを復習しレポート提出						
11. 食品工場の見学①：商品開発やブランド戦略					配布プリント、講義メモを復習						
12. 食品工場の見学②：食品衛生の実践について					配布プリント、講義メモを復習しレポート提出						
13. グループ学習：パーティー企画立案または宮城の加工食品に関する調査					必要な調査を行うこと						
14. グループ学習：パーティー企画立案または宮城の加工食品に関して発表準備					発表に備えた準備を完了させること						
15. まとめの授業（グループ学習の発表）					発表の準備と復習						
履修上の注意											
食事や花代、交通費等の実費を徴収する。校外の見学では、身だしなみやあいさつ、礼儀に気をつけること。提出物が学修の記録となるため、必ずひとつのファイルに綴じ整理すること											
成績評価方法・基準											
フラワーアレンジメントの作品（35%）、レポートの内容（45%）。発表の準備と評価（20%）。提出物は後日添削して返却する。											
教科書 各回に必要な資料を配布する。											
参考書 なし											
備考											
都合により、訪問先の変更があります。日程調整のため、シラバス通りの順番で進行しないので注意すること。質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付けます。											

授業科目名	コンピュータサイエンス概論				単位（授業時間＋自習時間）				2(30+60)			
担当者	池田 展敏		必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	食専 2 年		
授業の概要												
情報社会を生きる私たちにとって、コンピュータやネットワークの仕組み・危険性に関する基礎知識は不可欠なものである。本講義では、情報がどのようにデジタル化されコンピュータや記録媒体等で扱われるのか、ハードとソフトの両面から学習したのち、情報社会で生活するための情報倫理やセキュリティーについて学べるように授業を行う。授業の方法としては、アクティブラーニングの手法を取り入れ、項目ごとにチーム学習と発表を行っていく。												
授業の目標(到達目標)							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
デジタルデータとコンピュータの仕組み（ハードウェア）を理解する。							○					
インターネットや LAN などのネットワークの仕組みを理解する。							○					
ネットワーク社会で必要となるセキュリティーの知識とモラルを習得する。							○				○	
チームで協力して情報収集と発表ができる。												○
授業計画の内容					事前・事後学修の内容							
1. ネットワーク社会と情報。アクティブラーニングの手法について					配布プリントの復習。							
2. 「デジタル（ビット）がコンピュータのデータの基本」の調査					教科書該当部分を読む。キーワードの検索調査							
3. 「デジタル（ビット）がコンピュータのデータの基本」の発表準備					教科書該当部分を読む。発表資料の準備。							
4. 「デジタル（ビット）がコンピュータのデータの基本」の発表					発表内容とまとめプリントの学習							
5. 「コンピュータの 5 大機能とハードウェア」の調査					教科書該当部分を読む。キーワードの検索調査							
6. 「コンピュータの 5 大機能とハードウェア」の調査の発表準備					教科書該当部分を読む。発表資料の準備。							
7. 「コンピュータの 5 大機能とハードウェア」の発表					発表内容とまとめプリントの学習							
8. 「インターネットの仕組み」に関する調査					教科書該当部分を読む。キーワードの検索調査							
9. 「インターネットの仕組み」に関する発表準備					教科書該当部分を読む。発表資料の準備。							
10. 「インターネットの仕組み」に関する発表					発表内容とまとめプリントの学習							
11. 「インターネットを安全に使うために」の調査					教科書該当部分を読む。キーワードの検索調査							
12. 「インターネットを安全に使うために」の発表準備					教科書該当部分を読む。発表資料の準備。							
13. 「インターネットを安全に使うために」の発表					発表内容とまとめプリントの学習							
14. コンピュータのハードとソフトの発展（補足事項）					課題プリントの学習							
15. 情報モラルに関する学習および小テスト					それまでの配布プリントを復習し小テストに備える							
履修上の注意												
各テーマに対して、教科書などを読み込むなどの予習をしておかないと、チーム学習が成り立たない。よって、十分な予習を心がけること。												
成績評価方法・基準												
発表の準備と内容（12%×4＝48%）、テスト（48%）、提出物(4%)。グループ発表の資料後日はプリントして配布する。小テストは添削して返却する。												
教科書 〔情報社会のデジタルメディアとリテラシ〕〔小島正美編著〕〔ムイスリ出版〕〔1,800 円〕												
参考書 なし												
備考：												
グループ学習におけるルーブリックを初回に配布します。質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付けます。												

子ども生活専攻専攻科目

子ども生活専攻専攻科目

授業科目名		保育原理			単位（総授業時間＋自習時間）					2（30+60）			
担当者	三浦 主博		必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	子専1年			
授業の概要													
保育士養成課程の必修科目「保育の本質・目的に関する科目」として位置づけられている。保育の意義及び目的、保育に関する法令（児童福祉法、学校教育法、認定こども園法等）及び制度（保育所、幼稚園、認定こども園、子ども・子育て支援新制度等）、保育所保育指針における保育の基本（保育の目標、内容、環境、方法、計画と評価等）について概説する。また、諸外国と日本を比較しながら、保育の思想と歴史的変遷、保育の現状と課題について概説し、話し合いや発表等を通して理解を深め考えていく。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
保育の意義及び目的について理解する。										○		○	
保育所保育指針における保育の基本について理解する。										○		○	
保育の思想と歴史的変遷について理解する。										○			
保育の現状と課題について理解する。									○	○		○	
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. オリエンテーション						当該科目の授業内容・計画について理解する。							
2. 保育の意義及び目的 保育の理念と概念						教科書1章をよく読み、予習・復習をする。							
3. 保育に関する法令及び制度①：保育所						教科書3章をよく読み、予習・復習をする。							
4. 保育に関する法令及び制度②：幼稚園						教科書3章をよく読み、予習・復習をする。							
5. 保育に関する法令及び制度③：子ども・子育て支援新制度						教科書3・13章をよく読み、予習・復習をする。							
6. 保育に関する法令及び制度④：幼保連携型認定こども園						教科書3章をよく読み、予習・復習をする。							
7. 保育所保育指針における保育の基本①：保育指針とは						教科書4章をよく読み、予習・復習をする。							
8. 保育所保育指針における保育の基本②：保育における養護						教科書5章をよく読み、予習・復習をする。							
9. 保育所保育指針における保育の基本③：保育の目標・内容						教科書5・6・7章をよく読み、予習・復習をする。							
10. 保育所保育指針における保育の基本④：保育の環境・方法						教科書5・6・7章をよく読み、予習・復習をする。							
11. 保育所保育指針における保育の基本⑤：子どもの理解に基づく保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）とその循環						教科書8章をよく読み、予習・復習をする。							
12. 保育の思想と歴史的変遷①：諸外国の保育の思想と歴史						教科書11章をよく読み、予習・復習をする。							
13. 保育の思想と歴史的変遷②：日本の保育の思想と歴史						教科書12章をよく読み、予習・復習をする。							
14. 保育の現状と課題①：諸外国の保育の現状						教科書13章をよく読み、予習・復習をする。							
15. 保育の現状と課題②：日本の保育の現状と課題						教科書9・10・13章をよく読み、予習・復習をする。							
16. 期末試験													
履修上の注意 授業への取り組み（受講態度・課題提出）を重視します。 授業内容をしっかりとノートに取ること。													
成績評価方法・基準 授業への取り組みの状況（20%）、及び期末試験（80%）により総合的に評価します。なお、欠席が1/3以上の者には単位を認定しません。提出課題等については授業中に、期末試験の結果は後日機会を設けてフィードバックします。													
教科書〔シリーズ知のゆりかご つながる保育原理〕〔井上孝之他〕〔みらい〕〔2,268円〕													
参考書〔最新保育資料集2019〕〔子どもと保育総合研究所〕〔ミネルヴァ書房〕 〔保育所保育指針解説〕〔厚生労働省〕／〔幼稚園教育要領解説〕〔文部科学省〕／ 〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔内閣府・文科省・厚労省〕													
備考 質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。													

授業科目名		教育原理			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)			
担当者	盛下 真優子	必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	子専 1 年			
授業の概要												
本講義ではまず乳幼児に対する教育の本質を理解するために、教育の目的や教育の意味を講義する。その際にヒト、保育、人間形成などの基礎理念を整理したい。次に教育観や保育観、子ども観の変遷とともに、日本と諸外国でどのように教育や保育という営みが起こり広がっていったのかを解説する。また、乳幼児に関するさまざまな思想を取り上げ、代表的な教育思想家や現代の教育思想を幅広く紹介する。講義中には自らの考えを発表し他の学生と討論する時間を設けることで、学生自身が自らの教育観や保育観、子ども観を捉え直し、保育実践の基盤として据えられるようにしたい。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
1. 教育の本質・目的・概念に関する基礎的な知識を習得する。									○			
2. 教育の歴史的変遷や現代社会における教育課題を理解する。							○		○		○	○
3. 日本と諸外国の教育思想について理解する。									○			
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）							
1. オリエンテーション：教育原理で何を学ぶか					シラバスの確認、学習内容を見通す							
2. 教育とは何か					辞書で「教育」を調べる／復習							
3. 教育の目的と目標					自分の教育観を知る／復習							
4. 教育の歴史（1）教育のはじまり					教育の起源を考える／復習							
5. 教育の歴史（2）子どもの発見					辞書で「子ども」を調べる／復習							
6. 教育の歴史（3）近代教育制度以前の学び					配布資料を読んでくる／復習							
7. 教育の歴史（4）近代教育制度の成立					配布資料を読んでくる／復習							
8. 教育の歴史（5）幼児教育のはじまり					教育思想家について調べてくる／復習							
9. 教育思想（1）ソクラテス、コメニウスなど					教育思想家について調べてくる／復習							
10. 教育思想（2）ルソー、ペスタロッチなど					教育思想家について調べてくる／復習							
11. 教育思想（3）フレーベル、モンテッソーリなど					教育思想家について調べてくる／復習							
12. 教育思想（4）倉橋惣三、城戸幡太郎など					教育思想家について調べてくる／復習							
13. 現代社会と教育課題					関心のある教育問題を調べる							
14. 現代の教育思想					配布資料を読んでくる／復習							
15. まとめ					学んだことを振り返り、総まとめをする							
16. 試験												
履修上の注意												
授業中の課題をしっかりと行うこと。配布資料が多いので、ファイリングをして失くさないようにすること。												
成績評価方法・基準												
平常点 40%（リアクションペーパーの内容、課題、参加態度）、期末試験 60%												
各回の授業でのリアクションペーパーおよび課題については、次回の授業の冒頭でフィードバックする。												
試験については、解答例をまとめたレジュメを配布することでフィードバックとする。												
教科書 事前にレジュメ等を配布する。												
参考書 〔西洋の教育の歴史と思想〕〔山崎英則・徳本達夫編著〕〔ミネルヴァ書房〕〔2700 円〕 〔いまがわかる教育原理〕〔西本望編〕〔みらい〕〔2268 円〕												
備 考												
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。												

授業科目名		子ども家庭福祉論			単位（総授業時間＋自習時間）				2（30+60）				
担当者	三浦 主博		必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	子専 1 年			
授業の概要													
保育士養成課程における必修科目であり、「保育の本質・目的に関する科目」として位置づけられている。子ども家庭福祉の概念・理念（子ども家庭福祉と保育の関係、子どもの権利等）、法律（児童福祉法、児童の権利に関する条約等）、制度（子ども家庭福祉行政の仕組み）、福祉機関（児童相談所、福祉事務所等）、児童福祉施設（乳児院、児童養護施設、障害児入所施設、児童厚生施設等）、及び現状と課題（少子化、児童虐待等）について概説し、話し合いや発表等を通して理解を深め考えていく。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
現代社会における児童家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する。									○	○			
児童家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権について理解する。										○		○	
児童家庭福祉の制度や実施体系等（児童福祉施設）について理解する。									○	○			
児童家庭福祉の現状と課題、動向と展望について理解する。									○	○		○	
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. オリエンテーション						当該科目の授業内容・計画について理解する。							
2. 子ども家庭福祉の概念・理念①(子ども家庭福祉とは？)						教科書・配布プリントを読み、予習復習を行う。							
3. 子ども家庭福祉の概念・理念②(子どもの権利)						教科書・配布プリントを読み、予習復習を行う。							
4. 子ども家庭福祉の制度①(法律・機関)						教科書・配布プリントを読み、予習復習を行う。							
5. 子ども家庭福祉の制度②(施設)						教科書・配布プリントを読み、予習復習を行う。							
6. 子ども家庭福祉に関する法律①(法律系の基本)						教科書・配布プリントを読み、予習復習を行う。							
7. 子ども家庭福祉に関する法律②(児童福祉法)						教科書・配布プリントを読み、予習復習を行う。							
8. 子ども家庭福祉に関する法律③(児童手当・母子に関する法律)						教科書・配布プリントを読み、予習復習を行う。							
9. 子ども家庭福祉の機関(児童相談所・福祉事務所など)						教科書・配布プリントを読み、予習復習を行う。							
10. 子ども家庭福祉の施設①(乳児院・児童養護施設など)						教科書・配布プリントを読み、予習復習を行う。							
11. 子ども家庭福祉の施設②(保育所・児童厚生施設など)						教科書・配布プリントを読み、予習復習を行う。							
12. 子ども家庭福祉の施設③(障害児入所施設など)						教科書・配布プリントを読み、予習復習を行う。							
13. 子ども家庭福祉の施設④(児童自立支援施設など)						教科書・配布プリントを読み、予習復習を行う。							
14. 子ども家庭福祉の現状と課題①(少子化問題)						教科書・配布プリントを読み、予習復習を行う。							
15. 子ども家庭福祉の現状と課題②(児童虐待・DV など)						教科書・配布プリントを読み、予習復習を行う。							
16. 期末試験													
履修上の注意													
授業への取り組み（受講態度・課題提出）を重視します。													
授業内容をしっかりとノートに取ること。													
成績評価方法・基準													
授業への取り組みの状況（20％）及び、期末試験（80％）により総合的に評価します。なお、欠席が 1/3 以上の者には単位を認定しません。期末試験の結果は後日機会を設けてフィードバックします。													
教科書	〔最新保育資料集 2019〕〔子どもと保育総合研究所〕〔ミネルヴァ書房〕〔2,160 円〕												
参考書	授業中に指示する。												
備考													
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。													

授業科目名		社会福祉論			単位（総授業時間＋自習時間）				2（30＋60）				
担当者	大瀬戸 美紀		必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	子専1年			
授業の概要													
社会福祉論は、保育士養成課程において保育の本質・目的の理解のための科目である。社会福祉は、憲法第25条の生存権規定を基盤として、その理念を具体化するべく、体系が築かれている。そして、現在に至っても多くの社会福祉問題を解決を目指して、社会福祉体系は変化を続けている。そこで、変化を続ける社会福祉の歴史的展開や基本的理念・原理について概観する。その中で、最近の社会福祉の動向を知り保育士に期待される役割について考え、自らの「専門性」についての自負や役割意識を培う。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
社会福祉に関する基礎的知識を身に付ける								○	○	○			
子どもを取り巻く社会環境について理解する								○					
保育士に期待される社会的役割を考える								○	○	○			
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1.オリエンテーション						授業の内容を把握し、今後の授業計画について知る							
2.社会福祉の理念						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
3.人権とは何か						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
4.社会福祉の史的展開						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
5.欧米における社会福祉の成り立ち						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
6.社会福祉の制度体系						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
7.社会福祉関係各法（1） - 「児童福祉法」を中心として -						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
8.社会福祉関係各法（2） - 「社会福祉法」を中心として -						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
9.社会福祉の制度体系の中の保育の位置づけ						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
10.児童家庭福祉の法体系の基盤						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
11.児童家庭福祉の制度・行政・機関						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
12.社会福祉における保育士の役割について						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
13.社会福祉制度と福祉サービス供給システムの多元化						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
14.社会福祉制度の現状と課題						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
15.まとめと試験						今までの学習内容を振り返り、さらに理解を深める							
履修上の注意													
社会福祉は、「生活」に密着した学問分野なので、日頃から自分の身の回りで起きている出来事などについて興味・関心を持ち、新聞等を読んで知識を深めることが望ましい													
成績評価方法・基準													
平常点（50％）、試験（50％）で総合的に評価する。平常点については、授業に中に発表したりするなどの積極的な授業への参加態度を高く評価する。また、試験については解答を配布し、学習の振り返りができるようにする。													
教科書〔社会福祉の形成と展開〕〔井村圭壯・今井慶宗 編著〕〔勁草書房〕													
参考書 授業の中で指示する													
備 考													
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワーに受け付ける。													

授業科目名		地域福祉論			単位（総授業時間＋自習時間）				2（30＋60）				
担当者	大瀬戸 美紀		必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	子専2年			
授業の概要													
地域福祉論は、保育士養成課程において保育の本質・目的の理解のための科目である。子育て支援においては、地域で子育てを支える社会づくりが重要であるという認識が広まりつつある。ここでは、子どもが健やかに育つための環境整備に関する施策や地域的な取り組みの現状と課題について概観する。さらに保護者支援の際に必要な地域における社会資源及びその利用の仕方などを学習する。その上で、コミュニティワークの基礎を理解する。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
地域福祉に関する基礎的な知識を身に付ける。								○		○			
地域福祉と子育て支援との関わりを理解する。								○	○	○			
子育て支援の地域的な取り組みを理解し、将来に生かす。									○	○			
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. オリエンテーション						授業の内容を把握し、今後の授業計画について知る							
2. 地域福祉の理念						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
3. 地域福祉展開の原則とサービス提供原理						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
4. 地域福祉実践の現状						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
5. 生活を支える諸サービスと福祉環境整備						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
6. 地域における子育て相談について						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
7. 地域における子育て支援とニーズのキャッチ						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
8. ソーシャルサポートネットワークについて						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
9. 地域福祉におけるボランティアの重要性						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
10. コミュニティソーシャルワークと保育士の仕事						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
11. 地域福祉の主体形成の方法論						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
12. 地域における福祉教育と子育て支援						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
13. 地域におけるNPOの取り組み：事例「地域から始まる子育て支援」						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
14. NPO活動の現状と課題						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
15. まとめと試験						今までの学習内容を振り返り、さらに理解を深める							
成績評価方法・基準													
平常点（50％）、試験（50％）で総合的に評価する。平常点については、授業中に発表したりするなどの積極的な授業への参加態度を高く評価する。また、試験については解答を配布し、学習の振り返りができるようにする。													
教科書 〔地域福祉の理論と方法〕〔木下聖・坪井真 編〕〔みらい〕〔2,600 円〕													
参考書 授業の中で指示する													
備 考													
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワーに受け付ける。													

授業科目名		相談援助			単位（総授業時間＋自習時間）				1（30＋15）				
担当者	大瀬戸 美紀		必・選	必	形態	演習	学期	前期	対象	子専2年			
授業の概要													
相談援助は、保育士養成課程において保育の本質・目的の理解のための科目である。保育士による相談援助の重要性は、今日広く認識されるところである。ここではまず、相談援助の意義と原則について説明し、その上で、相談援助の具体的な内容や方法を学ぶ。その上で、保育現場を意識した実践的な演習を行なうことにより、応用力を身につける。また、児童福祉施設における子どもや保護者に対する支援の実践についても、事例を通して理解する。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
相談援助についての基礎的知識や技術を身に付ける。										○	○	○	
相談援助の方法を理解し、実際に応用する力をつける										○	○	○	○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1. オリエンテーション					授業の内容を把握し、今後の授業計画について知る								
2. ソーシャルワークとはなにか					学習内容を復習し、分からなかったところを把握する								
3. 相談援助の定義					学習内容を復習し、分からなかったところを把握する								
4. 相談援助の対象					学習内容を復習し、分からなかったところを把握する								
5. 相談援助の技術					学習内容を復習し、分からなかったところを把握する								
6. 相談援助の実例①：事例研究（時間を設定した面接相談）					今まで学んだ知識・技術を使って事例について考える								
7. 相談援助の実例②：事例研究（送迎時の相談）					今まで学んだ知識・技術を使って事例について考える								
8. 相談援助の実例③：事例研究（子育て支援の場面での相談援助）					今まで学んだ知識・技術を使って事例について考える								
9. 相談援助の実例④：事例研究（子どもを対象としたグループワーク）					今まで学んだ知識・技術を使って事例について考える								
10. まとめと試験					今までの学習内容を振り返り、さらに理解を深める								
12.													
13.													
14.													
15.													
履修上の注意													
グループワークが中心となってくるので、活発な意見交換を通して、お互いに啓発し合えるような、積極的な態度で授業に臨んで欲しい。													
成績評価方法・基準													
平常点（50%）、試験（50%）で総合的に評価する。平常点については、授業中に発表したりするなどの積極的な授業への参加態度を高く評価する。また、試験については解答を配布し、学習の振り返りができるようにする。													
教科書〔演習・保育と相談援助第2版〕〔前田敏雄 監修〕〔みらい〕〔2,000 円〕													
参考書 授業の中で指示する													
備 考													
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワーに受け付ける。													

授業科目名		社会的養護Ⅰ			単位（総授業時間＋自習時間）				2（30＋60）				
担当者	大瀬戸 美紀		必・選	必	形態	講義	学期	後期	対象	子専１年			
授業の概要													
社会的養護は、保育士養成課程において保育の本質・目的の理解のための科目である。近年、社会的養護を必要とする子どもたちの保育の場として、施設養護のほかに「地域における子育て」が見直され始めている。そこでまず、子どもの養護や「幸せ」を考える視点が史的展開の中でどのように変化してきているかを説明する。その上で、子どもの養護に関わる法制や機関などの社会資源を知り、問題を抱えた子どもたちの生活環境を整えるための具体的方法を考察する。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
社会的養護に関する基礎的な知識を身に付ける。										○	○		
社会的養護に必要な社会資源について理解する。										○	○	○	
社会的養護における具体的な援助等の方法を知る。										○	○	○	○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
１．オリエンテーション						授業の内容を把握し、今後の授業計画について知る							
２．児童養護の意味						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
３．児童養護が目指すもの						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
４．保育士が児童養護を学ぶ視点						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
５．児童養護の史的展開						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
６．社会的養護の最近の動向						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
７．児童養護の基本的な考え方						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
８．児童養護の種類と内容（１）：乳児院						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
９．児童養護の種類と内容（２）：母子生活支援施設						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
10．児童養護の種類と内容（３）：児童養護施設						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
11．児童養護の種類と内容（４）：障害児入所施設						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
12．児童養護の種類と内容（５）：児童自立支援施設						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
13．家庭的養護の種類と内容						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
14．施設養護における保育士の援助・支援の在り方について						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
15．まとめと試験						今までの学習内容を振り返り、さらに理解を深める							
履修上の注意													
身近にある児童福祉施設でボランティア活動などをして、実践的に学ぶことが望ましい													
成績評価方法・基準													
平常点（50％）、試験（50％）で総合的に評価する。平常点については、授業中に発表したりするなどの積極的な授業への参加態度を高く評価する。また、試験については解答を配布し、学習の振り返りができるようにする。													
教科書〔保育と社会的養護原理第2版〕〔大竹智・山田利子 編集〕〔みらい〕〔2,200 円〕													
参考書 授業の中で指示する													
備 考													
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワーに受け付ける。													

授業科目名		保育者論			単位（総授業時間＋自習時間）				2（30+60）				
担当者	三浦 主博		必・選	必	形態	講義	学期	後期	対象	子専2年			
授業の概要													
幼稚園教諭養成課程（教育の基礎的理解に関する科目：教職の意義及び教員の役割・職務内容）及び保育士養成課程（保育の本質・目的に関する科目）の必修科目である。教職・保育職の意義、保育者（幼稚園教諭・保育士・保育教諭）の役割・資質能力・職務内容等について学び、教職・保育職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職・保育職の在り方を理解する。そのために、保育職の選択、保育者の役割、制度、専門性、協働などについて概説する。また、保育者としてのキャリア形成について考えるためにグループワーク等を行う。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
教職（幼稚園教諭）及び保育士の社会的意義や制度的な位置づけを理解する。									○	○		○	
保育者（幼稚園教諭・保育士・保育教諭）の専門性や役割、資質能力を理解する。										○		○	
保育者の職務内容について理解する。										○		○	
保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。										○		○	
保育現場の内外での連携・協働について理解する。									○	○			
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. オリエンテーション…保育者としてのキャリア形成を考える						教科書1章を読み、予習・復習をする。							
2. 保育者（幼稚園教諭・保育士・保育教諭）になる私…プレ保育者アイデンティティ						教科書2章を読み、予習・復習をする。							
3. 保育者の役割・資質能力と責務・倫理						教科書8章を読み、予習・復習をする。							
4. 保育者の制度的位置づけ…資格・要件・職務内容（服務・身分保障等）						教科書4・8章を読み、予習・復習をする。							
5. 幼稚園教育要領にみる幼稚園教諭の役割						教科書4・6章を読み、予習・復習をする。							
6. 保育所保育指針にみる保育者の専門性と資質						教科書4・5章を読み、予習・復習をする。							
7. 幼保連携型認定こども園教育・保育要領にみる保育教諭の役割						教科書4章を読み、予習・復習をする。							
8. 子ども理解・保育の計画・実践・省察						教科書4・6章を読み、予習・復習をする。							
9. 保育者の協働①：保護者支援						教科書7章を読み、予習・復習をする。							
10. 保育者の協働②：幼・保・認定こども園と小学校の接続						教科書10章を読み、予習・復習をする。							
11. 保育者の協働③：専門職・機関及び地域社会との連携						教科書6・8章を読み、予習・復習をする。							
12. 保育者としての成長と研修（法定研修・自己啓発）						教科書15章を読み、予習・復習をする。							
13. 保育者の専門職的成長①：生涯発達とキャリア形成						教科書1章を読み、予習・復習をする。							
14. 保育者の専門職的成長②：自分たちが目指す保育者像						教科書14章を読み、予習・復習をする。							
15. まとめ													
履修上の注意		授業への取り組み（受講態度・課題提出）を重視します。 授業毎の提出課題を必ず提出すること。											
成績評価方法・基準													
授業への取り組みの状況（30％）、及び提出課題（70％）により総合的に評価します。なお、欠席が1/3以上の者には単位を認定しません。提出課題等については、授業中にフィードバックします。													
教科書	〔保育者のためのキャリア形成論〕〔石川昭義他〕〔建帛社〕〔2,160円〕												
参考書	〔幼稚園教育要領解説〕〔文部科学省〕／〔保育所保育指針解説〕〔厚生労働省〕／〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔内閣府・文科省・厚労省〕												
備考													
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。													

授業科目名		教育・保育制度論			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)			
担当者	盛下 真優子		必・選	必	形態	講義	学期	後期	対象	子専2年		
授業の概要												
本講義の内容は、まず①日本の教育および保育の制度を法律、理念、歴史、体系などの視点から解説し、その現状と課題を明らかにする。そのうえで②日本の教育・保育を取り巻く社会的状況や、最新の政策動向を講義する。その後、諸外国の子育て支援政策や幼児教育・保育の政策、特徴を取り上げ、日本との制度的・政策的違いを紹介し、学生同士の話し合いや発表の時間を設けながら良い点・悪い点を考察する。最後に③園の安全のために求められることを、法律や実際の事例、政府から出されているガイダンスなどを用いて解説し、安全教育の在り方についても議論する。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
1. 教育・保育に関する制度の基礎知識を習得する。							○		○			
2. 社会と教育・保育の関連を理解し、日本と諸外国の政策動向を理解する。								○				○
3. 園の安全を守るために必要な具体的な取り組みを理解する。									○	○	○	
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）						
1.オリエンテーション：制度の意味と学ぶ意義						シラバスを確認し、学習内容を見通す						
2.教育制度の基礎と課題：法的枠組みと体系						配布資料を読んでくる／復習						
3.保育制度の基礎と課題：法的枠組みと体系						配布資料を読んでくる／復習						
4.教育・保育を取り巻く社会的状況①子どもの貧困と支援制度						配布資料を読んでくる／復習						
5.教育・保育を取り巻く社会的状況②学童保育の制度						配布資料を読んでくる／復習						
6.教育・保育を取り巻く社会的状況②近年の政策動向						配布資料を読んでくる／復習						
7.日本の子育て支援制度の現状と課題						配布資料を読んでくる／復習						
8.海外の子育て支援制度の現状①スウェーデン、フランス						配布資料を読んでくる／復習						
9.海外の子育て支援制度の現状②ノルウェー、フィンランド						配布資料を読んでくる／復習						
10.海外の子育て支援制度の現状③アメリカ、イギリス						配布資料を読んでくる／復習						
11.海外の子育て支援制度の現状④デンマーク、イタリア						配布資料を読んでくる／復習						
12.園の安全①危機管理、事故対応、報告						配布資料を読んでくる／復習						
13.園の安全②自然災害、避難訓練、ガイドライン						配布資料を読んでくる／復習						
14.園の安全③安全教育、地域との連携						配布資料を読んでくる／復習						
15.園の安全④保育者の使命とまとめ						配布資料を読んでくる／復習						
履修上の注意												
授業中の課題をしっかりと行うこと。配布資料が多いので、ファイリングをして失くさないようにすること。												
成績評価方法・基準												
平常点 50%（リアクションペーパーの内容、課題、参加態度）、期末レポート 50%												
各回の授業でのリアクションペーパーおよび課題については、次回の授業の冒頭でフィードバックする。レポートについては、解答例を配布することでフィードバックとする。												
教科書 事前にレジュメ等を配布する。												
参考書												
〔未来を創る教育制度論〔改訂版〕〕〔川口洋誉・中山弘之編著〕〔北樹出版〕〔2,268 円〕												
〔保育ナビブック事例で見る 園の防災・危機管理 子どもたちの安全のためにできること〕〔脇貴志著〕〔フレーベル館〕〔1,944 円〕												
備考												
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。												

授業科目名		発達心理学			単位（総授業時間＋自習時間）				2（30+60）		
担当者	三浦 主博	必・選	必	形態	講義	学期	後期	対象	子専1年		
授業の概要											
幼稚園教諭養成課程（教育の基礎的理解に関する科目：幼児の心身の発達及び学習の過程）及び保育士養成課程（「保育の対象の理解に関する科目（保育の心理学）」の必修科目である。乳幼児の心身の発達の過程について基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた保育の基礎となる考え方を理解する。「発達」とは何か？ということを考えることから始め、乳児期及び幼児期を中心に心身の発達特性、及び発達過程について様々な観点から概説し、話し合いや発表等を通して、子どもの発達と保育について理解を深めていく。											
授業の到達目標							学位授与の方針との関連				
							1	2	3	4	5
保育実践にかかわる心理学の知識を習得する。									○		
子どもの発達にかかわる心理学の基礎を習得し、子どもへの理解を深める。									○		
子どもが人との相互的にかかわりを通して発達いくことを具体的に理解する。								○	○		
生涯発達の観点から発達のプロセスや初期経験重要性について理解し、保育との関連を考察する。								○	○		
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）						
1. オリエンテーション					当該科目の授業内容・計画について理解する。						
2. 発達とは？①：発達心理学における発達／発達と成長の違い					配布プリントを読み、予習・復習をする。						
3. 発達とは？②：発達を規定する要因（遺伝と環境）／発達の捉え方（発達曲線と発達段階）					教科書3章1を読み、予習・復習をする。						
4. 身体・運動機能の発達①：身体発育					教科書1章5を読み、予習・復習をする。						
5. 身体・運動機能の発達②：乳幼児期の運動機能の発達					教科書1章6を読み、予習・復習をする。						
6. 社会的能力の発達①：微笑の発達					教科書1章4を読み、予習・復習をする。						
7. 社会的能力の発達②：社会的相互交渉／社会的参照					教科書1章10を読み、予習・復習をする。						
8. 社会的能力の発達③：愛着の成立					教科書1章11を読み、予習・復習をする。						
9. 感情の発達①：感情の発達					教科書2章1を読み、予習・復習をする。						
10. 感情の発達②：自己主張と自己抑制／道徳性と思いやり					教科書2章3・4を読み、予習・復習をする。						
11. 認知機能の発達①：ピアジェの発達論					教科書2章10を読み、予習・復習をする。						
12. 認知機能の発達②：ピアジェの発達段階					教科書1章7を読み、予習・復習をする。						
13. 変わる発達観（ピアジェとヴィゴツキー）					教科書3章1・6を読み、予習・復習をする。						
14. パーソナリティの発達①：エリクソンの発達論					教科書3章1を読み、予習・復習をする。						
15. パーソナリティの発達②：エリクソンの発達段階					教科書3章1を読み、予習・復習をする。						
16. 期末試験											
履修上の注意 授業への取り組み（受講態度・課題提出）を重視します。 授業内容をしっかりとノートに取ること。											
成績評価方法・基準											
授業への取り組みの状況（20％）、及び期末試験（80％）により総合的に評価します。なお、欠席が1/3以上の者には単位を認定しません。期末試験の結果は後日機会を設けてフィードバックします。											
教科書	〔子どもとかかわる人のための心理学〕〔沼山博・三浦主博〕〔萌文書林〕〔2,160円〕										
参考書	〔幼稚園教育要領解説〕〔文部科学省〕／〔保育所保育指針解説〕〔厚生労働省〕／ 〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔内閣府・文科省・厚労省〕										
備考											
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。											

授業科目名		発達心理学Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）				1（30+15）			
担当者	三浦 主博		必・選	必	形態	演習	学期	前期	対象	子専2年		
授業の概要												
幼稚園教諭養成課程（教職に関する専門科目：教育の基礎理論に関する科目）及び保育士養成課程（「保育の対象の理解に関する科目（保育の心理学Ⅱ）」）の必修科目である。「発達心理学Ⅰ」で学んだ内容を復習しながら、保育所保育指針における発達過程区分毎に子どもの発達に応じた保育や援助について概説する。また子どもの発達と保育についての理解を深めるために、「保育所実習」で学んだ内容をもとにグループ討議や発表を行う。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
子どもの心身発達と保育実践について理解を深める。									○	○		
生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習過程を理解する。								○	○	○		
保育における発達援助について学ぶ。									○	○	○	
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）						
1. オリエンテーション:発達心理学Ⅰの復習						発達心理学Ⅰの授業内容を確認する。						
2. 子どもの発達と保育: 子どもの発達理解の重要性・発達過程と発達の課題						教科書3章1・2を読み、予習・復習をする。						
3. 発達過程に応じた保育①:0・1・2歳児						教科書3章3を読み、予習・復習をする。						
4. 発達過程に応じた保育②:3・4・5歳児						教科書3章4を読み、予習・復習をする。						
5. 保育における発達援助:発達の課題に応じた援助やかかわり						教科書3章5～9を読み、予習・復習をする。						
6. 子どもの発達の実践①:保育所実習Ⅰでの観察内容 [グループワーク]						実習を振り返り、まとめ、発表の準備をする。						
7. 子どもの発達の実践②: 〃 [口頭発表]						実習の振り返りを記録し、まとめる。						
8. 子どもの発達に応じた保育実践①:保育所実習Ⅱでの観察・ 実践内容 [グループワーク]						実習を振り返り、まとめ、発表の準備をする。						
9. 子どもの発達に応じた保育実践②: 〃 [口頭発表]						実習の振り返りを記録し、まとめる。						
10.												
11.												
12.												
13.												
14.												
15.												
履修上の注意												
授業への取り組み（受講態度・課題提出）を重視します。 積極的にグループワーク等に参加すること。												
成績評価方法・基準												
授業への取り組みの状況（30%）、及び提出課題（70%）により総合的に評価します。なお、欠席が1/3以上の者には単位を認定しません。提出課題等については、授業中にフィードバックします。												
教科書〔新訂 子どもとかかわる人のための心理学〕〔沼山博・三浦主博〕〔萌文書林〕〔2,160円〕												
参考書 〔保育所保育指針解説〕〔厚生労働省〕／〔幼稚園教育要領解説〕〔文部科学省〕／ 〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔内閣府・文科省・厚労省〕												
備考 質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。												

授業科目名		教育心理学			単位（総授業時間＋自習時間）				2（30＋60）				
担当者	植松 公威		必・選	必	形態	講義	学期	後期	対象	子専2年			
授業の概要													
虐待によって心身に発達の遅れが生じても教育によって遅れを取り戻せること、とりわけ、ことばの発達には大人との愛着に基づいた非言語的なコミュニケーションが必要であること、また人間は独力で何かが可能になるためには、その前に他者からの援助によって可能になっている必要があり、発達は他者からの援助によって促進されることなどについて解説する。また、学習の転移と記憶を高めるための教授法・学習法について、教授者が実際に模擬授業をしながら理解の促進を図る。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
1 虐待によって心身に深刻な発達の遅れが生じても大人との教育的なかわりによって遅れを取り戻せることを理解できるようになる。									○	○	○	○	
2 教育には社会的活動として「発達の最近接領域」を開き、子どもの発達を促す働きがあることを理解できるようになる。									○	○	○	○	
3 学習の転移と記憶を高めるためには、ルールと事例をどのように関連づけて学ぶのがよいか、理解できるようになる。										○	○		
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. ガイダンス（教授内容と教育目的）						あらかじめシラバスを熟読すること。							
2. 「赤ちゃんー成長の不思議な道のりー」（NHK）の視聴						人間の成長の特徴と要因について理解する。							
3. 生まれたばかりの赤ちゃんがもっている「能力」						人は生まれつき社会的な存在であることを理解する。							
4. 赤ちゃんとの体を使ったやりとりの重要性						大人と赤ちゃんとの相互交渉の重要性を理解する。							
5. 虐待における発達の遅れの障害と補償教育の事例ーことばの獲得を中心にー						劣悪な環境が及ぼす影響の大きさについて理解する。							
6. 臨界期と敏感期について						動物行動の臨界期と敏感期について理解する。							
7. 人間における臨界期の問題について						臨界期の考え方を理解し、批判的に考えること。							
8. 発達の成熟優位説とそれに反する事例						成熟優位説を批判的に理解すること。							
9. ヴィゴツキーの「発達の最近接領域説」						教育と発達の関係についてレポートすること。							
10. ルール（法則）とは何か、ルールを学ぶことの重要性						ノートを自分で整理し、大事な点を理解する。							
11. ルール（法則）を学んで、知っていることの長所						資料を熟読し、要点をまとめること。							
12. 子どもはルールをどのように学ぶかールール理解のプロセスー						資料を熟読し、要点を理解する。							
13. 学習の転移と記憶を促進する「検証法」の効果						「検証法」を体験し、その長所を理解すること。							
14. アクティブラーニングを取り入れた授業例						「構成主義」の考え方を理解すること。							
15. まとめと復習のためのテストの実施と解説						間違えたところを修正し、理解し直すこと。							
16. 試験						試験対策の学習をすること。							
履修上の注意													
毎回、ミニットペーパーに感想やわかったこと、わからなかったことなどを書いて提出すること。													
成績評価方法・基準													
レポート課題 20%、試験 80%。													
レポートは必ず提出すること。未提出の場合は評価の対象としない。													
各回の授業でのミニットペーパーについては、次回の授業内でフィードバックを行う予定である。													
授業内で行う小テストについてもフィードバックを行う。													
教科書 授業前に資料（プリント）を配布する。													
参考書 授業前に適宜、紹介する。													
備考													
質問等については、ミニットペーパーを通して次の授業の中で取り上げ、説明します。また、授業終了時あるいはオフィスアワーを利用して、質疑応答をすることも可能です。													

授業科目名		臨床心理学				単位 (総授業時間+自習時間)				2(30+60)		
担当者	針生 隆	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	子専2年			
授業の概要												
心理学と精神医学の近接領域である「臨床心理学」の最新の研究成果を学びほごす。保育園、幼稚園、施設などの教育・保育の臨床現場における「臨床心理学」の有効性、必要性を具体的な心理テスト、心理療法などのツールを使用して、現場に還元できるスキルアップを目指す。具体的には、脳のメカニズム(男女の脳の働きの差異)、子どもの情動・言語発達、障がい児・者への臨床心理領域での支援方法などを紹介する。さらに芸術感覚を研ぎ澄ますために音楽、絵画鑑賞も行う。なお、高校などでのカウンセラーとしての現場経験を踏まえ、子どもの10年後を見通した「幼児教育・保育」の大切さの事例を紹介したい。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
臨床心理学の著名人の業績の理解。							○					
心理テスト・心理療法の基礎的な使用方法を身につける。										○		
絵本などのツールの使用方法を身につける。										○		
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)							
1.ガイダンス					「3・11 大震災」の記憶(事後)							
2.災害心理学の紹介					「地震あそび」についての考察(事後)							
3.「3歳からの心理発達」(DVD)					「心理発達」のミニレポート							
4.「子どもの描画」と「塗り絵」(PP)					「利き手でない手」で書くことの練習 (事前)							
5.「やさしい心理学」(PP)					「男女の考え方(脳の差異)」について検索 (事前)							
6.「臨床心理学」(PP)					心理学者の業績のさらなるチェック (事後)							
7.「塗り絵 (物語)」の発表					「家族」の描画 (事前)							
8.「風景画技法」「バウムテスト」					「サリーとアン」の心理テスト (事後)							
9.「心理療法」DVD					「心理療法」のミニレポート(事後)							
10.ゲストスピーカーの講義					「講義」のミニレポート (事後)							
11.「子どもの障害の理解と支援」(DVD)					「子どもの障害」のミニレポート(事後)							
12.「ナラティブ・セラピー」の紹介					「自分の生育歴」の確認(事前)							
13.「ナラティブ的な楽しい思い出」制作					制作のホームワーク(事後)							
14.「コグトレ」作業					「コグトレ」作業(事後)							
15.「箱庭療法」のワークとミニテスト					講義の復習 (事前)							
履修上の注意												
講義は臨床心理学の基本的な話題提供にすぎないので、総じて事前・事後学習が望ましい。												
成績評価方法・基準												
期末ミニテスト 40%(模範解答提示)、心理療法・テストの発表と評価 20% 受講態度 30%												
教科書 適時、プリントを配布												
参考書 授業で紹介												
備 考												
PPはスライド DVDはビデオ。質問などはオフィスアワーで受け付け(曜日時間は掲示で確認)												

授業科目名	教育・保育相談				単位（総授業時間＋自習時間）				2（30＋60）			
担当者	針生 隆	必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	子専2年			
授業の概要												
教育・保育現場で避けては通れない保護者からの相談、子どもからの問いかけ、保育者同士の相談などに対応できる基礎的なスキルが求められる。そのために、最近の子どもを取り巻く状況、子育ての実態などの社会情勢を理解し、臨床心理学(カウンセリング)の視点を踏まえ、「相談」を学びほぐす。 狭義的には、児童館、高校などでのカウンセラーとしての現場経験を活かし、「保育者と子どもとの関係における相談」、「保育者と保護者との関係における相談」などの場面を想定してのケーススタディ、ロールプレイを行いたい。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
「相談」の前提である「聴く」「語る」のスキル力を身につける。							○					
家庭、関係機関との連携を事例で学び、実践力を身につける。										○		
「カウンセリング」の初歩的な知識を身につける。							○					
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）							
1.ガイダンス					1年次で学んだ保育・教育者の復習（事後）							
2.保育・教育範疇などのアンケート(PPで)					「春の花」検索（事後）							
3.図書館検索					研究図書の選定(事後)							
4.「子ども」の話し合い・発表					「子ども」のミニレポート(事後)							
5.子どもを取り巻く社会環境（PP）					新聞などでの子どもに関するニュース検索（事前）							
6.同上					同上（事後）							
7.保育園・幼稚園・施設での相談について					「母子手帳」の確認（事前）							
8.「相談」の事例紹介(DVD)					「すぐ腕保育士」のミニレポート（事後）							
9.児童相談所などの相談機関の紹介					相談機関の検索（事後）							
10.「保育相談支援」（DVD）					「相談支援」からみた「相談事例」の考察(事後)							
11. 保育園における相談事例					相談事例をまとめる作業（事後）							
12. 幼稚園、児童館などでの相談事例					同上							
13. 施設での相談事例					同上							
14. ゲストスピーカーの講義					講義の感想ミニレポート（事後）							
15.「相談」のロールプレイと小テスト					講義内容の復習（事前）							
履修上の注意												
子どもに関するニュース、出版物に敏感であること。提出物の期限厳守。												
成績評価方法・基準												
期末(課題)レポート(テーマ設定・事前事後指導) 60% 受講態度 30% グループワークでのミニレポート 10%（各Gの発表で評価）												
教科書 授業前にプリントを配布												
参考書 授業で紹介												
備考 PPはスライド DVDはビデオ。												
質問などはオフィスアワーで受け付け（曜日時間は掲示で確認）												

授業科目名	子どもの保健				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)			
担当者	千葉 明子	必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	子専1年			
授業の概要												
「子どもの保健」では 子どもの身体発育や生理機能の特性・発達，健康状態とその把握，疾病とその予防・対応など 保育における保健的対応に必要な 基礎的事項を解説する。												
大人のミニチュアではない 様々な可能性を持つ子ども，身体的・精神的に未熟な存在一人ひとりを把握しつつ同時に集団全体とどうかかわればよいか総合的な理解ができるよう説明する。小児科医としての日々の診療のなかで感じる実践活動に必要な十分な知識を身につけられるようお伝えする。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
子どもの心身の健康と保健の意義を理解する							○			○	○	○
子どもの身体的発育・発達と保健について理解する							○			○	○	○
心身の健康状態と把握方法，疾病と予防，保護者・関連機関を含む適切な対応							○			○	○	○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）							
1. 子どもの保健（総論，理想の保育者）					各自の理想とする保育者像を考える							
2. 子どもの心身の健康と保健の意義					教科書を熟読し問題意識を持つ							
3. 身体発育及び運動機能の発達と保健					教科書の熟読，授業・小テストの復習							
4. 生理機能の発達と保健					教科書の熟読，授業・小テストの復習							
5. 地域における保健活動と虐待防止					教科書の熟読，授業・小テストの復習							
6. 健康状態の観察と心身の不調の早期発見 主な感染症と特徴					教科書の熟読，授業・小テストの復習							
7. 主な疾病と特徴					教科書の熟読，授業・小テストの復習							
8. 疾病の予防と適切な対応					教科書の熟読，授業・小テストの復習							
9. 事故・けが，救急疾患の特徴と適切な対応					教科書の熟読，授業・小テストの復習							
10. 低出生体重児と新生児，先天性の病気と適切な対応					教科書の熟読，授業・小テストの復習							
11. アレルギー疾患の特徴と適切な対応					教科書の熟読，授業・小テストの復習							
12. 慢性疾患・悪性疾患，他，う歯，目・耳等の疾患					教科書の熟読，授業・小テストの復習							
13. 保護者との情報共有と家族支援					教科書の熟読，授業・小テストの復習							
14. 子どもの健康診断と関連機関との連携					教科書の熟読，授業・小テストの復習							
15. まとめと試験												
履修上の注意												
第1回の講義から教科書を準備しておくことが望ましい。												
体調管理に留意し講義に出席，やむを得ない場合早期に遅刻・欠課届を提出すること。受講態度重視します。												
成績評価方法・基準												
平常点 60%（平常点は出席率，欠課・遅刻届の提出，授業への参加，毎回行う小テストの成績（カンニング不可），等で 総合的に判断） 学期末試験 40%												
教科書〔授業で現場で役に立つ！子どもの保健テキスト〕〔診断と治療者社〕〔2,000 円〕												
参考書 使用しない（授業でプリントを配布）												
備 考												
小テストは採点し翌週返却，解答は当日配布するプリントに記載，誤答が多かった問題は 解説する。												
必要な知識の定着に向け 繰り返し学習すること。												
質問等は 授業終了時 オフィスアワーで受け付ける。												

授業科目名	子どもの食と栄養Ⅰ				単位（総授業時間＋自習時間）				1（30＋15）		
担当者	菊地 香保里	必・選	必	形態	演習	学期	前期	対象	子専2年		
授業の概要											
子どもの食生活は、健全な発育・発達に影響するばかりか将来の生活習慣病に関連があると近年報告されている。乳幼児期には味覚や食嗜好の基礎が形成され、将来の食習慣に影響を与える。管理栄養士かつ保育現場の経験を生かし、保育者は、生涯を通じた健康の維持増進という長期的視点で食育を行い、適切な食事を好ましい環境のもとで提供しなければならないことを伝える。自らの食生活を振り返り、望ましい食生活はどうあるべきなのか、「食べる」という当たり前の行為から感性を磨き、豊かな生活が送れる実践者、指導者となれる人材を目指す。（食と栄養の基礎知識、疾病と栄養、授乳栄養、乳児期の栄養）											
授業の到達目標							学位授与の方針との関連				
							1	2	3	4	5
栄養バランスのとれた食事摂取の方法が身につく							○		○		○
調乳ができる							○		○		○
発達段階に適した離乳食づくりができる							○		○		○
保育所給食と食育の意義を理解できる							○		○		○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）						
1. ガイダンス：子どもの健康と食生活					教科書を読み、理解しておく。（序章、第1章）						
2. 栄養に関する基本的知識①栄養の基本概念					教科書を読み、理解しておく。（第2章）						
3. 栄養に関する基本的知識②栄養素の種類と機能					教科書読み、理解しておく。（第2章）						
4. 栄養に関する基本的知識③食事摂取基準と献立作成・調理の基本					教科書読み、理解しておく。（第2章）						
5. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養					教科書を読み、理解しておく。（第6章）						
6. 乳児期および授乳期の心身の特徴と食生活の関係					教科書を読み、理解しておく。（第3章）						
7. 実習① 調乳					レポート次回提出						
8. 離乳の意義とその実践					教科書を読み、理解しておく。（第3章）						
9. 実習② 離乳食 主食					レポート次回提出						
10. 実習③ 離乳食 副食					レポート次回提出						
履修上の注意											
私語は慎む。質問は積極的に行う。遅刻は2回で欠席1回とする。											
成績評価方法・基準											
平常点 50%（授業態度、課題などの取り組み、出席など）、レポート 50%の総合評価 課題について授業中にフィードバックする。											
教科書〔子育て、子育てを支援する 子どもの食と栄養 第7版〕〔堤ちはる、土井正子編著〕〔萌文書林〕 〔2,400円（税別）〕											
参考書 なし											
備 考											
調理実習では基本的事項（服装、頭髮、爪、手洗いなど衛生面をしっかりと認識して取り組むこと。 質問等については、授業終了時、オフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。											

授業科目名	子どもの食と栄養Ⅱ				単位（総授業時間＋自習時間）				1（30＋15）			
担当者	菊地 香保里		必・選	必	形態	演習	学期	後期	対象	子専2年		
授業の概要												
子どもの食生活は、健全な発育・発達に影響するばかりか将来の生活習慣病に関連があると近年報告されている。乳幼児期には味覚や食嗜好の基礎が形成され、将来の食習慣に影響を与える。管理栄養士かつ保育現場の経験を生かし、保育者は、生涯を通じた健康の維持増進という長期的視点で食育を行い、適切な食事を好ましい環境のもとで提供しなければならないことを伝える。自らの食生活を振り返り、望ましい食生活はどうあるべきなのか、「食べる」という当たり前の行為から感性を磨き、豊かな生活が送れる実践者、指導者となれる人材を目指す。（幼児期の栄養、食育、保育所および児童福祉施設の給食）												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
食育の意義を理解できる。							○		○		○	
家庭、保育所、児童福祉施設の食事と栄養を理解できる。							○		○		○	
幼児期の栄養バランスのとれた食事を作ることができる。							○		○		○	
幼児期の間食を作ることができる。							○		○		○	
幼児期の行事食を作ることができる。							○		○		○	
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）						
1.ガイダンス：食育の基本						教科書を読み、理解しておく。（第4章）						
2.幼児期の心身の発達と食生活						教科書を読み、理解しておく。（第3章）						
3.幼児食 バランスの良い食事の実際 3・1・2 弁当箱法						レポート次回提出						
4.実習④ 幼児期の日常食 主食						レポート次回提出						
5.実習⑤ 幼児期の日常食 副食						レポート次回提出						
6.実習⑥ 幼児期の和のおやつ						レポート次回提出						
7.実習⑦ 幼児期の洋のおやつ						レポート次回提出						
8.実習⑧ 幼児期の行事食						レポート次回提出						
9.実習⑨ 幼児期の行事食 副食						レポート次回提出						
10.まとめ 家庭や施設における食事と栄養						教科書を読み、理解しておく。（第5章）						
履修上の注意												
私語は慎む。質問は積極的に行う。遅刻は2回で欠席1回とする。												
成績評価方法・基準												
平常点 50%（授業態度、課題などの取り組み、出席など）、レポート 50%の総合評価 課題について授業中にフィードバックする。												
教科書〔子育て、子育てを支援する 子どもの食と栄養 第7版〕〔堤ちはる、土井正子編著〕〔萌文書林〕 〔2,400円（税別）〕												
参考書 なし												
備 考												
調理実習では基本的事項（服装、頭髪、爪、手洗いなど衛生面をしっかりと認識して取り組むこと。 質問等については、授業終了時、オフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。												

授業科目名		家庭支援論				単位（総授業時間＋自習時間）				2（30＋60）			
担当者	浅野 咲子		必・選	必	形態	講義	学期	後期	対象	子専2年			
授業の概要													
保育所における子育て支援は、全ての子どもの健やかな育ちを実現できるよう「保育所を利用している保護者」と「地域で子育てをしている保護者」の両方を対象に行っていかなければならない。そのためにここではまず、子どもを取り巻く環境及び家庭機能の歴史的な変化を概観する。さらに仙台市の公立保育所職員として40年間勤務し、入所児童の家庭支援や地域子育て支援事業の実践を行ってきた経験を活かして、現代の保護者のニーズを具体的に伝える。それを理解したうえで、これからの保育所による家庭支援のありかたや社会資源、関係機関との連携について学ぶ。													
授業の到達目標 「家庭支援論」を学ぶことにより								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
・家庭の意義と役割について理解し自分の家庭にあてはめて説明できる。									○	○			
・子育て家庭を取り巻く社会状況を理解し具体例をあげることができる。										○			
・子育て家庭の支援体制について理解し実践と結びつけることができる。										○	○		
・子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について事例を通して理解することができる。										○	○		○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1.オリエンテーション（授業の目指すところ、進め方など）													
2.家庭の意義						事前に第1講をよく読み授業終了後まとめをする。							
3.家庭の機能						事前に第2講をよく読み授業終了後まとめをする。							
4.家庭支援の必要性						事前に第3講をよく読み授業終了後まとめをする。							
5.保育士等が行う家庭支援の原理Ⅰ（理念など）						事前に第4講をよく読み授業終了後まとめをする。							
6.保育士が行う家庭支援の原理Ⅱ（保育士による家庭支援）						事前に第5・6講をよく読み授業終了後まとめをする。							
7.家庭生活を取り巻く社会的現象						事前に第7・8講をよく読み授業終了後まとめをする。							
8.子育て家庭の支援体制						事前に第9講をよく読み授業終了後まとめをする。							
9.子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進						事前に第10講をよく読み授業終了後まとめをする。							
10.子育て支援サービスの概要						事前に第11講をよく読み授業終了後まとめをする。							
11. 保育所による家庭支援						事前に第12講をよく読み授業終了後まとめをする。							
12. 子育て支援と保護者の関係づくりの支援						事前に第13講をよく読み授業終了後まとめをする。							
13. 地域の子育て家庭への支援						事前に第14講をよく読み授業終了後まとめをする。							
14. 子育て支援サービスの課題						事前に第15講をよく読み授業終了後まとめをする。							
15. まとめ						授業を振り返っての質問を事前に準備する。							
16. 試験													
履修上の注意													
①教科書を事前に読んでいることを前提に授業を進めます。②分からないところや質問したいことを把握しておくこと。③毎回授業内容の復習をし、まとめること④遅刻・欠席は平常点に影響します。													
成績評価方法・基準													
試験（60％）ノート持ち込み可 平常点(40％) 授業の復習のミニレポート提出を中心に評価する。提出されたミニレポートは、後日添削して返却する。													
教科書〔児童の福祉を支える家庭支援論〕〔吉田眞理〕〔萌文書林〕〔2,000円〕													
参考書〔新保育士養成講座第10巻 家庭支援論〕〔網野武博・金子恵美〕〔全国社会福祉協議会〕〔1,900円〕 〔保育所保育指針 平成29年度告示〕〔厚生労働省〕〔フレーベル館〕〔149円〕													
備考													
質問等は 授業終了時 オフィスアワーで受け付ける。													

授業科目名		教育・保育課程論				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)	
担当者	盛下 真優子・山崎 敦子	必・選	必	形態	講義	学期	後期	対象	子専2年		
授業の概要											
本講義では、教育課程・保育の計画に関する基礎的知識を教授し、幼児教育・保育における指導計画の意義と必要性を解説する。また、幼稚園教育要領・保育所保育指針の変遷、改訂ポイントを取り上げ、社会との関連を議論する。さらに教育課程や保育の全体計画の編成方法や、評価を反映させるカリキュラム・マネジメントの視点を幼稚園教諭としての経験を生かして解説する。また小学校との連携方法など、現代の教育課程の抱える課題と展望を踏まえつつ、グループ学習や発表等などの時間を設け学生同士で議論し合う中で、より望ましい教育課程とはどのようなものかを考えていきたい。											
授業の到達目標							学位授与の方針との関連				
							1	2	3	4	5
1. 教育課程に関する基礎的な知識や考え方を習得する。								○	○		
2. 幼稚園教育要領の変遷と内容を理解する。							○		○		○
3. 教育課程の編成方法と評価の意義を理解する。									○		
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）						
1. 教育・保育における計画の必要性					シラバスを確認し、学習内容を見通す						
2. 教育課程・全体的な計画の役割と構成要素					配布資料を読んでもくる／復習						
3. カリキュラム理論と種類					配布資料を読んでもくる／復習						
4. 教育課程・全体的な計画を編成するには					配布資料を読んでもくる／復習						
5. 幼稚園における長期の指導計画作成の実際					配布資料を読んでもくる／復習						
6. 保育所における長期指導計画作成の実際					配布資料を読んでもくる／復習						
7. 行事活動・プロジェクト活動の指導方法・援助					配布資料を読んでもくる／復習						
8. 領域横断的に取り組む道德性の育成					配布資料を読んでもくる／復習						
9. カリキュラム・マネジメントの意義と実際					配布資料を読んでもくる／復習						
10. 保育の評価：自己評価から第三者評価まで					配布資料を読んでもくる／復習						
11. 幼稚園と保育所の歴史：教育要領、保育指針の意義					配布資料を読んでもくる／復習						
12. 保育における計画の変遷：幼稚園創設から 1960 年代まで					配布資料を読んでもくる／復習						
13. 幼稚園教育要領の改訂の変遷とその背景					配布資料を読んでもくる／復習						
14. 保育所保育指針の改訂の変遷とその背景					配布資料を読んでもくる／復習						
15. 小学校教育への円滑な接続のために					学んだことを振り返り、総まとめをする						
履修上の注意											
授業中の課題をしっかりと行うこと。配布資料が多いので、ファイリングをして失くさないようにすること。											
成績評価方法・基準											
平常点 50%（リアクションペーパーの内容、課題、参加態度）、期末レポート 50%											
各回の授業でのリアクションペーパーおよび課題については、次回の授業の冒頭でフィードバックする。											
レポートについては、解答例を配布することでフィードバックとする。											
教科書 事前にレジュメ等を配布する。											
参考書											
〔幼稚園教育要領＜平成 29 年告示＞〕〔文部科学省〕〔フレーベル館〕〔160 円〕											
〔幼幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成 29 年告示＞〕〔内閣府・文部科学省・厚生労働省〕〔フレーベル館〕〔160 円〕											
備考											
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。											

授業科目名		保育の計画と評価				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30＋60)		
担当者	山崎 敦子	必・選	必	形態	講義	学期	後期	対象	子専1年			
授業の概要												
子ども理解に基づく保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）について、その全体構造を捉えると共に、長期及び短期の指導計画を作成する意義を理解することができるよう概説する。また、幼稚園教諭としての経験を生かして、子どもの姿、年齢ごとのねらいと内容の書き方を説明し、様々な場面（登園、好きな遊び、後片付け、朝の集まり、給食等）に応じた保育者の援助・配慮の書き方を学べるようにする。さらに、実際に指導計画（部分案、日案）を作成し、実践的な視点から保育計画の理解を深めることができるようにする。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
保育の計画及び評価について理解する。									○	○	○	
指導計画の作成について、その意義と方法を理解する。									○		○	○
子ども理解に基づく保育の過程について、その全体構造を捉え、理解する。									○	○	○	
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）						
1. オリエンテーション・漢字テスト						毎回の漢字小テストで間違った漢字を						
2. 指導計画（教育課程・全体的な計画）の考え方について						5回ずつ書く。						
3. 長期・短期の指導計画の実際とその意義												
4. デイリープログラムについて						デイリープログラムを書き写す（課題）						
5. 指導計画の実際①：子どもの姿・ねらい・内容の書き方						指導案ワークシートを毎回見直し、書						
6. 指導計画の実際②：保育者の援助・配慮について／登園						き方を理解する。						
7. 指導計画の実際③：好きな遊び												
8. 指導計画の実際④：後片付け												
9. 指導計画の実際⑤：予想される子どもの姿を考える（給食）												
10. 指導計画の実際⑥：朝の集まり												
11. 指導計画の実際⑦：予想される子どもの姿の振り返り（給食）						指導案（部分）を作成する（課題）						
12. 指導計画の実際⑧：帰りの集まり												
13. 指導計画の実際⑨：指導案（課題）の解説・0～2歳児 排泄						指導案についての解説を基に正しい書き方を復習する。						
14. 指導計画の実際⑩：0～2歳児 授乳・食事						指導案（全日）を作成する（課題）						
15. 指導計画の実際⑪：降園／保育の実践と評価												
16. 期末試験												
履修上の注意												
保育士資格取得の必修科目。自分で指導計画を立案できる力が身に付くことを目指すため、授業の出席及び提出課題を重視する。												
成績評価方法・基準												
授業への取り組み(30%) 提出課題 (30%) 期末試験(40%) により総合的に評価する。 欠席が1/3以上の者には単位を認定しない。 提出課題については、添削後返却し、授業の中で解説をする。未提出の課題がある場合、期末試験を受けることができない。												
教科書〔教育・保育課程論〕〔岩崎淳子・及川留美・粕谷亘正〕〔萌文書林〕〔1,900円〕												
参考書 特になし												
備考												
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日、時間は掲示で確認）に受け付ける。												

授業科目名		保育内容総論			単位（総授業時間＋自習時間）				1(30＋15)			
担当者	山崎 敦子	必・選	必	形態	演習	学期	前期	対象	子専1年			
授業の概要												
保育の全体構造と保育内容（5 領域）について理解すると共に、子どもの主体性を尊重する保育、環境を通して行う保育、生活や遊びによる総合的な保育等、保育の基本を踏まえた保育内容の展開の仕方について、幼稚園教諭としての経験を生かして概説する。また、0 歳児から 6 歳児までの各発達段階における子どもの姿や特徴（運動、知覚・認知、対人関係・言語、生活習慣等）をまとめ、それぞれの実態に即した具体的な保育の展開について、実際の遊びを通して理解を深める。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
保育（幼稚園・保育所・認定こども園）の全体的な構造を理解する。									○		○	
保育内容の基本的な考え方（5 領域）について理解する。									○		○	
子どもの発達や実態を知り、それらに応じた具体的な保育の展開について理解する。									○	○		○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）						
1. オリエンテーション						幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領の解説書にあらかじめ、目を通しておく。学習後はそれぞれの違いについて理解できるようノートを見直す。						
2. 保育内容とは何か①：幼稚園教育要領と保育内容 5 領域について												
3. 保育内容とは何か②：保育所保育指針と保育内容												
4. 保育内容とは何か③：認定こども園教育・保育要領と保育内容												
5. 現代社会における保育の課題（少子化、子育て支援、小学校との連携）						現代社会における様々な保育の課題についてノートを見直し、理解する。						
6. 保育内容の歴史的変遷						ノートを見直し、理解する。						
7. 0 歳児の生活と保育内容						0 歳から 6 歳までの各発達段階における子どもの特性（運動、知覚・認知、対人関係・言語、生活習慣）及び保育者の援助・配慮の留意点を理解し、発達の目安（どの時期にどのようなことができるようになるか）を頭に入れる。						
8. 1 歳児の生活と保育内容												
9. 2 歳児の生活と保育内容												
10. 3 歳児の生活と保育内容												
11. 4 歳児の生活と保育内容												
12. 5 歳児の生活と保育内容												
13. 6 歳児の生活と保育内容						5 領域振り返りシートを作成し、発表の準備をする。						
14. 遊びを通して 5 領域を考える①：実践												
15. 遊びを通して 5 領域を考える②：発表・まとめ												
16. 期末試験												
履修上の注意												
保育士資格及び幼稚園教諭免許取得のための必修科目である。授業への取り組み（受講態度）を重視する。												
成績評価方法・基準												
授業への取り組み（40％）提出課題（20％）期末試験（40％）により総合的に評価する。 提出課題は添削し、後日返却する。												
教科書 【子どもと共に学びあう演習・保育内容総論】[井上孝之・奥山優佳・山崎敦子][みらい][2,100 円]												
参考書 【保育所保育指針解説】[厚生労働省][フレーベル館][200 円] 【幼稚園教育要領解説】[文部科学省][フレーベル館][200 円] 【幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説】[総務省・文科省・厚労省][フレーベル館][269 円]												
備 考												
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。												

授業科目名		保育内容（健康Ⅰ）			単位（総授業時間＋自習時間）				1(30＋15)			
担当者	土屋 葉子	必・選	必	形態	演習	学期	前期	対象	子専1年			
授業の概要												
現在、子どもの心身に関する問題が多く存在し、保育園・幼稚園での役割は大変重要なものになっている。本講義では、まず、学生に自らの「健康」への関心を持ってもらい、同時に子どもの健康の保持増進の知識を学んでいく。また、保育者として必要な、子どもの身体機能の発育や、安全指導についての基礎的知識を習得するとともに、安全教育の3つの領域（生活安全・交通安全・避難訓練）を考えていく。また、運動遊びに関する保育者の支援の仕方についても学んでいく。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
こどもの発育・発達を理解する。								○	○	○	○	○
こどもに対する具体的な対応力を身につける。								○	○	○	○	○
自然の良さを体感し、その中で遊ぶことのできる実践力を身に付ける。								○	○	○	○	○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）							
1.オリエンテーション：保育内容「健康」とは					今後の学習内容について確認する。							
2.保育内容「健康」の意義					参考書の「健康」を読んでおく。							
3.保育内容「健康」のねらいと内容					参考書の「健康」を読んでおく。							
4.健康な生活習慣の形成（食事・睡眠）					配布プリントを確認する。							
5.健康な生活習慣の形成（排泄・清潔・身の回りの始末）					配布プリントを確認する。							
6.子どもの発育と発達（身体的特性）					学習内容を確認し、予習・復習を行う。							
7.現代の子どもの特性					学習内容を確認し、予習・復習を行う。							
8.自然を生かす遊びと保育者の支援					学習内容を確認し、予習・復習を行う。							
9.園外保育散歩マップ作り①子どもの安全指導					配布プリントを確認する。							
10.園外保育散歩マップ作り②（情報機器の操作と活用を含む）安全管理の必要性					配布プリントを確認する。							
11.子どもの安全指導（危険な遊び方・遊具）					学習内容を確認し、予習・復習を行う。							
12.子どもの安全指導（交通安全・災害時）					学習内容を確認し、予習・復習を行う。							
13.室内遊びと保育者の援助（指導案作成）					遊びの種類について情報収集する（タブレット使用）。							
14.室内遊びと保育者の援助（発表）					学習内容を確認し、予習・復習を行う。							
15.室内遊びと保育者の援助（実践）					学習内容を振り返り、今後の課題を見つける。							
履修上の注意												
初回ガイダンスで説明する履修上の注意を遵守すること。												
成績評価方法・基準												
授業への参加状況（70%）、及び提出課題（30%）により総合的に評価する。												
提出課題等については、返却し、解説を行う。												
教科書 授業中にプリントを配布する。〔幼稚園教育要領解説〕〔文部科学省〕												
参考書 〔保育所保育指針解説〕〔厚生労働省〕 〔幼稚園教育要領解説〕〔文部科学省〕 〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔総務省・文科省・厚労省〕												
備考												
質問等については、授業終了時または、オフィスアワーで受け付ける。												

授業科目名		保育内容（健康Ⅱ）			単位（総授業時間＋自習時間）				1(30＋15)			
担当者	土屋 葉子	必・選	選	形態	演習	学期	後期	対象	子専2年			
授業の概要												
本講義では、健康Ⅰの内容をふまえ、子どもを取りまく状況の様々な変化の中で、健康な子どもを育てるために、生活への理解を深め、その中で求められる保育者の役割について、指導計画や指導上の問題点を考え、解説する。また、家庭と地域との連携についてもふれながら、社会全体で子どもを育てることに ついても考えていくとともに、子どもが健康で充実した毎日を過ごすために、自ら危険を意識し、安全に 気を付けて行動することができるよう、保育者として何をすべきかをともに考えていく。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
保育における幼児の健康に関する諸課題を理解する。								○	○	○	○	○
子どもに対する保育者としての支援の仕方を理解する。								○	○	○	○	○
健康的な子どもを育てるために必要な知識を習得する。								○	○	○	○	○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）							
1.ガイダンス					今後の学習内容について確認する。							
2.子どもの健康と環境構成（遊具の配慮）					配布プリントを確認する。							
3.遊びの中で育む生活習慣					配布プリントを確認する。							
4.自然を生かす遊びと保育者の支援					学習内容を確認し、予習・復習を行う。							
5.アスレティック遊具の構成を考える。					学習内容を確認し、予習・復習を行う。							
6.安全配慮と指導・援助					学習内容を確認し、予習・復習を行う。							
7.園での事故と安全への配慮・家庭との連携					学習内容を確認し、予習・復習を行う。							
8.子どもの疾病と保育者の援助					学習内容を確認し、予習・復習を行う。							
9.日常の健康観察のあり方、疾病予防					学習内容を確認し、予習・復習を行う。							
10.まとめ					学習内容を振り返り、今後の課題を見つ ける。							
11.												
12.												
13.												
14.												
15.												
履修上の注意												
初回ガイダンスで説明する履修上の注意を遵守すること。												
成績評価方法・基準												
授業への参加状況（70%）、及び提出課題（30%）により総合的に評価する。												
提出課題等については、返却し、解説を行う。												
教科書 授業中にプリントを配布する。												
参考書〔保育所保育指針解説〕〔厚生労働省〕												
〔幼稚園教育要領解説〕〔文部科学省〕												
〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔総務省・文科省・厚労省〕												
備 考												
質問等については、授業終了時あるいは、オフィスアワーで受け付ける。												
都合により、授業計画の順番等を変更することがある。												

授業科目名		保育内容（人間関係Ⅰ）			単位（総授業時間＋自習時間）				1(30＋15)			
担当者	山崎 敦子	必・選	必	形態	演習	学期	前期	対象	子専1年			
授業の概要												
幼稚園教育要領、保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて、具体的な子どもの姿から、年齢ごとの発達の特徴を理解し、周囲の人たちとの関係を深めながら人間関係が広がっていくことを理解する。また、幼稚園教諭としての経験をもとにした具体的事例を見つめながら学習すると同時に、様々な場面を想定して保育を構想する方法を身に付け、互い協力にしながらテーマに沿った活動を計画・実践することで、学生同士の人間関係を構築する。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
保育の基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらい及び内容を理解する。								○	○	○		○
幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解する。								○	○		○	○
乳幼児期の人間関係の発達について、園生活における関係発達の視点から理解する。										○		○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）							
1. オリエンテーション・5領域のなかの「人間関係」の位置づけについて					前期学修の見通しを立てる							
2. 領域「人間関係」とは？：「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」から					それぞれの解説書にあらかじめ目を通しておく。							
3. 誕生から6歳までの人とのかかわりの発達(1)：0歳児の人とのかかわり					0歳から6歳までの各発達段階における人とのかかわりについて、ノートやプリントを見直して理解する。							
4. 誕生から6歳までの人とのかかわりの発達(2)：1～2歳児の人とのかかわり												
5. 誕生から6歳までの人とのかかわりの発達(3)：3～6歳児の人とのかかわり												
6. 遊びの中で育つ人とのかかわり：保育における遊びの大切さ・遊びと仲間関係・トラブルの場面から					様々な具体的な場面における人間関係について、ノートやプリントを整理し、理解を深める。							
7. 友達とのかかわり(1)：仲間関係の芽生え												
8. 友達とのかかわり(2)：子ども集団の育ち												
9. 気になる子ども（かかわりの難しい子ども）とのかかわり												
10. 小学校・地域とのかかわり												
11. 保護者とのかかわり												
12. 保育者に望まれる姿勢～コミュニケーション能力が必要な場と機会～誕生会を企画しよう(1)：計画を立てる／情報機器の活用					誕生会の計画立案をするために、事前にアイデアを収集しておく。							
13. 誕生会を企画しよう(2)：準備					互いに役割分担をしながら協力して準備を進める。							
14. 誕生会を企画しよう(3)：準備												
15. 誕生会を企画しよう(4)：実践（発表）・振り返りとまとめ					計画を具現化し、会を実施する。ノートプリントを整理し振り返る。							
履修上の注意												
保育士資格及び幼稚園教諭免許状取得のための必修科目である。授業への取り組み（受講態度）を重視する。												
成績評価方法・基準												
授業への取り組み（60％） レポートや提出物（40％）により総合的に評価する。 提出課題については、添削して返却する。												
教科書 授業前にプリントを配布する。												
参考書												
[幼稚園教育要領解説] [文部科学省] [保育所保育指針解説] [厚生労働省] [幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説] [総務省・文科省・厚生省] [子どもと共に学びあう演習・保育内容総論第2版][井上孝之・山崎敦子][みらい][2,100円]												
備考												
質問等については、授業終了後やオフィスアワーで受け付ける。												

授業科目名		保育内容（人間関係Ⅱ）			単位（総授業時間＋自習時間）				1(30＋15)		
担当者	大瀬戸美紀	必・選	選	形態	演習	学期	後期	対象	子専2年		
授業の概要											
保育内容（人間関係Ⅱ）は、保育の内容・方法に関する科目である。近年、子どものコミュニケーションや自制心・規範意識の不足が指摘されている。これについて、家庭と地域での関係性の希薄化が大きな原因の1つだとされている。このような状況の下で幼稚園や保育所のような集団生活を過ごす場所の役割は大きなものとなっている。保育者や友達との関わりを通して、様々な感情体験を重ねながら、子どもの人と関わる力を培っていくことが期待されている。そこで、子どもの人間関係を豊かで広がりのあるものにするための適切な環境づくりや専門性を備えた保育者の援助について、主にケーススタディを中心として学ぶ。											
授業の到達目標							学位授与の方針との関連				
							1	2	3	4	5
領域「人間関係」のねらい及び内容並びに全体構造を理解している								○	○		
乳幼児が経験し身につけていく内容と指導上の留意点を理解している								○	○	○	
乳幼児教育における評価の考え方を理解している								○	○	○	
各領域で身に付ける内容の関連性及び小学校教科とのつながりを理解している								○	○	○	○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）						
1. オリエンテーション					授業の内容を把握し、今後の授業計画について知る						
2. 保育内容「人間関係」とは：「幼稚園教育要領」から					学習内容を復習し、分からなかったところを把握する						
3. 幼稚園や保育所、こども園で保育者に求められるもの					学習内容を復習し、分からなかったところを把握する						
4. 子どもの発達と人間関係					学習内容を復習し、分からなかったところを把握する						
5. 子どもの発達と人間関係：保護者と共に育てる					学習内容を復習し、分からなかったところを把握する						
6. 子どもの発達と人間関係：親が繋がる子育て支援①					学習内容を復習し、分からなかったところを把握する						
7. 子どもの発達と人間関係：親が繋がる子育て支援②					学習内容を復習し、分からなかったところを把握する						
8. 子どもの発達と人間関係：地域子育て支援					学習内容を復習し、分からなかったところを把握する						
9. 0～2歳児とのかかわり・集団をつくる教材とその取り上げ方					学習内容を復習し、分からなかったところを把握する						
10. 3～5歳児とのかかわり・集団をつくる教材とその取り上げ方					今までの学習内容を振り返り、さらに理解を深める						
11. 保育士としての望まれる姿勢・保育の方向性　まとめと試験											
12.											
13.											
14.											
15.											
履修上の注意											
グループワークが中心となってくるので、活発な意見交換を通して、お互いに啓発し合えるような、積極的な態度で授業に臨んで欲しい。											
成績評価方法・基準											
平常点（50%）、試験（50%）で総合的に評価する。平常点については、授業中に発表したりするなどの積極的な授業への参加態度を高く評価する。また、試験については解答を配布し、学習の振り返りができるようにする。											
教科書											
【人間関係ワークブック】【田村美由紀・室井佑美　著】【萌文書林】【1,800円】											
参考書											
【幼稚園教育要領解説】【文部科学省】											
【保育所保育指針解説】【厚生労働省】											
【幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説】【内閣府等】											
備　考											
質問等については、授業終了後やオフィスアワーで受け付ける。											

授業科目名		保育内容（環境Ⅰ）			単位（総授業時間＋自習時間）				1(30+15)			
担当者	山崎 敦子		必・選	必	形態	演習	学期	後期	対象	子専1年		
授業の概要												
領域「環境」について、乳幼児の環境とのかかわりの実際について概説し、保育における環境との豊かなかかわりを育むための保育者の援助の在り方について概説する。また、五感を使って体感することを重視し、秋の自然物を使って製作したり、バッタやコオロギ等の虫を捕まえて観察したりする経験から保育者に必要な感性を磨く機会を設ける。さらに、幼稚園教諭としての経験を生かし、具体的な環境構成の仕方について説明し、指導計画における環境構成の書き方や保育実践の展開の仕方について概説する。												
授業の到達目標								学位授与の方針との関連				
								1	2	3	4	5
領域「環境」のねらいと内容を理解する。										○	○	
乳幼児の環境とのかかわりと保育者の援助の在り方について理解する。										○	○	○
環境構成や保育実践の展開の仕方を理解する。										○	○	○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）						
1. オリエンテーション：保育内容「環境」とは						指針、要領解説書の領域「環境」の頁に目を通しておく。						
2. 保育の基本と保育内容「環境」												
3. 領域「環境」の内容を体感する：身近な自然物とのかかわり(1)（秋の虫飼育・観察①）情報機器の活用						秋の虫について調べたことをまとめる。						
4. 領域「環境」の内容を体感する：身近な自然物とのかかわり(2)（秋の虫飼育・観察②）						虫の観察記録を作成する。						
5. 領域「環境」の内容を体感する：身近な物とのかかわり（お散歩バッグ製作）						自然物を使った製作について考えておく（作品名、製作の手順、準備物、活用の仕方を用紙に記入し、提出する）。						
6. 領域「環境」の内容を体感する：季節感を取り入れた保育(1)（散歩）												
7. 領域「環境」の内容を体感する：季節感を取り入れた保育(2)（自然物を使った製作）情報機器の活用												
8. 領域「環境」の内容を体感する：季節感を取り入れた保育(3)（製作発表）						各自自然物を使った作品を準備する。						
9. 環境構成について(1)：魅力的な環境構成とは						環境構成について学んだことを整理し、ノートやプリントを見直して復習する。						
10. 環境構成について(2)：保育室内の環境構成												
11. 環境構成について(3)：指導計画の環境構成・準備物の書き方・人的環境について						指導案に環境構成を記入し、提出する。						
12. 領域「環境」の内容を体感する：季節感を取り入れた保育(4)（クリスマスカード作り）						クリスマスカードを各自仕上げる。						
13. 領域「環境」の内容を体感する：季節感を取り入れた保育(5)（こままわし①）						こまを回すことができるように練習する（こままわし大会に備える）。						
14. 領域「環境」の内容を体感する：季節感を取り入れた保育(6)（こままわし②）												
15. 領域「環境」の内容を体感する：季節感を取り入れた保育(7)（豆まき）						鬼のお面作りの環境構成のポイントを整理しておく。						
履修上の注意												
教職に関する専門教科の一つであり、幼稚園教諭免許、保育士資格取得のための必修科目である。授業への取り組み（受講態度）を重視する。												
成績評価方法・基準												
平常点（受講態度）（50％）レポートや提出物（50％）により総合的に評価する。 提出課題については、添削して返却する。												
教科書	[子どもと共に育ちあうエピソード保育者論][井上孝之・山崎敦子][みらい] 2,000 円]											
参考書	[保育所保育指針解説][厚生労働省] [幼稚園教育要領解説][文部科学省] [幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説][総務省・文科省・厚労省]											
備 考												
天候等により、授業計画の順番を変更することがある。 質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。												

授業科目名		保育内容（環境Ⅱ）			単位（総授業時間＋自習時間）				1(30＋15)			
担当者	山崎 敦子	必・選	選	形態	演習	学期	前期	対象	子専2年			
授業の概要												
子どもを取り巻く望ましい環境を踏まえ、発達の基礎を培うために必要な環境作りについて理論的に学び、領域「環境」のねらいと内容を様々な体験を通して理解できるようにする。幼稚園教諭としての経験を生かし、春の雑草調べ、泥だんご作り、夏野菜の栽培・収穫・調理等、季節感を意識した活動を取り入れ、その時期ならではの自然物に触れたり、七夕飾り製作といった季節の行事を経験し、「体感する」ことによって、保育者に必要な豊かな感性を育む。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
領域「環境」のねらいと内容について体験を通して総合的に理解する。									○		○	
保育実践における保育内容「環境」の指導のあり方を理解する。									○	○		
自然に触れ、五感を使うことで豊かな感性を養う。										○		○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）							
1. オリエンテーション・春の壁面製作①（グループ作り・話し合い）					既習の授業内容（領域「環境」のねらいと内容）について確認する。							
2. 春の壁面製作②（グループで製作）					春の壁面について保育雑誌等を参考にグループごとに準備する。							
3. 身近な自然物を取り入れた保育(1)：春の雑草調べ					春の雑草についての課題を仕上げる。							
4. 身近な自然物を取り入れた保育(2)：夏野菜の栽培・観察①（野菜の育て方をタブレットで調べる）					野菜の栽培の仕方についてまとめる。							
5. 身近な自然物を取り入れた保育(3)：夏野菜の栽培・観察②（草取り、苗植え）					観察記録を作成する（全部で5回）							
6. 身近な自然物を取り入れた保育(4)：夏野菜の栽培・観察③（栽培方法をまとめる・発表）					栽培方法を整理し一覧表にまとめる。							
7. 身近な自然物を取り入れた保育(5)：泥だんご作り①												
8. 身近な自然物を取り入れた保育(6)：泥だんご作り②												
9. 季節感を取り入れた保育：七夕飾り製作					七夕飾りを考えてくる。							
10. 夏の壁面製作（グループで製作）					夏の壁面について保育雑誌等を参考にグループごとに準備する。							
11. 身近な自然物を取り入れた保育(7)：夏野菜の栽培・観察④（収穫・調理）					観察記録をまとめて冊子にする。							
12. 授業のまとめ・後始末												
13.												
14.												
15.												
履修上の注意												
教職に関する専門教科の一つであり、幼稚園教諭免許、保育士資格取得のための選択科目である。授業への取り組みを重視する。												
成績評価方法・基準												
平常点（受講態度）（50％）レポートや提出物（50％）により総合的に評価する。 提出課題等については、添削後、授業中にフィードバックする。												
教科書 授業時にプリントを配布する。												
参考書 【保育所保育指針解説】[厚生労働省] 【幼稚園教育要領解説】[文部科学省] 【幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説】[総務省・文科省・厚生労働省]												
備考												
天候等により、授業計画の順番を変更することがある。 質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。												

授業科目名		保育内容（言葉Ⅰ）			単位（総授業時間＋自習時間）				1（30+15）				
担当者	三浦 主博		必・選	必	形態	演習	学期	後期	対象	子専1年			
授業の概要													
幼稚園教諭養成課程（領域及び保育内容の指導法に関する科目：保育内容の指導法）及び、保育士養成課程（「保育の内容・方法に関する科目」）の必修科目である。幼稚園・保育所・認定こども園での保育において育みたい資質能力について理解し、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深め、乳幼児の発達に即して、具体的な指導場면을想定して保育を構想する方法を身につける。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された保育の基本を踏まえ、「言葉」の領域のねらい及び内容を理解する。										○	○	○	○
保育内容「言葉」の領域に関する理論（言葉の意義、発達など）を理解する。										○	○		
領域「言葉」に関わる具体的な指導場면을想定した保育を構想する方法（絵本、紙芝居などの保育教材の扱い方）を身につける										○	○		○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. オリエンテーション・言葉の意義						当該科目の授業内容・計画について理解する。							
2. 幼稚園教育要領・こども園教育保育教育要領の領域「言葉」						教育要領を読み、授業内容の予習復習を行う。							
3. 保育所保育指針・こども園教育保育教育要領の領域「言葉」						保育指針を読み、授業内容の予習復習を行う。							
4. 乳幼児の言葉の発達①（3歳未満児）						配布プリントを読み、授業内容の予習復習を行う。							
5. 乳幼児の言葉の発達②（3歳以上児）						配布プリントを読み、授業内容の予習復習を行う。							
6. 乳幼児期の言葉の発達に応じた指導と援助						配布プリントを読み、授業内容の予習復習を行う。							
7. 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と小学校との接続						要領・指針を読み、授業内容の予習復習を行う。							
8. 言葉に関する遊びや児童文化財と指導計画						配布プリントを読み、授業内容の予習復習を行う。							
9. 言葉に関する遊びを取り入れた模擬保育と情報機器の活用						模擬保育の準備をし、振り返りを行う。							
10. 児童文化財に関する教材研究と模擬保育①（紙芝居①）						読み聞かせの教材を準備し、記録を記入する。							
11. 児童文化財に関する教材研究と模擬保育②（紙芝居②）						読み聞かせの教材を準備し、記録を記入する。							
12. 児童文化財に関する教材研究と模擬保育③（絵本①）						読み聞かせの教材を準備し、記録を記入する。							
13. 児童文化財に関する教材研究と模擬保育④（絵本②）						読み聞かせの教材を準備し、記録を記入する。							
14. 保育現場において必要な言葉に関する援助や配慮 （言葉の障がいや異文化理解）						配布プリントを読み、授業内容の予習復習を行う。							
15. まとめ						配布プリントを読み、授業内容の予習復習を行う。							
16. 期末試験													
履修上の注意 授業への取り組み（受講態度・課題提出）を重視します。 演習科目のため、実践的な活動に対して積極的に取り組むこと。													
成績評価方法・基準 授業への取り組みの状況（20%）、期末試験（50%）、及び提出課題（30%）により総合的に評価します。なお、欠席が1/3以上の者には単位を認定しません。提出課題等については授業中に、期末試験の結果は後日機会を設けてフィードバックします。													
教科書 〔幼稚園教育要領解説〕〔文科省〕／〔保育所保育指針解説〕〔厚労省〕／授業前にプリント配布													
参考書 〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔内閣府・文科省・厚労省〕 〔子どもとかかわる人のための心理学〕〔沼山博・三浦主博〕〔萌文書林〕〔2,160円〕													
備考 質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。													

授業科目名		保育内容（言葉Ⅱ）			単位（総授業時間＋自習時間）				1（30+15）			
担当者	三浦主博・佐藤深雪	必・選	選	形態	演習	学期	前期	対象	子専2年			
授業の概要												
幼稚園教諭養成課程（領域及び保育内容の指導法に関する科目：保育内容の指導法）及び、保育士養成課程（「保育の内容・方法に関する科目」）の選択科目である。「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示された領域「言葉」のねらい及び内容について理解を深めるために、「保育内容（言葉Ⅰ）」で学習した内容をもとに、教育・保育実習と関連させながら、子どものことばと学びの関係について、担当者の小学校教諭の経験を活かして、絵本や紙芝居などの教材研究や事例研究を中心に、グループワークや発表を通して授業を行う。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
教育要領・保育指針等 に示された保育の基本を踏まえ、領域「言葉」に関する保育教材の扱い方等を理解する。									○	○		○
領域「言葉」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。									○	○	○	○
領域「言葉」に関して子どもが経験し獲得する内容と小学校の教科とのつながりを理解する。									○	○	○	○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）							
1. オリエンテーション 領域「言葉」の確認（三浦・佐藤）					当該科目の授業内容・計画について理解する。							
2. 言葉の指導と教材研究①：「春の課題」発表（三浦）					「春の課題」を作成する。							
3. 言葉の指導と教材研究②：「日本語の魅力」を知る（佐藤）					事前配布プリントを読む							
4. 言葉の指導と教材研究③：「ことば遊びあれこれ」（佐藤）					事前配布プリントを読む							
5. 言葉の指導と教材研究④：「教室のことば」（佐藤）					事前配布プリントを読む							
6. 言葉の指導と教材研究⑤：「実習中の課題」発表（三浦）					「実習中の課題」を作成する。							
7. 言葉の指導と教材研究⑥：子どもの言葉と学び（佐藤）					事前配布プリントを読む							
8. 言葉の指導と教材研究⑦：教師の言葉「言葉がけ」（佐藤）					事前配布プリントを読む							
9. 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と小学校との接続（佐藤）					事前配布プリントを読む							
10. 言葉の指導と教材研究⑧：「夏の課題」発表（三浦）					「夏の課題」を作成する。							
11. まとめ（三浦・佐藤）												
12.												
13.												
14.												
15.												
履修上の注意		授業への取り組み（受講態度・課題提出）を重視します。 演習科目のため、実践的な活動に対して積極的に取り組むこと。										
成績評価方法・基準												
授業への取り組みの状況（50%）、及び提出課題（50%）により総合的に評価します。なお、欠席が 1/3 以上の者には単位を認定しません。提出課題等については、授業中にフィードバックします。												
教科書	〔幼稚園教育要領解説〕〔文科省〕／〔保育所保育指針解説〕〔厚労省〕／授業前にプリント配布											
参考書	〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔内閣府・文科省・厚労省〕 〔新訂 子どもとかかわる人のための心理学〕〔沼山博・三浦主博〕〔萌文書林〕〔2,160 円〕											
備考	質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。											

授業科目名		保育内容（表現Ⅰ）				単位（総授業時間＋自習時間）				1（30+15）		
担当者	横山美喜子 佐藤和貴	必・選	必	形態	演習	学期	後期	対象	子専1年			
授業の概要												
各要領及び指針の解説を読み込み、領域「表現」のねらい及び内容を理解する。また、幼児が表現した作品や具体的な表現の様子の映像等から、その特徴的な表現の形や発達の過程とその理論を理解する。領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想し、模擬保育としてパネルシアターの製作に取り組む。さらにパネルシアターを実演することで、保育者としての実践力を身に付ける。 この授業においては、小学校教諭・高等学校教諭としての経験を生かし、保育者として幼児の豊かな表現力を育むための指導の在り方を具体的に構想できるように指導していく。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
各要領及び指針に示された幼稚園教育の基本をふまえ、領域「表現」のねらい及び内容を理解する。									○			
領域「表現」に関する理論を理解する。										○		
領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。											○	
領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を実践する力を身に付ける。												○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）						
1. オリエンテーション・表現とは [横山]						これまでの表現活動について振り返る。						
2. 各要領及び指針における領域「表現」 [横山]						領域「表現」に関する理論を身に付ける。						
3. 乳幼児期の発達と表現①（3歳未満児） [横山]						学習内容を確認し、実践に活かす。						
4. 乳幼児期の発達と表現①（3歳以上児） [横山]						学習内容を確認し、実践に活かす。						
5. 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿「豊かな感性と表現」と小学校の教科とのつながり [横山]						小学校教育に至る幼児教育の位置付けを確認し、実践に活かす。						
6. 表現に至るプロセス・幼児のイメージを豊かにする環境構成や言葉がけについて [佐藤]						学習内容を確認し、実践に活かす。						
7. 意欲的な表現活動・幼児の表現の豊かさや深まりを促す環境構成や言葉がけについて [佐藤]						学習内容を確認し、実践に活かす。						
8. 表現に関する教材研究と指導計画及び情報機器の活用① [横山]						学習内容を確認し、実践に活かす。						
9. 表現に関する教材研究と指導計画及び情報機器の活用② [横山]						学習内容を確認し、実践に活かす。						
10. 表現に関する教材研究と模擬保育①（パネルシアター製作） [横山]						学習内容を確認し、実践に活かす。						
11. 表現に関する教材研究と模擬保育②（パネルシアター製作） [横山]						学習内容を確認し、実践に活かす。						
12. 表現に関する教材研究と模擬保育③（パネルシアター製作） [横山]						学習内容を確認し、実践に活かす。						
13. 表現に関する教材研究と模擬保育④（パネルシアター製作） [横山]						学習内容を確認し、実践に活かす。						
14. 共同的かつ創造的な表現を育むための様々な取組 [横山]						学習内容を確認し、実践に活かす。						
15. まとめ [横山]						学習内容を確認し、今後の実践に活かす。						
履修上の注意												
保育士資格取得のための必修科目である。授業への取組を重視する。												
成績評価方法・基準												
受講状況を含む平常点 50％ 模擬保育・作品としてのパネルシアター及びレポート 50％ ルーブリック評価については第1回の授業で説明する。提出課題等については、添削後授業中にフィードバックする。												
教科書 授業前に必要なプリントを配布する。												
参考書 保育所保育指針解説、幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説												
備考 都合により授業計画の順番等を変更する場合があります。質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。												

授業科目名		保育内容（表現Ⅱ）				単位（総授業時間＋自習時間）				1（30+15）			
担当者	横山美喜子	佐藤和貴	必・選	選	形態	演習	学期	後期	対象	子専2年			
授業の概要													
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」に示された領域「表現」のねらい及びその内容への理解を深めるとともに、遊びの中から様々な表現につながっていく幼児の表現の特徴を理解する。それぞれ1編の詩を選び、自分のイメージを基に造形表現・音楽表現・言語表現・身体表現を行う。さらに互いの表現を理解し合い、1つの表現として融合させ、最終的に全員で劇として発表する。小学校教諭および高等学校教諭としての経験を生かして、幅広い視点から表現について考える。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
各要領及び指針に則り、幼児の表現の特徴を理解する。										○			
1つのイメージを基に様々な形で表現を行い、幼児の表現を実感する。											○		
互いの表現を理解し合い、1つに融合していくことで共同的な表現のあり方を体験的に理解する。												○	
総合的な表現である劇を発表し、保育者としての実践力を高める。													○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1.未分化な幼児の表現の特徴について理解する。 [横山]						実習等の経験を振り返る。							
2.詩を選び、造形表現、音楽表現、身体表現、言語表現の形を考える。 [横山]						学習内容を確認し、実践に活かす。							
3.それぞれの表現を融合し、劇という形で表現するための手立てを考える。 [横山]						学習内容を確認し、実践に活かす。							
4.造形表現活動1（舞台装置、衣装などの製作） [横山]						ベースとなる衣装を準備する。							
5.造形表現活動2（舞台装置、衣装などの製作） [横山]						学習内容を確認し、実践に活かす。							
6.造形表現活動3（舞台装置、衣装などの製作） [横山]						学習内容を確認し、実践に活かす。							
7.音楽表現活動1（BGM,効果音などの製作） [佐藤]						楽器の特徴を振り返る。							
8.音楽表現活動2（BGM,効果音などの製作） [佐藤]						学習内容を確認し、実践に活かす。							
9.身体・言語表現活動1（ダンス、せりふなどの創作） [横山]						学習内容を確認し、実践に活かす。							
10.身体・言語表現活動2（演出を考え通し練習） [横山]						学習内容を確認し、実践に活かす。							
11.総合的な表現活動（劇として発表） [佐藤] [横山]						学習内容を確認し、実践に活かす。							
12.													
13.													
14.													
15.													
履修上の注意													
協同での活動が多いので、互いに協力し合うこと。													
成績評価方法・基準													
受講態度・授業への参加状況（50％）劇及び劇としての表現に至る各自の表現内容（50％） 提出課題等については、添削後授業中にフィードバックする。													
教科書 事前に必要なプリントを配布する。													
参考書 保育所保育指針解説、幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説													
備考													
質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。													

授業科目名		教育・保育方法論			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)		
担当者	盛下 真優子・松尾 広	必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	子専1年		
授業の概要											
前半は幼児教育・保育の方法に関する基礎的な理論や概念、視点を確認し、これからの社会を担う子どもたちに求められる資質能力を育成するために必要な教育の方法を講義する。また、幼児教育・保育を行う上での基礎的な技術を、指導案や具体的事例を用いて解説する。講義では学生が自らの考えを発表したり議論する時間を設けることで、教育・保育方法に対して知見を広げられるようにする。後半は教育をコミュニケーションによる学習活動としてとらえ、視聴覚的なコミュニケーションの意義、視聴覚教材・機器の特徴について解説し、視聴覚教材の制作を通して理解を深めるようにする。											
授業の到達目標							学位授与の方針との関連				
							1	2	3	4	5
1. 教育・保育方法の基礎的な理論と実践を理解する。							○		○		
2. 教育・保育方法のための指導技術を理解し、身に付ける。									○		○
3. 視聴覚的なコミュニケーションの意義と視聴覚機器の特徴を理解する。									○	○	
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）					
1. オリエンテーション：教育・保育方法とは何か〔盛下〕						シラバスから授業の概要・目標・内容を確認し、今後の学習内容を見通す。					
2. 幼児教育・保育方法の歴史〔盛下〕						配布資料を読んでくる／復習					
3. 幼児教育・保育の方法(1)基礎理念〔盛下〕						配布資料を読んでくる／復習					
4. 幼児教育・保育の方法(2)幼児の生活、遊び〔盛下〕						配布資料を読んでくる／復習					
5. 幼児教育・保育の方法(3)評価〔盛下〕						配布資料を読んでくる／復習					
6. 幼児教育・保育の方法(4)具体例〔盛下〕						配布資料を読んでくる／復習					
7. 幼児教育・保育の技術(1)指導計画作成ポイント〔盛下〕						配布資料を読んでくる／復習					
8. 幼児教育・保育の技術(2)指導計画の取り組み事例〔盛下〕						配布資料を読んでくる／復習					
9. 幼児教育・保育の技術(3)指導計画の作成〔盛下〕						配布資料を読んでくる／復習					
10. これからの幼児教育・保育に求められるもの〔盛下〕						配布資料を読んでくる／復習					
11. 教育におけるコミュニケーション〔松尾〕						ノートを見直し、要点を押さえる。					
12. マスコミと教育〔松尾〕						ノートを見直し、要点を押さえる。					
13. 視聴覚機器の特性〔松尾〕						ノートを見直し、要点を押さえる。					
14. コンピュータと視聴覚教材〔松尾〕						ノートを見直し、要点を押さえる。					
15. まとめ（11～14回）〔松尾〕						学んだことを振り返り、課題を仕上げる。					
履修上の注意											
毎時間コメントペーパーを書いて提出する。											
成績評価方法・基準											
提出物・受講態度 40%、レポート 60%											
提出物については授業内でフィードバックする。											
教科書 事前にレジュメ等を配布する。											
参考書 授業内で適宜紹介する。											
備 考											
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。											

授業科目名		保育内容の指導法			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30＋60)			
担当者	山崎 敦子	必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	子専2年			
授業の概要												
幼稚園教諭二種免許状取得のための必修科目である。幼稚園教育要領に基づき、「環境を通しての教育」「遊びを通しての指導」等の方法的特質と、5領域のねらい及び内容の関連について実践的に学び、指導計画を作成する力を身につける。また、幼稚園教諭としての経験に基づいた様々な生活や遊びの場面（エピソード）から、可能な保育方法をグループで話し合い、共有することで、保育を展開していくための知識と技術の引き出しを増やす。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
幼児期の発達を踏まえ、幼稚園教育の方法的特質を理解する。								○	○		○	
様々な保育場面（エピソード）から、保育方法を考え、理解する。									○	○		○
幼稚園教育の指導計画の作成の仕方を理解する。									○			○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）							
1. 幼稚園教育の基本・保育内容の指導法について					幼稚園教育要領の内容を復習しておく。							
2. エピソード①：園外保育でつかまえたバッタ					それぞれのエピソード（場面）ごとに、保育方法、保育者の援助・配慮の仕方等について、整理し、復習する。							
3. エピソード②：トラブルの場面												
4. エピソード③：実習生部分実習から(1)												
5. エピソード④：実習生部分実習から(2)												
6. エピソード⑤：後片付け エピソード⑥：給食												
7. 環境を通して行う教育					既習の授業内容（保育内容等）を確認する。							
8. 遊びを通しての指導					既習の授業内容（保育内容等）を確認する。							
9. 実習の振り返り・指導計画の作成・解説					指導計画作成についてポイントを整理する。							
10. エピソード⑦：保育における個と集団の関係					それぞれのエピソード（場面）ごとに、保育方法、保育者の援助・配慮の仕方等について、整理し、復習する。							
11. エピソード⑧：気になる子ども・障害のある子どもに対する援助												
12. 家庭・地域・小学校との連携のあり方					ノートを見直し、復習する							
13. 指導計画の立案（3歳児）					年齢ごとの指導計画立案について、ポイントを整理し、復習する。							
14. 指導計画の立案（4歳児）												
15. 指導計画の立案（5歳児）												
16. 期末試験												
履修上の注意												
幼稚園教諭免許取得のための必修科目であるため、積極的に授業に取り組むこと。												
成績評価方法・基準												
受講態度（50%） 期末試験（50%）により総合的に評価する。												
試験終了後に解説をする。指導計画等の提出課題については添削して返却する。												
教科書 授業前にプリントを配布する												
参考書 [保育所保育指針解説][厚生労働省] [幼稚園教育要領解説][文部科学省] [幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説][総務省・文科省・厚労省]												
備考												
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。												

授業科目名		保育の実技と演習			単位（総授業時間＋自習時間）				1（30+15）			
担当者	山崎 敦子	必・選	必	形態	演習	学期	前期	対象	子専2年			
授業の概要												
①保育実習や将来の保育実践に備えるために、テーマに沿って作成した指導計画をもとに模擬保育（手遊びを含めたエプロンシアター、手作り教材を用いた保育実践）を行い、幼稚園教諭としての経験を生かして具体的な実践方法を伝える。②牛乳パックや新聞紙等、身近な材料を使って、実習で活用できる教材の製作方法を学び、実践する機会を設ける。③仲間との協同を学ぶために「ペープサート」を取り入れ、互いに協力しながら「題材選び、台本作り、製作、練習、実演（発表）」の一連の活動を経験できるようにする。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
指導計画の作成について具体的に理解する。									○		○	
指導計画に沿った模擬保育やグループ活動により、保育者として必要な知識、技能を修得する。保育実践力を身に付ける。									○	○		○
既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、総合的な保育実践力を身に付ける。									○	○		○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）							
1. オリエンテーション					手遊びを一人2つ考える。							
2. 手遊びの発表					エプロンシアターの練習をする。							
3. 児童文化財（エプロンシアター）を用いての実演①												
4. 児童文化財（エプロンシアター）を用いての実演② 模擬保育に向けて保育指導計画（部分案）の作成・検討					模擬保育のための指導案を作成する。							
5. 保育指導計画にのっとっての模擬保育①					模擬保育の評価・反省をする							
6. 保育指導計画にのっとっての模擬保育②												
7. 保育実習に向けて～教材製作					製作した教材を活用できるように練習する。							
8. 予想される子どもの姿を考える（ディスカッション）					予想される子どもの姿を各自まとめる。							
9. 予想される子どもの姿・実際の姿を記録・発表					実際の姿を記録し、発表の準備をする。							
10. グループ発表（ペープサート）準備①					グループごとにペープサートの練習をする。							
11. グループ発表（ペープサート）準備②												
12. グループ発表（ペープサート）準備③												
13. ペープサート発表会					まとめのレポートを作成する。							
14.												
15.												
履修上の注意												
保育の技術や実践力を身に付けるために積極的に授業に臨むこと。 書籍、インターネット等を利用して、絶えず教材研究を重ねること。												
成績評価方法・基準												
平常点（受講態度）（50％）レポートや提出物（50％）により総合的に評価する。 指導案等の提出課題は添削して返却する。												
教科書	〔遊びの指導 乳幼児編〕[幼少年教育研究所][同文書院][3,600 円]											
参考書	〔教育・保育課程論〕[岩崎淳子・及川留美・粕谷亘正][萌文書林][1,900 円]											
備考												
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。												

授業科目名		児童文化 I			単位（総授業時間＋自習時間）				1(30+15)			
担当者	黒澤 宜子	必・選	必	形態	演習	学期	後期	対象	子専 1 年			
授業の概要												
手芸(裁縫)の基礎（型紙・布地の裁断・刺繍・縫製）の習得を兼ねてピンクッションを製作。そして、幼児の発達過程や興味関心に応じて、保育者が伝えたいことや幼児とやり取りができる内容を考慮し、題材を各自が選定。布地の特性を活かし、幼児が興味を示すような仕掛けや素材などを取り入れた視覚教材「おはなし手袋」「エプロンシアター」の製作方法を習得・発表し、2 年生での実践に備える。保育士の経験を生かして完成作品のイメージに合った材料を準備することから、製作過程を身に付けさせる。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
布地を用いた製作過程の基礎を習得する。										○	○	○
製作品に合わせた素材を選び、素材や用途に適した手法を理解する。										○	○	○
幼児の発達過程や興味関心に応じて活用できるよう、工夫し製作する。										○	○	○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）							
1.「授業内容と進め方」「用具と材料」説明／おはなし手袋：題材選定、台本作成など説明／基礎縫い①：型紙、布裁断、ステッチ(①ランニングステッチ、②バックステッチ、③アウトラインステッチ、他 2 種)					①おはなし手袋：題材選定、イメージ図を記入し次回提出&確認 ②基礎縫い(ステッチ①～⑤)仕上げる。							
2.おはなし手袋：イメージ図を基に個々に確認／基礎縫い②：ステッチ(⑥フレンチノットステッチ、⑦レースステッチ、⑧サテンステッチ 他 3 種)					①基礎縫い(ピンクッション)を仕上げる。 ②次回、おはなし手袋の型紙作成ができるように絵本などを準備。							
3.おはなし手袋①：実物大で型紙作成、裁断、フェルトに型を写し裁断、刺繍糸でステッチ、縫い合わせる(ボタンホールステッチ)					マスコット製作（1/4 仕上げる）							
4.おはなし手袋②：綿を入れて縫い合わせる(ボタンホールステッチ)／エプロンシアター：題材選定、台本作成など説明					①マスコット製作（1/2 仕上げる） ②エプロンシアター：題材選定、イメージ図を記入し次回提出&確認							
5.おはなし手袋③：綿を入れて縫い合わせる(ボタンホールステッチ)、マジックテープを縫い付ける(たてまつり)／エプロンシアター：イメージ図を基に個々に確認					マスコット製作（3/4 仕上げる）							
6.おはなし手袋④：マジックテープを縫い付ける(たてまつり)、仕上げ（細かいパッチ貼付）／エプロンシアター：イメージ図を基に個々に確認					おはなし手袋を完成させる。次回の発表に備えてセリフを暗記し、マスコットの動かし方を練習。（発表ポイント：対象者は幼児）							
7.おはなし手袋⑤：おはなし手袋発表(プリント：発表をしておの感想・他者の発表からの気づきを記入し提出)／エプロンシアター：製作で使用する材料について説明(各自購入)					①おはなし手袋の修正&作品カードを記入し、次回提出(イメージ図、型紙) ②エプロンシアター：フェルトや布地、刺繍糸などの材料を各自準備。次回、布に型を写す作業から入れるように実物大で型紙を作成。							
8.エプロンシアター①：フェルトや布地に型を写す、裁断					マスコット製作（1/5 仕上げる）							
9.エプロンシアター②：フェルトや布地を裁断、模様などを刺繍糸でステッチ					マスコット製作（2/5 仕上げる）							
10.エプロンシアター③：模様などを刺繍糸でステッチ、縫い合わせる(ボタンホールステッチ)					マスコット製作（3/5 仕上げる）							
11.エプロンシアター④：綿を入れて縫い合わせる(ボタンホールステッチ、たてまつり)					マスコット製作（4/5 仕上げる）							
12.エプロンシアター⑤：綿を入れて縫い合わせる(ボタンホールステッチ、たてまつり)、マジックテープを縫い付ける(たてまつり)					マスコット製作を仕上げる。							
13.エプロンシアター⑥：マジックテープを縫い付ける(たてまつり)、飾り布(背景)の型を布地に写し裁断、エプロンに縫い付ける（たてまつり、ミシン）					背景製作（1/2 仕上げる）							
14.エプロンシアター⑦：エプロンに縫い付ける(たてまつり、ミシン)、マジックテープを縫い付ける(たてまつり)					エプロンシアターを仕上げる。次回の発表に備えてセリフを暗記し、マスコットの動かし方を練習。（発表ポイント：対象者は幼児）							
15.エプロンシアター⑧：エプロンシアター発表(プリント：発表をしておの感想・他者の発表からの気づきを記入し提出)					エプロンシアターの修正&作品カードを記入し、ピンクッションと一緒に次週まで提出(イメージ図、型紙)							
履修上の注意：毎時間、裁縫道具を持参。製作物と進度は個々に異なるので自ら質問し、製作過程を積極的に確認しながら丁寧に取り組むこと。説明と異なる手法での製作品は評価基準外とする。材料費（手袋・エプロン代含む）3,500 円。												
成績評価方法・基準：課題作品・提出物（60％）計画的に取り組む授業姿勢(事前・事後学習を含む)（40％）発表・作品にコメント付す。												
教科書 授業前にプリントを配布												
参考書 なし												
備考												
質問等については、授業終了時のオフィスアワーに受け付けます。												

授業科目名		児童文化			単位（総授業時間＋自習時間）				1（30+15）		
担当者	横山 美喜子	必・選	選	形態	演習	学期	前期	対象	子専2年		
授業の概要											
子どものための文学や音楽、演劇、玩具など様々な分野の児童文化は、大人が「子どものために」与えた文化であると同時に、子ども自身がその感性で発信する自発的な活動力をもっている。この授業では、子どもを取り巻く環境が大きく変化する中、子どもと大人が織りなす児童文化という考え方とその現状を学ぶことを目的とする。また、その中でも特に絵本を取り上げ、その製作を行う。子どもの発達段階をふまえ、それぞれに相応しい内容を考え、一冊の絵本として表現していく。 この授業においては、小学校教諭としての経験を生かし、幼児の感性を育むための児童文化の在り方を常に模索しながら、実践力を高められるよう指導する。											
授業の到達目標							学位授与の方針との関連				
							1	2	3	4	5
多様な児童文化について知り、幼児教育における児童文化の意義を理解する。									○		
これまでに学んだ表現技法を活かし、児童文化財としての絵本を製作する。										○	
子どもが読むにふさわしい絵本を製作することへの意欲を高める。											○
製作した絵本を鑑賞し合い、より良い絵本の在り方について考察する。											○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）						
1.自分の子ども時代を取り巻く児童文化に気付き、多様な児童文化について知るとともに、児童文化の意義を理解する。					自分の子供時代を振り返り、心に残る児童文化財を思い出す。						
2.幼児の発達段階にふさわしい絵本の内容について理解する。					これまでに読んだ絵本を振り返る。						
3.自分の絵本のテーマ、対象年齢、表現方法を考える。					造形Ⅰ・Ⅱで学んだ表現方法を振り返る。						
4.試作品作成1					原画にどのように活かすかをイメージする。						
5.試作品作成2					原画にどのように活かすかをイメージする。						
6.原画作成1					写真や図鑑などを資料として準備する。						
7.原画作成2					写真や図鑑などを資料として準備する。						
8.原画作成3					写真や図鑑などを資料として準備する。						
9.製本1					完成作品への見通しをもつ。						
10.製本2					完成作品への見通しをもつ。						
11 発表・評価					絵本への見方を深め、実践に活かす。						
12.											
13.											
14.											
15.											
履修上の注意											
製作中に服が汚れることがあるので、作業着を着用すること。											
成績評価方法・基準											
受講態度・授業への参加状況（50％） 試作品及びそれぞれの原画を含む作品（絵本）（50％） 絵本の試作品等に対しては評価後授業中に、また完成作品は授業終了後にフィードバックする。											
教科書 授業前に必要なプリントを配布する。											
参考書 なし											
備 考											
都合により授業計画の順番等を変更する場合があります。 質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。											

授業科目名		乳児保育Ⅰ			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30＋60)			
担当者	大窪 裕喜恵		必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	子専1年		
授業の概要												
乳児保育の意義・理念について、保育所保育指針や認定こども園教育保育要領から紐解き、保育者の役割について考え合う中で、保育者としての意識を持てるようにする。保育士としての経験を生かし、現代の家族状況と共に保育所・こども園・乳児院など多様な保育の場があることを知らせ、様々な場所で保育を受けている子どもたちの置かれている現状と課題を講義する。さらに3歳未満児の発育・発達の特徴や保育内容について具体的な事例を通して講義やグループワークを通して、実践に結びつけられるようにする。												
授業の到達目標								学位授与の方針との関連				
								1	2	3	4	5
1. 乳児保育の現状と課題を踏まえた、意義・理念・役割について理解する。											○	
2. 職員の連携及び保護者や関係機関との連携について認識する。										○		
3. 3歳未満児の発達を踏まえた基礎的な知識と保育内容について理解する。											○	○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）							
1.乳児保育とは何か					教科書を読み、わからない所は自分で							
2.乳児保育の理念と概要					調べたり、質問内容を書き出す							
3.乳児保育の歴史					母性神話・3歳児神話を調べる							
4.乳児保育の基礎知識1 乳児の持っている力					大人が赤ちゃんに惹きつけられるか書き出す。							
5.乳児保育の基礎知識2 愛着の発達と子どもの姿					愛着について調べる							
6.乳児保育の基礎知識3 0歳児の発達の特徴とその過程					自我について調べる。							
7.乳児保育の現状と課題 保育所・こども園その他の施設					乳児保育のイメージを書いてみる。							
8.乳児保育の現状と課題 乳児の育ちと生活					デーリープログラムを見て気づいたことを書く							
9.乳児院による現状と課題 乳児保育に必要な環境					人的環境としての保育士の役割を書き出す。							
10. 職員間の連携と協働					どんな連携が必要か考えよう							
11. 保護者の置かれている環境と保護者支援					ある親子の一日から保護者の立場に立ってみよう							
12. 具体的な保護者支援					保護者の伝え方について気づいたことを書く							
13. 保健と医療関係との連携					連携機関を調べる							
14. 乳児保育の現状と課題					乳児期に大事にしたいことを書きだす							
15. まとめ					なりたい保育士像を文章にまとめてみる。							
履修上の注意												
講義やグループワークを通して、乳児保育のイメージを膨らませて考え、積極的に発言しましょう。自分で調べる、考えを書き出すことで、学びを整理し、書きまとめることで、自分のものにしていく。												
成績評価方法・基準												
講義の受講態度 50% （授業中に積極的に発言・発表するなどの参加態度を評価する）												
課題・レポート 50% （課題・レポート内容により乳児保育の学びに即しているかで評価する）												
課題・レポートは授業の中で、フィードバックします。												
教科書〔乳児保育演習ブック〕〔松本峰雄著〕〔ミネルヴァ書房〕〔2500＋税〕												
参考書〔こどもの心の育ち〕〔阿部 和子著〕〔萌文書林〕〔1600＋税〕												
備考												
＊授業内容については、都合により授業計画の順番等を変更する場合があります。												
＊質問等については、授業中もしくは、オフィスアワーでも受け付けます。												

授業科目名	乳児保育Ⅱ				単位（総授業時間＋自習時間）				1 (30＋15)				
担当者	大窪 裕喜恵		必・選	必	形態	演習	学期	後期	対象	子専1年			
授業の概要													
3歳未満児の発育・発達の過程における特徴と、保育士としての経験を生かし、保育者の援助や関わり方の基本的な考え方や保育内容を事例を通して話し、その中で個人差や発達の連続性を考慮した、子どもの生活について講義する。													
基本的な生活習慣の自立に向けての関わり方や援助についてグループワークを通して、考え合い、どのような援助や関りが必要か気づく。また子どもが主体的に遊ぶことが、言語・運動・表現・人との関わる力を伸ばしていくことに繋がること、どのような環境（ひと・もの・こと）が必要かみんなで書き出すことで、学びを深める。また保育計画を実際に作る、具体的な遊びを考え合うなど実践に結びつくように授業を進める。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
1. 3歳未満児の発達の発達を踏まえた保育者の援助や関わり方の基本を学ぶ										○		○	
2. 養護と教育の一体性や発達の連続性を理解する。										○	○	○	
3. 3歳未満児の具体的な保育の方法や環境について理解する。										○	○		○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1.オリエンテーション						夏休み中の課題の発表							
2.乳幼児保育の基本 ①子どもとのかかわり方						教科書に目を通して一日を組み立てる							
3.乳幼児保育の基本 ②子どもの持っている力を伸ばす						こどもの持っている力を書き出す							
4.乳幼児保育の基本 ③子どもの主体性の尊重と自己の育ち						主体性について考える							
5.保育園・こども園の一日の生活の流れと保育環境						こどもと自分の生活を書き出してみる							
6.発達を踏まえ、生活を支える援助と環境 睡眠・食事・排泄						食事・排泄の乳幼児の発達を調べる							
7.発達を踏まえ、生活や遊びを支える援助と環境 言葉						言葉の発達について調べる							
8.発達を踏まえ、遊びを支える援助と環境 運動						運動面の発達について調べる							
9.発達を踏まえた遊びを支える援助と環境 人との関わり						人との関わりでの発達について調べる							
10.心身の健康安全と情緒の安定を図るための配慮すること						養護とは何か調べる							
11.集団保育と家庭保育の関わりと連携						集団と家庭の役割について考える							
12.乳児保育における3つの柱について						3つの柱を調べておく							
13.長期計画（全体の計画・年間計画）						計画の項目について調べる							
14.月の指導計画と個別指導計画						環境（ひとものこと）を調べる							
15.まとめと試験													
履修上の注意													
＊授業の取り組み（受講態度・課題提出）を重視します。													
＊発達について自分で教科書を読んで下調べをしておきましょう。													
成績評価方法・基準													
授業の取り組みの状況 30％ 課題提出 30％ 期末試験 40％により、総合的に評価します。課題提出については、授業中にまた期末試験の結果については、後日機会を設けてフィードバックをします。													
教科書〔乳児保育演習ブック〕〔松本峰雄著〕〔ミネルヴァ書房〕〔2500＋税〕													
参考書〔こどもの心の育ち〕〔阿部 和子著〕〔萌文書林〕〔1600＋税〕													
備考 ＊授業内容については、都合により授業計画の順番等を変更する場合があります。													
＊質問等については、授業中もしくは、オフィスアワーでも受け付けます。													

授業科目名	子どもの健康と安全				単位（総授業時間＋自習時間）				1 (30+15)			
担当者	岩佐 あけみ	必・選	必	形態	演習	学期	後期	対象	子専1年			
授業の概要												
助産師として生命が生まれる現場や乳児健診の現場において赤ちゃんの世話や保護者の気持ちを受け止め学んでいます子どもの健康と安全では、子どもたちは、保護者、保育機関、学校、地域の方々との関わりなど環境にも依存しながら、日々成長しています。核家族化や女性の就労が増えたことから保育園や幼稚園での生活が、今は子どもたちに大きな影響を与えます。子どもの健康保持増進、さらには自分の健康管理についても必要な援助、技術、応用能力を学び、多様性のあることを念頭におき、実践できるようにする。「子どもの保健Ⅰ、Ⅱ」で学んだことを生かし、創造力をもって演習ができるようにする。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
1. 健康に関する観察力・判断力を学ぶことができる。									○		○	○
2. 日常の養護の具体的な方法について学ぶことができ、実際にやってみることができる。								○	○			○
3. 日常起こりうる症状やケガに対する手当を身につけることができる。									○			○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）							
1.子どもの健康と安全 オリエンテーションと小児保健について					教科書をよく読み何を勉強するか知っておく							
2.小児の発育を知る					自分の母子手帳を使い、感染について身近に感じる							
3.身体測定の意義と実施・評価（計測し評価するまで）					教科書から測定のポイントを押さえておく							
4.バイタルサインのチェックとその評価					教科書から測定のポイントを押さえておく							
5.子供の基本的生活習慣の確保					教科書をよく読み理解しておく							
6.演習①子どもの養護、日常の世話①抱き方、おむつの交換、スキンケア					見学実習に入ったら、保育士は赤ちゃんや子供をどんなふうに保育しているか観察し、演習でやってみる。							
7.演習②子どもの養護、日常の世話②歯磨き、調乳、遊び												
8.演習③沐浴、抱き方、衣類の着脱					演習のまとめとして沐浴を一人ずつテストします							
9.小児の事故とその予防					教科書をよく読み理解しておく							
10.子どものよくある症状・病気とその対処法および予防					教科書をよく読み手当てができるようになる							
11. 三角巾・包帯の扱い方、子どもの心肺蘇生法					教科書をよく読み手当てができるようになる							
12. 障害を持つ小児と家族への関わり方					教科書をよく読み対応ができるようになる							
13. 児童虐待、災害の影響から子どもをできるだけ守る					教科書をよく読み理解しておく							
14. 地域との連携・協働					教科書をよく読み理解しておく							
15.まとめ					時間がなく足りなかった部分の補習と質問							
履修上の注意												
授業に積極的に臨むこと、授業中の配布プリントが多いのでファイルにまとめ振り返ること。												
成績評価方法・基準												
●期末試験 50％●課題（レポート）提出 15％（必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としないことがある） 課題は、後日添削しフィードバックする。												
●実技試験 20％（欠席した場合はレポート提出）●受講態度 15％												
教科書〔子どもの保健演習〕〔大西文子〕〔中山書店〕〔2200円〕												
参考書〔配布プリント〕												
備考												
質問等は 授業終了時 オフィスアワーで受け付ける。												

授業科目名		障害児保育 I			単位（総授業時間＋自習時間）				1（30+15）				
担当者	三浦 主博		必・選	必	形態	演習	学期	前期	対象	子専 2 年			
授業の概要													
保育士養成課程における必修科目であり、「保育の内容・方法に関する科目」として位置づけられている。障がい児保育（インクルーシブ教育・保育）に関する様々な理念（WHO の ICF、合理的配慮）や法律（障害者の権利条約、障害者基本法、障害者差別禁止法）や、様々な障がいの特徴（身体障がい（視覚・聴覚・言葉・身体と運動の障がい）、知的障がい、発達障がい（自閉症スペクトラム、学習障がい、ADHD）など）について概説する。また、障がいに応じた援助方法について、話し合いや発表を通して理解を深める。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
障がい児保育を支える理念（インクルージョン）や歴史的変遷について学び、障がい児及びその保育について理解する。									○	○			
様々な障がいについて理解し、子ども理解や援助方法等について学ぶ。										○	○		
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. オリエンテーション						当該科目の授業内容・計画について理解する。							
2. 障がい児保育を支える理念①（障がいの定義）						教科書 1・3・5 章を読み、予習・復習をする。							
3. 障がい児保育を支える理念②（WHO の ICF）						教科書 1・4・5 章を読み、予習・復習をする。							
4. 障がいの種類とその特徴①（視覚・聴覚障がい）						教科書 2・6 章を読み、予習・復習をする。							
5. 障がいの種類とその特徴②（言葉・身体と運動の障がい）						教科書 2・6 章を読み、予習・復習をする。							
6. 障がいの種類とその特徴③（知的障がい）						教科書 2・6 章を読み、予習・復習をする。							
7. 障がいの種類とその特徴④（発達障がい）						教科書 2・6 章を読み、予習・復習をする。							
8. 障がいの種類とその特徴⑤（自閉症スペクトラム）						教科書 2・6 章を読み、予習・復習をする。							
9. 障がいの種類とその特徴⑥（学習障がい）						教科書 2・6 章を読み、予習・復習をする。							
10. 障がいの種類とその特徴⑦（ADHD）						教科書 2・6 章を読み、予習・復習をする。							
11. 期末試験													
12.													
13.													
14.													
15.													
履修上の注意													
授業への取り組み（受講態度・課題提出）を重視します。													
演習科目のため、実践的な活動に対して積極的に取り組むこと。													
成績評価方法・基準													
授業への取り組みの状況（20％）、提出課題（20％）、及び期末試験（60％）により総合的に評価します。なお、欠席が 1/3 以上の者には単位を認定しません。提出課題等については授業中に、期末試験の結果は後日機会を設けてフィードバックします。													
教科書	〔ソーシャルインクルージョンのための障害児保育〕〔堀智晴他〕〔ミネルヴァ書房〕〔2,700 円〕												
参考書	〔新訂 子どもとかかわる人のための心理学〕〔沼山博・三浦主博〕〔萌文書林〕〔2,160 円〕												
備考													
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。													

授業科目名		障害児保育Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）				1（30＋15）		
担当者	大瀬戸 美紀	必・選	必	形態	演習	学期	後期	対象	子専2年		
授業の概要											
障害児保育Ⅱは、保育の内容・方法の理解のための科目である。近年、国民のすべてが障害の有無によって分け隔てられることなく、人格と個性を尊重し合いながら共生する社会を実現することの重要性が広く認識されている。それは、保育現場においても同様で、障害の有無に関わらず、すべての子どもが健やかに発達していくことが求められている。そのため、保育者には、障害を持つ子どもの保育について必要な基礎的な知識・技術が必要とされる。そこで、ここでは、主にグループワークを通して、障害児保育の実践における基礎的な知識・技術を学ぶとともに、障害を持つ子どもに対する基本的な配慮事項についても理解する。											
授業の到達目標							学位授与の方針との関連				
							1	2	3	4	5
障害児保育に関する基礎的知識・技術を身に付ける								○	○		○
障害児保育の実践に関する基礎的知識・技術を身に付ける									○	○	○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）						
1．オリエンテーション.					授業の内容を把握し、今後の授業計画について知る						
2．障害児保育の方法や形態					学習内容を復習し、分からなかったところを把握する						
3．統合保育における指導計画					学習内容を復習し、分からなかったところを把握する						
4．個別の支援計画					学習内容を復習し、分からなかったところを把握する						
5．基本的生活習慣獲得の援助					学習内容を復習し、分からなかったところを把握する						
6．集団生活の援助					学習内容を復習し、分からなかったところを把握する						
7．保護者や家族への支援					学習内容を復習し、分からなかったところを把握する						
8．地域の社会資源との連携					学習内容を復習し、分からなかったところを把握する						
9．ケースワーク					学習内容を復習し、分からなかったところを把握する						
10．まとめと試験					今までの学習内容を振り返り、さらに理解を深める						
11.											
12.											
13.											
14.											
15.											
履修上の注意											
グループワークが中心となってくるので、活発な意見交換を通して、お互いに啓発し合えるような、積極的な態度で授業に臨んで欲しい。											
成績評価方法・基準											
平常点（50％）、試験（50％）で総合的に評価する。平常点については、授業中に発表したりするなどの積極的な授業への参加態度を高く評価する。また、試験については解答を配布し、学習の振り返りができるようにする。											
教科書〔演習・保育と障害のある子ども〕〔野田敦史・林恵 編〕〔みらい〕〔2,300 円〕											
参考書 授業の中で指示する											
備 考											
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワーに受け付ける。											

授業科目名		社会的養護内容			単位（総授業時間＋自習時間）				1（30＋15）		
担当者	大瀬戸 美紀	必・選	必	形態	演習	学期	前期	対象	子専2年		
授業の概要											
社会的養護内容は、保育の内容・方法の理解のための科目である。社会的養護は、子どもの権利擁護を基本とし、子どもの安全・安心な生活を守ることや心のケアあるいは自立支援を目標において展開されている。この中で保育者に期待される社会的役割や必要とされる基礎的知識を理解する。また、施設養護や家庭支援の具体的な内容や実践について学ぶことにより、施設保育士の職務内容が多岐にわたることを理解する。その上で、主にグループワークを通して、施設実習に必要な基礎的専門知識・技術を習得を目指す。											
授業の到達目標							学位授与の方針との関連				
							1	2	3	4	5
社会的養護の実践に関する基礎的知識・技術を身に付ける。									○	○	
社会的養護の中で保育士に求められている社会的な役割を理解する。									○	○	○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）						
1. オリエンテーション					授業の内容を把握し、今後の授業計画について知る						
2. 現代の児童問題					学習内容を復習し、分からなかったところを把握する						
3. 児童養護の理念と施設養護の原則					学習内容を復習し、分からなかったところを把握する						
4. 施設養護の内容と実際					学習内容を復習し、分からなかったところを把握する						
5. 乳児院における養護の実際					学習内容を復習し、分からなかったところを把握する						
6. 母子生活支援施設における養護の実際					学習内容を復習し、分からなかったところを把握する						
7. 児童養護施設における養護の実際					学習内容を復習し、分からなかったところを把握する						
8. 児童自立支援施設における養護の実際					学習内容を復習し、分からなかったところを把握する						
9. 障害児入所施設における養護の実際					学習内容を復習し、分からなかったところを把握する						
10. まとめと試験					今までの学習内容を振り返り、さらに理解を深める						
11.											
12.											
13.											
14.											
15.											
履修上の注意											
グループワークが中心となってくるので、活発な意見交換を通して、お互いに啓発し合えるような、積極的な態度で授業に臨んで欲しい。											
成績評価方法・基準											
平常点（50%）、試験（50%）で総合的に評価する。平常点については、授業に中に発表したりするなどの積極的な授業への参加態度を高く評価する。また、試験については解答を配布し、学習の振り返りができるようにする。											
教科書 〔演習児童の社会的養護内容〕〔神戸賢次・喜多一憲 編〕〔(株) みらい〕〔2,000 円〕											
参考書 授業の中で指示する											
備 考											
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワーに受け付ける。											

授業科目名	保育相談支援				単位（総授業時間＋自習時間）				1（30＋15）				
担当者	大瀬戸 美紀		必・選	必	形態	演習	学期	後期	対象	子専2年			
授業の概要													
保育相談支援は、保育の内容・方法の理解のための科目である。保育相談支援の知識、技術及び価値と倫理について、演習を通して実践的に学ぶ。具体的には、保育士が保護者を支援するにあたっての理念や基本的な考え方を概観する。その上で、相談援助の展開過程や技法などの今まで学んできた基礎的知識・技術を使って、主にグループワークを通して、相談事例について考える。また、現代社会の課題とされているインクルージョンや児童虐待などの社会的な問題についても知識を深める。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
保育相談支援の基礎的な知識・技術を身に付ける										○		○	
保育相談支援に関する基礎的な知識・技術を応用し、相談事例について考える										○	○	○	○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. 保育相談支援とはなにか						授業の内容を把握し、今後の授業計画について知る							
2. 保育士と相談支援						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
3. 保育相談支援の必要性						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
4. 保育者に求められる専門性						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
5. 保護者との信頼関係の構築						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
6. 保護者の養育力向上						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
7. 地域資源の活用と関係機関との連携・協力						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
8. 保育相談支援の計画・記録・評価						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
9. 特別な支援を必要とする保護者への支援						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
10. まとめと試験						今までの学習内容を振り返り、さらに理解を深める							
11.													
12.													
13.													
14.													
15.													
履修上の注意													
グループワークが中心となってくるので、活発な意見交換を通して、お互いに啓発し合えるような、積極的な態度で授業に臨んで欲しい。													
成績評価方法・基準													
平常点（50%）、試験（50%）で総合的に評価する。平常点については、授業中に発表したりするなどの積極的な授業への参加態度を高く評価する。また、試験については解答を配布し、学習の振り返りができるようにする。													
教科書〔演習・保育と保護者への支援〕〔小原敏郎・橋本好市・三浦主博〕〔みらい〕〔2,200 円〕													
参考書 授業の中で指示する													
備 考													
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワーに受け付ける。													

授業科目名		音楽Ⅰ			単位（総授業時間＋自習時間）				1(30+15)			
担当者	佐藤 和貴	必・選	必	形態	演習	学期	前期	対象	子専1年			
授業の概要												
教科書としているワークシート集「音楽事始」を利用し、保育者として必要な基本的な音楽理論を理解し、ピアノ演奏や子どものうたの読譜に必要な知識と技術を身に付けるようにする。特に、音高読譜の仕方について学び、ピアノⅠの授業との連携を計り実践的に読譜力を高める。また、広く幼稚園や保育所で行われている、春、夏の季節のうたや生活のうた等「子どものうた」を取り上げ歌唱方法と指導のあり方を身に付け、更に「弾き歌い」の歌唱法の基礎が身に付くようにする。高等学校教諭としての経験を生かし、総合的な音楽表現の能力を高めていく授業を行う。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
音高読譜や基本的な音楽理論を理解する。									○		○	
春、夏などの季節や日常の歌を正しく歌おうとする。									○	○	○	○
自分に合った弾き歌いを身に付けようとする。									○	○		○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）							
1. 読譜に必要な基礎知識①：楽譜の基礎知識／歌唱法・歌唱指導①（春の歌）：楽譜を読みながら歌う					資料により学修し身に付ける。春の歌の音高読譜を進める。歌詞の意味を調べる。							
2. 読譜に必要な基礎知識②：音の呼び方／歌唱法・歌唱指導②（春の歌）：歌詞の意味を考えて歌う					資料により学修し身に付ける。春の歌の音高読譜する。歌詞を覚える。							
3. 読譜に必要な基礎知識③：音符と休符／歌唱法・歌唱指導③（春の歌）：歌詞と楽譜の関係を考えて歌う					資料により学修し身に付ける。春の歌の音高読譜する。歌を暗唱で歌える。							
4. 読譜に必要な基礎知識④音階と調：拍子とりズム／歌唱法・歌唱指導④（春の歌）：気持ちを込めて歌う					資料により学修し身に付ける。春の歌の音高読譜する。歌を正しく歌える。							
5. 読譜に必要な基礎知識⑤：和音／歌唱法・歌唱指導⑤（春の歌）：気持ちを込めて暗譜で歌う					資料により学修し身に付ける。夏の歌の音高読譜する。春の歌を楽しく歌える。伴奏法を身に付ける。							
6. 読譜に必要な基礎知識⑥：簡単な鍵盤ハーモニとコードネーム／歌唱法・歌唱指導⑥（夏の歌）：楽譜を読みながら歌う					資料により学修し身に付ける。夏の歌の音高読譜を進める。歌詞の意味を調べる。伴奏法を身に付ける。							
7. 読譜に必要な基礎知識⑦：反復・省略記号／歌唱法・歌唱指導⑦（夏の歌）：歌詞の意味を考えて歌う					資料により学修し身に付ける。夏の歌の音高読譜する。歌詞を覚える。伴奏法を身に付ける。							
8. 読譜に必要な基礎知識⑧：反復・省略記号／歌唱法・歌唱指導⑧（夏の歌）：歌詞と楽譜の関係を考えて歌う					資料により学修し身に付ける。夏の歌の音高読譜する。歌を暗唱で歌える。伴奏法を身に付ける。							
9. 読譜に必要な基礎知識⑨：速度記号／歌唱法・歌唱指導⑨（夏の歌）：気持ちを込めて歌う					資料により学修し身に付ける。夏の歌の音高読譜する。歌を正しく歌える。伴奏法を身に付ける。							
10. 読譜に必要な基礎知識⑩：強弱記号／歌唱法・歌唱指導⑩（夏の歌）：気持ちを込めて暗譜で歌う					資料により学修し身に付ける。日常の歌の音高読譜する。春の歌を楽しく歌える。伴奏法を身に付ける。							
11. 読譜に必要な基礎知識⑪：アディクション／歌唱法・歌唱指導⑪（日常の歌）：楽譜を読みながら歌う					資料により学修し身に付ける。日常の歌の音高読譜を進める。歌詞の意味を調べる。伴奏法を身に付ける。							
12. 読譜に必要な基礎知識⑫：装飾音／歌唱法・歌唱指導⑫（日常の歌）：歌詞の意味を考えて歌う					資料により学修し身に付ける。日常の歌の音高読譜する。歌詞を覚える。伴奏法を身に付ける。							
13. 読譜に必要な基礎知識⑬：まとめ①／歌唱法・歌唱指導⑬（日常の歌）：歌詞と楽譜の関係を考えて歌う					資料により学修し身に付ける。日常の歌の音高読譜する。歌を暗唱で歌える。伴奏法を身に付ける。							
14. 読譜に必要な基礎知識⑭：まとめ②／歌唱法・歌唱指導⑭（日常の歌）：気持ちを込めて歌う					資料により学修し身に付ける。日常の歌の音高読譜する。歌を正しく歌える。伴奏法を身に付ける。							
15. 読譜に必要な基礎知識⑮：まとめ③／歌唱法・歌唱指導⑮（日常の歌）：気持ちを込めて暗譜で歌う／学習のまとめ					資料により学修し身に付ける。日常の歌の伴奏法を身に付ける。							
履修上の注意												
授業に積極的に臨むこと。教科書等資料から学んだことを実技で生かすようにすること。												
成績評価方法・基準												
活動中の参加態度(口形や姿勢、ノートの取り方)、教科書としている「音楽事始」への書込みを後日確認するので、授業毎必ず自身で過不足を補うこと。提出物、毎回の小テストの採点と学年全体の理解度について授業内で発表する。自分の理解度をあげるよう毎回努力すること。小テストへの取り組み方等を総合評価する。概ね、授業受講や活動中の態度(60%)、提出物(20%)、各種試験(20%)												
教科書 〔こどものうた 100〕〔小林 美実〕〔チャイルド本社〕〔1,728 円〕 〔音楽事始〕〔阿部陽子・大坪 豊〕無料配布												
参考書 なし												
備考												
質問等については、授業終了後やオフィスアワーで受け付ける。												

授業科目名		音楽Ⅱ				単位（総授業時間＋自習時間）				1(30+15)			
担当者	佐藤 和貴		必・選	必	形態	演習	学期	後期	対象	子専1年			
授業の概要													
音楽Ⅰで取得した技術や理論を基に,さらに音高も含め, リズムやコードネーム読譜を取り上げ, ピアノⅡの授業との連携を計り実践的に読譜力を高める。また, よく使用されている様々な楽器の正しい演奏法やアンサンブルのあり方について, 楽曲を演奏する中で身に付ける。一方で, 乳幼児期の楽器遊びの指導のあり方を学ぶ。保育現場で子どもたちの感性やコミュニケーションツールとしての表現力を培うことができるような音楽活動のあり方を身に付けるようになる。高等学校教諭としての経験を生かし, 総合的な音楽表現の能力を高めていく授業を行う。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
音高やリズム読譜やコードネームなど基本的な音楽理論を理解する。										○		○	○
秋,冬などの季節や日常の歌を正しく歌おうとする。										○	○	○	○
基本的な知識と技術を生かし, 自分に合った弾き歌いを身に付けようとする。										○	○		○
基本的な打楽器奏法を身に付けアンサンブルを楽しもうとする。										○	○		
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. 打楽器の演奏法:正しい奏法を学ぶ／歌唱法・歌唱指導①(秋の歌):楽譜を読みながら歌う						資料により学修し身に付ける。秋の歌の音高読譜を進める。歌詞の意味を調べる。伴奏法を身に付ける。							
2. 打楽器の合奏①:第1曲目のパート練習/歌唱法・歌唱指導②(秋の歌):歌詞の意味を考えて歌う						自分のパートの練習を進める。秋の歌の音高読譜する。歌詞を覚える。伴奏法を身に付ける。							
3. 打楽器の合奏②:第1曲目のグループ練習/歌唱法・歌唱指導③(秋の歌):歌詞と楽譜の関係を考えて歌う						自分のパートの練習を進める。秋の歌の音高読譜する。歌を暗唱で歌える。伴奏法を身に付ける。							
4. 打楽器の合奏③:第1曲目の全体合奏/歌唱法・歌唱指導④(秋の歌):気持ちを込めて歌う						自分のパートの練習を進める。秋の歌の音高読譜する。歌を正しく歌える。伴奏法を身に付ける。							
5. 打楽器の合奏④:第1曲目のパート練習/歌唱法・歌唱指導⑤(秋の歌):気持ちを込めて暗譜で歌う						自分のパートの練習を進める。秋の歌の音高読譜する。春の歌を楽しく歌える。伴奏法を身に付ける。							
6. 打楽器の合奏④:第2曲目のパート練習/歌唱法・歌唱指導⑥(冬の歌):歌詞の意味を考えて歌う						自分のパートの練習を進める。冬の歌の音高読譜を進める。歌詞の意味を調べる。伴奏法を身に付ける。							
7. 打楽器の合奏⑤:第2曲目のグループ練習/歌唱法・歌唱指導⑦(冬の歌):歌詞の意味を考えて歌う						自分のパートの練習を進める。冬の歌の音高読譜する。歌詞を覚える。伴奏法を身に付ける。							
8. 打楽器の合奏⑥:第2曲目の全体合奏/歌唱法・歌唱指導⑧(冬の歌):気持ちを込めて歌う						自分のパートの練習を進める。冬の歌の音高読譜する。歌を暗唱で歌える。伴奏法を身に付ける。							
9. 打楽器の合奏⑦:第3曲目のパート練習/歌唱法・歌唱指導⑨(冬の歌):気持ちを込めて暗譜で歌う						自分のパートの練習を進める。冬の歌の音高読譜する。歌を正しく歌える。伴奏法を身に付ける。							
10. 打楽器の合奏⑧:第3曲目のグループ練習/歌唱法・歌唱指導⑩(生活の歌):楽譜を読みながら歌う						自分のパートの練習を進める。日常の歌の音高読譜する。春の歌を楽しく歌える。伴奏法を身に付ける。							
11. 打楽器の合奏⑨:第3曲目の全体練習/歌唱法・歌唱指導⑪(生活の歌):歌詞と楽譜の関係を考えて歌う						自分のパートの練習を進める。日常の歌の音高読譜を進める。歌詞の意味を調べる。伴奏法を身に付ける。							
12. 音楽活動の指導案の書き方 / 歌唱法・歌唱指導⑫(生活の歌):気持ちを込めて暗譜で歌う						自分のパートの練習を進める。日常の歌の音高読譜する。歌詞を覚える。伴奏法を身に付ける。							
13. ピアノの活用法:劇中音楽など色々な活用法を学ぶ/歌唱法・歌唱指導⑬(生活の歌):楽譜を読みながら歌う						自分のパートの練習を進める。日常の歌の音高読譜する。歌を暗唱で歌える。伴奏法を身に付ける。							
14. 音楽教育用語:取り扱われやすい用語について学ぶ/歌唱法・歌唱指導⑭(生活の歌):歌詞と楽譜の関係を考えて歌う						自分のパートの練習を進める。日常の歌の音高読譜する。歌を正しく歌える。伴奏法を身に付ける。							
15. 歌唱法・歌唱指導⑮(生活の歌):気持ちを込めて暗譜で歌う／学習のまとめ						日常の歌の伴奏法を身に付ける。伴奏法を身に付ける。							
履修上の注意													
授業に積極的に臨むこと。教科書等資料から学んだことを実技で生かすようにすること。													
成績評価方法・基準													
活動中の参加態度(口形や姿勢,ノートの取り方), 毎回の小テストの採点と学年全体の理解度について授業内で発表する。自分の理解度をあげるよう毎回努力すること。小テストや実技テストへの取り組み方等を総合評価する。概ね,授業受講や活動中の態度(60%), 提出物(20%), 各種試験(20%)													
教科書 〔こどものうた 100〕〔小林 美実〕〔チャイルド本社〕〔1,728 円〕 〔音楽事始〕〔阿部陽子・大坪 豊〕無料配布													
参考書 なし													
備考													
質問等については, 授業終了後やオフィスアワーで受け付ける。													

授業科目名		ピアノⅠ				単位（総授業時間＋自習時間）				1（30+15）				
担当者	佐藤和貴、阿部 玲子、渡邊 恵				必・選	必	形態	演習	学期	前期	対象	子専1年		
授業の概要														
幼児の音楽的感性を育てるために、保育者として必要なピアノの基礎技能を修得する。「音楽Ⅰ」の授業で学んだ基本的な音楽理論の理解を生かしながら、演奏法を主として、ピアノの演奏能力の向上させる練習方法を身に付ける。授業形態は、一斉指導と個別指導を駆使し、運指、読譜等の初歩的なスキルを獲得しながら、最も基本的なピアノ曲の演奏法を身に付ける。子どものうた（春、夏、季節のうた、生活のうた）の弾き歌い、簡易伴奏法(コードなど)について「音楽Ⅰ」で学んだこと生かし実技で実現できるようにする。高等学校教諭としての経験を生かし、総合的なピアノ演奏の能力を高めていく授業を行う。														
授業の到達目標									学位授与の方針との関連					
									1	2	3	4	5	6
ピアノの演奏の基礎的な技術を身に付ける。(「ピアノテキスト」P.45 までの課題)												○		○
子どもの歌の弾き歌いの技能を身に付ける。(「こどものうた 100」より 5～10 曲)												○		○
音楽Ⅰで学ぶ(3 コード、カデンツなどの)知識を基に、基礎的な簡易伴奏法を身に付ける。												○	○	
授業計画の内容							自習（事前・事後学修の内容）							
1. ガイダンス／ピアノ曲を弾く							前期学修の見通しを立てる。							
2. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.6～22）							空き時間などを利用し日常的に、課題の練習をする。							
3. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.24～34） ハ長調、ト長調のスリーコード							日常的に、課題の練習をすることを身に付ける。 ハ、ヘ長調の3コードを仕組みを考えながら弾く。							
4. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.36～46） ヘ長調、ニ長調のスリーコード							日常的に、課題の練習をすることを身に付ける。 ヘ、二長調の3コードを仕組みを考えながら弾く。							
5. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.48～54） スリーコードによる簡易伴奏法①							日常的に、課題の練習をすることを身に付ける。 3コードやカデンツを利用して簡易伴奏に生かす。							
6. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.56～62） スリーコードによる簡易伴奏法②							日常的に、課題の練習をすることを身に付ける。 3コードやカデンツを利用して簡易伴奏に生かす。							
7. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.65～71）簡易伴奏試験							日常的な練習が良い結果を招くことを学ぶ。 他人の前で演奏することを想像しながら練習する。							
8. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.72～78）							空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。							
9. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.80～84）							空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。							
10. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.86～94）							空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。							
11. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.162～168）							空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。							
12. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.170～175）							空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。							
13. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.178～184）							空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。							
14. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.186～189）							空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。							
15. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.192～195）							空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。							
16. 発表試験							日常的な練習が良い結果を招くことを再び学ぶ。 他人の前で演奏することを想像しながら練習する。							
履修上の注意														
課題を毎日充分練習し、課題を明瞭にした上で授業に臨むこと。														
成績評価方法・基準														
発表試験の内容 40%、平常点 60%（平常点は、授業の中で明示した課題への取り組み方、進捗状況、受講態度等で総合的に判断する。）試験の結果については都度フィードバックする。														
教科書														
〔こどものうた 100〕 〔小林美実〕 〔チャイルド本社〕 〔1,600 円〕／〔ピアノテキスト〕 〔吉野幸男〕 〔ドレミ楽譜出版〕 〔2,000 円〕／「音楽事始」														
参考書 なし														
備考														
質問等については、授業終了後やオフィスアワーで受け付ける。														

授業科目名		ピアノⅡ				単位（総授業時間＋自習時間）				1（30+15）				
担当者	佐藤和貴、阿部 玲子、渡邊 恵				必・選	必	形態	演習	学期	後期	対象	子専1年		
授業の概要														
「ピアノⅠ」や「音楽Ⅰ」の基礎的な学習を踏まえ、乳幼児教育現場で活用度の高い童謡等を中心に学習する。「音楽Ⅱ」の授業との連携を計り、読譜力や奏法の技能をさらに高め、幼稚園、保育所における生活のうたや秋、冬などの季節のうた、保育現場で役立つ幼児曲の弾き歌いが弾き歌い数多くできるようにする。また、連弾演奏の機会を設け、友達と共に切磋琢磨する中でピアノ技術を高め、人間関係を深めるようにする。子どもの歌の弾き歌い、ピアノ曲の演奏法、連弾の活動に取り組む中で、知識と技術を習得するようにする。高等学校教諭としての経験を生かし、総合的なピアノ演奏の能力を高めていく授業を行う。														
授業の到達目標									学位授与の方針との関連					
									1	2	3	4	5	6
ピアノの演奏の基礎的な技術を身に付ける。（「ピアノテキスト」P.70 までの課題）												○		○
子どもの歌の弾き歌いの技能を身に付ける。（「こどものうた 100」より 10 曲以上）												○		○
連弾曲に取り組み、互いの技術を切磋琢磨する中で、アンサンブルの基礎を身に付ける。												○	○	
授業計画の内容							自習（事前・事後学修の内容）							
1. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.96～102）							後期学修の見通しを立てる。							
2. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.104～111）							空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。							
3. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.114～120）							空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。							
4. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.122～124）							空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。							
5. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.126～132）							空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。							
6. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.134～138）							空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。							
7. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.140～144）							空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。 他人の前で演奏することを想像しながら練習する。							
8. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.146～152）							空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。 他人の前で演奏することを想像しながら練習する。							
9. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.154～160）							空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。 他人の前で演奏することを想像しながら練習する。							
10. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い、生活の歌試験							日常的な練習が良い結果を招くことを再び学ぶ。 他人の前で演奏することを想像しながら練習する。							
11. 童謡の弾き歌い（p.198～202）、連弾							空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。 連弾曲に取り組み、自分の技術を向上させる							
12. 童謡の弾き歌い（p.206.～211）、連弾							空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。 連弾曲に取り組み、自分の技術を向上させる。							
13. 童謡の弾き歌い（p.212～216）、連弾							連弾曲練習で、アンサンブルの技術を向上させる。							
14. 童謡の弾き歌い（p.220～223）、連弾							連弾曲練習で、アンサンブルの技術を向上させる。							
15. 童謡の弾き歌い（その他の歌）、連弾、まとめ							連弾曲練習で、アンサンブルの技術を向上させる。							
16. 連弾発表試験							日常的な練習が良い結果を招くことを再び学ぶ。							
履修上の注意														
それぞれの課題を毎日充分練習し、課題を明瞭にした上で授業に臨むこと。														
成績評価方法・基準														
発表試験の内容 40%、平常点 60%（平常点は、授業の中で明示した課題への取り組み方、進捗状況、受講態度等で総合的に判断する。）試験の結果については都度フィードバックする。														
教科書														
〔こどものうた 100〕〔小林美実〕〔チャイルド本社〕〔1,600 円〕														
〔ピアノテキスト〕〔吉野幸男〕〔ドレミ楽譜出版〕〔2,000 円〕														
参考書 なし														
備 考														
質問等については、授業終了後やオフィスアワーで受け付ける。														

授業科目名		ピアノⅢ				単位（総授業時間＋自習時間）				1（30+15）		
担当者	佐藤 和貴、阿部 玲子、渡邊 恵	必・選	必	形態	演習	学期	前期	対象	子専2年			
授業の概要												
「ピアノⅠ」「ピアノⅡ」や「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」の学習を踏まえ、子どものうたの弾き歌い、伴奏法、歌の指導法、初見演奏について身に付けるようにする。特に子どものうた「ふしぎなポケット」を取り上げ、弾き歌いの演奏方法、子どもへの指導方法を作成した指導案を基に学習する。一人一人の学生が各グループで模擬授業を実施しながら、歌唱や弾き歌いを伴った指導法を学習する。実習に向け、コードやルート音による簡易伴奏による弾き歌いの伴奏法及び指導方法も身に付ける。高等学校教諭としての経験を生かし、総合的なピアノ演奏の能力を高めていく授業を行う。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
ピアノの演奏の技術を身に付ける。(レパートリーを増やす。)										○		○
子どもの歌の弾き歌いの技能を身に付ける。(レパートリーを増やす。)										○		○
歌の指導法やピアノ伴奏法を習得する中で音楽的表現を身に付ける。										○	○	
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）						
1. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い:「ふしぎなポケット」の弾き歌い						前期学修の見直しを立てる。指導案の検討。						
2. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い:「ふしぎなポケット」の伴奏法						空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。 指導案の検討(導入の工夫や制作物等の準備)						
3. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い:「ふしぎなポケット」の指導法						空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。 指導案の検討(導入の工夫や制作物等の準備)						
4. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い: 模擬保育（導入）						空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。 指導案の検討(導入の工夫や制作物等の準備)						
5. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い: 模擬保育（歌唱指導）						空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。 指導案の検討(導入の工夫や制作物等の準備)						
6. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い: 模擬保育（発表）						空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。 指導案の検討(反省と課題)						
7. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.96～102）						空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。						
8. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.104～111）						空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。						
9. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.114～116）						空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。						
10. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.120～124）						日常的な練習が良い結果を招くことを再び学ぶ。						
11. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い: 初見演奏について						空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。 色々な楽を参考に初見試奏を試みる。						
12. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い: 初見演奏を体験する						空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。 色々な楽を参考に初見試奏を試みる。						
13. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い: コードを使用しての初見演奏						コードについて「音楽事始」等で学び直す。						
14. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い: ルート伴奏法、その他						様々な伴奏パターンを工夫する。						
15. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い: まとめ						学習のまとめをする。						
履修上の注意												
それぞれの課題を毎日充分練習し,課題を明瞭にした上で授業に臨むこと。												
成績評価方法・基準												
発表試験の内容 40%、平常点 60%（平常点は、授業の中で明示した課題への取り組み方、進捗状況、受講態度等で総合的に判断する。）試験の結果については都度フィードバックする。												
教科書												
〔こどものうた 100〕〔小林美実〕〔チャイルド本社〕〔1,600 円〕 〔ピアノテキスト〕〔吉野幸男〕〔ドレミ楽譜出版〕〔2,000 円〕												
参考書 なし												
備考												
質問等については、授業終了後やオフィスアワーで受け付ける。												

授業科目名		ピアノⅣ				単位（総授業時間＋自習時間）				1（30+15）			
担当者	佐藤 和貴、阿部 玲子、渡辺 恵			必・選	選	形態	演習	学期	後期	対象	子専2年		
授業の概要													
「ピアノⅠ」「ピアノⅡ」や「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」の学習を踏まえ、子どもの歌の弾き歌い、初見演奏、コード付け、即興演奏について身に付けるようにする。特に、コードによる（簡易コード読み替えを含む）簡易伴奏や、曲想に合った伴奏型の工夫についてなど、多彩な伴奏法を学習する。また、授業の中で、初見視奏や初見視唱など初見演奏、さらに簡単な即興演奏などの能力を高めるための学習をすすめる。保育現場での対応力を身に付けるようにする。高等学校教諭としての経験を生かし、総合的なピアノ演奏の能力を高めていく授業を行う。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
ピアノの演奏の技術を身に付ける。											○		○
子どもの歌の弾き歌いの技能を身に付ける。											○		○
初見演奏、コード付け、即興演奏について身に付ける。											○	○	
授業計画の内容							自習（事前・事後学修の内容）						
1. 童謡の弾き歌い・初見演奏：ハ長調・ヘ長調のコードの復習							前期学修の見通しを立てる。						
2. 童謡の弾き歌い・初見演奏：ト長調・ニ長調のコードの復習							空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。						
3. 童謡の弾き歌い・初見演奏：ハ長調のメロディにコードを付ける							空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。						
4. 童謡の弾き歌い・初見演奏：ヘ長調のメロディにコードを付ける							空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。						
5. 童謡の弾き歌い・初見演奏：ト長調のメロディにコードを付ける							空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。						
6. 童謡の弾き歌い・初見演奏：ニ長調のメロディにコードを付ける							空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。						
7. 童謡の弾き歌い・初見演奏：曲にふさわしい伴奏型を考える							空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。						
8. 童謡の弾き歌い・初見演奏：短調のコードについて							空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。 長調学習を基に短調について学び、技術を練習する。						
9. 童謡の弾き歌い・初見演奏：その他のコードについて							空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。 様々なコードを学び、対応した技術を練習する。						
10. 童謡の弾き歌い・初見演奏：初見で伴奏付けをする							日常的な練習が良い結果を招くことを再び学ぶ。						
11. 童謡の弾き歌い・初見演奏：ビーマーチをアレンジして弾く（様々な伴奏型）							空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。 様々な伴奏型を工夫し演奏する。						
12. 童謡の弾き歌い・初見演奏：ビーマーチをアレンジして弾く（移調）							空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。 調性を工夫し、展開を楽しみながら演奏する。						
13. 童謡の弾き歌い・初見演奏：場面に合った演奏①（簡単なメロディを作曲する）							メロディー作曲の楽しみを味わう。						
14. 童謡の弾き歌い・初見演奏：場面に合った演奏②（自作のメロディに即興で伴奏を付ける）							自分で考えたメロディーに伴奏を工夫する。						
15. 童謡の弾き歌い・初見演奏：まとめ							学習のまとめをする。						
16. コード付け試験							コード付けを工夫する楽しさを味わう。						
履修上の注意													
それぞれの課題を毎日充分練習し、課題を明瞭にした上で授業に臨むこと。													
成績評価方法・基準													
発表試験の内容 40%、平常点 60%（平常点は、授業の中で明示した課題への取り組み方、進捗状況、受講態度等で総合的に判断する。）試験の結果については都度フィードバックする。													
教科書													
〔こどものうた 100〕〔小林美実〕〔チャイルド本社〕〔1,600 円〕 〔ピアノテクニクス〕〔吉野幸男〕〔ドレミ楽譜出版〕〔2,000 円〕													
参考書 なし													
備考													
質問等については、授業終了後やオフィスアワーで受け付ける。													

授業科目名		造形 I			単位（総授業時間＋自習時間）				1（30+15）		
担当者	横山 美喜子	必・選	必	形態	演習	学期	前期	対象	子専1年		
授業の概要											
様々な領域の表現活動に取り組むことにより、色や形・バランスなど基礎的な造形要素についての知識や、表現技法を身に付ける。また、絵の具や筆、のりやはさみ、カッターナイフ等の基本的な用具や、粘土等の基本的な材料の扱い方について身に付ける。さらに、「造形遊び」等の作りながら発想・構想する表現と、最終的な形を目指して発想・構想する表現の二つの形の創造活動に取り組むとともに、表現と対をなす「鑑賞」の活動を通して、豊かな情操を培う。 この授業においては、小学校教諭としての経験を生かし、保育者として幼児の表現力を高めるためにいかに指導するかを常に念頭に置いて取り組んでいくよう指導する。											
授業の到達目標							学位授与の方針との関連				
							1	2	3	4	5
造形的な創造活動の知識を身に付け、美術の基礎的な能力を伸ばす。									○		
造形的な創造活動の技能を身に付け、美術の基礎的な能力を伸ばす。										○	
造形的な創造活動を通して感性を働かせ、豊かな情操を養う。											○
造形的な創造活動を通して身に付けた知識・技能・態度を総合的に活用し、保育者として主体的に行動できるようにする。											○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）						
1.授業概要の説明 レディネスの確認					学習内容について確認する。						
2.色彩①「暖色と寒色の配色」					色のもつイメージを生かした配色を生活の中で役立たせる。						
3.色彩②「補色の配色」					色のもつイメージを生かした配色を生活の中で役立たせる。						
4.平面表現①「にじみとぼかし」用具の使い方①（絵の具と筆）					絵の具、筆、筆洗などの扱い方を知り、実践に活かす。						
5.平面表現②「ドリップング」「デカルコマニー」					学んだ技法を実践に活かす。						
6.平面表現③「フロタージュ」「コラージュ」					学んだ技法を実践に活かす。						
7.平面表現④「スクラッチ」					学んだ技法を実践に活かす。						
8.平面表現⑤「切り絵」用具の使い方②（はさみとのり）					はさみやのりの扱い方を実践に活かす。						
9.造形遊び①「光」					遊びから生まれる表現を実践に活かす。						
10.立体表現①「タワー」用具の使い方③（カッターナイフ）					カッターナイフの技法を実践に活かす。						
11.立体表現②「立体と展開図」					学んだ技法を実践に活かす。						
12.立体表現③「塑像1」材料を考える①（粘土）					粘土の種類や特色を知り、実践に活かす。						
13.立体表現③「塑像2」					学んだ技法を実践に活かす。						
14.立体表現③「塑像3」					学んだ技法を実践に活かす。						
15.鑑賞①「見ると見える」					主体的に「見る」姿勢を日常化できるようにする。						
履修上の注意											
製作中に服が汚れることがあるので、作業着で授業に臨むこと											
成績評価方法・基準											
受講態度・授業への参加状況（50％） 作品及びレポート（50％） 作品は提出後掲示し互いに評価し合うとともに、授業終了後にすべてフィードバックする。											
教科書 事前に必要なプリントを配布する。											
参考書 なし											
備考											
都合により授業計画の順番等を変更する場合があります。 質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。											

授業科目名		造形Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）			1（30+15）		
担当者	横山 美喜子	必・選	必	形態	演習	学期	後期	対象	子専1年	
授業の概要										
造形Ⅰで身に付けた造形要素についての基礎的な知識や様々な表現技法を応用して表現活動を行う。さらに平面表現としては版画、立体表現としては木、段ボール、身边材を材料とする工作等に取り組み、表現の幅を広げていく。造形Ⅰと同じく造形遊びや鑑賞など様々な創造活動に取り組み、特に鑑賞では宮城県美術館において美術館の作品を鑑賞するとともに、美術館の役割や生活における美術について考える。 この授業においては、小学校教諭としての経験を生かし、保育者として幼児の表現力を高めるためにいかに指導するかを常に念頭に置いて取り組んでいくよう指導する。										
授業の到達目標					学位授与の方針との関連					
					1	2	3	4	5	6
造形的な創造活動の知識を身に付け、美術の基礎的な能力を伸ばす。							○			
造形的な創造活動の技能を身に付け、美術の基礎的な能力を伸ばす。								○		
造形的な創造活動を通して感性を働かせ、豊かな情操を養う。									○	
造形的な創造活動を通して身に付けた知識・技能・態度を総合的に活用し、保育者として主体的に行動できるようにする。										○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）					
1.授業概要の説明 レディネスの確認					学習内容について確認する。					
2.立体表現①「枝や端材で1」材料を考える①（木材）					木材の種類や特色を知り、実践に活かす。					
3.立体表現①「枝や端材で2」用具の使い方①（のこぎり）					のこぎりやクランプの扱い方を実践に活かす。					
4.立体表現①「枝や端材で3」用具の使い方②（かなづち）					かなづちや釘の扱い方を実践に活かす。					
5.造形遊び「並べて並べて」					遊びから生まれる表現を実践に活かす。					
6.平面表現①「人物」					人体表現の留意点を知り、実践に活かす。					
7.平面表現②「静物」					静物表現の留意点を知り、実践に活かす。					
8.立体表現②「段ボールで1」材料を考える②（段ボール）					段ボール紙の種類や特色を知り、実践に活かす。					
9.立体表現②「段ボールで2」用具の使い方③（段ボールカッター）					段ボールカッターの扱い方を知り、実践に活かす。					
10.立体表現③「身边材」用具の使い方④（接着剤）					身边材の特徴とその材料に応じた接着剤の種類とその扱い方を知り、実践に活かす。					
11.鑑賞「美術館へ出かけよう」					美術館での鑑賞を日常化できるようにする。					
12.平面表現③「版画1」					版画の種類や特色を知り、実践に活かす。					
13.平面表現③「版画2」					「彫り」の方法を知り、実践に活かす。					
14.平面表現③「版画3」					「刷り」の方法を知り、実践に活かす。					
15.授業のまとめ					造形Ⅰ・Ⅱを振り返り、今後の実践に活かす。					
履修上の注意										
製作中に服が汚れることがあるので、作業着で授業に臨むこと										
成績評価方法・基準										
受講態度・授業への参加状況（50%） 作品及びレポート（50%） 作品は提出後掲示し互いに評価し合うとともに、授業後にすべてフィードバックする。										
教科書 事前に必要なプリントを配布する。										
参考書 なし										
備考										
都合により授業計画の順番等を変更する場合があります。 質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。										

授業科目名		体育Ⅰ			単位（総授業時間＋自習時間）				1(30＋15)			
担当者	土屋 葉子	必・選	必	形態	演習	学期	後期	対象	子専１年			
授業の概要												
幼児にとって運動は、その発育、発達過程において重要であることは周知の通りである。様々な運動遊びを習得するため、主に小型遊具を使った基本的な運動を理解し、発育、発達段階に即した運動指導を、楽しくすることができるようにしていく。また、模擬授業も取り入れ、より実践的な指導法を演習するとともに、運動遊びを行う中での、安全な生活習慣を身に付け、安全能力を高めるための指導法も含めて考えていく。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
幼児の発育・発達段階に即した運動指導のできる知識・能力を身につける。										○	○	○
運動遊びの中での安全指導を身につける。										○	○	○
自らの健康・体力を維持することのできる知識を身につける。										○	○	○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）							
1.ガイダンス					本講義の学習内容について確認する。							
2.ラジオ体操					学習内容を確認し、日々実践してみる。							
3.ラジオ体操（反対動作の練習）					学習内容を確認し、日々実践してみる。							
4.竹馬①慣れる①・ボール遊び①（一人遊び・ゲーム）					模擬授業に備え、事前の予習（シミュレーション）を十分に行う。							
5.竹馬②慣れる②・鬼ごっこ第１グループ・ボール遊び②（二人組・ゲーム）					他の学生の鬼ごっこについてまとめ、課題を見つける。							
6.竹馬③高さを変える・鬼ごっこ第２グループ					他の学生の鬼ごっこについてまとめ、課題を見つける。							
7.鬼ごっこ第３グループ・サーキット遊び（小型遊具）①グループ分け					他の学生の鬼ごっこについてまとめ、課題を見つける。							
8.鬼ごっこ第４グループ・サーキット遊び（小型遊具）②創作(1)					他の学生の鬼ごっこについてまとめ、課題を見つける。							
9.鬼ごっこ第５グループ・サーキット遊び（小型遊具）③創作(2)					他の学生の鬼ごっこについてまとめ、課題を見つける。							
10.サーキット遊び（小型遊具）④発表・創作ダンス練習①グループ分け・曲決め					他グループのサーキット内容をまとめ、今後の課題を見つける。							
11.鬼ごっこ第６グループ・創作ダンス練習②創作(1)					他の学生の鬼ごっこについてまとめ、課題を見つける。							
12.鬼ごっこ第７グループ・創作ダンス練習③創作(2)					他の学生の鬼ごっこについてまとめ、課題を見つける。							
13.創作ダンス練習④創作(3)					学習内容を確認し、創作につなげる。							
14.創作ダンス練習⑤創作(4)					学習内容を確認し、日々実践してみる。							
15.創作ダンス発表・鑑賞					他グループの創作ダンス内容をまとめ、今後の課題を見つける。							
履修上の注意												
初回ガイダンスで説明する履修上の注意を遵守すること。												
成績評価方法・基準												
授業への参加状況（70%）、及び受講態度（30%）により総合的に評価する。												
提出課題等については、返却し、解説を行う。												
教科書 授業前にプリントを配布する。												
参考書 その都度、指示する。												
備 考												
質問等については、授業終了時または、オフィスアワーで受け付ける。												
都合により、授業計画の順番等を変更することがある。												

授業科目名	体育Ⅱ				単位（総授業時間＋自習時間）				1(30＋15)				
担当者	土屋 葉子		必・選	選	形態	演習	学期	前期	対象	子専2年			
授業の概要													
本講義では、体育Ⅰの演習をふまえ、主に大型遊具を使った基本的な運動を理解し、模擬的に実践しながら、指導者として創意工夫ができる能力を養う。また、様々な運動遊びの特性と幼児の発育・発達に合わせた適切な指導ができる指導力を育成するとともに、子どもの興味・関心を戸外に向けることのできる保育者を目指してもらえよう、自然の中での運動の楽しさ、四季の移り変わりの様子を体感できるようにする。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
運動遊びの指導内容、方法を習得する。											○	○	○
保育の現場において、より実践的な指導ができる知識・能力を身につける。											○	○	○
自らの健康・体力を維持する。											○	○	○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1.ガイダンス						本講義の学習内容について確認する。							
2.自然散策（長命館公園）						学習内容を確認し、日々実践してみる。							
3.講義（幼児の発達と運動）①運動遊びの必要性						学習内容を確認し、日々実践してみる。							
4.講義（幼児の発達と運動）②幼児期の運動能力						学習内容を確認し、日々実践してみる。							
5.バルーン遊び①グループ分け・曲決め						学習内容を確認し、日々実践してみる。							
6.バルーン遊び②創作(1)						学習内容を確認し、日々実践してみる。							
7.バルーン遊び②創作(2)						学習内容を確認し、日々実践してみる。							
8.バルーン遊び②創作(3)						学習内容を確認し、日々実践してみる。							
9.バルーン遊び⑤発表、まとめ						他グループのバルーン発表内容をまとめ、今後の課題を見つける。							
10.自然散策（水の森公園）						学習内容を確認し、日々実践してみる。							
11.													
12.													
13.													
14.													
15.													
履修上の注意													
初回ガイダンスで説明する履修上の注意を遵守すること。													
成績評価方法・基準													
授業への参加状況（70%）、及び受講態度（30%）により総合的に評価する。													
提出課題等については、返却し、解説を行う。													
教科書 授業前にプリントを配布する。													
参考書 その都度、指示する。													
備考													
質問等については、授業終了時または、オフィスアワーで受け付ける。													
都合により、授業計画の順番等を変更することがある。													

授業科目名		保育実習指導Ⅰ【1年前期】			単位（総授業時間＋自習時間）				2（60+30）			
担当者	三浦主博・子専教員	必・選	必	形態	演習	学期	前期	対象	子専1年			
授業の概要												
保育士養成課程における必修科目であり、「保育実習Ⅰ」の事前・事後指導に関する科目である。2年次に予定されている「保育実習Ⅰ（保育所・施設実習）」及び「保育実習Ⅱ（保育所実習）」に向けて、実習の意義・目的などを理解し、保育現場での勤務経験のある担当者による記録の書き方や指導計画の作成等の学習を行う。また、実際に保育所（短大附属ますみ保育園）の見学及び観察・参加実習、児童福祉施設（児童養護施設・障害児入所施設）及び障害者支援施設の見学を行う。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
保育実習の意義・目的を理解する。										○	○	○
実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。										○		○
実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解する。										○	○	○
実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。										○		○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）							
1. オリエンテーション・2年間の予定【三浦】					2年間の学修の見通しを立てる。課題①に取組む。							
2. 実習及び実習指導の予定・概略の説明【三浦】 課題①提出					実習指導の予定を確認する。課題②に取組む。							
3. 実習先の希望調査説明【三浦・盛下・佐藤和】 課題②提出					希望先を調べ、調査票を提出する。課題③〃。							
4. ボランティア活動について【横山】 課題③提出					自分で参加できる活動を調べる。課題④に取組む。							
5. 実習の意義・目的の理解【三浦】 課題④提出					実習の手引きを読み、理解する。課題⑤に取組む。							
6. 保育所・施設についての理解【山崎・大瀬戸】 課題⑤提出					視聴した動画の内容をまとめる。課題⑥に取組む。							
7. 保育士の仕事についての理解【山崎・大瀬戸】 課題⑥提出					視聴した動画等の内容をまとめ、次回提出する。							
8. 保育所見学実習・準備・ガイダンス【盛下・山崎】					説明プリントをよく読み、見学の準備をする。							
9. 保育所見学実習（附属保育園）【三浦 他】					見学した内容をしっかりと記録し、提出する。							
10. 保育所見学・事後指導【盛下・山崎】					記録を基に見学の振り返りを行う。							
11. 施設見学Ⅰ・準備・ガイダンス【大瀬戸・針生・佐藤和】					説明プリントをよく読み、見学の準備をする。							
12. 施設見学Ⅰ（児童養護施設）【大瀬戸 他】					見学した内容をしっかりと記録し、提出する。							
13. 〃												
14. 施設見学Ⅰ・事後指導【大瀬戸・針生・佐藤和】					記録を基に見学の振り返りを行う。							
15. 施設見学Ⅱ・準備・ガイダンス【大瀬戸・針生・佐藤和】					説明プリントをよく読み、見学の準備をする。							
16. 施設見学Ⅱ（障害者支援施設）【大瀬戸 他】					見学した内容をしっかりと記録し、提出する。							
17. 〃												
18. 施設見学Ⅱ・事後指導【大瀬戸・針生・佐藤和】					記録を基に見学の振り返りを行う。							
19. 保育実習報告会（2年生）への参加【全教員】					2年生の実習報告を聴き、1年後の実習までの間に自分で行うべきことを明確にする。							
20. 〃												
履修上の注意												
本授業への取り組み状況（出席や各種課題の提出など）によっては2年次の実習が出来ないことがある。												
成績評価方法・基準 授業への取り組み状況（80％）提出課題（20％）により総合的に評価する。 提出課題等については、添削後、授業中にフィードバックする。												
教科書 〔保育者になるために〕〔中田カヨ子他〕〔萌文書林〕〔1,620円〕 〔保育実習の手引き〕〔宮城県保育士養成校連絡協議会〕												
参考書 〔保育所保育指針解説〕〔厚生労働省〕〔フレーベル館〕												
備 考												
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。												

授業科目名		保育実習指導Ⅰ【1年後期】			単位（総授業時間＋自習時間）			2（60+30）				
担当者	三浦主博・子専教員	必・選	必	形態	演習	学期	後期	対象	子専1年			
授業の概要												
保育士養成課程における必修科目であり、「保育実習Ⅰ」の事前・事後指導に関する科目である。2年次に予定されている「保育実習Ⅰ（保育所・施設実習）」及び「保育実習Ⅱ（保育所実習）」に向けて、実習の意義・目的などを理解し、保育現場での勤務経験のある担当者による記録の書き方や指導計画の作成等の学習を行う。また、実際に保育所（短大附属ますみ保育園）の見学及び観察・参加実習、児童福祉施設（児童養護施設・障害児入所施設）及び障害者支援施設の見学を行う。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
保育実習の意義・目的を理解する。										○	○	○
実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。										○		○
実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解する。										○	○	○
実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。										○		○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）							
21. 実習記録（実習日誌）の書き方①【山崎・三浦】					視聴した動画等の内容をまとめ、次回提出する。。							
22. 実習記録（実習日誌）の書き方②【山崎・三浦】					視聴した動画等の内容をまとめ、次回提出する。。							
23. 指導計画（指導案）の作成と指導【山崎・三浦】					視聴した動画等の内容をまとめ、次回提出する。。							
24. 保育所基礎実習Ⅰ・準備①【附属保育園主任保育士】					説明プリントをよく読み、実習の準備をする。							
25. 保育所基礎実習Ⅰ・準備②ガイダンス【盛下・山崎】					説明プリントをよく読み、実習の準備をする。							
26. 保育所基礎実習Ⅰ（附属保育園）【三浦 他】					観察・参加実習の内容をしっかりと記録し、提出する。							
27. 〃												
28. 〃												
29. 保育所基礎実習Ⅰ・事後指導【盛下・山崎】					記録を基に基礎実習の振り返りを行う。							
30. 実習記録（実習日誌）の書き方③【山崎・三浦】					基礎実習を振り返り、日誌の記入内容を修正する。							
31. 施設見学Ⅲ・準備・ガイダンス【大瀬戸・針生・佐藤和】					説明プリントをよく読み、見学の準備をする。							
32. 施設見学Ⅲ（障害児入所施設）【大瀬戸・針生・佐藤和】					見学した内容をしっかりと記録し、提出する。							
33. 〃												
34. 施設見学Ⅲ・事後指導【大瀬戸・針生・佐藤和】					記録を基に見学の振り返りを行う。							
35. 保育所基礎実習Ⅱ・準備・ガイダンス【盛下・山崎】					説明プリントをよく読み、実習の準備をする。							
36. 保育所基礎実習Ⅱ（附属保育園）【三浦 他】					観察・参加実習の内容をしっかりと記録し、提出する。							
37. 〃												
38. 〃												
39. 保育所基礎実習Ⅱ・事後指導【盛下・山崎】					記録を基に基礎実習の振り返りを行う。							
40. 1年間のまとめ、春休みの課題【三浦】					1年間の学修を振り返り、春休みの課題に取り組む。							
履修上の注意												
本授業への取り組み状況（出席や各種課題の提出など）によっては2年次の実習が出来ないことがある。												
成績評価方法・基準 授業への取り組み状況（80％）提出課題（20％）により総合的に評価する。 提出課題等については、添削後、授業中にフィードバックする。												
教科書【保育実習の手引き】〔宮城県保育士養成校連絡協議会〕 〔本当に知りたいことが分かる！保育所・施設実習ハンドブック〕〔小原敏郎他〕〔ミネルヴァ書房〕〔2,700円〕												
参考書【保育所保育指針解説】〔厚生労働省〕〔フレーベル館〕												
備考												
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。												

授業科目名		保育実習指導Ⅱ				単位（総授業時間＋自習時間）				1（30+15）		
担当者	三浦主博・子専教員	必・選	必	形態	演習	学期	通年	対象	子専2年			
授業の概要												
保育士養成課程における必修科目であり、「保育実習Ⅱ」の事前・事後指導に関する科目として位置づけられている。「保育士」資格取得のために必修の3回の実習（保育所実習Ⅰ及びⅡ、施設実習：各10日間、合計約6週間）に向けて、実習の意義・目的などを理解し、保育現場での勤務経験のある担当者による記録の書き方や指導計画の作成等実習の準備を行う。また、実習終了後は、実習報告会等を通して実習の振り返りを行って課題を明確にし、保育者になるための学習を行う。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。										○	○	○
実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。										○		○
保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。										○		○
保育士の専門性と職業倫理について理解する。										○	○	○
実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。										○	○	○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）							
1. オリエンテーション【三浦】					2年次前期の実習へ向けた準備の見通しを立てる。							
2. 実習の意義・目的の明確化・実習の心構えの確認【三浦】					実習の手引を熟読し、実習の準備を始める。							
3. 保育所保育士による講義【附属保育園長】					講話内容を確認し、実習の準備を行う。							
4. 保育所実習の準備【山崎・三浦】					実習関係書類の記入等の準備を行う。							
5. 保育所実習Ⅰ・直前ガイダンス【山崎・三浦】					ガイダンス内容を確認し、実習直前の準備を行う。							
6. 保育所実習Ⅰの振り返り【三浦・山崎・盛下】					実習Ⅰを振り返り、実習Ⅱの課題に取り組む。							
7. 保育所実習Ⅱ・直前ガイダンス【山崎・三浦】					ガイダンス内容を確認し、実習直前の準備を行う。							
8. 保育所実習Ⅱの振り返り【三浦・山崎・盛下】					実習Ⅱを振り返り、施設実習の課題に取り組む。							
9. 施設実習の準備【大瀬戸・針生】					実習関係書類の記入等の準備を行う。							
10. 施設実習・直前ガイダンス【大瀬戸・針生】					ガイダンス内容を確認し、実習直前の準備を行う。							
11. 施設実習の振り返り【大瀬戸・針生・佐藤和】					施設実習を振り返り、今後の課題を明確にする。							
12. 実習報告会準備（資料作成・発表練習）【全教員】					報告会資料、発表準備等を行う。							
13. 実習報告会【全教員】					報告会の振り返りを行い、次の課題を考える。							
14. 実習の反省評価と疑問の解消【三浦】					実習を振り返り、実習中の疑問を整理する。							
15. 今後の課題の明確化【三浦】					実習を振り返り、幼稚園実習の課題を明確にする。							
16. 実習評価等の個別事後指導【全教員】					実習評価を基に、各自の課題を明確にする。							
17. 保育実践報告会の準備（資料作成・発表練習）【全教員】					報告会資料、発表準備等を行う。							
18. 保育実践報告会【全教員】					報告会の振り返りを行い、卒業迄の課題を考える。							
19. 資格登録・免許申請書類の作成【教務課】					申請書類作成のために必要な物を準備する。							
20. まとめ【三浦】					2年間の学修内容の振り返りを行う。							
履修上の注意												
本科目への取り組み状況（出席や各種課題の提出）によっては学外実習の単位も認定が出来ないことがある。												
成績評価方法・基準 授業への取り組み状況（80%）提出課題（20%）により総合的に評価する。 提出課題等については、添削後、授業中にフィードバックする。												
教科書【保育実習の手引き】〔宮城県保育士養成校連絡協議会〕 〔本当に知りたいことが分かる！保育所・施設実習ハンドブック〕〔小原敏郎他〕〔ミネルヴァ書房〕〔2,700円〕												
参考書【保育所保育指針解説】〔厚生労働省〕〔フレーベル館〕												
備考												
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。												

授業科目名		教育実習指導【1 年次】			単位（総授業時間＋自習時間）				1（30+15）			
担当者	三浦主博・子専教員	必・選	必	形態	演習	学期	通年	対象	子専 1 年			
授業の概要												
「幼稚園教諭二種免許状」取得のために必修の科目であり、教育実習の事前・事後指導に関する科目として位置づけられている。2 年次に予定されている「幼稚園実習」に向けて、実習の意義・目的などを理解し、保育現場での勤務経験のある担当者による記録の書き方や指導計画の作成等の学習を行う。また、実際に幼稚園（短大附属ますみ幼稚園）の見学及び観察・参加実習を行う。実習終了後は、他の授業と連携して、グループワークや発表を通して実習の振り返りを行い、課題を明確にする。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
実習の意義、目的を明確にし、実習内容(実習の計画、観察、記録、評価の方法等)について理解を深める。										○		○
実習生として遵守すべき義務等を理解し、教育活動に参画する意識を高める。										○	○	○
実習で得た知識と経験をふりかえり、さらに習得すべき知識や技能等を理解する。										○		○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）						
1. オリエンテーション・2 年間の予定【三浦】						2 年間の学修の見通しを立てる。						
2. 実習先の説明・希望調査【三浦・土屋・横山】						実習の希望先を調べ、調査票を提出する。。						
3. 幼稚園見学実習・準備・ガイダンス【横山・山崎】						説明プリントをよく読み、見学の準備をする。						
4. 幼稚園見学実習（ますみ附属幼稚園）【三浦 他】						見学した内容をしっかりと記録し、提出する。						
5. 幼稚園見学実習・事後指導【横山・山崎】						記録を基に見学の振り返りを行う。						
6. 基礎実習Ⅰ 準備【横山・山崎】						説明プリントをよく読み、実習の準備をする。						
7. 基礎実習Ⅰ ガイダンス【附属幼稚園主任】						説明プリントをよく読み、実習の準備をする。						
8. 基礎実習Ⅰ（附属幼稚園・観察実習）【三浦 他】						観察・参加実習の内容をしっかりと記録し、提出する。						
9. 〃												
10. 〃												
11. 基礎実習Ⅰ 事後指導（グループ討議）【横山・山崎】						記録を基に基礎実習の振り返りを行う。						
12. 認定こども園見学・準備・ガイダンス【横山 他】						説明プリントをよく読み、見学の準備をする。						
13. 認定こども園見学【横山 他】						見学した内容をしっかりと記録し、提出する。						
14. 認定こども園見学・事後指導【横山 他】						記録を基に見学の振り返りを行う。						
15. 実習報告会（2 年生発表）参加【全教員】						今後自分で行うべきことを明確にする。						
16. 基礎実習Ⅱ 準備・ガイダンス【横山・山崎】						説明プリントをよく読み、実習の準備をする。						
17. 基礎実習Ⅱ（附属幼稚園・観察・参加実習）【三浦 他】						観察・参加実習の内容をしっかりと記録し、提出する。						
18. 〃												
19. 〃												
20. 基礎実習Ⅱ 事後指導【横山・山崎】						記録を基に基礎実習の振り返りを行う。						
履修上の注意 本科目への取り組み状況（出席や各種課題の提出など）によっては実習が出来ないことがある。なお、本科目は、教育実習（学外実習）と合わせて評価される。												
成績評価方法・基準												
授業への取り組み状況（80％）提出課題（20％）により総合的に評価する。 提出課題等については、添削後、授業中にフィードバックする。												
教科書【教育実習の手引き】【宮城県幼稚園教育実習連絡協議会】												
参考書【幼稚園教育要領解説】【文部科学省】【フレーベル館】 【本当に知りたいことが分かる！ 保育所・施設実習ハンドブック】【小原敏郎他】【ミネルヴァ書房】【2,700 円】												
備考												
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。												

授業科目名		教育実習指導【2 年次】			単位（総授業時間＋自習時間）				1（30+15）		
担当者	三浦主博・子専教員	必・選	必	形態	演習	学期	通年	対象	子専 2 年		
授業の概要											
「幼稚園教諭二種免許状」取得のために必修の科目であり、教育実習の事前・事後指導に関する科目として位置づけられている。2 年次後期の「幼稚園実習」に向けて、実習の意義・目的などを理解し、保育現場での勤務経験のある担当者による記録の書き方や指導計画の作成等の学習を行う。また、実際に幼稚園で約 4 週間の学外実習（見学・観察・参加・指導実習等）を行う。実習終了後は、「保育・教職実践演習」の授業と連携して、グループワークや発表を通して実習の振り返りを行い、課題を明確にする。											
授業の到達目標							学位授与の方針との関連				
							1	2	3	4	5
実習の意義、目的を明確にし、実習内容(実習の計画、観察、記録、評価の方法等)について理解を深める。										○	○
実習生として遵守すべき義務等を理解し、教育活動に参画する意識を高める。										○	○
実習で得た知識と経験をふりかえり、さらに習得すべき知識や技能等を理解する。										○	○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）					
1. オリエンテーション（2 年次）【三浦】						2 年次後期の実習へ向けた準備の見通しを立てる。					
2. 実習及び実習指導の予定・概略【三浦】						実習・実習指導の予定を確認する。					
3. 実習の意義・目的の明確化【横山・佐藤深】						実習の手引を熟読し、実習の準備を始める。					
4. 実習の心構えについての確認【横山・佐藤深】						実習の手引を熟読し、実習の準備を始める。					
5. 幼稚園についての確認【横山・佐藤深・山崎】						視聴した動画等の内容をまとめ、次回提出する。。					
6. 幼稚園教諭の仕事についての確認【横山・佐藤深・山崎】						視聴した動画等の内容をまとめ、次回提出する。。					
7. 実習関係書類の準備【横山・佐藤深・三浦】						実習関係書類の記入等の準備を行う。					
8. 日誌等記録の書き方について【山崎・三浦】						授業での内容を基に、記録の仕方を確認する。					
9. 指導計画立案及び指導案の作成【山崎・三浦】						授業での内容を基に、指導計画案を作成する。					
10. 実習先幼稚園との打合せについて【横山・佐藤深】						ガイダンス内容を確認し、訪問の準備を行う。					
11. 実習直前ガイダンス【横山・佐藤深・三浦】						ガイダンス内容を確認し、実習直前の準備を行う。					
12. 実習の振り返りと疑問の解消【三浦】						実習を振り返り、今後の課題を明確にする。					
13. 実習報告会準備【横山・佐藤深・土屋 他】						報告会資料、発表準備等を行う。					
14. 実習報告会での発表【全教員】						報告会の振り返りを行い、卒業迄の課題を考える。					
15. 実習評価等の個別事後指導【全教員】						実習評価を基に、各自の課題を明確にする。					
履修上の注意											
本科目への取り組み状況（出席や各種課題の提出など）によっては実習が出来ないことがある。 なお、本科目は、教育実習（学外実習）と合わせて評価される。											
成績評価方法・基準											
授業への取り組み状況（80％）提出課題（20％）により総合的に評価する。 提出課題等については、添削後、授業中にフィードバックする。											
教科書【教育実習の手引き】〔宮城県幼稚園教育実習連絡協議会〕											
参考書【幼稚園教育要領解説】〔文部科学省〕〔フレーベル館〕 〔本当に知りたいことが分かる！ 保育所・施設実習ハンドブック〕〔小原敏郎他〕〔ミネルヴァ書房〕〔2,700 円〕											
備 考											
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。											

授業科目名		保育・教職実践演習（幼稚園）			単位（総授業時間＋自習時間）			2（30+60）				
担当者	三浦主博・山崎敦子他	必・選	必	形態	演習	学期	後期	対象	子専2年			
授業の概要												
短大における2年間の学びの総まとめとして、教職課程（幼稚園教諭）および保育士養成課程における学修（授業や教育実習や保育実習等）の振り返りを行い、卒業後に保育者（幼稚園教諭・保育士・保育教諭）として働くために必要な基礎的な知識・技能を修得したことを確認して、自己の課題を明確にする。その上で、保育者として必要な資質能力や技能を身につけていくため、保育現場での勤務経験のある担当者によるグループ討論、ロールプレイ、模擬保育、事例研究、フィールドワーク等を行う。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
学内での学修および教育・保育実習を通しての学び等を振り返り、自己の課題を明確する。										○		○
保育実践に必要な基礎的な知識・技能を修得したことを確認する。										○		○
保育者としての倫理観と規範意識を持ち、適切に行動できるようになる。										○	○	○
子どもの発達や心身の状況に応じて、適切な指導を行うことができるようになる。										○	○	○
子どもの状況等に応じて、指導計画や保育環境等を工夫できるようになる。										○		○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）							
1. これまでの学修の振り返り（履修カルテの記入）〔三浦 他〕					履修カルテを基に、これまでの学修を振り返る。							
2. 保育・教育実習の学びの振り返り〔三浦 他〕					これまでの実習での学びについて振り返りを行う。							
3. 子ども理解について：事例検討〔三浦・山崎他〕					既習の授業内容（子どもの発達等）を確認する。							
4. 子ども理解とクラス運営〔三浦・山崎 他〕					既習の授業内容（保育内容等）を確認する。							
5. 保育現場の理解（フィールドワーク）〔三浦・山崎 他〕					保育現場訪問の準備と振り返りを行う。							
6. 保育者の役割、職務内容、子どもに対する責任〔附幼稚園長〕					講話内容を確認し、就職後の職務を考える。							
7. 模擬保育のための指導計画の作成〔山崎 他〕					次回以降の模擬保育の指導計画を作成する。							
8. 指導計画に基づく模擬保育（集団遊び・ゲーム）①〔山崎 他〕					模擬保育のための準備を行い、終了後は、振り返りを行って課題を明確にする。							
9. 指導計画に基づく模擬保育（集団遊び・ゲーム）②〔山崎 他〕												
10. 指導計画に基づく模擬保育（集団遊び・ゲーム）③〔山崎 他〕												
11. 指導計画に基づく模擬保育（集団遊び・ゲーム）④〔山崎 他〕												
12. 指導計画に基づく模擬保育（集団遊び・ゲーム）⑤〔山崎 他〕												
13. 危機管理・保育のトラブル対応（ロールプレイ）〔山崎・三浦 他〕					授業で実践した内容を復習する。							
14. 保護者対応について（ロールプレイ）〔山崎・三浦 他〕					授業で実践した内容を復習する。							
15. 保育者としての資質能力の確認・まとめ〔三浦 他〕					保育者に必要な資質能力について再確認する。							
履修上の注意												
保育者になるための総まとめの授業のため、積極的に授業に取り組む。												
成績評価方法・基準												
授業への取り組み状況（50％）提出課題（50％）により総合的に評価する。												
提出課題等については、添削後、授業中にフィードバックする。												
教科書												
〔保育所保育指針解説〕〔厚生労働省〕〔フレーベル館〕												
〔幼稚園教育要領解説〕〔文部科学省〕〔フレーベル館〕												
〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔内閣府・文科省・厚労省〕〔フレーベル館〕												
参考書												
〔本当に知りたいことが分かる！保育所・施設実習ハンドブック〕〔小原敏郎他〕〔ミネルヴァ書房〕〔2,700円〕												
備考												
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。												